総力特集！ 大晦日格闘ウォーズのオモテウラ!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRE

enterbrain MOOK

2006
106
880yen

"格闘厄年"の最終決戦はどうなる!?
PRIDE男祭り -FUMETSU-

"皇帝"移籍騒動の根源を徹底分析!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

ケンカ上等！ 強い王者が帰ってきた!!
五味隆典

今年は出ます！ 美濃輪育久と"赤パン"対決!!
田村潔司

"空手幻想"再び!? MMA本格進出！
数見肇

サクに曙、ジャイシル登場！
12.31 Dynamite!!は
こう楽しめ!!

プロ野球界・伝説の男と
奇跡のヘディング対談!!
所英男×宇野勝

"ポロニウム"なMMA世界競争大激化！
生き残れ！ PRIDEサバイバー!!

見えるのか!?
大晦日の向こう側!!

"プロレス"を超えた大神家な惨劇!!
11.23ハッスル・マニアを鳥肌総括!!
髙田延彦

聞いてないよ～！
格闘技専門誌の限界を超える大特集!!
元旦決戦『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』

祝！
10周年
記念号
いつもとまったく
変わりません!!

kamipro 106 大晦日の向こう側!!

2007年1月4日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

2006 No.106 CONTENTS

kamipro

激化するMMA世界競争!
見えるのか!? 大晦日の向こう側!!

※今月の『喫茶店トーク・ラウド』は、I編集長の体調不良によりお休みです。

娘たちは初めて父親のコマネチを観たんだよ(ニセ・バローニ談)

表紙写真/Fightsports

クオーズ開戦間近!!

れの祭か?

祭り2006 -FUMETSU-

全世界MMAウオ

やれん

12.31PRIDE男祭り2

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

決断の時

〝フジテレビショック〟以上の大津波襲来！
PRIDEに史上最大の危機が迫る!!

燃えよ!! 大晦日！
PRIDE 男祭り
-FUMETSU-
Final Countdown 2006

このままではアメリカ格闘技界市場に PRIDEは飲み込まれてしまう

『週刊現代』によるネガティブ記事、桜庭和志の離脱、フジテレビの契約解除……
次から次へと試練が訪れた2006年の『PRIDE』。
それでも、無差別級GPでは超満員の観衆を集め、
悲願のアメリカ進出も成功させ、その危機は脱したかに見えた。
しかし、いままた『PRIDE』に最大の危機が到来しようとしている……。
UFCを始め、急激に巨大化したアメリカ格闘技界とどう向き合うのか。
決断を迫られるDSE榊原代表を直撃した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
designed by hisa (TwoThree)

決断の時

――今日はですね、もちろん大晦日の『男祭り』について語っていただこうと思っていたんですけど……残念ながら今日（12月1日）の時点では決まっているカードがヒョードルvsハントだけということで（笑）。今回は2006年の総括、および2007年はどうなるかということでおうかがいしたいと思います！

榊原　わかりました。

――今年もあと一ヵ月を切りましたけど、さまざまなことがあって代表にとっては非常に長い一年だったんじゃないですか？

榊原　そうですね。長いと言えば長いし、短いと言えば短い一年でしたね。無差別級GP2ndROUNDでつけた〝奈落へ昇れ〟というキャッチフレーズがあったんですけど、ホントに奈落の底まで来ちゃったな、と（笑）。

――ダハハハハ！　いきなり自虐的な（笑）。

榊原　去年は吉田vs小川戦を組んで大晦日も視聴率がたくさん獲れて、非常にいい一年を締めくくることができたんですが、今年は6月にフジテレビの放送を打ち切られて、その一ヵ月前には桜庭選手が離脱し、『週刊現代』のこともあって。その返す刀で10月にアメリカ大会を開催し。本当にいろんなことがあった年でしたね。

――いろんなことの中でもとくに試練が多かったと思うんですが。

榊原　そうですね。『PRIDE』というコンテンツを積極的に前に向かって創っていくためにエネルギーを費やすよりも、いままでの『PRIDE』をとにかく守り続けるために凄いエネルギーを費やしましたね。ビジネスとしての側面で言えば、フジテレビさんの放送がなくなったことで、資金的には楽ではないし、おまけにプロモーションのパワーが落ちる。そういう厳しい状況の中で気持ち的には攻めてはいるんだけど、現実的には守るのが精一杯というか。僕もそうだけどスタッフも、喜びよりも苦しんでることのほうが多かった一年だったと思います。

――『PLAYBOY』誌のインタビューでは、金子達仁さんに「DSEの社内は死臭が漂ってる」とまで書かれてましたよね（笑）。

榊原　あれは僕が死臭の匂いがする香水をつけてたからでしょう（笑）。

――そのおかげで、とくに代表から漂っていたという（笑）。

榊原　一際強くね（笑）。だけどきっとそれが外部の人たちがDSEに対して感じた空気感とか、雰囲気だったんじゃないですか？　我々の中ではそうは思っていなくても、金子さんのようなフラットな方がこの会社に9月に来たときにはそう感じたってことでしょう。それはきっと否定できないことだと思うんですよ。潰れてしまってもおかしくないようなことが『PRIDE』の中で起きたのは事実なので。

まさに寝耳に水の大事件だった、フジテレビによる契約解除通告。無差別級GPの盛況と、アメリカ進出成功により、危機は脱したかに思われたが、アメリカ市場の膨張という新たな試練が待ち受けていた。

アメリカ市場の急激な巨大化はフジテレビに契約が切られたこと以上にダメージが大きい

――その危機はまだまだ乗り越えたわけではないんですか？

榊原　危機を乗り越えたとは言えませんね。これは地上波が復活したら一安心だというわけでもないし。それどころか、アメリカ総合格闘技市場の急激な巨大化によって、状況はさらに厳しいものになったと言わざるを得ないですね。

――さらに厳しくなってますか！

榊原　UFCを中心としたアメリカ市場の爆発的な急成長は、僕の中で凄く読み違えたというか。僕らも、もともとはアメリカ市場が開かれ、成長することを期待して努力してきたんですけど、ここまで急激に大きくなるとは思わなかった。たとえば、メジャーリーグのレッドソックスが松坂（大輔）君獲得のために60億円という金額を提示しましたよね。年俸も12億だとか20億だとか、日本球界じゃありえない金額になりそうだと言われている。それと同じようなことが、総合格闘技の世界でも起こりつつあるんです。

――市場規模や、選手に支払う〝適正価格〟に日米で大きな開きができ始めている、と。

榊原　そうです。べつにレッドソックスは松坂君に、ビジネスにならない法外なお金を払ってるわけじゃない。60億払っても採算が合うから払ってるんですよ。去年のレッドソックスの最高年俸は25億だったらしいんですけど、その投手は5勝しかしてないんですよ（笑）。

――たった5勝（笑）。

榊原　年俸25億で5勝だと、単純計算で1勝が5億ですよ！　でも、そういう問題じゃなくて、その選手に25億円払っても成り立つビジネス構造になっているということなんです。それで総合格闘技のマーケットに目を転じてみると、いままでは日本が世界市場の70パーセントぐらいを占めてて、残り30パーセントのうちの20パーセントがアメリカで、あとの10パーセントがほかの国くらいの感じでしょう。だからこそ日本が一番高いファイトマネーを支払えていたという現実があった。ところが、

PLAY BACK PRIDE 激動の2006年

■1月2日
大晦日の『PRIDE男祭り』が、6時間平均15・3、第2部17・0パーセントの高視聴率を獲得。初めて裏番組のTBS『Dynamite!!』を上回る。

■2月18日
榊原信行製作総指揮のカーリング映画『シムソンズ』公開。トリノ五輪でカーリング人気が爆発したこともあり、『殴り者』をはるかに上回るヒットを記録する。

■3月18日
講談社『週刊現代』が、「格闘技とテレビ局と暴力団―暴力団幹部に脅されていた日テレ猪木祭り」なる記事を掲載。記事内で『イノキ・ボンバイエ2003』プロデューサー川又誠矢氏が、DSEと関係を持つ暴力団に恫喝されたと主張。

■4月3日
『週刊現代』が「日本に帰ったら私は殺される！　猪木祭りプロデューサーが語った」なる記事を掲載。

■4月5日
吉本興業の人気お笑いタレント、ケンドーコバヤシがPRIDE大使に任命される。

■4月13日
藤田和之が『PRIDE無差別級GP』出場を表明。DSE榊原代表が『週刊現代』の記事に対し、反論。

■4月17日
『週刊現代』が「格闘技と暴力団　フジ・日テレへの公開質問状」なる記事を掲載。

■4月17日
DSEが『週刊現代』の発行人、編集人、そして川又誠矢氏に対し、偽計業務妨害および、名誉毀損で横浜地検に刑事告訴。

■4月29日
『東京スポーツ』が、桜庭和志が3月31日

拳の手術をした王者ヒョードルこそ出場しなかったものの、『PRIDE』のオールスターメンバーが一同に集結した今年の『無差別級GP』。しかし、ファイトマネー高騰により、このような大会はもう観られなくなってしまうのか？

の時

この一年半で、その日本市場よりもアメリカ市場のほうが倍以上大きくなってるんですよ。

――もう倍以上なんですか！

榊原　それぐらい大きくなってますね。UFCはPPVをアベレージで40万件ぐらい獲っているって言われている。単純計算でPPVだけで毎回20億円近い売り上げがあるわけですよ。

――毎回20億円ですか……。

ファイトマネーが億を超えるようになったら一日の興行でトップファイターが勢揃いすることなんて奇跡でしかなくなってしまうんです

榊原　それぐらいUFCが強大な地盤を築いているアメリカ市場に、我々がどう食い込んでいけるのか。それを考えると、フジテレビの契約を切られたダメージよりも、アメリカ市場に対して僕らが読み違えていたことから派生するダメージのほうが大きいわけですよ。

――『PRIDE』にとって今年一番痛かったのは、フジテレビの契約解除よりも何よりも、アメリカマーケットの急激な巨大化だった、と。

榊原　我々もアメリカ市場が開くことを願ってはいたんですけど、それまで5万件だったPPVが20万件を達成したかと思ったら、40万件、60万件という倍々ゲームのようなスピードで毎回数字を伸ばすとは思っていませんでしたからね。そう考えると、10月に我々がアメリカ大会を開催したタイミングというのは、半年から8カ月……いや10カ月遅い。正直言って、乗り遅れてしまったな、という感じです。

――PPV5万件レベルだったライバルが、平均40万件にまで急成長しているわけですからね。

榊原　いま彼らがいいときで60万件獲るといわれる中で、我々のラスベガス大会が獲得した数字というのは、全然追いついていないわけですよ。それでもいまの『PRIDE』のアメリカでの認知度からすれば、健闘している数字なんでしょうけど、その数字を僕らは毎月挙げているわけじゃない。日本で行なっている普通のナンバーシリーズとか、『武士道』の（アメリカでの）PPVは、もっと数字が落ちるわけです。片やUFCは毎月どころか、月2回ずつとんでもない数字をバカバカ獲ってる。それだけを見ても、この半年、一年の中で完全にUFCに水を空けられたなぁと。

――UFCは月2回もPPVで凄い数字を出しているんですか……。

榊原　そういうUFCを中心としたアメリカ市場で、今後僕らがどこまで総合格闘技のビジネスとしてのシェアを取れるのかどうか。逆にそれが取れないと、トップファイターた

付で髙田道場を退団していたことをスクープ。

■5月3日
桜庭和志がタイガーマスクの覆面を被り、『HERO'S』代々木大会のリングに登場。翌日、緊急会見を開いて、『HERO'S』参戦を表明。

■5月5日
『PRIDE無差別級GP』開幕。フジテレビで放映され、平均17・6パーセントの高視聴率を記録。

■6月5日
PRIDE道場の道場開きが行なわれ、その数時間後、フジテレビがオフィシャルHP上でPRIDE放映の中止および契約の解除を発表。

■6月8日
DSEが東京プリンスホテルでファン公開記者会見を開催。この会見には選手54人が出席した。

■7月9日（アメリカ現地時間）
ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターで開催された『UFC61』のオクタゴンにヴァンダレイ・シウバが登場。UFCライトヘビー級王者チャック・リデルとの対戦をアピール。

■8月17日
横浜国立大学プロレス研究会が「日本列島縦断・PRIDEサポーターの旅」と題し、ママチャリで日本縦断に出発。

■8月20日（アメリカ現地時間）
米国ロサンゼルス郊外、『FOXスポーツグリル』にて行なわれたファン公開記者会見にマイク・タイソンが登場。榊原代表とガッチリ握手を交わす。

■9月11日
ミルコ・クロコップが『PRIDE無差別級GP』優勝をはたす。

■10月21日（アメリカ現地時間）
ネバダ州ラスベガス、トーマス&マックセンターで、初のアメリカ大会を開催。1万人以上の観衆を集め大成功を収める。しかし、マイク・タイソンは来場せず。

■11月5日
『PRIDE武士道 其の十三』開催。この大会から、試合前の煽り映像を制作していた佐藤大輔ディレクターと、ナレーターの立木文彦氏が復帰。

■11月下旬
『PRIDE男祭り』の地上波放送が今年はないことが判明。

の決断

他団体から引き抜きの手が伸びていると噂されるヒョードルとミルコ。どちらも億を軽く超えるファイトマネーを提示されていると言われているが、『PRIDE』から離れてしまうこともあるのか!?

ちを引き止めておくことができなくなる。たとえできたとしても、これまでのように一日のイベントでトップファイターが勢揃いするなんてことは、奇跡でしかないんですよね。

——たとえば、ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、ジョシュといったヘビー級トップ4を一つの大会で出そうとしたら、とんでもないお金が必要になってしまって、とてもじゃないけど用意できない、と。

3倍、4倍のファイトマネーを提示されたら太刀打ちできない。K-1と競い合っていた頃とはもう次元が違うんですよ

榊原　そうです。先ほどの松坂君の話じゃないですけど、これかれさらに市場が活性化して、アメリカが大きなマーケットとして中心になったら、平気で億を超えるぐらいになるわけですよ。

——もうその兆候がすでに出ているわけですよね？

榊原　それはファイトマネー以外にもPPVの売り上げのインセンティブや、スポンサーシップがありますから、合計すると一試合で億を超えてるでしょう。この前、ボクシングでも（マニー・）パッキャオっていうフィリピンの英雄がラスベガスで試合したんですが、彼のファイトマネーが7億円を超えてるんです。それはPPVが100万件近くいったということで、インセンティブを含めてそういったファイトマネーが出るんですよ。やはりアメリカの市場は、分母が大きいだけにそれぐらいの爆発力があるわけです。

——生み出すお金の規模が違ってくるわけですね。

榊原　これまでは日本が一番の市場であったために、総合格闘技のトップファイターはみんな日本を目指してきましたけど、これからは逆に日本で闘っていた選手が世界に出ていってしまう可能性というのは、非常に高いです。

——野球にしてもサッカーにしても、他の人気プロスポーツはみんなそういう状況ですよね。

榊原　だから、総合格闘技というのは唯一、世界中のトップアスリートが日本に集まってくるジャンルだったんですよ。でも、その環境を揺るがすような大きなうねりが、アメリカでもの凄い勢いで起きてるわけです。それはファンも関係者も皮膚感覚で気づいていないスピード感で。その勢いというのは、DSEの社員全員で、アメリカに民族大移動して向こうに本拠地を構えて、まずアメリカの市場を盤石なものにするくらいのことをしなくてはいけないほど

のうねりなんです。そうしなければ、世界のトップファイターがこの『PRIDE』を目指すというのいまの状況を維持することは不可能ですね。

――『PRIDE』が「世界最強の男を決める場所」であり続けるためには、アメリカでの成功が不可欠だ、と。

榊原　いま『PRIDE』を主戦場にしているトップファイターのほとんどは、この『PRIDE』という舞台に愛着と誇りを持ってくれてはいるんですけど、ファイトマネーが3倍とか4倍つけられたら、やっぱりプロとして、高い評価をしてくれるところに移るのは当然ですからね。もちろんそうならないために、我々も死にもの狂いで努力はしますよ。ただ、その競争相手がK―1と競い合うのとは、もう次元が違いますから。しかもUFCだけでなく、新たに参入してきている投資家もたくさんいるわけですよ。

――オンライン・カジノをバックに据えたボードッグなんかですよね。

榊原　ボードッグ然り。IFLもWFAもそうだし、巨大資本をバックにした新興プロモーションが、この市場にどんどん新規参入してるわけです。そういうところと丁々発止をしていく中で、やっぱりフジテレビの放送中止はボディブローのように効いてるわけですよ。

――日本市場が万全じゃない状況で、世界に出て闘わなきゃならないわけですからね。

榊原　本当だったら、フジテレビや日本の企業が全面的にバックアップしてくれて、「メイド・イン・ジャパンで、世界市場で、ナンバーワンを獲れ。格闘技界のトヨタになれ、ソニーになれ」という支援があって初めて、アメリカで勝負できるぐらいのものなんですよ。それが日本すら万全じゃない中で、UFCとガチンコ勝負していいのだろうか、と。アライアンスを組んだり、何か戦略を持って向き合わなければならないんじゃないか。まさにいまそういう大きな決断を迫られてる状態だなという気はしますね。

――『PRIDE』にとって最大の正念場が訪れた、と。

榊原　だと思いますね。いまアメリカの総合格闘技市場はWWEもボクシングも凌駕する勢いで膨れ上がっているんですけど、厄介なのは、これがMAXじゃないところなんですよ。

――さらに巨大化していきますか。

榊原　ひょっとしたら、マイク・タイソンが打ち立てた119万件というPPV史上最高の数字を、数年以内に上回るような対戦が、アメリカの総合格闘技界で起こるかもしれない。それがUFCで起こるのか、『PRIDE』で起こるのか、はたまたほかの新興団体で起こるのかわかりませんけどね。いま現時点においても、スパイクTVでUFCの番組が6番組もあるんですよ。

――6番組もあるんですか！

榊原　リアリティショーの『TUF』という番組以外に、大会の裏側を描いた番組だったり、一つのチャンネルの中に6番組あって、スパイクTV自体がUFCを放映してから爆発的に業績を伸ばしているんです。だから当然WWEなんかも脅威に感じてるでしょうし、ボクシング界も脅威に感じてるでしょうね。

――そのWWEですが、先日公式ホームページ上に「DSE関係者と会談を持った」みたいなことが載ってましたけど、会談は実際あったんですか？

榊原　事実です。WWE会談は持ちましたよ。

WWEと会談を持ったことは事実です。ビンス以下、首脳たちと直接会ってきました

――それは榊原代表も行かれたわけですか？

榊原　僕も行ったし、WWEのほうもビンス以下みんなで来ましたね。

――榊原さんとビンスの会談が実現してましたか！　そこではどんなお話がなされたんですか？

榊原　今回に関しては表敬訪問というか、お互い格闘技やプロレスについて意見交換をした感じですね。彼らもプロレス・格闘技界の世界市場をつぶさに見てるんで。アメリカ格闘技界のことだけじゃなく、『ハッスル』のこともよく知ってましたね。

――もしかしたら今後、『PRIDE』とWWEが協力関係というか、アライアンスを組むような可能性もあるわけですか？

榊原　具体的な話にはなってませんが、いろんな角度で協力できる可能性はあると思いますけどね。とりあえず『ハッスル』のポスターとDVDを渡してきたんですけど、「（この会談の）3～4日後に『ハッスル・マニア』がある」って言ったら、ビンスが大笑いしてました（笑）。

――WWEはMMAにも興味はあるんですか？

榊原　あるんじゃないですか？　たとえばDSEが『ハッスル』を始めるのと180度逆のパターンで、彼らがMMAイベントを開催する可能性は当然あるでしょう。過去にXLFっていうアメリカンフットボールのリーグを作ったりとか、さまざまな新規事業をやっていますし。彼らは上場してる公開企業だから、当然今後の売り上げを伸ばしたり、株価を維持したりするためにも、エンターテインメントに属するものにはアンテナを張ってるでしょう。

――でも、そういうエンターテインメントの本場であるアメリカで、巨大資本を持ったライバルがたくさんいる中でシェア獲得競争をしていくとなると、まず必要なのは、資金的な後ろ盾ですか？

榊原　資金はもちろん必要です。でも、お金だけあってもダメなんですよ。結局、プロモーションするインフラとか、ネイティブな英語がしゃべれていろんなところと交渉したり関係を作っていってくれるスタッフといった、マンパワーの部分も必要不可欠。そういうものを我々がどれだけ構築できるかですね。『PRIDE』のUFCオフィスというのも、99年にDSEができた時点からやってはいますが、営業だったり広報だったり、そういう外に向かっていく作業は、まだまだ全然人材の確保ができていない状況なんです。だから、そういった部分の強化も含めて、どれだけアメリカで闘える環境が作れるかということでしょうね。

――UFCを運営するズッファ社とDSE・USAオフィスでは、まず人数自体が全然違いますもんね。

榊原　ズッファもスタッフが増えたのはここ一年ぐらいですけどね。60～70人くらい雇用したみたいですから。アメリカの企業なんてそうなんだけど、それこそインデマンドというケーブルTVの担当だった人をヘッドハンティングしたり、FOXスポーツからヘッドハンティングしたり、そういうことがなんの躊躇もなくできるんですよ。新人をこれから育てていきます、2～3年後、5年後にスタッフとして機能しますじゃなくて、即戦力をどんどんヘッドハンティングしていくと。

――そう考えると、資金面だけでなく、そういうオフィスの環境も整っているUFCと競い合っていくというのは、かなり厳しい闘いになりそうですね。

榊原　言葉は悪いですけど、現状を

第二次世界大戦でたとえるなら、1944年ぐらいですね（笑）。

――戦況悪化も甚だしい、と（笑）。

榊原　竹槍を持って最新鋭兵器に立ち向かってるような（笑）。そこまで追いつめられた中で、僕らとしては日本という国をどう守るべきなのか。それでも最後まで玉砕覚悟で立ち向かっていくのか。いまはそれを慎重に見極めてます。いずれにしても、かなり戦況は芳しくないということです。

――UFCからの〝講和〟を受諾するようなことも選択肢として考えているわけですか？

榊原　まあ、講和というかべつにUFCと揉めているわけではないので。お互いいまは一戦交えずにいる状態の中で、敵にも味方にもなるというところだと思いますね。いまは正式な和平を結ぶのか、それとも宣戦布告するのか。そういった分岐点に来ていることは確かです。

――でも、UFCがこれだけ大きくなると、敵に回すよりも協調路線を取るほうが得策ではありそうですよね。

榊原　オーナーのロレンゾも社長のダナもよく知っている仲ですからね。ダナは口は悪いけど（笑）、彼がチャック・リデルやティト・オーティズのマネージャーをしている頃からの仲なので。彼らもこの総合格闘技の発展のためにたくさんお金も使ったし、いっぱい汗も流して。僕らも一生懸命やって、お互いようやくここまできたわけじゃないですか。少なくとも我々は彼らを凄くリスペクトしてるし、認めてるんですよね。『PRIDE』とUFCというのは、日本市場とアメリカ市場、それぞれの中で頑張ってきたわけですけど、いまとなっては、望んではいないんだけど闘わざるを得ない。でも、闘うことでお互いが築き上げてきたものを潰し合ってしまってはしょうがないと思うんですよ。

――競い合って発展していくなら全然いいですけどね。

榊原　この前もロレンゾと話したんですよ。この競技をお互い傷つけ合って潰してしまうことがないように、何かコミッショナー的なものを立てられないものだろうか、と。その中でこの競技が世界の中で、日本市場でもアメリカ市場でも健全にこの先20年、30年と伸びていく道はないだろうか。そういう話をしたんですね。目先のお金のことにだったり、目先の自分たちの意地とかプライドとかこだわりとかによって、せっかくこの10数年でここまできたスポーツ、競技を潰すことはないんじゃないかと。ただでさえ、いまは「UFCは爆発的に儲かってる。『PRIDE』も凄い金になってるみたいだから俺もやってみよう」みたいな人たちが、この世界には増えてきてるじゃないですか。

03年9月に高田本部長、藤田和之とともにUFCのオクタゴンに上がり、ダナ・ホワイト社長、オーナーであるフェティータ兄弟と記念撮影に収まった榊原代表。UFCとどんな関係を築くかが、今後の『PRIDE』の大きな課題となるだろう。

UFCに玉砕覚悟で宣戦布告をするのか、和平を結ぶのか、大きな決断を迫られている状況です

――山師的な人たちですね。

榊原　そう。いまの状況に目が眩んで参入してきて、それで何回かやって、ダメだなと思ったらポンと投げ出してしまう。そういうことをさせたくないし、してほしくない。でも、市場経済というのは自由競争の世界で何があってもいいわけですよ。とくに日本は国に規制がないじゃないですか。アメリカはアスレチック・コミッションがあり、そこが正式に発行するプロモーターライセンスがないと興行が打てないという規制がありますけど。そういうものがない中で山師的な人たちが出てくることで市場が乱れたり、もしくは競技運営が非常にまずくてケガ人が出てしまったり、選手が重度の障害を負ってしまったり、もっと悲しいことで言えば亡くなってしまったり。そういうことが起こらないとも限らない。

――総合格闘技の秩序ある発展のために、UFCと何か協力ができないか、と。

榊原　UFCと話をしていることは、総合格闘技を20年、30年後という次の世代まで残すための方法をお互い何か築きだせないか、ということです。ただ、お互いいまの目先を考えなければ、そういった〝大きな絵〟を描けるけど、今日明日の話だとそうも言ってられない部分もあるわけですよ。

――しのぎを削ってる真っ只中ですからね。

榊原　そういう状況ではあるんですが、ここは大きなそろばんをはじいて、次の10年、次の20年、『PRIDE』が本当に不滅の道で生きていく道というのを築きたいというか、作りだしたいというのが僕の考えですね。

――そのためには、いま日本で『PRIDE』とDEEPや『PRIDE』と修斗が築いているような関係を、『PRIDE』とUFCのあいだでも築く可能性はありますか？

榊原　ありえますね。ただ、どっちが上位かというのは絶対譲れないですよ。それはやっぱりここまでやってきた『PRIDE』の価値観とか、『PRIDE』の中で闘う選手の誇りとか、そういうもので言ったら、UFCとは少なくとも五分五分でしょうからね。片方がセ・リーグで片方がパ・リーグという感じで、それぞれ金網とリングで別の個性もありますし、それは並び立てるはずだと思ってます。そういう状況の中で何か決めごとができて、一年に一度だけのワールドカップだったり、本当の世界王者同士が闘ったりとか建設的にそういう道が選べることを模索したいんですね。

――それが実現したら、さらにMMAという競技が発展し、人気も爆発するでしょうね。

榊原　そう思います。だから『PRIDE』が日本を中心にしながらアメリカでも興行を行なうのと同じように、UFCもアメリカを中心としながら日本でやればいいと思うんです。そういう中で、日本とアメリカの市場の重さがいまでいうと、数年前までは7対3で日本だったのがいまは逆転して7対3でアメリカのほうが重くなっているんです。企業の原理で言えば、7割の市場を持ってる彼らのほうが有利だと思うんで、そこの7割をちょっと我々に譲ってくれと（笑）。

――ダハハハハ！　富を少し分配してくれ、と（笑）。

榊原　私たちが入っていける市場獲得できるスペースをちょうだいよ、と（笑）。まあ、自分たちで創り出すしかないんですけどね。当然、逆に言えば日本でもUFCが観られた

ほうがファンとしては嬉しいわけじゃないですか。目先の次元じゃないところでお互いの目標が掲げられれば、両者にメリットというか、さらに新しい未来が見えてくると思うんですけどね。

——双方にとってより大きな利益を生むんじゃないか、と。

榊原　そう。目先の自分たちの利益よりは、この競技の選手とかファンとかのことを考えて、モノポリーというか、独占して成功することはないと思うんです。たとえばUFCがなくなって『PRIDE』だけになりました。その逆でUFCだけになりましたと。そうなった瞬間に市場って冷めると思うんですよ。WWEもWCWと丁々発止してる頃が一番盛り上がったわけじゃないですか。

——そうですね。WWEがWCWを吸収したことで、逆に市場規模が小さくなっちゃいましたよね。

榊原　市場ってやっぱり比較できるものがあって、初めて大きくなると思うんですよ。今年の大晦日だって、地上波での放送が『Dynamite!!』だけになって、それで『Dynamite!!』が盛り上がってるかと言えば、正直盛り上がってないじゃないですか（笑）。

——張り合いがないのか、落ち着いちゃってますよね。

榊原　裏番組で『PRIDE男祭り』があるから、『Dynamite!!』も盛り上がるというのは明らかだと思うんですよ。たぶん、谷川さんも闘う相手がいないから拍子抜けしてると思いますよ。2003年のような状況はダメですけど、あくまで「契約」というルールがある中で、お互い健全に競争し合っていけば、去年とか一昨年みたいにいいものが生まれると思うんですよ。もちろん今年も『PRIDE男祭り』は開催しますけど、同じ土俵で勝負はできない。ファンに喜んでもらえるようなカードを最大限組むつもりだし、スカパー！さんのPPV以外にも、DMMさんで初めてインターネットのライブPPVが決定したりだとか、『PRIDE』をライブで楽しんでもらえる環境というのは、いままで以上に作れることにはなりましたから。しかし、いかんせん大晦日は地上波の放送がね……復活したら、新聞一面全紙きたと思うんだけどね。

——大晦日最大のニュースになってたでしょうね（笑）。

榊原　それを実現させるために必死に頑張って、精一杯放送局とのケアもやったんですが……まあ、簡単じゃないですね。やはり。

——『PRIDE』というイベント自体は、『男祭り』から2月のラスベガス大会へつながっていくようなかたちになりますか？

石井（前）館長がいなくなることで、大きなうねりが起きるんじゃないかという不安感がありますね

榊原　はい。大晦日のあと、2月24日に二度目のアメリカ大会。そして3月後半にはさいたまスーパーアリーナで、PRIDEナンバーシリーズを行なう予定です。

——来年は日本とアメリカを交互に開催していくような感じですか？

榊原　そうですね。アメリカと日本、年間で合わせて12〜15回くらいのイメージですかね。来年からは『武士道』とナンバーシリーズを一緒にして、ヘビー、ミドル、ウェルター、ライトを一つのナンバーシリーズで全部見られるような環境にして、タイトルマッチを重点的にやろうと。グランプリシリーズに関しては4階級あるうちの一階級を年に一回、限定してやろうということをいま考えています。

——わかりました。では、最後の質問なんですが、K—1の石井（前）館長の最高裁判決が出ましたけれど、これによって来年、『PRIDE』とK—1の関係に変化が起きる可能性はありますか？

榊原　どうでしょう？　それはわかりませんけど、僕の中で石井館長というのは、この業界に入るきっかけになった人なんですよね。格闘技との出会いイコール石井館長との出会いでしたから。僕にとってはある意味、師匠でもあるんです。

——K—1名古屋大会に当時、東海テレビ事業にいた榊原さんが関わったのが最初なんですよね。

榊原　ですから今回の判決に関しては、単純に胸が痛いというかね。やったことはもちろんダメなことで、罪をあがなわなければいけませんけど。ただ、この業界の中で、館長がいなくなることで何か進むことは逆にないと思うんですよ。『PRIDE』とK—1の関係も、僕と館長との向き合いの中でしか、たぶん進まないだろうし。それ以外でもK—1さんの中の誰かが館長に代わって大きな決済をして、これまでと違う方向に進むということはないと思うんですよね。

——ああ、なるほど、なるほど。

榊原　だから『PRIDE』とK—1の関係が変化するというより、館長がこの業界の中にいないということに関して大きなうねりが起きるんじゃないかという不安感のほうがありますね。

——2003年の大晦日みたいに、何か野心を持った人が館長に代わるポジションを取りにきたりすることもありますかね？

榊原　それはわかりませんけど、いなくなるということは凄く大きな波及を及ぼす可能性はあるなという気はしますけどね。ただ、みんな学習能力を持ってるので、この業界の人たち、テレビ局の人たちも2003年のような過ちを犯さないように、自分たちの中で努力をすると思いますよ。いずれにしても、僕らがやるべきことは、『PRIDE』を総合格闘技を、これからも発展させていくことですから。そのために、年末から来年に向けて頑張っていきたいと思います。

——わかりました。現状は厳しいですが、大晦日、そして来年も期待しています！

【06年12月1日／青山・DSE社長室にて収録】

ロシア凱旋か？　それとも引き抜きか？

エメリヤーエンコ・ヒョードル

ロシアン皇帝に接近する巨大資本ボードッグの野望とは？

文／須羽ミツ夫　designed by hisa（TwoThree）

12月1日、衝撃ニュースが世界中の格闘技界を駆け巡った。

「エメリヤーエンコ・ヒョードル、3月3日の『ボードッグ・ファイト』ロシア大会に出場」。

情報によれば、ヒョードルはすでに『ボードッグ』と出場契約を交わしており、ロシア大会の切り札的存在となる(12月13日、DSEは記者会見でそれを否定)。対戦相手は、ほぼ同時期にUFCファイターのジェフ・モンソンが「ヒョードルと闘うことが決まっている」と発言。「ヒョードルvsモンソン」のカードが一気に浮上した。

言うまでもなく、ヒョードルは現在のPRIDEヘビー級王者。大晦日にもマーク・ハントを相手に、防衛戦を行なうことが発表されている。そのヒョードルがなぜ他団体に？　いや、そもそも『ボードッグ』って何？

リングスだのバトラーツだのアルシオンだの（なくなったとこばっかりだ！）、プロレス・格闘技のファンはへんな団体名にはもはや慣れっこのはずだが、さすがに「ボードッグ」と聞くと、「何？」と思わざるを得ない。ブルドッグ？　ボータウト？

どうやら言葉自体にはそれほど意味がないらしい社名を持つこの会社、これが最近、米格闘技団体MFCのバックについて……というより傘下に収めて、MMA業界で旋風を巻き起こしつつある一大エンターテインメント企業グループなのだ。

プレス向けの資料によれば、ボードッグは中米の小国・コスタリカに本社を置き、イギリスとカナダのカナワケ地区（ネイティブアメリカン・モホー

燃えよ!! 大晦日！
PRIDE 男祭り
-FUMETSU-
Final Countdown 2006

ク族の居留地。北米で唯一、オンライン・ゲームのライセンスを発行するカナワケ・ゲーミング・コミッションがあることから、多くのオンライン・カジノ会社が拠点としている）でライセンスを受けている。

創設者は、自らのサイトをはじめとするメディアに（美女をはべらせて）よく登場するカルビン・エアー氏。彼は米『フォーブス』誌の「最近、最も売れている億万長者」特集の表紙にも登場したことがあるという。グループには本体のオンライン・カジノ会社ボードッグのほかに、音楽レーベルのボードッグ・ミュージック、出版部門のボードッグ・ネイション、そして格闘技部門の『ボードッグ・ファイト』などを擁しており、その活動は手広い。また傘下にはケーブルテレビ局もあり、それぞれの活動と密接に連携している。

つまり、現在、世界の格闘技界で話題となっている『ボードッグ・ファイト』とは、ボードッグがオンライン・カジノ運営で稼ぎ出した巨万の富を使って、北米で小規模な活動を続けていたMFCを基盤に一気にMMA界の天下獲りを狙っている新興プロモーションのことなのである。

その背景にあるのは、もちろん『TUF』を発端とするUFCの隆盛だ。『ボードッグ・ファイト』は傘下グループを総動員して、UFCが人気を得た道筋を追いかけ始めた。クライマックスとなるPPV大会への出場権を懸けて選手たちが争うリアリティショー『ボードッグ・ファイト』を制作、これをケーブルテレビと自社サイトで配信している。BGMにはもちろんボードッグ・ミュージック所属アーティストの曲が使われ、大会情報はボードッグ・ネイションでも報じられる。現在はコスタリカで収録されたシーズン1が終了、ロシアでシーズン2が撮影されたところだ。

ホジャー・グレイシーのMMAデビューで話題を呼んだ12月2日、カナダ・バンクーバーでのPPVイベントがこの最終戦に当たり、同様にシーズン2の最終戦は3月3日、サンクトペテルブルグで行なわれる二度目のPPV大会に設定されている。これが、前述の「ヒョードルvsモンソン」の舞台とされる大会だ。ヒョードル参戦が発表された（というよりは確信犯的なリークか？）のはこのバンクーバー大会の前日。このあたりにも『ボードッグ・ファイト』側の情報戦略が感じられる。

過去に本誌でも報じられているとおり、ヒョードルはこれまでにも、MFCや『ボードッグ・ファイト』の会場に姿を見せている。MFC時代からヒョードルの所属するレッドデビルとは交流があり、先日のPPV大会でも「アメリカvsロシア 8対8全面対抗戦」が行なわれたばかりだ。ヒョードルの登場は、レッドデビルとの提携路線のクライマックスでもあり、ホジャーの参戦と並んで『ボードッグ・ファイト』が世界に向けた侵攻開始の合図ということなのだろう。

ただし、DSEはヒョードルの『ボードッグ・ファイト』出場を否定している。3月には『PRIDE』のロシア大会が計画されており、そちらに出場することを勘違いしたのだろうと。ヒョードルが所属するレッドデビルは以前から他団体への出場を希望していただけに、もし3月にヒョードルが『ボードッグ・ファイト』に出場したからといってそれが即、『PRIDE』離脱とはつながらないが、事態がハッキリするまでにはもう少し時間が必要のようだ。

さらに『ボードッグ・ファイト』は、ヨーロッパとアジアの市場に本格進出することをすでに表明している。アジア戦略の一環となっているのが、MARSとの提携だ。10月に新宿FACEで開催された「MARS ボードッグ・ファイト01」は『ボードッグ・ファイト』の録画を兼ねた（というより、そのための）イベントであり、今後MARSを通じて日本人、韓国人ファイターが供給されていく予定となっている。前述の新宿大会と12・22MARS横浜大会では、『ボードッグ・ファイト』出場権を懸けた「MFCチャレンジ・トーナメント」も開催された。

ヒョードル兄弟がたびたびオランダに練習に行くなど、レッドデビルが当地の「トゥー・ホット・トゥー・ハンドル（2H2H）」と太いパイプを持つことはすでに知られており、ヨーロッパ戦略には当然、このラインも構想の中心に据えられていることだろう。『ボードッグ・ファイト』は着々と、その足場を固めようとしている。

だが一方で、『ボードッグ・ファイト』の将来性についてクエスチョンマークが消えないのも事実だ。第一に、母体であるボードッグの本業、オンライン・カジノに関する危惧がある。これもすでに報じられているとおり、アメリカ国内でオンライン・カジノに対する反発が高まっており、03年に米国外のカジノサイトでクレジットカード決済を禁止する法案が可決されたのを皮切りにオンライン・カジノ自体が禁止される方向に向かっている。ボードッグがコスタリカを本拠地としているのも、まさにこうした事情による。現在、2000近い数のギャンブル・サイトが運営されているとされるが、米国内では違法となる可能性が高いため、そのほとんどが米国外に設けられているのだ。オンライン・カジノを巡る状況次第ではボードッグ自体が一転、窮地に立たされる可能性もある。

また、これまでに『ボードッグ・ファイト』が提供してきたコンテンツの評判が、もう一つ芳しくないという"痛い"一面もある。前述のリアリティショー『ボードッグ・ファイト』はストーリー、選手の質ともに、『TUF』を超えることはできていない。「エキゾチックな土地で、若いファイターたちがトレーニングして試合を行ない、本戦出場を目指す」というのが基本コンセプトだが、選手の中にはUFCで使われなくなった者がいたり、カルビン・エアーとボードッグ・ミュージック所属の女性シンガー、ビラ・ネイキッドによるスキット部分があまりこなれていなかったり（そもそも必要なのかどうか）と、少なくとも現在のところは二番煎じの域を脱し切れていない。

12月2日のPPVにしても、エディ・アルバレスvsアーロン・ライリーのMFCウェルター級タイトルマッチが予告なくカットされ（クレームを受けて、のちに『ボードッグ』公式サイト上で無料で視聴することができるようになった）、オンライン視聴では接続が途切れがち、試合以外の演出が物足りないなど、悪評が聞こえている。これらの声を会社側がどう汲み取って、今後の改善に生かすかもカギとなってくるだろう。

ヒョードル獲得が現実ならば、世界中の目を釘づけにすることは必至。そこからさらに大物ファイター獲得につながってくることも容易に想像がつく。だがオンライン・カジノ規制法案の影響もあり、リング上とは関係のない部分で一気に転落する可能性もある。「一か八か」的なムードが色濃いのは、ギャンブル会社の宿命なのか？ 業界の盟主か、お騒がせに終わって早々に退場か。一年もすれば、『ボードッグ・ファイト』がどちらに転んでいるかは明らかになっているはずだ。まず差し当たっての問題は、ヒョードル参戦の正否。しかし彼の身の振り方が明らかになるのは大晦日『PRIDE男祭り』以降になりそうだ。

俺は誰の挑戦でも受ける！

PRIDE男祭りでライト級極上カードがつるべ打ち！
五味は石田光洋と〝因縁の日本人〟対決だ!!

THE NORTH FACE

燃えよ!! 大晦日！
PRIDE
男祭り
-FUMETSU-
Final Countdown 2006

余裕と自信の中の葛藤を感じろ!!

PRIDEライト級チャンピオン

五味隆典

“喧嘩上等の王者”が帰ってきた!!　五味の大晦日の相手は、“新・青春のエスペランサ”石田光洋に決定!
石田は五味が一度は苦杯をなめたマーカス・アウレリオに完勝しており、
会見で記者からその関係性を取りざたされ、ヒリヒリしたムードが支配したこともあった。
今回のカード発表記者会見でも、お互いに“挑発”とも読み取れる言葉の応酬!
やはり、大晦日は“因縁の対決”がよく似合うのか!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

——五味さん。いきなりですけど、後ろに置かれたバットがもの凄く気になるんですが（笑）。

五味　ああ、これですか？　プラスチックですけどね、こうやってジムの子のケツ叩くんですよ。バンバン!!（バットでマットを叩きながら）。

——いい音を出しますね（笑）。

五味　でしょぉ？　バン、バン!!（再びマットを叩きながら）。最近はこうやって使わなくても、みんな必死に練習をやりますけどね。

——しかし、初めて五味さんのジムにお邪魔したんですけど、まさしく〝プライベート練習場〟という趣ですね。

五味　ねえ。素晴らしいでしょ？

——はい。駅からも近いし、普通にジム経営しても繁盛するんじゃないかって思うぐらいで。

五味　まあ、いまは自分の考えとかを受け継いでくれる子だけをじっくり育てたいですね。ホントにゼロからのスタートでしたから。いままで木口道場で一緒に練習してきた子も連れてきてませんし。

——それで、今日は大晦日『PRIDE男祭り』のお話なんです。今回は石田（光洋）選手との日本人対決が決まりましたが、一時は元ボクシング世界王者の徳山昌守選手とのボクシングマッチが噂されましたね。

五味　ああ、実際は「なんだったんだろ？」っていうのはありますけど（笑）。

——ホントに（笑）。五味さんはその徳山さんにどういう印象があるんですか？

五味　凄く天真爛漫で前向きな方で、ずっと尊敬しているボクサーでした。ただ、体重がちょっと違いすぎますから。

——10キロ近く五味さんのほうが重いですよね。

五味　でも、そういったビッグネームとともにボクの名前が出るようになってきたことは光栄に思ってました。ただ、なんて言うのかな。現役のうちは一番、力が発揮できるところでやられたほうがいいんじゃないですかね。

——それは五味さんにとっても、同じことが言えるかもしれませんね。そうして11月の頭に（マーカス・）アウレリオ戦を終えて、続けて石田戦を迎えることになるわけですが、この連戦を五味さんはどう捉えてるんですか？

五味　いや、ここ二年ずっと連戦ですから。それに大晦日は試合をしないとしっくりこないかなという気持ちもありましたし。やっぱりジムで毎日、練習している以上、そこは無駄にしたくないですよね。

——大晦日だけに限った話でいうと、二年前は中・軽量級の日本代表として参戦されて、ジェンス・パルヴァー戦。昨年はライト級のベルトを懸けてマッハさん（桜井〝マッハ〟速人）と闘いましたが、今回は周囲を含めて五味さんは〝出場して当たり前〟という雰囲気になってましたよね。

カード発表記者会見で「強いけど、勝てない相手じゃない」と石田が勝利に意欲を見せれば、五味は「喧嘩は買うほうが強い!!」と余裕しゃくしゃく。言葉の節々から闘志をのぞかせる両者だが、フォトセッションでは目を合わせない。それがまた緊張感を倍増させたのだ。

隆典

五味　そうですね。だからゴチャゴチャ言わず、誰の挑戦でも受ける！　と。

——いい言葉ですね。

五味　それでいいんじゃないですかね。実際、ボクが石田戦を嫌がってるとか、苦手なんじゃないか？　って思ってる人もいるでしょうけど、でも、俺は誰とでもやるんですね。もう、相手がどうこうっていうのは考えてないんです。

——チャンピオンとして、誰の挑戦でも受ける！　と。

五味　はいはい。

——でも、総合には強いチャンピオンはたくさんいますけど、なかなか〝誰の挑戦でも受ける〟っていう選手って、じつはあまりいないですよね。

五味　もうね、俺は自分のことをプロデュースしていくキャリアでもないですし、そんな年齢でもないですもんね。

——いや、普通は年齢を重ねていくにしたがって、自分をプロデュースしたがるわけじゃないですか（笑）。たとえば、相手を選んだり、対戦時期を調整したりとか。要は、ちょっと計算に走りがちになると思うんですけど。

五味　まあ、いまの『PRIDE』にはそういうの、必要ないんじゃない？　うん（笑）。まあ、一番旬のカードで闘う！ってことですよ。

——そうやって言葉だけじゃなく実践できる選手は、見ているほうからするとワクワクしますね（笑）。

五味　でもね、いまはケガもありませんし、ようやくジムができあがったばかりですから、長い目で見た将来的なビジョンはちゃんと考えてるんですよ。だから、石田選手から逃げたから、対戦しなかったからどうなるってものでもないですけど。だから、なんだろうなあ……。

——なんでしょう？

五味　ま、スパーリングをやりに行くようなもんですよ（キッパリ）。

——スパーリングですか！

五味　うん。べつに相手をナメてるとかじゃなくて、それだけ慣れてきてるということです。

——はあ（笑）。アウレリオ戦直前の『kamipro』インタビューでは、「記者会見で向かい合ったとき、勝てる気がしなかった」「アウレリオは俺の光を消すものを持っている」とか、ちょっと弱気な言葉が続きましたが、なんだか今回は全然違いますね、いまの発言を聞くと。

五味　アウレリオ戦だって、弱気になってないですよ。なんだったんですかね、あれ……。

——え？　こっちが聞きたいぐらいですけど（笑）。

五味　そういえば、あのインタビューのときはいろいろ外で動いてたから、わざわざ時間を合わせて取材を受けるのが面倒くさかったんですね。

——『kamipro』のせいってことですか！　どうりでほかの専門誌のインタビューでは、弱気な発言をしてなかったわけですね（笑）。

五味　ただ、それだけですよ（笑）。あのときは、あっちこっち出回ってましたから。練習時間より、車に乗ってる時間の

ナメてるわけじゃないけど スパーリングをやりに行くようなもんです

五味

ほうが長いっていうぐらい。
――でも、アウレリオ戦はかなり慎重に闘われてから、本当に不安を抱えてるのかなってボクは思っちゃってました。
五味　まあ、トップクラスのジムや大学に出稽古して、表面的ないい部分だけ吸収するっていう練習をしてると、ああいう試合になってしまうんですね。すぐには完璧に自分のものにはできてないんで。まあ実際、練習の成果として、タックルを切ったり、身体の反応はちゃんとできてたんで、あれはあれでよかったんですけど、前回まではちょっと出稽古に頼った部分がありましたよね。
――それで、先日の記者会見では、石田さんの「勝てない相手じゃない」という発言に対して、五味さんは「喧嘩は買うほうが強いんだ」と応戦されていて。
五味　まあ、挑戦ってのはね、受けた時点で勝ちなんです。もちろん石田選手がガッカリしないようなコンディションを作らないといけませんけど、いろんなシチュエーションはもう経験してますから。
――そして、石田さんは「誰も切れないタックル」が武器ですが、五味さんは「切れないタックルはない」とも言い返して。
五味　うん。俺からはテイクダウンは取れないんじゃないかなあ。まあ、彼はガムシャラに、無我夢中でやってますよね。それをボクが受け止めて、この『PRIDE』で闘ってきた3年間をどう終わらせるか？　ってことですね。そして来年の新しい闘い、つまりアメリカ進出に向けて、どう道を切り開けるか？　と。
――なんだか、いまの五味さんは、もの凄く達観されている印象が強いですね。
五味　本音はですね、揺れ動いてますよ、ボクも。修斗も10年でピークを迎えましたけど、ボクって最高潮の時期にかならずかかってるんですね。
――そういえば、『PRIDE』も来年でちょうど10周年ですね。
五味　もう、去年の大晦日なんて、これ以上ないっていうぐらいの盛り上がりだったんじゃないですかね。で、かならず10年目っていうのは、きっとできあがるんですね、一つのものが。そして、選手にとってのブームがある意味で終わりゆくことを淡々と感じてるんですよ。
――……受け取りようにとっては、ちょっと暗い話ですけど（笑）。
五味　暗い話っていっても、それが現実だから。で、そういったものに踊らされないようにやってるわけですよ。そういう揺れ方はしてますよね。
――なるほど。そういった葛藤があるわけですか。
五味　たとえば、この試合（アウレリオ戦）が、深夜でもいいからテレビ放送があったら……って思ったりしますよ。そうしたら、いろんな意味で燃えてるでしょうけど。それで最近、よく『PRIDE』のビデオを観直すんですよ。ボクがほかの選手の試合を観直すのは珍しいんですけど、（ヴァンダレイ・）シウバ選手の試合をよく観るんです。シウバ選手が闘う姿を観ながら、なんでこんなにエネルギーがあるのかな？　とか、いろいろ考えていたんですね。で、今年の大晦日を迎えている。
――これまでの大晦日とは何か違うものを感じますか？
五味　それはみんなが感じてるんじゃないですか？　みんなが感じながらも、どういったものを作るか、何を仕上げるかが一番、問われてくるんでしょうけど。
――たとえば、地上波中継のあるなしって五味さんにとっては大きいですか？
五味　大きいですね。うん。大きいですよ。やっぱりプロはね、観てもらってナンボですからね。そこは大きいですね。ただですね、4~5万人のお客さんに負けないようなものを準備して、さいたまスーパーアリーナに行こうと思ってます。会場に入ってから、「やっぱり、作りきれてないな」とか、そういうふうにならないように。もちろん、応援してくれるファンの皆さんが「やっぱ五味スゲェな！」と思ってもらえるように準備しますよ。
――そういう中で、五味さんは2007年をどういうものにしたいと考えてますか？　大晦日も終わってないので、だいぶ先の話かもしれないですけど。
五味　来年……。う~ん、まあジムを安定させて、いろんなものに挑戦できる環境を作ることですね。それが一番じゃないですか。
――一人のファイターとしては？
五味　もちろん、2月のラスベガス大会ですよね。ファイターとしてジムをよくすることは、どこにでも打って出られる体勢を作る、と。そういうことですね。
――わかりました。〝大晦日の向こう側〟も期待してます！

【06年12月11日／久我山「久我山ラスカルジム」にて収録】

五味に勝って石田に敗北したマーカス・アウレリオを通して語られがちであった、五味と石田の関係性。五味がアウレリオにリベンジし、そして石田と直接対決を迎えることで、白黒ハッキリ付けられることになる。

ごみ・たかのり■1978年9月22日、神奈川県出身。第5代首都世界ウェルター級チャンピオン、初代PRIDEライト級チャンピオン、PRIDEライト級GP2005チャンピオン。PRIDE戦績13戦12勝1敗。イルミネーションがまぶしい撮影場所は「六本木ヒルズ」（五味・談）ではなく、京王井の頭線・久我山駅前でした。173cm、72.8kg。

燃えよ!! 大晦日!

PRIDE 男祭り

-FUMETSU-

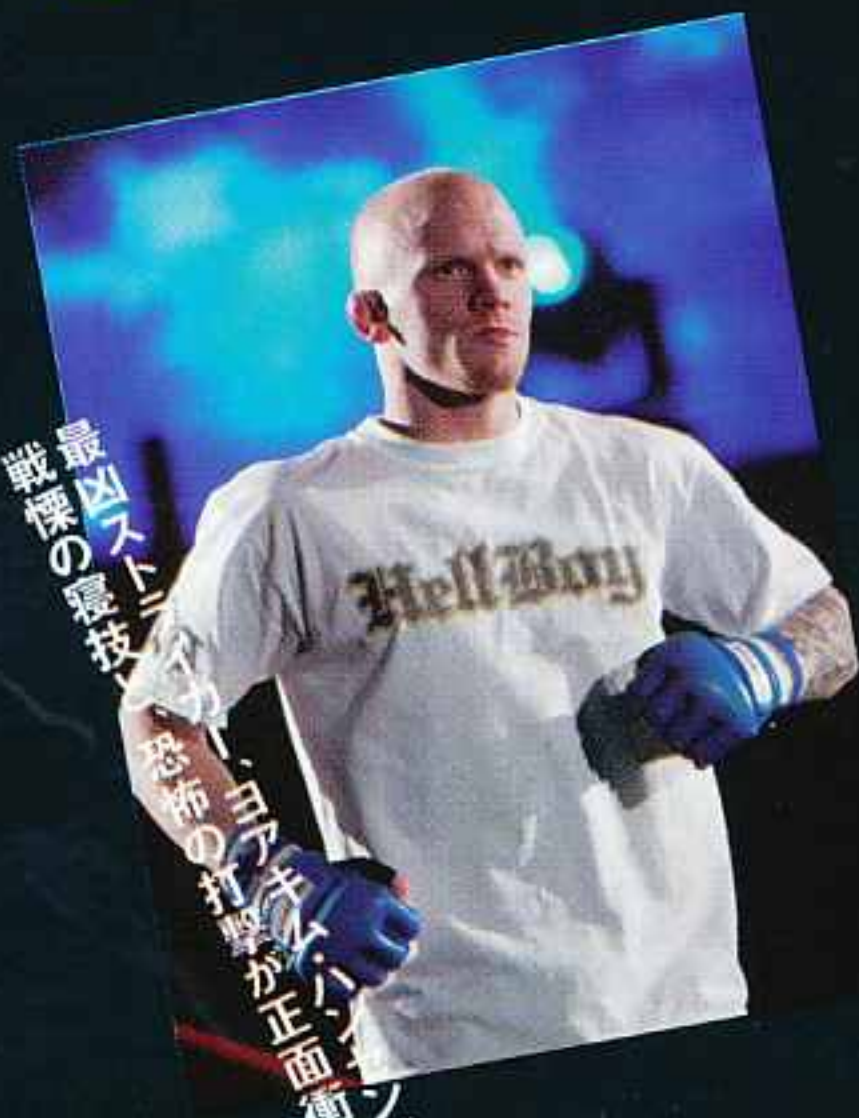
Final Countdown 2006

跳関十段

青木真也

――青木さんは、ここのところ頻繁に『kamipro』へ登場していただいてます。
青木　あ、レギュラーですか（笑）。
――とはいっても、青木さんの本領である寝技のことを引き出す企画はできていないんですけどね。
青木　そうですよ！　ほかの専門誌はテクニック系の質問が多いんですけどね。
――だから、ウチの読者は青木さんが〝寝技の達人〟であるってことを知らないんじゃないか？　という懸念もあるんです（笑）。
青木　……それ、いい!!　それはおもしろいっスよ!!（一際大声で）。まあ、『kamipro』って、アレじゃないですか。
――まあ、アレですから（笑）。
青木　読んでる層も幅広いし、格闘技雑誌っぽくないですから。また江頭（2：50）さんとの対談をお願いしますよ!!
――前号で青木さんと〝Wロングタイツ対談〟が実現したそのエガちゃんは、12月26日の『ハッスル・ハウス』でついにプロレスデビューすることになったんですよ。
青木　え？　本当ですか!?　それは観に行きたくなっちゃいますね～。
――でも、青木さんは大晦日の大一番（ヨアキム・ハンセン戦）を控えてますから、それで対戦相手は「どうよ、ギルバート!?」っていう呼びかけのかいもなく、ヨアキム・ハンセンになっちゃいました。
青木　余計に強いヤツになっちゃいましたね。なんだかんだで、（ギルバート・）メレンデスよりステップアップしてるんで、ボクとしてはうれしいですけど。
――青木さんの尊敬する今成（正和）さんはそのハンセンと『武士道』で闘ってますよね。
青木　ヒザ蹴りで倒されてましたねえ～。今成さん本人は「（記憶が飛んで）覚えて

PRIDE男祭りで激化するライト級戦国時代

生き残れ、これ!! バカサバイバー！

鋭利かつ芸術的な関節技で『PRIDE武士道』二連勝！　いま最も注目を集める日本人ファイター、〝跳関十段〟こと青木真也が大晦日にあのヨアキム・ハンセンと闘うというんだから、もう見逃せない!!　世界最高峰の青木の寝技と、ハンセンの打撃、スリリングなライト級屈指の大一番だ！　前号の本誌では、江頭2：50と〝Wロングタイツ対談〟が大好評！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也　designed by hisa（TwoThree）

最凶ストライカー、ヨアキム・ハンセン戦実現！戦慄の寝技と恐怖の打撃が正面衝突だ!!

ねえから、負けてねえ！」って言い張ってるんですけど。だから、負けてないんじゃないですか？　ククッ！

――さいですか（笑）。ハンセンはかなり鋭利な打撃を持ってますよねど。

青木　な〜んも怖くないですけどね、べつに。つーか、どんどんパウンドを打ってきてもらいたいぐらいですよ。逆に極めるチャンスが増えるだけなんで。

――しかし青木さん。今年は連戦ですよね。一度、就職されて戦線離脱されてるから、それで6試合は急ピッチですよ。

青木　でも、どの試合もダメージなく終わってるんで。よく年間4試合ぐらいがちょうどいいとか、そんな周りの定説や常識がありますけど、そういうのってボクには通用しないんで。

――そうやって連戦をこなすことで、あっという間に『武士道』のトップグループの一員になって。

青木　こんな出世劇はないですよね！（キッパリ）。

――「出世してるなあ、俺！」……って、自分で言いますか!?

青木　言うなれば、矢沢（永吉）の『成り上がり』みたいな。

――永ちゃんの『成り上がり』？

青木　この前、『成り上がり』を読み返したんです。あの語録には感動しましたね。バッグンを"グンバツ"とか、ハッピーを"ピーハツ"とか。ダッハハハッ！

――感動というか爆笑じゃないですか！

青木　いや、ああいうセンスがたまんないんですよ!!　"ワオーする"とか"バクバク"とか、あのセンスが。

――もちろん永ちゃんは大好きですか？

青木　いや、歌も聴いたことないし（アッサリ）。

初参戦となった8.26『PRIDE武士道・其の十二』。イエローのロングスパッツでまず観客のド肝を抜いた青木は、寝技には定評があるジェイソン・ブラックをまったく寄せつけず、ラバーガードからのトライアングルチョークで一本勝ち!!　その間、わずか118秒！

10.14修斗パシフィコ横浜大会では、ジョージ・ソテロポリスと対戦。青木は見事なまでの足関狙いで観客を魅了。試合の主導権を握る。しかし、2ラウンド開始直後、ローブローで悶絶!! 続行不可能の反則勝ちという、不本意な決着となってしまった。

"裏メイン"としてマニア垂涎のマトだった11.5『PRIDE武士道・其の十三』ギルバート・メレンデス戦は、相手の負傷で消滅。代打のクレン・フレンチを難なく絞め落としたが、パンチを食らうシーンが見受けられた。ヨアキムの凶撃はかわせるか？

青木真也

――な、なんですか!?　なんかマジメなファンが聞いたら怒りそうだなあ。

青木　違いますよ！　あの矢沢の言葉にシビれるという話ですよ。でも、怒るんだったら、あんまり言えないんですけど。

――とくに五味（隆典）さんは、大の永ちゃん信者だから怒るような気が……。

青木　危ないですね!!　でも、誤解されたくないのは、矢沢のしゃべり方をネタにしようとしか思ってないんですよ。

――そこらへんが問題なんですって！　いったい、いつどこでネタにする気ですか？

青木　練習仲間としゃべるとき。

――ああ、記者会見とか公の場で披露するわけではないんですね。榊原代表や高田本部長に向かって「青木、ワオーしますから！」とかアピールするわけじゃなくて。

青木　それ、さすがに言えないっスよ。

――リング上でいきなり吠えるっていうのも新しいですけどね。

青木　新しいっスね。いきなり「ヨロシクッ!!」とか言って。

――お客は確実に引くと思いますけど。

青木　ククククク！

――ところで、話はおもいきりずれますが最近、北海道在住の合気道の達人と柔術家が決闘をやったんですよ。

青木　あ、やったらしいっスね、なんか！　60歳ぐらいの合気道のおじいちゃんがバチバチにやられたらしくて。

――自分はその動画をネットで観たんですけど、青木さんと親しい鬼木（貴典）さんがなぜか北海道まで出向いてレフェリーをやっていて（笑）。

青木　ボクもそれ、鬼木さん本人に昨日聞いたんですけどねえ……。もうね、（鬼木さんには）もう好きにしてくれ！　と。どんだけヒマでもの好きなんだ！　っていう話じゃないですか（笑）。

――バカ負けしましたか。

青木　付き合ってられない（笑）。そのへんは、もう惑わされず達観してますから。

――それはともかく、青木さんはその合気道自体には幻想を感じますか？

青木　あ〜、ないですね。なんか、あんまり幻想は広がらないです。ボク、本当の達人に会ったことがないんで。

――たとえば、ヒクソン・グレイシーには達人の幻想性は感じないですか？

青木　いまの総合格闘技だと、そこまで幻想は広がらないですね。ファンは「ヒョードルとやったらどうなんだろう!?」って思うかもしれないですけど、現実はマット・ヒューズにやられたホイス（・グレイシー）みたいになっちゃうだろうなって。

――いまの格闘技って、現実への露出が諸刃の剣になったりしますよね。強さを証明し続けることで生じるリスクや、有名になったとしても、そのぶん個性の飽和感が浮き上がってしまう。青木さんはそのへんはまだこれからなんでしょうけど、ど

ビジュアルからファイトスタイルまで、とにかく残虐三昧！　青木真也の目の前に立ちはだかる、『武士道』ライト級最強ガイジンのヨアキム・ハンセン。修斗で佐藤ルミナ、五味隆典を撃破。『HERO'S』では宇野薫をKOし、『PRIDE』では今成正和やルイス・アゼレードをヒザ蹴り葬！　ズバリ、ヤバイ相手!!　なたして青木は生き残れるのか!?

どっちが勝っても、凄く おもしろい試合になります!

う転がっていくかに興味があるんですよ。
青木　俺は何も変わらないですね。
——いまはまだ23歳ですけど、30歳になったらどうなってますかね?
青木　いまより完成していることは確実ですよね。ボク、総合はまだ10戦しかやってないで、どんどん経験を積んで。それで40歳になったら、ルンペン!!
——なぜルンペン!?(笑)。
青木　んで、60歳になっても現役やってる気がします。まあ、最終的には変わってないと思いますけどね、根本的には。
——ルンペンを経由しようがどうしようが(笑)。06年を振り返って、『PRIDE』に出たことで、とくに変化はありますか?
青木　べつにこれまでとやってることはなんも変わってないんですし。実感がないんですけど。強いて挙げれば……。江頭さんと対談したことかなあ。
——あの対談が唯一の収穫ですか(笑)。
青木　そうですね!　ボクの理想は、試合はちゃんとアグレッシブファイトで、あとはテキトーみたいな。テキトーっていうと言い方が悪いけど、融通が利くようなのが理想ですけどね、プロとしては。
——で、大晦日はライト級がかなりゴチャゴチャしておもしろいことになってきそうですけども。青木さんのテーマ曲(『バカサバイバー』/ウルフルズ)じゃないですけど、「♪生き残れ、これ!!」という壮絶サバイバル模様で。その頂点に立つ五味さんにはどういう思いがありますか?
青木　やっぱり五味さんは『PRIDE』ライト級の象徴ですから。やっぱり、目指すところはそこだと思ってますね。
——こないだの五味vsマーカス・アウレリオ戦はどのようにご覧になられました?
青木　まあ、ボクもあの域まで、まだ正直、いけてないんで。だからボクがどうこう言うことじゃないと思ってますけどね。
——いや、もっと若さがゆえの毒を吐いてもらってけっこうなんですけど。
青木　ないですよ、なんにも!(笑)。人の試合を評価できるのはお客さんだけですから。ボクはいちファイターとして、防衛した五味さんは凄いなって思いますけどね。
——まだ見上げている感じですか。
青木　それにボク、まだまだ〝なんちゃってファン〟なんで。けっこうまだファン目線で格闘技を観てるんですよ。たとえば、ボクとハンセンは同じフィールドにいるじゃないですか。で、「ヤベェ!　ハンセンvs俺、おもしれえ!」みたいな。
——〝ハンセンvs俺〟はおもしろい(笑)。
青木　〝ハンセンvs俺〟は、客観的に見ておもしろいですね。たぶん、ファン気質が抜けきらないんでしょうけど。試合の一週間前から〝ハンセンvs俺〟、ど〜なんのっ!?って考えたりすると思うんですよ。
——実際、その〝ハンセンvs俺〟はど〜なりそうですか?　ファン目線では。
青木　たぶんですね、そうとうシンクロした試合になると思うんですよ。
——たしかに間合いの緊張感だけでも、えらく楽しめそうですよね。
青木　で、最初はおもいっきりガツガツ殴り合って!!
——うん。そりゃヒヤヒヤしますね!
青木　それでボク、ハンセンの打撃で相当に血が出ると思うんですけど。
——青木真也、危機一髪!!　それからそれから?
青木　1ラウンド8分ぐらいかな〜。たぶん、三角かなんかでハンセンの首を絞めてサクッと終わって「♪チャンチャン!」って感じで俺の勝ち!
——おめでとうございます!　きっと場内大興奮ですよ。
青木　で、マイクを握ってどっか指さしながら、「ヨロシクッ!!」って矢沢でキメ!
——って、最後の最後でドン引きされてどうするんですか(笑)。
青木　ククク。もしくは、ボクがサブミッションにいったときに、ハンセンに殴られてピヨピヨになって「♪チャンチャン!」……。どっちに転んでも、おもしろい試合になりますよ。
——一番、最悪な展開はなんですかね?
青木　(即座に)金的でノーコンテストですよ!　ハンセンには川尻(達也)さんも蹴り上げられたし。
——青木さんも8月の修斗ではローブローで悶絶しちゃいましたよね。
青木　ねえ。大晦日にそれはもう最悪極まりないですよ。
——たしかアクシンデントに備えてカーボン製のファールカップを用意したそうですけど、あれって、プロモーション側から「これを使え」とか指定されないんですか?
青木　いや、ファールカップは各選手で用意するもんなんですよ。……ま、サイズも違うんでね。ククク!
——ああ、個人差がありますもんね(笑)。そのカーボン製って、けっこうなお値段するんですか?
青木　4000円ぐらい。普通のものよりは高いんですけど、それで守れるんだったら、どんなに安い買いものかっ!!(笑)。
——ダハハハ!　では、大晦日は金的だけには気をつけてください。
青木　はい。急所だけに〝一つ上の男〟になりますから!
——え?〝一つ上の男〟ってなんですか?
青木　上野クリニックの広告、タートルネックの男がモデルの……(ニヤニヤ)。
——……青木さん。そういう小ネタは大好きなんですか?
青木　メモってますよ!　なかなかリング上で言う機会はないんですけどね。
——まあ、そこの〝ワオー!〟はあんまり期待してませんので(笑)。

【06年12月5日/都内・DSE事務所にて収録】

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界屈指の極めの力を持つ若き天才グラップラー。柔道では全日本Jr.強化選手に選ばれ、早稲田大学在学中に柔術やサンボを習得。数々の実績を残し、修斗でプロデビュー。5戦目で修斗世界ミドル級王座に就く。入場曲は「生き残れ、これ」な『ウルフルズ』の「バカサバイバー」。180cm、72.5kg。

燃えよ!! 大晦日!

PRIDE 男祭り -FUMETSU- Final Countdown 2006

美濃輪育久と4年ぶりに激突

桜庭のいない『男祭り』に"頑固者"が出場決定!

田村潔司

毎年、年末になると大晦日の桜庭和志戦が取りざたされながら、これまで頑なに固辞し続けてきた田村潔司。
しかし、桜庭が『PRIDE』を去った今年、3年ぶりの『男祭り』出陣、美濃輪育久との対戦が決定した!
これまで抜群の"嗅覚"を発揮し、格闘技界を生き抜いてきた田村が、ここで出場を決意した真意とは何か?
美濃輪戦が正式発表される前の12月11日、"頑固者"を直撃した!

聞き手/堀江ガンツ　本文構成/松下ミワ　撮影/平工幸雄
designed by hisa(TwoThree)

—えー、今年も年末恒例の田村潔司インタビューの時間がやってまいりました。

田村　何よ、恒例って？　毎年、そうだったっけ？

—そうだったっけ？　じゃないですよ！　毎年、出るのか出ないのか、堂々めぐりみたいなインタビューをやってるじゃないですか！（笑）。

田村　ハハハ、そうだね（笑）。でも、それは周りが勝手に騒いでるだけであって、俺自身は「俺、出るのかな、出ないのかな」ってドキドキしてるんだから。

—その決定権は明らかに田村さんにあると思うんですけど（笑）。でも、なんだかんだで毎年必ずオファーは来てますよね。

田村　オファーは……いただいてるねえ。でもねえ、やっぱ厳しい世界ですよ。本人としては危機感っていうか、それに近い気持ちは持ってますから。

—いま現在は毎年大晦日出場のオファーが来てるけど、それがなくなったらヤバいっていう意味です？

田村　う～ん。あまり意識はしないようにしてるんだけどね。やっぱり構えちゃうとダメだなって。

—しかし、大晦日に関して田村さんにオファーが来るのは毎年恒例ではあると思うんですけど、今年って例年の年末とは気持ち的に違う部分ってありますか？

田村　うん。全体で考えると、やっぱ全然違う雰囲気はあるね。っていうかさ、そもそも大晦日で格闘技とかプロレスとかって、もう何年くらいやってるの？

俺に〝PRIDE愛〟はないでも〝LIKE〟はあるから

—『猪木ボンバイエ』が最初に大阪ドームで開催されたときから数えると6年目になりますね。

田村　6年!?　もうそんなにやってるんだ。まあ、いままでの大晦日って、良すぎたよね。選手として格闘技というものを見たときに。

—たとえば、今年は格闘技業界の中でいうと、フジテレビが『PRIDE』の放送を打ち切ったという大きな出来事があって、そのことが多少なりとも今回の大晦日の状況につながってる部分があると思うんですけど、田村さんって、その大元であるフジテレビ事件のことを聞いたときは率直にどう思いましたか？

田村　まあ、単純に残念だと思ったよね。あのときって本当は『PRIDE武士道』もゴールデンでの放送が決まってたんでしょ？

—そういう話が進んでたみたいですね。

田村　ハッスルの地上波も決まってたんだよね？

—『ハッスル・エイド』の全国放送が決まってました。

田村　俺はね、選手としての立場だったら、テレビは単なるテレビとしか考えてないのよ。「テレビがなんぼのもんじゃい！」って感じで。でも、格闘技全体の世間的なアピールとして考えると、メディア的な露出が減ったというのは大打撃なんだろうなという感じだね。

—その事件が報道された数日後に『PRIDE』が緊急記者会見をやったじゃないですか。あのとき、『PRIDE』に関わる日本人選手を50人くらい集めて記者会見をやりましたけど、あれ、田村さんは呼ばれなかったんですか？

田村　あんときはねえ……なんだったかな。俺、なんで行かなかったんだろう。……（しばらく考え込んで）あ！　なんか、会見があるっていう話を聞いたんだけど、たしか「面倒くさいよ」って断ったような気がする！（堂々と）。

—ダハハハ！　単に面倒くさかっただけ（笑）。

田村　行かなきゃいけないの？　って感じだったんだと思うよ、たしか。でもさあ、あんな大々的に記者会見やってたなんて俺、知らないしさ。そういうのってあとからニュースとか見て知るじゃん。だから、俺だって、実際あんだけ選手が集まってたのを見たら、「ひょっとして、これは行かなきゃいけなかったのかな……」って思ったよね（笑）。

—いや～、ボクはあの場にいない田村潔司はさすがだな、と思いましたよ（笑）。

田村　よく考えたらえらいことしてるよね（さらっと流して）。

—その地上波放送がないというのは、大晦日に関して、田村さんが言う〝例年との違い〟というのにつながったりしますか？

田村　とくにはないかなあ。あのさ、いままでは大晦日に格闘技の放送を2局とか3局でやってた時期があったわけでしょ。でさ、そういうふうに複数の局で格闘技が放送されてると、興行自体も切磋琢磨できるじゃないですか。でも、今年『Dynamite!!』しか放送されないっていうことになると、じゃあ、『男祭り』はどういう方向性でやっていくんだろうっていうのがまだちょっと見えないよね。

—でも、田村さんは、例年どおりオファーが来てて、いまは交渉しているところなんですよね？

田村　そうだね。最終的におとといくらいに詰めの話をしてました。

—今年は、前向きにという感じですか？

田村　ええ、前向きですね。

—ほう、去年まで大晦日出場についてはずっと後ろ向きだったのに、どうしたんですか、その心境の変化は？

田村　う～ん。去年はなんだったっけ？

—去年も一昨年もず～っと桜庭選手と闘ってくれというオファーだったと思うんですけど（笑）。

田村　ハハハハ！　そうだね（笑）。

—やっぱり桜庭選手でオファーが来てたのと、そうじゃなくなったっていうのは大きな違いですか？

田村　う～ん、まあでも関係ないよ。大晦日に試合をするということに関しては。もちろん毎年出るにこしたことはないし、これまでも出たい気持ちはいっぱいだけどねえ。だから、相手だったり、会場だったりっていうのは、俺の中ではそんなにこだわりはない感じなんだけど。

—え、こだわりないんですか!?

田村　あるようで、ない（笑）。

—じゃあ、田村さんが試合に出る場合の一番のプライオリティっていうのはなんですか？

田村　だから、そのときの状況。

—それは田村さん個人の状況ですか？　それとも格闘技界の流れということですか？

田村　両方だね。あとは調整もそうだし、状態もそうだし、だから全部かな。こう言っとけば、都合のいいときに試合に出れるからね（笑）。

—真面目に答えてくださいよ！

田村　たとえばさ、去年なんかだと小川vs吉田とかがあったでしょ？　そういうのがあるんだったら、べつに俺は出ても出なくてもいいんじゃないの？　って思っちゃうんだよね。

—ああ、たしかにボクも小川vs吉

田村vs美濃輪はいまから4年前、2002年9月7日、DEEP有明コロシアム大会でも実現。このときは上り調子の美濃輪に対し、田村が横綱相撲で完勝（3-0判定勝ち）。田村の実力が再評価されることとなったが、今回も“健在ぶり”を見せることはできるか？

田村潔司

田と同じ日に田村vs桜庭をやるのはもったいないな、とは思いました。
田村　でも今年はさ、地上波がないという大変な中でも、やっぱり開催し続けなきゃならないわけじゃない。だからさ、俺はそもそも『PRIDE』に対して愛はないんだけど、いつも「『PRIDE』がナンバーワンだ」「『PRIDE』が大好きだ」とか言ってるPRIDEラブな選手っているじゃない。そういうヤツらは口ばっかじゃなくてさ、こういうときこそ試合とか態度でその〃PRIDE愛〃を示すべきなのに、『PRIDE』が危機的状況のときには動かないじゃん。それはもっと「態度で示せよ！」って思うよね。
——今年はその〃PRIDE愛〃のない田村さんが、他の選手に先がけて『男祭り』出場を決めるという奇妙なこと起こってるわけですもんね。
田村　俺はべつに〃PRIDE愛〃の人間じゃないから、出ても出なくてもどっちでもいいと思うんだけどさ、〃PRIDE愛〃があるヤツらがたくさんいるはずなのにカードが決まらないっていうのは、ちょっとどうかと思うよ。
——それは、ある意味「おまえらがやらないなら、俺がやる」ということなんですかね。
田村　そうは言わないけどね。とりあえずいまは全体の情報を聞いて、俺はそう思うわけですよ。そんな状況だと主催者側は疲れちゃうし、ファンもそうでしょ。ま、そんなことホントは俺には関係ないんだけどさ。
——へんな話、DSE榊原代表を助けたいという思いもあるんですか？
田村　いや、助けたいというわけじゃないけど、凄く大変なんだろうなって思うからね。それは俺も零細ながら興行をやってる身だからさ。U—FILE興行ぐらいだったら、俺が「しばらく大会を中止します」って言えば済まされるけど、『PRIDE』はそうはいかないでしょう。俺なんてU—FILE大会を休止させるだけでも胃が痛くなっちゃうんだから。でも、『PRIDE』はあそこまで規模が大きくなったらねえ。そこが止まっちゃうとさ、社員何十人とか抱えてるわけだし、世界中に『PRIDE』で生活してる人がたくさんいるわけだから。
——本当、そうですよねえ。
田村　そう考えると、榊原さんなんて俺が想像もつかないほど苦労してると思うんだよね。
——だからこそ、〃PRIDE愛〃を語ってるヤツらは、いまこそ行動しろ、と。
田村　俺もPRIDEラブはないけど、〃LIKE〃ぐらいはあるから。〃PRIDE好き〃って感じかな（笑）。
——田村潔司が〃PRIDE好き〃宣言！　それは、ここ数年で『PRIDE』に対する感じ方が変わってきたってことですか？
田村　いや、変わってきたっていうか。やっぱり歴史をそこで作ってるわけだから。俺にとって一番はいまでも〃U〃なんだけど、リングスもそうだし、『PRIDE』もそうだけど、そこにいるときっていうのは、好きとか嫌いとかの次元じゃなくて、そういう〃情〃っていうのは出てくるから。まぁ、いまは好きっちゃ好きだね。嫌いっちゃ嫌いだし（笑）。
——田村さんも89年にUWFでデビューしてから、いくつか団体を渡り歩いて、来年でデビュー18年ですもんね。いつの間にか大ベテランじゃないですか。
田村　ねえ、そんな感じしないんだけどね。
——若い頃、ルー・テーズ道場に留学してた、ルー・テーズの弟子がいまの『PRIDE』に上がってるんだから、凄いですよ（笑）。
田村　そういやそうだね（笑）。しぶといねえ、俺も。まあ、運がいいんじゃないのかね。周りに凄く恵まれてたっていうかさ。
——そういう意味では、ベテランとしてこれからの数年間というのは非常に重要になると思うんですけど、たとえば、いまの若い選手と闘って、自分がどれだけやれるのかっていうのは興味がありますか？
田村　直接的にはない。でも、間接的にはあるかなあ。
——『PRIDEウェルター級GP』で三崎選手が優勝しましたけど、田村さん、ご覧になりましたか？
田村　観に行ったよ。あの、6時間半の大会でしょ？　でもね、長い長いってよく言われてるみたいだけど、俺自身はそんなに長く感じなかったなあ。俺は観てて楽しかったよ。
——じゃあ、選手として三崎選手とか郷野選手とかって、田村さんから見てどうですか？
田村　うーん、まあ結果残してる人はいいんじゃないの？
——また、冷たい回答ですね（笑）。
田村　要はさ、選手でもいろんな目

桜庭vs秋山は断然桜庭の勝ちだよ
もしハズレたら坊主になってもいい

的があるじゃん。郷野選手の入場パフォーマンスも一応楽しいみたいだし……。でも俺の中ではちょっと違うんだけどなあ。

——ちょっと違うというのはどういうことですか？

田村　決勝大会での彼の入場パフォーマンスのときにはとくにそう思ったね。ああいうのが受けるのかなって、正直悩んじゃうよね。

——昔ではちょっと考えられないですよね。

田村　昔からリングっていうのは相撲でいう土俵と同じで、本当に神聖な場所だったんだよね。土俵はいまも女の人は上がれないでしょ？　俺はリングだってそういう場所だと思うんだよ。それがいまは誰でも上がれて、踊りながら上がってもいいんだからね。そういう時代なのかなって思っちゃうよね。

——なんだか、寂しい気持ちになってきましたか。

田村　だから俺もさ、頭を柔らかくしようとすればできるんだけど、俺には俺の感じ方があるから。昭和60年くらいに、北尾光司が出てたときは"新人類"って言われてたけど、じゃあ、いまは何人類だって話だよね。

——ダハハハハ！　でも、そういう時代だからこそ、逆に田村潔司という存在が際立つとも言えますけどね。ウェルター級GPで優勝した三崎選手はどう思いますか？

田村　地味ーーな強さだよね。

——ダハハ！　ズバリですね（笑）。

田村　でも、彼は日本人離れした体型で手足が長いから、自分の型を覚えたら伸びると思うんだけどね。

——田村さん、階級としては同じだと思うんですけど。

田村　フフフ、まあ微妙に同じだね。ま、でも俺と闘うというより、ウチにも若い選手がたくさんいるからさ。

——田村さんはそういう若い世代と手を合わせたりすることはないんですか？

田村　けっこうやってるよ。ま、俺自身、そういうのに興味がなくはないし、そういう時期がきたら試合するだろうしね。

——『PRIDE』ではまだ日本人の後輩とは試合はしてないじゃないですか？　あ、まあ、吉田選手とかも後輩といえば後輩か。

田村　俺とやったときは一年坊主だよ（笑）。ま、でも、テーマがその闘いにあるのかどうかですよね。だって、そうじゃないと本当にただの競技になっちゃうから。

——率直におうかがいしますけど、単純に美濃輪選手とかってどう思いますか？

田村　若いし、活きがいいと思いますけど。彼はいま何歳なんだっけ？

——30歳ですね。

田村　ま、脂が乗ってるっていうか、充実してるんじゃないかって思うよ。

——対戦相手として考えると魅力的だと思いますか？

田村　うーん、魅力っていうかさ……。じゃあさ、逆に魅力的なカードはどんなカードなのかってのを挙げてみてよ。なんかある？

——まあ、田村潔司vs桜庭和志ですかね（笑）。

田村　ハハハハ！　そうじゃなくて、いま現状で考えられるカードとしての話よ。べつに俺絡みじゃなくてもいいから。

——ま、エメリヤーエンコ・ヒョードルvsジョシュ・バーネットとかですかねえ。

田村　でも、日本人絡みでは、パッと思いつかないでしょ。ま、とにかく頑張りますよ。

——じゃあ、今回の『男祭り』は田村潔司の健在ぶりを見せるということでいいですか？

田村　いいですか、って、なんだよ、その投げやりな質問は！

——いや、ボクも長年田村さんのインタビューやってきてますから。これ以上聞いても無駄だな、と（笑）。ちなみに同じ大晦日イベントの『Dynamite!!』では桜庭選手が若手の秋山選手と対戦しますけど。田村さん、興味はありますか？

田村　そりゃ興味はあるでしょう！　でも、興味ないってことにしとこうかな。公式コメントは「全然興味なし」でお願いします（笑）。

——いや、「興味大あり」に書き換えておきます（笑）。

田村　その試合、どっちが勝つか聞きたい？

——ぜひ、田村さんの予想はうかがいたいですよ。いま、下馬評では秋山選手有利という声ほうが多いみたいですけどね。

田村　ぜんっぜん桜庭だよ！　俺、予想がはハズレたら坊主になってもいいよ！

——桜庭選手が負けたら坊主になりますか！

田村　その代わり、桜庭が勝ったらガンツが坊主ね。

——それは承知しかねます（笑）。ボクも「桜庭勝利」の予想ですから。でも、田村さんが頭髪を賭けるぐらい、桜庭選手と秋山選手では差がありますか？

田村　あると思うねぇ。

——まぁ、桜庭さんは前回のケスタティス・スミルノヴァス戦でKO負けしそうになったり、練習中に倒れたりしたから、それが下馬評にも影響してるんでしょうけど。

田村　え、倒れたの？

——気持ち悪くなって嘔吐したりして、10月に『HERO'S』のトーナメントで組まれてた桜庭vs秋山が一回飛んだんですよ。

田村　へぇ～。朝飯食いすぎたとかじゃないの？

——違いますよ！

田村　とにかくさ、秋山選手もセンスは悪くないんだけど、桜庭ほどじゃないと思うんだよね。だから、やっぱり桜庭が勝ち。

——なるほど、わかりました。じゃあ、大晦日は田村さんと桜庭さんという二人の"おじさん"が活躍を期待してますよ（笑）。

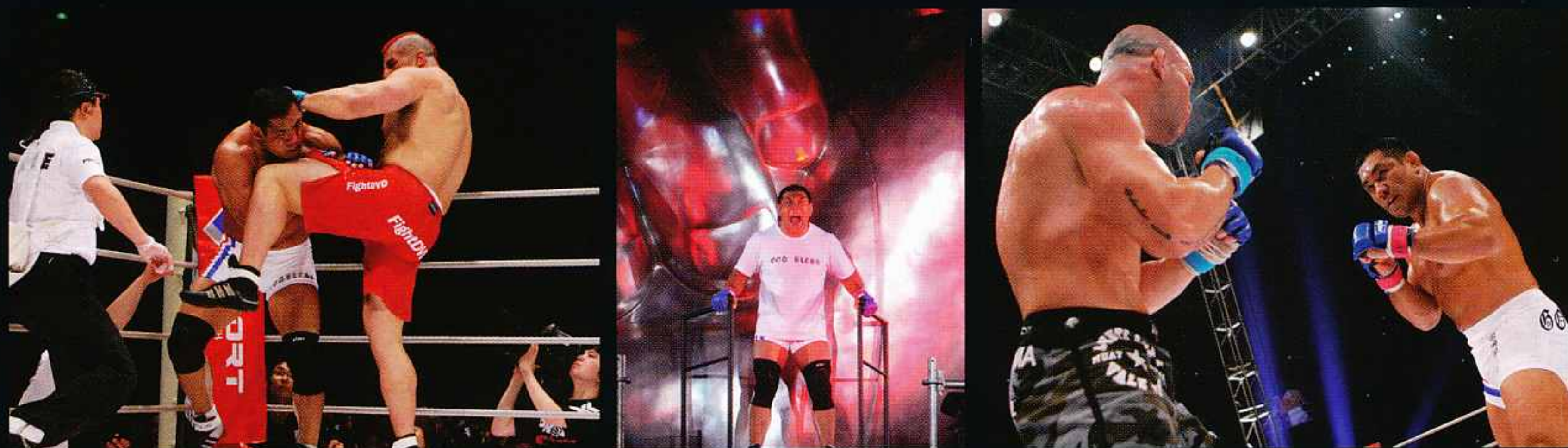
田村　おじさんって、やめてよ、そんな言い方！

——ダハハハハ！

田村　ま、頑張りますよ。もう、これからはオヤジの時代ですよ！

［06年12月11日／U－FILE CAMP登戸にて収録］

たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第2次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。今年2月には20キロの体重差があるノゲイラ兄に挑むも完敗。今回の美濃輪戦はそのとき以来、10カ月ぶりの試合となる。180cm、86kg。

藤田和之

闘魂からの独立、血まみれの死闘、そして大晦日は——!?

野獣の2006年

激動の2006年——闘魂の鎖を引きちぎって、『PRIDE』という格闘密林に再び足を踏み入れた野獣・藤田和之。大迫力のトンプソン戦、死闘の中の死闘となったヴァンダレイ戦。わずか二試合の出場ながら、観る者の心に強烈な爪痕を残したが、藤田和之にとってこの一年はなんだったのだろうか? 旧知のGK金沢克彦が迫る!!

聞き手/金沢克彦 撮影/菊池茂夫 試合写真/乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

燃えよ!! 大晦日!
PRIDE 男祭り
-FUMETSU-
Final Countdown 2006

——『PRIDE男祭り』まで、あと一カ月という状況なんですが、まずは藤田和之のこの一年を振り返ってもらいたいんですよ。ちょっと回顧ということでね。

藤田 解雇? クビですか?

——じゃないです(笑)。まあ解雇じゃないけど、昨年の一年間は新日本プロレスに腰を落ちつけてプロレスに専念した、と。そして新日本と猪木事務所のゴタゴタの中で、1・4東京ドーム大会のドタキャン騒動にも巻き込まれてしまって。その頃からもう「やっぱり俺の土俵は総合格闘技なんだ!」という思いが強くなってきたんでしょうかね?

藤田 いや、べつに(新日本のリングに)違和感があったわけでもないし、与えられた仕事は精いっぱいやったつもりだし、やるべきことをやっていたら、いまここ(『PRIDE』)にいたって感じですよ。でもね、「上がりたい」って言って、簡単に上がれるような状況じゃなかったし、去年は上がれなかったわけですよね。

——それはもう、いろいろと政治的な部分とか、周囲の駆け引きや(猪木)事務所サイドの混乱もあったからであって。

藤田 ただ「やりたい!」で決まることじゃないし、クリアしなければならないものもあったわけでね。その状況が変われば、変化も出てくるし。

——そこで結局、2月1日付けで晴れてフリーの身となり、何も束縛されるものはなくなったわけですよね。

藤田 そうですね。ただ、どうなってもいいように、何があっても自分なりに責任が取れる心構えはできていたから、猪木事務所との契約が満了で切れただけであってね。自分ではちゃんと覚悟していたし、それこそ「いつ、なんどき」の心構え

ですよ（笑）。
――ただ、そのあとも『ＰＲＩＤＥ』かＫ―１かでずいぶんと結論が出るまで長引いたじゃないですか？　いまに至ってみて、こちらのリングを選んで正解だったと言えますか？
藤田　いや、正解も何も現状がすべてでしょう。なんの悔いもないし。いままでやってきたことに対しての悔いなんて、僕には何一つないですからね。
――まあ、いろいろなものを踏まえて最終的にチョイスしたリングが、「命がいくつあっても足りない」と言った『ＰＲＩＤＥ』のリングだったということですね？
藤田　ああ、そう言いましたねぇ（笑）。
――まず、無差別級ＧＰ一回戦（５・５大阪ドーム）のジェームス・トンプソン戦ですね。これがまた周囲の予想に反する苦戦で、最終的には劇的なＫＯ勝利を収めたわけだけど、正直ブランクを感じたんじゃないかなって。
藤田　いや、ないですよ。去年は去年でいい経験させてもらったし、今年は今年で経験とチャンスもらってるんで、すべていい勉強になってますから。
――あの時点での精いっぱいの自分を表現したという感じ？
藤田　毎回、精いっぱいやってますよ。だから、そのあとでどう活かしていくかが大切であってね。
――じゃあ、あの試合から学習したことや反省点はなんでしょう？
藤田　反省ですか……それはやっぱりブランクという意味とはまた違って、試合の間隔が開いていたから、もっと実戦を積んでいかなきゃいけないなって……あれ？　これってブランクのことか！（笑）。まあまあ、でも最後は、結果的にいままでのちょっとした貯金と経験が結果につながったと思うしね。最後に決められるところはいままでの経験があったからで、初トライだったらどうなったかわからないし。相手も思った以上に強い選手だったから。
――とりあえず一回戦を突破したあとに、今度はまた別種の問題が噴出してきたわけじゃないですか？
藤田　えっ？　何かあったんですか。たとえば〝エニシング〟のオープンとか？
――それは永田裕志のビジネスの話でしょう！　だから、『ＰＲＩＤＥ』にフジテレビの放送打ち切り問題が勃発したわけで。
藤田　ああ、そっちですか。
――正直、不安にはならなかった？

3年ぶりの『PRIDE』のマットとなった5.5『PRIDE無差別級GP』開幕戦。ジェームス・トンプソンの重い打撃を何発も食らいながらも、驚異の打たれ強さを見せて大逆転勝利!! ズバリ、並のファイターだったらブッ倒されていた。野獣おそるべしの壮絶さ！

藤田和之

藤田　いや、べつにならないです。だって自分の選んだリングなんだから、最後まで信用してまっとうするのは変わらないわけで。
――ただ、それによってトレーニング先のロサンゼルスからとんぼ返りの緊急帰国という事態もあったでしょ？
藤田　ああ、ありましたね。それは自分の上がってるリングの話なんですから、それも必要なことならそうするだけの話ですよ。
――でも、あれはコンディション調整を左右したでしょ？　負担になったろうなって。
藤田　全然まったくないですね、そんな部分は。もう終わった話だし、万が一そんな負担があったとしても、言ってたら（対戦）相手に失礼じゃないですか。
――うーん、藤田選手の場合、マイナス思考、ネガティブな考え方はしないんだよね。逆に、自分がこの『ＰＲＩＤＥ』を背負ってやろうというかさあ。
藤田　マイナス思考？　あっ、マイナス思考で思い出したことがあるんですよ。全然関係ない話なんですけど、いいですか？
――ハイ、どうぞ！
藤田　僕、このあいだの11月1日でね、デビュー10周年だったんですよ。星野（勘太郎）さんの誕生日にも当たるんですけどね（笑）。マイナス思考で思い出した。マイナス思考って言ったら、反対はプラス思考でしょ？　プラス思考の人と言えばやっぱり……。
――あっ、永田裕志。そうか、デビュー戦の相手は永田だったもんねえ。96年の11月1日、広島グリーンアリーナだ。
藤田　そうそう、よく覚えてますね!?　もう毎日毎日、長州さんに怒られながら、ようやくデビューしたんですよね。
――怒られてたねえ（笑）。「おまえは走ることしかできないのか！」って。
藤田　そうそう、なんで金沢さん知ってるんですか？
――だって猪苗代の合宿に同行して取材していたから。「いや、ほかにもできます」って長州さんに堂々と口答えしていたし（笑）。しかもまだデビュー前なのにね。
藤田　いや、口答えじゃなくて（笑）、走ることしかできないのかって言われたから、ほかにもできますってバーベルを挙げていたら「おまえはウエートしかできないのか!?」ってねぇ（笑）。
――そうかあ、あれから10年なんだね。
藤田　そうなんですよ。まあ10年っていっても、この業界じゃまだまだヒヨッコですけどね。ただ僕としたら、10年同じことが続いたっていうことが凄いなあって。自分ではすぐ辞めちゃうんじゃないかって思ってましたから。
――だから、新日本はすぐ辞めたじゃない。３年で退団したでしょう？
藤田　いや、リングで仕事してることには変わりないですから。このあいだ、フッと気がついたんですよね。ああ、11月で10年だって。本当は夏ぐらいに、入門して２～３ヵ月でデビューだったんですけど、ヒザをケガして延びたんですよ。そういういろんなことも含めて、永田先輩がデビュー戦の相手でよかったなあって。あの人はいつでもプラス思考じゃないですか。そこでいまマイナス思考っていう言葉が出てきて、フッと思い出したんですよ。
――なるほど。本題に戻りますよ。続くＧＰ二回戦（７・１さいたまスーパーアリーナ）のヴァンダレイ・シウバ戦に関しては、学んだことが数多くあるんじゃない

いままでやってきたことに対しての悔いなんて何一つないですからね

かと。

藤田　ええ、ここ最近では一番多くのことを学んだんじゃないですかね。

――それを具体的に言葉に代えてもらうと？

藤田　やっぱり自分で一番足りないところがね、意識はしてなくても無意識に避けていたことっていうのをやらなくちゃいけないんだなっていうのを感じたし。

――避けていたことっていうのは？

藤田　だから自分のファイトスタイルっていうものの中で大事なものっていうのをわかってはいたけども、自分の持っているものに頼りすぎた部分があるから。

――それは打撃、つまりパンチですね？

藤田　まあ打撃かな……。

――それに頼りすぎていた？

藤田　頼りすぎたというより、逆にもっとちゃんとやらなくちゃいけない。もっとレベルを上げていかなきゃいけない。学びましたよね、いろいろと。

――打撃面のほかにはどうです？

藤田　まあ全般的にそうでしょう。自分なりに思うところはあったんで。「ちゃんと見直さなきゃいけないな」って。

――ケガというオマケまでついて。腕十字固めを引っこ抜いたときに左ヒジ伸展筋部分断裂ということで、全治3ヵ月。結局、手術は回避して自然治癒させたわけですけど。

藤田　ああ、ケガのことはもう忘れてました。普通に使ってるし、完治に近いんじゃないですか。ゆっくり休ませてもらったし。

――その敗戦によって、ヒョードル、ミルコに続いてもう一人増えたと。倒さなければいけない目標にシウバも入ったということでいいんですね？

藤田　だから、その3人じゃないんですか。試合に関してはね、全部に共通して

“フジテレビ・ショック”直後の7.2『PRIDE無差別級GP』二回戦。ヴァンダレイ・シウバに敗れはしたが、藤田いわくの「命がいくつあっても足りないリング」の闘いぶりをまざまざと見せつけてくれた。大晦日、そして2007年もこの野獣ぶりが現出するか!?

言えることっていうのが何かちょっと見えたから、俺としてはいい勉強になったなあと。ミルコなりヒョードルなりヴァンダレイなりに、負けるパターンっていうのが一つ見えたかなと。自分にとってはね。

――ああ、そういうことなんだ！

藤田　だから、そういう意味では一つは打撃であり、いろんなことがね……それはちょっとここでは言えないけども。そういうトップの人間とやるときに自分が負けるパターンっていうのが一つ見えたから、凄くいい勉強になったってことですよね。

――それは自分自身で気がついた部分なんですか？

藤田　うん、そうですね。それと周りからも。コーチであるマルコ・ファスであったりね。

――怪覆面〝K〟からは？

藤田　怪覆面って、アッハッハッハッハ！　いやあ、まあ大事なことっていうのは客観的に見てくれてますんで。そういう周りの人の力もあって、どこが一番いけないのか、その3人とやったときにかならず自分が負けるパターンっていうのが一つあったんで。今回、ケガもあったんで、いろいろとじっくりできたこともあるし。このケガも自分にいい時間を与えてくれたなと思うし、プラスになったなと考えることができますよね。

――つまり、その3強を倒すための練習というのは結果的にコンプリートを目指すものだろうし、誰に対しても通用する自分ということになるわけでしょう？

藤田　そうなりますよね。自分の欠点を直し、強化すると。まあ、その3人。でも、どの試合も一緒なんですよね、僕の負けるパターンは。自分のことってけっこう見えないものだけど、よくわかったのは彼らのおかげだなと思う。相手に恵まれたと思いますよ。

――いまの藤田選手を見ていて感じるのは、メンタル面で健康的だなあという部分が大きいですね。過去、新日本と総合分野を行ったり来たりしていた時期……とくにIWGPのベルトを持った状態で『PRIDE』やK―1のリングに上がっているときはちょっと精神的に不安定だったと思う。

藤田　どうなんだろう。自分ではわからないんだけど、言われてみると「ああ、そうなのかな」というね。だから、たぶん周りが見えてなかったような気がするんですよ。周りが見えてないってことは、自分自身が見えてないってことでもあるだろうし。

――ただ、昔は葛藤していたというか、いろんなことを考えて自分を納得させていたような感じで。「なぜこんな痛い思いをしてリングに上がるのか？　これが仕事だからですよね」とか「俺は火事場ドロボウみたいなものです」とか「自分は宝探しの海賊ですよ」とか「じつはこれが最後と思ってリングに上がっていました」とか、本当に〝思うところ〟が多かったでしょ？

藤田　たしかに最近は気持ちが穏やかにね、トレーニングして、真っ直ぐに試合に臨むって感じで。前ほど、そういうところがなくなったような気はするんですよね。

――うん。精神的に波があるというか、突き詰めて考えすぎるようなところがあったものね？

藤田　ええ、考えすぎたりね。

――周りに振り回されたりもしていたし。

藤田　まあ、立場が立場だけに、ありましたね。それは誰でもあると思うんですけど。

――やっと独り立ちしたということかな？

藤田　だからいまは誰も守ってくれないですからね。以前は、守られてるっていう部分が少なからずあったから。

――以前は、アントニオ猪木という大きな後ろ盾がデンと控えていたわけだし。

藤田　ええ。ただし、そこがなければいまの自分もないし。

――そこに隠れることもできたし、その力を借りて前に出ることもできたし。

藤田　うん、隠れることもできるし、頼ることもできるし、でもそれが障害になったこともあったようだし。とにかく、いい経験させてもらっていますよ。やっぱり猪木会長のもとにいたっていうことが一つの大きな勉強になったし、だから出たときにわかりますよね。会長の大きさもそうだし、自分自身がどうやって育ってきたかっていうのもね。

――蒸し返すようだけど、猪木さんの前に、リングス時代の前田日明さんとも接点があったわけだしね。

藤田　あそこで前田さんに声をかけていただいたから、自分の中の迷いが解けた部分もあるし。自分が進むべき道というか、リングでどう闘えばいいのかっていう意味では前田さんがきっかけかもしれないし、助言とかもいただいたし、感謝してますよ。でもね、また昔話をしてもいいですか？

――どうぞ昔話でもなんでもしてください。

藤田　新日本の新弟子時代にね、猪木会長の付き人というかカバン持ちみたいなことをやらせていただいてたんですけど、そのときにね、けっこう練習つけてもらっていて、あの鈴木さんの本（『風になれ』）に書いてあるようなことを僕も同じように言われてたんですけどね。その中で、打撃でも組み技でも実際に普通プロレスの試合では使わないようなことを教わっていたから、「なんでこんなことやるのかなあ？」と思って、たぶん僕が不思議そうな顔してたんでしょうね。そうしたら会長にね、「おまえ、もうすぐやるんだから」って言われたのはよく覚えてるんですよ。「これから先、おまえがやることなんだから」って言われて、「エッ⁉　どこでコレ使うの？」って。それは巡業で使うようなものではなかったし、どこで使うのかなって思っていたら、それから前田さんとの出会いがあったり、運命のイタズラというのか、会長の経由で『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がるようになってね。

――それはデビュー前の出来事ですか？

藤田　ええ、その前。デビュー前からね、総合格闘技みたいな練習させられて。受け身の一つでも覚えたほうがいいんじゃないかなと思うんだけど、会長には「もうすぐおまえが出て行かなくちゃいけないんだから」って言われたのはよく覚えていて。新日本の道場に会長が来るとみんないなくなっちゃうんだけど、それで僕が付くわけです。そこで佐山（聡）さんもいて一緒に練習して。

――小川直也もいた頃ですか？

藤田　彼が来る前ぐらいかな。極めたりとか、「こうやって仕留めろ！」とか。僕は新日本プロレスに就職したわけだから、仕留めたらプロレスを超えてるじゃん！とか不思議に思ったりしてね。でも最終的にはこういう世界に入ってきたから、こういうことだったのかなって。だから鈴木さんの本を読んでいて、「ロープに詰まって離れ際にどうする？」とか、そういう猪木会長とのやりとりの話が出てくるじゃないですか。ああ、俺もそれ教わったなあとか思い出してね（笑）。で、どこまで話しましたっけ？

――だから「ヘロ～ッ、アッメ～リカ‼」ということで、「ネクストタイム、マイタイム！」ということですよ（笑）。

藤田　アッハッハッ、もうやめてくださいよ。ラスベガスは試合が組まれなかったんでね。まあ次回もあるんで、やってみたいですけどね。

――そこでいま、照準は大晦日の『ＰＲＩＤＥ男祭り』に定めていると思うんですが。

藤田　照準というか、いまのコンディションだったら、オファーがあればいけるっていう感じですかね。ただ、決まったわけじゃないんで。

――そこでいつものとおり、明々後日（12月3日）ロスへ飛ぶと。もちろん、マルコ・ファスのところですよね？

藤田　試合があってもなくてもトレーニングは続けているし、ある意味、ところで練習するのは年末の恒例行事みたいなものだから（笑）。で、そこに試合があるかないかの話であって。

――昨年は練習だけで終わったわけだか

ふじた・かずゆき■1970年10月16日、千葉県出身。レスリング出身。新日本プロレスの若手時代から、総合向きの評価を受け、00年に同団体を退団、『PRIDE』に参戦。当時最強の呼び声の高かったマーク・ケアーを撃破。ヒョードルをパンチでグラつかせ追いつめるなどした日本重量級の第一人者。183cm、107kg。

藤田和之

ら（笑）。ただ、今年はそうはいかないんじゃないですか。たとえば大晦日に出場となったら、誰とやりたいとか希望はない？

藤田　誰と言われて、出てくるものでもないんで。そういう闘うべき相手が出てくれば、自然とそういう気持ちに、その方向になっていくでしょう。

――ちなみに周囲では、吉田秀彦との初対決に期待する声も出ているようですが。

藤田　どうなんだろう？　まあ、このリングで闘う以上、いつかはやらなきゃいけないとは思ってますけど。べつに急がなくても、こっちは逃げないし、向こうも逃げないだろうし。このリングでチャンピオンを目指している以上は、目指している人間とは誰とでもやっていくことになるだろうし。

――そういえば、元ボクシング世界チャンピオンとの対戦話は立ち消えになって……。

藤田　俺やるって一言も言ってないじゃないですか（笑）。

――以前、やりたいって言ってたじゃないですか？

藤田　それは何年か前の話でしょ？　いまは"たら、れば"の話はないですよ。

――でも聞くところによると、インターネット通販の『Amazon』でマカオの観光ガイドを購入したという噂もあって。

藤田　まぁ～た、買ってないですって！『Amazon』で買ったのは『風になれ』だけですよ（笑）。

【06年11月30日／都内某所にて収録】

[GKのインタビュー後記]

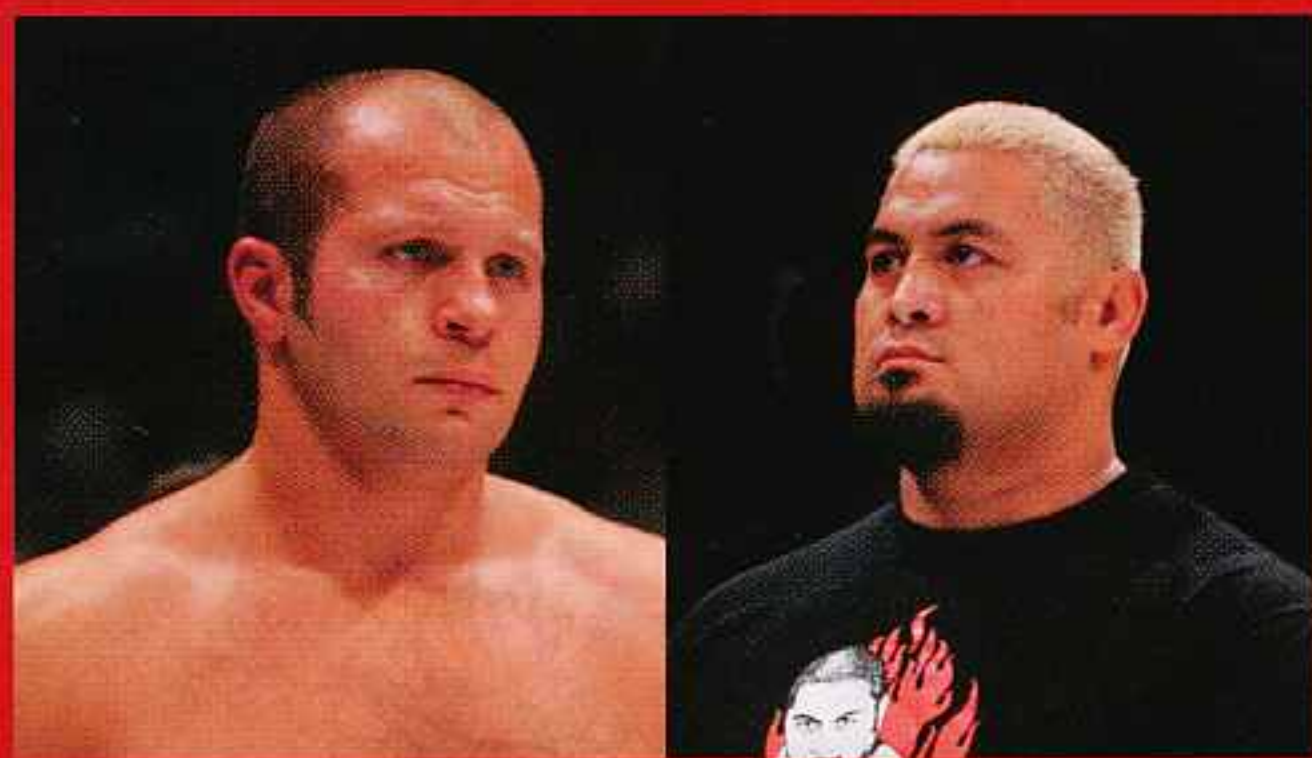
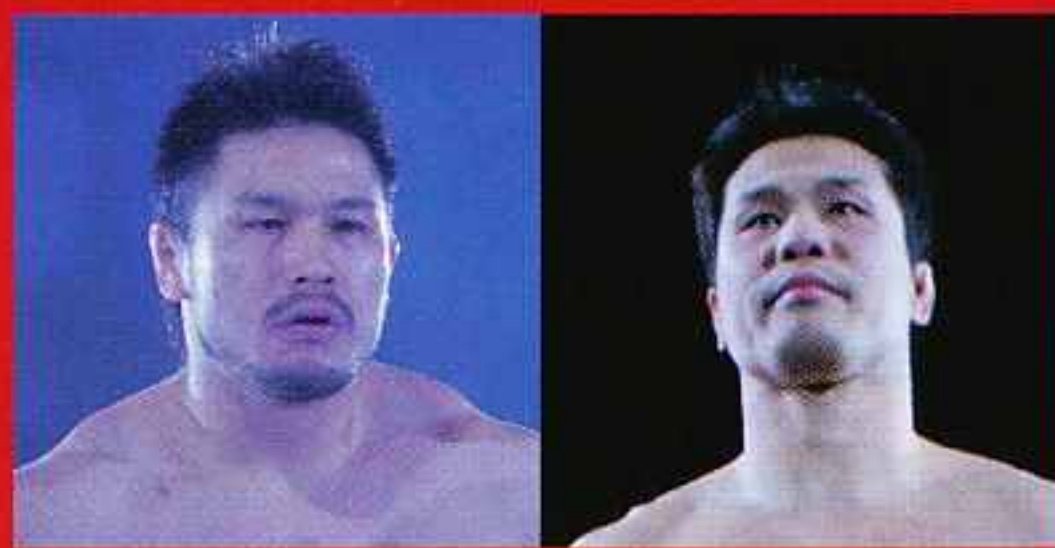
2000年1月、初めて修羅の道（『PRIDE』）に足を踏み入れて以来、もうすぐ7年になろうとしている。ともかく藤田和之は生き残っている。しかもいまだ最強への幻想を抱かせてくれる男（プロレスラー）として、そこに存在している。苦杯を舐めさせられた3人の強者（ミルコ、ヒョードル、シウバ）へのリベンジが、いまのライフワークであり、最大のモチベーションとなっているのだ。

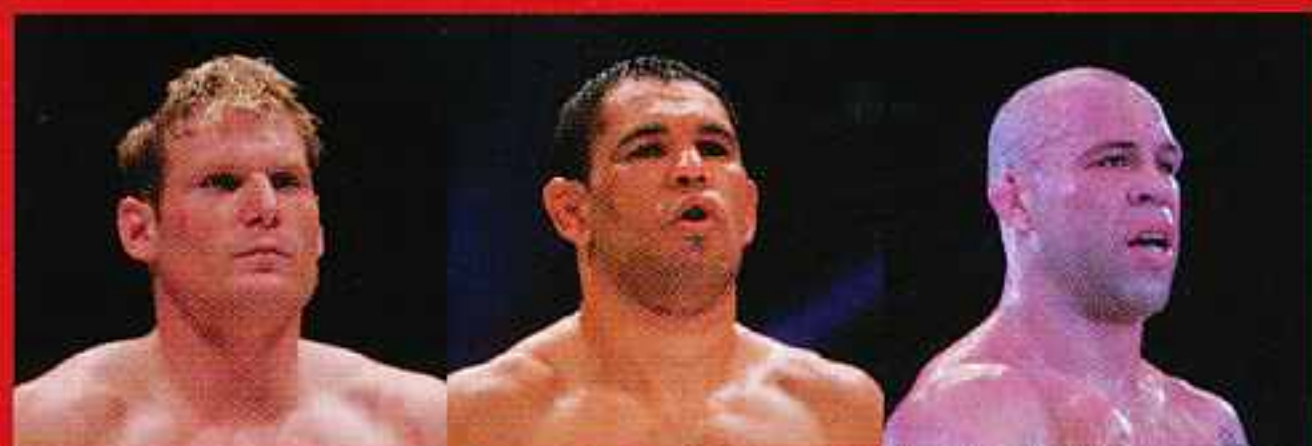
今年の大晦日決戦『PRIDE男祭り』は、その序章に位置づけされる闘いとなるわけだが、12月13日現在、まだ対戦相手が決まらない状況だ。一時は、吉田秀彦戦も浮上していたようだが、実現の可能性は薄い。両雄の対戦に限っては、やはり確固たるテーマが必要とされるのだ。「日本人最強決定戦」と銘打って対峙してこそ、価値ある闘いとなり得るからである。

現在、藤田サイド、DSEサイドともに藤田に相応しい相手を模索中だが、今回のテーマは「未知の強豪」で一致しているという。つまり、かつて『Dynamite!!』で対戦したカラム・イブラヒム（レスリング金メダリスト）のような存在だろう。ただし、どうにも交渉ごとは一朝一夕には進まない様子。果たして、藤田の『男祭り』出陣は？　参戦決定の場合、どのような"怪物"が浮上してくるのか？　こればかりは相手があることなので、ぎりぎりまで心して待つしかないだろう。無論、当の藤田は「いつ、なんどき」の心構えそのままに、マルコ・ファス道場でトレーニングに没頭している。

いずれにしろ、来年2月の『PRIDE』ラスベガス大会への出場は決定しているし、それ以降の青写真もできあがっているのだ。来春からはいよいよ打倒！　3強へ向けて『藤田リベンジ・シリーズ』の開幕である。

14日締切ド直前のラインアップはこれだ!

会場で、PPVで、ネットで、妄想で!『PRIDE男祭り』を見れんのか!?

PRIDEヘビー級タイトルマッチ
[王者] エメリヤーエンコ・ヒョードル
vs
[挑戦者] マーク・ハント

赤いパンツの大晦日!!
美濃輪育久 vs 田村潔司

因縁のライト級日本人対決!
五味隆典 vs 石田光洋

マニア垂涎!! 寝技と打撃の正面衝突!
ヨアキム・ハンセン vs 青木真也

重厚パウンドのつるべ打ちマッチ!!
川尻達也 vs ギルバート・メレンデス

ドンドンドン♪ ドンペン君が大晦日初登場!?
中村和裕 vs マウリシオ・ショーグン

[出場予定選手] ジョシュ・バーネット／アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ／ヴァンダレイ・シウバ／吉田秀彦／藤田和之／三崎和雄／郷野聡寛／ダン・ヘンダーソン／デニス・カーン／ヒカルド・アローナ、ほか

[チケット料金]
VIP（特典／専用入場ゲート、グッズ付き）100,000円
RRS 23,000円／スタンドS 17,000円
スタンドA 7,000円
[問い合わせ]
ドリームステージエンターテインメント TEL.03-5464-1531

エンターテインメントサイトのDMM.comで同大会をインターネット生中継!
【視聴方法】3,500円の視聴チケットを購入（※詳細は120ページ）
【アドレス】http://www.dmm.com/help/guest/-/beginner_qa

※kamipro通販に関する詳細に関しては、P157のkamipro通販方法をご覧ください。

ヒョードル、ミルコ『PRIDE』離脱の怪情報を追え!

PRIDE王者に忍び寄る魔の手!!

フジテレビの地上波放映中止という大ピンチは、無差別級GPの盛況と
ラスベガス大会の大成功により乗り越えたと思われた『PRIDE』。
ところが、今度はアメリカ格闘技市場の急激な巨大化による、
トップファイターたちの他団体流出という危機が訪れてしまった。
噂によれば、ヒョードル、ミルコという『PRIDE』が誇る二大王者が狙われているという。
はたして『PRIDE』は生き残れるのか!?

designed by Tani-yan（Two Three）

ヒョードル獲得を狙うボードッグのオーナーは個人資産1150億円！ 〝格闘技版SWS〟だ！

ジャン斉藤（以下、ジャン） いや〜、大変なことになりましたね。

堀江ガンツ（以下、ガンツ） 本当にビックリだよ！ 前号で〝PRIDEに大津波が来る〟ってこと話したけど、まさかここまで魔の手が伸びてるとはね……。

ジャン 信じられないですよ！ ジャイアント・シルバが『Dynamite!!』に電撃移籍するなんて！

ガンツ おい、そっちかよ！（笑）。

ジャン え!? 違うんですか？ それ以外で最近、大きな話題があったかなあ……。「暴露」「外国人記者クラブ会見」「反社会勢力との関係」という06年マット界の重要キーワードを一人で体現してくれた、石原真理子と〝大津波〟はなんの関係もなさそうだし。

ガンツ ホントにまったく関係ないよ！ そしてジャイ・シルの場合は、魔の手が伸びたというより、その手があったか！ って感じでしょ、それ（笑）。

ジャン 一部では〝魔がさした〟とも言われてますけど、これは夢のカードが実現しましたね。曙さんはもちろんのこと、ジャイ・シルもある意味で大晦日のアイコンみたいなところありますから。『猪木祭り』の時代から、なぜか猪木さんやサスケと闘ったりした〝高視聴率男〟で。

ガンツ それが『PRIDE男祭り』の地上波がなくなって、今年は出番がなかったから、まぁ、ちょうどいいっちゃいいんだよね。

ジャン でも、ジャイ・シルは大晦日じゃなくて、元旦のオファーもあったんですよ。

ガンツ どういうこと？

ジャン ほら、元日放送の『お笑いウルトラクイズ』にマーク・コールマンが出演しますけど、あれってもともとはコールマンじゃなくて、ジャイ・シルがオファーされていたらしくて。

ガンツ あ、そうなんだ。

ジャン だけどジャイ・シルは「ほかのテレビ番組の収録があるから出られない」って断ったらしいんですけど、その〝テレビ番組〟っていうのが、じつは『Dynamite!!』だったんだから衝撃ですよ！

ガンツ ガハハハ！ 元旦のバラエティ番組を蹴って、大晦日の〝格闘バラエティ〟に出る、と（笑）。

ジャン 『お笑いウルトラクイズ』との獲得競争に見事勝利したんだから、さすが谷川さんです！

ガンツ しかし、佐藤大輔さんが数年前に『PRIDE』と『Dynamite!!』はジャンルが違う！〟って言ってたけど、ジャンル違いが加速度を増してるよなぁ（笑）。

ジャン ……で、なんの話でしたっけ。だいぶ余計な話題が続いてますけど。

ガンツ ジャイ・シルじゃなくて、俺が言いたいのはヒョードルとミルコの移籍の噂だよ！ まあ、でもヒョードルの移籍騒動は大晦日恒例というかね（笑）。

ジャン ヒョードルの移籍騒動に、『kamipro』の韮澤（潤一郎）さんインタビュー！ これが揃うと大晦日なんだなあって感じですよね。

ガンツ まあ、今年の韮澤さんは大晦日とまるで関係ないんだけどね（笑）。

ジャン ああ、大晦日恒例『超常現象SP』が一日前倒しになって30日放送になったみたいですね。

ガンツ それでもなぜ今月号で韮澤さんをインタビューしたかといえば、抜群におもしろいから！ と、大晦日のカードがなかなか発表されないから企画が組めない苦肉の策！ 以上!!

ジャン それに今年の『男祭り』は地上波中継もないですし、もう吉幾三の世界というか。♪ハァ〜、テレビもねぇ！ ラジオもねぇ！ カードもそれほど揃ってねぇ!!

ガンツ ♪オラ、こんな『PRIDE』イヤだ、オラ、こんな『男祭り』イヤだ〜！ インディー・サミットへ行くだぁ〜……って、死んでも絶対に行かないよ!!

ジャン こうなったら、ミックエンターテインメントにお金を落としましょうよ！

ガンツ なんでだよ（笑）。ここにきて『PRIDE』はカードがちゃんと出揃ってきてるし、とくに中・軽量級のカードは出し惜しみしてないしね。

ジャン 話は戻りますけど、ヒョードルサイドに不穏な動きがあるのは事実ですよ。

ガンツ まあ、ヒョードルは『PRIDE』との独占契約がありながら、03年の『猪木祭り』に出場した〝前科〟があるからね。常に疑惑の目で見られてるんだろうけど。これはヒョードルの意思がどうこうというより、彼のマネージメントをしている周囲の人たちの思惑もあると思うんだよね。

ジャン 要は、格闘技をビジネスライクに捉えているってことなんでしょうけど。

ガンツ でもさ、これはロシアン・トップチームのニコライ・ズーエフさんが言ってたんだけど、「ロシアのビジネス界にルールはない」らしいから（笑）。

ジャン ロシアはビジネス界自体が〝なんでもあり〟ですか！

ガンツ ロシアで一番必要なのは、いろんな意味で〝力〟だしね。で、これまたロシアン・トップチームのパコージン総監督に「ロシアで一番強いサンビストは誰ですか？」って聞いたら、即座に「プーチン！」って即答してたからね（笑）。

ジャン なんて〝ポロニウム〟な話だ（笑）！

ガンツ ただ、誤解をしないでほしいのは、ヒョードルがめついのかっていったら、べつにそういうわけじゃないと思うんだわ。いまでも田舎でつつましやかな生活を送ってるらしいからね。

ジャン それはそれとして、いろんな移籍が飛び出る中で、いままでは『PRIDE』が世界最高峰の舞台であったからこそ、結局は元の鞘に納まってたわけですけど。今年に入ってから資金面で『PRIDE』を上回るプロモーションが現われたことによって、にわかに移籍が現実味を帯びてきたところはありますね。

ガンツ それがUFC、『ボードッグ』。現在もリング上の闘いやイベントとしては、『PRIDE』が世界一の舞台であることは間違いないと思うんだよ。ただ、資金面で『PRIDE』を大きく上回るその二つのプロモーションから、『PRIDE』のトップファイターに対して、〝魔の手〟が伸びる可能性は高いよね。

ジャン 選手としてはファイトマネーが高いところに行きたいと思うのは当然のことだから、『PRIDE』としては、この〝MM

A世界競争〟に打ち勝ってほしいですけど。

ガンツ　まあ、たとえトップファイターの何人かが引き抜かれたとしても、『PRIDE』の存続自体は可能だと思うんだよ。ただ、世界で一番強い男たちが集う場所ではなくなってしまうおそれがある、と。つまり『PRIDE』が『PRIDE』でなくなってしまうということだよね。で、トップファイターを引き止めるためには、UFCを上回るプロモーション力や、資金力を身につけるしかない。だけど、それだけの収益を上げられる市場というのは、いまのところアメリカしかないわけ。だから、『PRIDE』はアメリカ進出に全勢力を傾けているわけだよね。

ジャン　だいたいUFCのPPV契約件数からすると、少なく見積もっても、『PRIDE』の倍以上の収益を上げてますからね。だって、月一回のPPVで40万件以上も記録してるんですから。

ガンツ　そうやってよくよく考えると、日本市場だけに専念していたらとても太刀打ちできないんだよ。これまで日本で一番収益を挙げていた興行って『PRIDE男祭り』なんだけど。それは地上波の放映権料があり、さいたまスーパーアリーナ超満員のゲート収入があり、さらにPPVまであった。でも、UFCが一回のPPVで上げる収益って、その『男祭り』全体の収益と同等らしいからね（笑）。

ジャン　月一回ペースで『男祭り』を開催しているのと同じ！　かつて猪木さんがテキトーにブチ上げていた、『猪木祭り』の月イチ開催さえ軌道に乗っていれば、日本マット界は安泰だったのに……。

ガンツ　それこそ大脱線プランだよ！　その一方で『ボードッグ』は、格闘技で収益はほとんど上がってないんだけど、単純に腐るほど金があるという（笑）。

ジャン　詳しくは12ページの『ボードッグ』テキストを読んでもらうとして。要はメガネスーパーがバックアップしたプロレス団体SWSみたいなもんですよ。

ガンツ　〝金権プロレス〟ならぬ、〝金権格闘技〟（笑）。しかもさ、SWSは母体が日本のメガネチェーンだけど、ボードッグは世界規模の巨大オンライン・カジノだからね。金持ちのレベルが違うんだよ。当時の『週プロ』は「SWSは資金60億円、これが夢やロマンと言えるのか……」って批判してたんだけど、ボードッグ代表のカルビン・エアーは個人資産が10億ドルらしいからね。ざっと概算すると、1150億円ぐらい（笑）。

ジャン　んあ〜！

ガンツ　桁が違いすぎて、逆に夢やロマンが溢れてくるよ！（笑）。

ジャン　それにしても、そんな団体がなぜMARSと提携しているのかは、マット界の七不思議ですね。

ガンツ　ボードッグはそのへんのマーケティング力はないみたい（笑）。

ジャン　要はメガネスーパーが、来る選手、来る選手みんなと契約しちゃったみたいなもんですかね。

ガンツ　SWSが最初のパートナーに（将軍KY）ワカマツさんを選んじゃったようなもんでしょ（笑）。

ジャン　じゃあ、ヒョードル獲得を狙っているのも、SWSが当時のプロレス界のトップだった天龍源一郎を引き抜くようなもんですね。

ガンツ　で、SWSが選手引き抜きのために水面下で動いていたのと同じように、『ボードッグ』もヒョードルのことをずっと狙ってたフシがあるんだよね。ドキュメンタリー映画を撮るという名目で、ボードッグの関係者がヒョードルに四六時中ついて回ってるんだって。

ジャン　それ、タイガー・ジェット・シンのドキュメンタリー映画並みに公開時期未定の匂いがプンプンしますけど（笑）。

ガンツ　そして彼らがへんな動きをしないようにDSE海外担当の人もヒョードルについて回ってるらしい。

ジャン　しかし、ボードッグは資金があるだけに、格闘技界の生態系をブチ壊す危険性もありますね。『猪木祭り』の場合は単発で終わって、あとはその関係者が『週刊現代』にあることないことしゃべっただけで済みましたけど。

ガンツ　それが大問題になったんだって！（笑）。要はさ、移籍とか引き抜きってダーティなイメージあるけど、ファンはそれによって〝夢の闘い〟が実現すれば納得できるんだよね。でも、本当にヒョードルが3月3日の『ボードッグ』ロシア大会に出場したところで、その相手がジェフ・モンソンって噂。それ、誰が観たいんだよ！（笑）。

ジャン　たとえば、UFCがヒョードルを獲得して、ヘビー級のタイトルに挑戦するなら、まだロマンは感じますけど。

ガンツ　それにUFCは、ちゃんと格闘技自体で収益を上げて、そこからファイトマネーを捻出している。たとえ選手のファイトマネーが一試合1億円を超えたとしても、それは興行収益から妥当と判断した報酬なんだよね。だけど、ボードッグは、まったく格闘技で儲かってないのに莫大なファイトマネーを支払えちゃう。こないだホジャー・グレイシーのMMAデビューがあった大会なんかも、客入りは惨たんたるものだったわけでしょ。

ジャン　ガラガラだったみたいですね。

ガンツ　そのホジャーにかなりの大金を支払ってるそうだけど、一度そういう金額を設定にすると、それが世界基準になっちゃうわけだからさ。今後はどんどん大変なことになるよ！

ジャン　そういえば、ボードッグは最近、フランク・シャムロック、フィル・バローニ、ギルバート・メレンデスが出場している『ストライク・フォース』の冠スポンサーにもなったみたいですね。

ガンツ　ある関係者に聞いた話だけど、ボードッグは当初、『ストライク・フォース』

10.21 PRIDEラスベガス大会で、ついにアメリカデビューをはたし、異常人気を呼んだヒョードル。この人気は『PRIDE』にとって追い風であると同時に、ヒョードルの“市場価値”を爆発的に上げてしまうという結果にもなってしまった。

皮肉にもPRIDEラスベガス大会の成功がミルコらのファイトマネーを高騰させた!

試合には出場しなかったものの、PRIDEラスベガス大会の会場には姿を見せたミルコ。2007年に“アメリカデビュー”することをかねてから熱望していたが、その舞台は2月のPRIDEラスベガス大会第二弾か、それとも……!?

自体を買収しようとしたらしいよ。たとえば、UFCもWECを買収したり、WFAの契約選手であるクイントン・“ランペイジ”・ジャクソンや、ヒース・ヒーリングを獲得したりしたでしょ。ボードッグは『ストライク・フォース』を買収して、フランク・シャムロックら選手を丸ごと獲得しようとしたらしい。

ジャン　大人買いだ!

ガンツ　結局、その買収話は成立しなかったみたいなんだけど、冠スポンサーになることには成功した、と。だからさ、極端なことを言うと、このままいったら選手引き抜かれるどころじゃなくて、日本の格闘技界全体が飲み込まれちゃってもおかしくないよ。

ジャン　ついでに『kamipro』も買ってくれないかなあ。こんなときに編集長になるなんて、山口日昇にまたダマされた……!!（前田日明調）。

ガンツ　まあ、機を見るに敏なターザン山本!さんだったら、このドサクサに紛れて『株式会社ターザンギャルド』をボードッグに売却しかねないけど（笑）。

ジャン　まあ、ボードッグからしたら、それは“墓穴を掘る”行為だと思うんですけどねえ……って、そんなことはともかく! 06年のマット界って、『PRIDE』のフジテレビ地上波中止が最大のニュースになるんでしょうけど、本当の大事件はホイス・グレイシーのUFC登場だと思うんですよ。あのホイスをあっさり参戦させて、しかもマット・ヒューズと闘わせるUFCのウルトラパワー。あの時点で非常ベルは鳴っていたわけですよね。

ガンツ　だからさ、格闘技界もプロ野球界と同じような感じになっていくような危機感があるよね。イチローも松井秀喜もみんなメジャーに行っちゃったわけでしょ。そして西武ライオンズの松坂大輔が60億で買われていくようなことが格闘技の世界でもどんどん起こるような気がする。しかも、野球界にはポスティングとか、移籍にはちゃんとルールがあるけど、格闘技界にはそんなルールはないからね。

ジャン　困ったもんですね。ミルコの移籍の噂も気がかりですし……。

ガンツ　ミルコはクロアチア現地のインタビューで「ある団体から6試合のオファーが来ている」と発言しているんだよね。

ジャン　それはおそらくUFCのことでしょう。

ガンツ　もしかしたら、この号が発売している頃にはまた新たな動きがあるかもしれないけど……。いまミルコ自身は『PRIDE』の契約を消化し終えていて、フリーエージェントという状況みたいなんだよ。だから、UFCがミルコ獲得に動いて、一試合でとんでもない金額を提示したって話がある。

ジャン　でも、UFCのライト層のファンに知られてないPRIDEファイターに、そこまでUFCが魅力に感じているのが不思議に感じている人も多いですけど。

ガンツ　たしかに、以前はアメリカ人ファイターじゃないと商売にならないから、UFCは『PRIDE』の選手をあんまりほしがらなかったんだよね。要は高いファイトマネーを払ってPRIDEファイターを使うぐらいだったら、UFCにいるアメリカ人を使ったほうがいいってことで。

ジャン　だからほぼ一年半前、UFCはセルゲイ・ハリトーノフのオクタゴン登場を断ったんですよね。「アメリカでは無名なのに強いヤツはいらない!!」ってことで。

ガンツ　それなのに、UFCがPRIDEファイターに大金を支払う気になったのは、『PRIDE』にとって皮肉な話なんだけど、10月のラスベガス大会成功にあったみたいなんだよ。つまり、メインイベントでアメリカ人のコールマンと対戦してるにも関わらず、ヒョードルコールが爆発してたでしょ?　あれを目の当たりにしたUFC首脳が「これはビジネスになる!」ってソロバンをはじき始めた。だから、あの大会の成功によって、PRIDEトップファイターたちのアメリカでの“価格”が跳ね上がっちゃったんだよ。

ジャン　じゃあ、アメリカで人気爆発中の自称“ゴッド・オブ・レフェリー”島田（祐二）さんにも“魔の手”は……（笑）。

ガンツ　島田さんぐらいエンターテインメントなレフェリーも世界中のどこにもいないから、引く手あまたかもしれない（笑）。とにかくラスベガス大会成功とアメリカ市場規模の拡大によって、PRIDEファイターの価値が何十倍にも跳ね上がっているのは確実。

ジャン　つまり、選手獲得競争になったら、バンバン札束が飛び交う事態になる。

ガンツ　一説によると、ボードッグはヒョードルvsミルコを実現させられるなら、双方に●億円ずつ出す用意があるらしい。

ジャン　●億円!　読者に金額のヒントを

出すとすれば、猪木さんが永久電機に費やした資金にちょっと毛が生えた額ですね。

ガンツ まったくヒントにならないよ！ まあ、その金額もホントかウソかわからないけど、ホントにヘタしたら、来年とか再来年にロシアあたりでヒョードルvsミルコの頂上対決をやっていたりする可能性もあるんだよね。

ジャン ……『ボードッグ』がやってもいいんでしょうけど、あのカードに一番、興奮できる日本のファンが観ることができるのかなあ。

ガンツ ヘタしたら、数千人しか目撃できない（笑）。PPVは一応やるんじゃない？

ジャン いや、今回の『ボードッグ』のPPVは、なぜか肝心のメインイベントが放送されなかったんですよ？

ガンツ ガハハハハ！ ミルコvsヒョードルが放送されかねない事態を避けたいからこそ、『PRIDE』には頑張ってもらいたい！ アンチPRIDEファンの中には「『PRIDE』が潰れたら、選手がK―1に流れて『HERO'S』で夢の対決が実現するだろうから、そのほうがいい」とか言ってる人もいるみたいだけどそれはないから。だって間違っても『HERO'S』はヒョードルに何億もの大金は出さないでしょ？ 出すなら清原和博に出しそうじゃない（笑）。

ジャン そっちのほうがはるかに視聴率は獲れるでしょうし。

ガンツ これはべつに揶揄してるわけじゃなくて、日本ではヒョードルにそこまでの市場価値がないんだよね。それは『PRIDE』であっても同じで、去年の大晦日に対戦した吉田秀彦と小川直也は、たぶんヒョードルやミルコよりファイトマネーが高かったと思うのよ。それは実力云々を超えて、日本では小川vs吉田に市場価値があるからなんだよね。それと同じように、日本だったらヒョードルに大金を払うより、清原に払ったほうがビジネスになるという。

ジャン あと、軽量級の日本人格闘家中心でやってる『HERO'S』は、現時点ではこの"大津波"の影響はそれほど受けずに済みそうですね。山本KIDとか宇野君とか須藤元気とか、UFCでも活躍しそうな選手はいますけど、アメリカは軽量級自体がまだそんなに人気がないから、ヘビー級みたいなべらぼうな額には跳ね上がらないでしょう。

ガンツ そう。まだ軽量級については、まだ日本が一番、ファイトマネーが高いんだよ。だからこそ最高のメンバーが揃うし、来年、開催が予定されている『PRIDEライト級GP』は凄いことになると思うんだよね。ただ、UFCがライト級にも力を入れだしたら、五味とか山本KIDとかをとんでもないファイトマネーで獲りにくるかもしれない。

ジャン いずれにしても、来年の『PRIDE』はライト級が一つの柱になりますから、『男祭り』で発表されたライト級の3カードは、いい感じで盛り上がってほしいですね。

世界の格闘技界を揺るがす大事件が年明け早々にも起こる可能性がある!?

あとはとりあえず……ハント、頑張れ!!

ガンツ ガハハハハ！ とりあえずベルトを奪え！ でも、ハントこそ大金を積まれたら、真っ先に移籍しそうなタイプだけど（笑）。

ジャン いや、この際、ワンポイントリリーフでいいんですよ。ボブ・バックランドからハルク・ホーガンにチャンピオンが代わるあいだに、アイアン・シークを挟むみたいな感じで（笑）。

ガンツ またたとえが古すぎるよ！ でも、いま格闘技界で起こってるアメリカ市場の巨大化っていうのは、もう20年以上前にプロレス界で起こってるんだよね。『レッスルマニア』開催を機にWWF（現WWE）が一気に巨大化して、ハルク・ホーガンやダイナマイト・キッドといった日本で大人気だったガイジンレスラーが、来日できなくなったのと状況は似ているよ。要は、日本より稼げるリングができてしまった、と。

今年の『男祭り』は、五味vs石田を始め、川尻vsメレンデス、青木vsハンセンと、ライト級の好カードがズラリ。ライト級GPが予定されている来年は、彼らが主役となるだけに、その起爆剤となるような激闘が期待される。

ジャン 日本で育ってアメリカでスターになったクリス・ベノワとか、エディ・ゲレロのようなケースもありえるのかもしれない。でも、スタン・ハンセンみたいにWWFには行かずに、最後まで日本で闘い続けたガイジンもいるじゃないですか。だから、せめてジョシュ・バーネットあたりには、そうなってほしいですよ。

ガンツ いいね～。ジョシュにはぜひ"PRIDE版スタン・ハンセン"を目指してほしい！

ジャン ま、いずれにしても、『PRIDE』にはなんとか頑張ってほしい!! 今回はそんなところですかね？

ガンツ いや……。じつは黙ってたんだけど、また近々とんでもないことが起こりそうなんだよね……。

ジャン あ、先月号にも似たようなセリフがあったような……。

ガンツ つーか、キミが先月に匂わせていた"何かが起こる"話はどうなったの？

ジャン ああ、あれはまだまだその可能性は残ってますよぉぉぉぉ!!

ガンツ ターザンネタで誤魔化すんじゃない（笑）。

ジャン それとはべつに、言える範囲でいえば『ハッスル』でも大きな動きの気配が見えますけどね。

ガンツ 『PRIDE』の構造に大きな変化がある以上、『ハッスル』にも影響は出てくるはずだからね。とりえず、"とんでもないこと"の続報は来年1月11日発売の大晦日速報号で!!

【06年12月11日／都内・外国人客の多いスシ・バーにて収録】

PRIDEもロシア進出? ボードッグが3.3サンクトペテルブルグ大会開催へ!!

格闘大国ロシアに
ニューリッチの時代到来

ヒョードル争奪戦激化!?

毒殺事件で世界を震撼させたロシアが格闘技界にもビッグインパクトを放つか!?

12月2日にカナダのバンクーバーで開催された『ボードッグ・ファイト』は"アメリカvsロシア"と銘打ち、ヒョードルの所属するレッドデビルの選手が大挙出場した。いま、『ボードッグ』はレッドデビルとの提携を足がかりにロシアでの大会開催を目論んでいる。黎明期にあるロシアの総合格闘技界の中心となっているのはレッドデビルのオーナー、ワジム氏。彼のようなロシアン・ニューリッチはいかにして誕生したのか? そしてロシアの格闘技界の今後は?

文&写真/稲垣 收

混乱、そしてニューリッチたちの出現

PRIDEヘビー級王者・ヒョードルの所属するレッドデビルのオーナー、ワジム・フィンケルシュタイン氏はカジノやフィットネスジムなどをはじめ、さまざまな企業を経営する辣腕ビジネスマンで、その大金持ちぶりと立身出世譚は本誌90号の橋本宗洋氏によるインタビュー記事に詳しい。14歳の頃、肉屋の小僧からスタートし、やがて店長となって商才を発揮、次々とビジネスを拡大し食料品等の輸入で財をなしたという。

私は91年のソ連の崩壊前後からロシアを取材しているが、ワジム氏のような例を多く目にしてきた。社会主義体制の崩壊により、戦後日本のドサクサ時代のような大混乱に陥ったロシア社会で、商才のある者、目端のきく者たちは知力、体力、コネなど己の持つありとあらゆる能力をフルに使い、商売に励んだのだ。私が直接会った人間だけでも、カナダから寒冷地仕様で左ハンドルの日本車を輸入して大成功した人や、原子力研究所に勤めていたが給料では食えないのでシベリアの木材を欧州に輸出する商売に転身した科学者、中学教師を辞めて不動産ブローカーになった女性、大学時代に仲間と興した旅行会社をベースに欧米から留学生を受け入れる語学学校を設立した若者たちなどがいる。

ワジム氏と似たケースでは、10月に暗殺されたアンナ・ポリトコフスカヤさんの著書『プーチニズム』(NHK出版)に描かれる女性実業家がいる。エンジニアだった彼女は安月給で生活できず、市場で一日中立ちずくめでものを売る肉体労働を始めた。やがて店長の愛人となって国外への買い出しに連れていってもらい、店長が抗争で殺されると後釜として自ら「かつぎ屋」となりビジネスを拡大。次々に店舗を買収し最後には政界デビューを果たしたのだ。

ビジネスで大成功したヴォルク・ハン

格闘界でも華麗なビジネスマンに転身した例がある。リングス・ロシアのエースだったヴォルク・ハンだ。91年末から日本マットで闘い始めたハンは、もともとモスクワから車で二時間ほど南に下ったところにあるトゥーラという軍事都市で内務省特殊部隊(ブラック・ベレー)の格闘教官をしていた。この仕事ではたいした給料を貰っていたわけではないが、リングスに出場するたびに持ち帰るジャパンマネーは大きかった。当時のロシアの給与は大学教授でも月2万円程度。モスクワでは、白タクに1ドルも払えば、広い市内のどこにでも行ってくれたほどだ。そんな時代にたとえば100万円もあればかなりの大金だ。ハンは日本で稼いだファイトマネーを元手に5つの会社を経営。国会の補欠選挙に出馬するほどになった。

昨年12月、久しぶりにモスクワで再会した私にハンは、故郷であるダゲスタン(カスピ海沿岸)から電力を買いつけ、モスクワ近辺に売る事業をしていると語り、さらに壮大なビジネス計画を聞かせてくれた。「いま、モスクワ郊外に日本企業を大量に誘致してオフィスや工場を作り、日ロ友好の国際都市を築こうという一大プロジェクトがあるんだ。ロシアの某大企業が中心になってこのプロジェクトを進めていて、私の会社もこのプロジェクトに参加しているんだよ」。昔、日本に来るときはいつもリングス・ロシアのジャージ姿だったが、いまではダークスーツがすっかり似合う"ビジネスマン"となったハンは雄弁に計画を説明した。15年前に初めてトゥーラの道場で会ったときとは隔世の感がある。

隔世の感といえば、モスクワの街もすっかり様変わりした。私が初めてこの街を訪れた90年にはネオンなど一つもなく、通りの街灯は暗く、街路のところどころにつけられた社会主義のシンボルの赤い星も、電球が切れたものが多かった。その後数年間、ほぼ半年ごとに取材に通ったが、行くたびにネオンが増え、ビルボードなどの広告も雨後のタケノコのごとく増殖していった。

民営化クーポンとオイルバブルの頂点

ソ連崩壊の91年には、給料では食えなくなった一般市民が、本やレコード、先祖伝来の食器、カメラ、蓄音機、はては子猫まで、家にある「売れるもの」をすべて持って道端で"立ち売り"をしていたのだが、半年後には彼らに取って

日露友好都市計画を雄弁に語ったヴォルク・ハン。かつてヒョードルを育てたリングス戦士も、いまや優秀なビジネスマンだ。

代わってキオスクと呼ばれるミニ店舗（まさに日本の駅売店のサイズ）が通り沿いに林立し、さらに半年後にはそれらも淘汰されて、しっかりした作りの店に替わった。資本の集中が行なわれたのだ。そして現在のモスクワでは、スシ・バーが大ブームで、シャネルやグッチ、プラダなど、ヨーロッパのトップブランドのブティックが軒を連ね、東京にも負けないほどのネオンが燦然と輝いている。郊外には大型ショッピングセンターが続々と建てられ、物価は信じられないほど高騰した。昨年末にモスクワに行った後、アムステルダムに行ったのだが、空港から乗ったタクシーの運転手も「俺も去年モスクワに行ったけど、物価がヨーロッパより高くなってて仰天したよ」と唸っていた。

かつぎ屋など小さな商売から成り上がった者たちがいる一方で、あまり努力もせず「濡れ手に粟」のようにして大金持ちになった連中もいる。国営企業民営化の際にうまくやった輩だ。ソ連では基本的にすべての企業が国営だったが、ソ連邦崩壊後、企業の一斉民営化が行なわれた。このとき各企業の全従業員、つまり国中の労働者に「民営化クーポン」なるものが配られた。会社の株のようなものだ。しかしそれまで株式市場など存在しなかったロシアの労働者にとっては意味不明の紙切れでしかなかった。

それを経済知識のある連中が二束三文で買い占め、石油会社や電力会社、ガス会社などの大企業をはじめ、ありとあらゆる優良企業のオーナーに納まった。そしてそういう連中が世界でも類を見ないスーパー・リッチとなったわけだ。石油会社オーナーでサッカーチーム、チェルシーのオーナーになったロマン・アブラモビッチなどは、英国ロイヤル・ファミリーのウィンザー公のお城を別荘として買い取ったほどだ。そしていま、イラク戦争の影響もあって国際原油価格が高値を続け、一大産油国であるロシアは石油バブルの頂点にある。天然ガスも豊富で欧州諸国に輸出しているので、こちらでも外貨を稼ぐと同時に政治的発言力を増している。

乗っ取り、毒殺 魑魅魍魎の跋扈する国

ロシアン・ニューリッチがいかにして誕生したか簡単に説明したが、彼らニューリッチとても、安心してはいられない。ロシアという国はKGBの中佐だったプーチンが大統領になっていることでもわかるように、治安機関出身の人間が裏から国を支配しているとも言われている。実際、ロシア最大手の石油輸出会社だったユコスの社長は脱税容疑で逮捕され、

（写真上）石油マネーで赤の広場に再建されたピカピカの教会。モスクワやペテルブルグなど都市部は、こうした歴史的建築物の再建やリフォームで街がピカピカしているが、地方にいくとガスや電気が止まるなど激しい格差がある。（写真下）その赤の広場に面した巨大デパート「グム」。かつてはロクな品物がなかったが、現在は西ヨーロッパのブランドショップがひしめき、ニューリッチ層で賑わっている。モスクワ郊外にも巨大ショッピングモールがバンバン建っている。

プーチン政権寄りの人間に会社を乗っ取られてしまった。主要テレビ局も経営者の逮捕、国外追放により、いまではすっかり政権の思いのままに大本営発表を垂れ流す政府広報機関に成り下がった。

企業家や銀行家、政治家、ジャーナリストなどの暗殺も多い。先に挙げた新聞記者アンナ・ポリトコフスカヤさんは、『チェチェン　やめられない戦争』（NHK出版）などの訳書も日本で出版されているが、プーチン政権が行なっているチェチェン戦争を現地で取材し続け、人口100万人の4分の1が虐殺されたこの戦争を「プーチンとロシア軍による戦争犯罪」だとして非難し続けてきた。戦火を潜り抜けて生き抜いてきた彼女がモスクワの自宅マンションのエレベータ内で射殺されたのはなんとも皮肉な話だ。ちなみに彼女が殺された10月7日はプーチンの誕生日である。また、アンナさんの死の直後、ロンドンで記者会見し「アンナを殺した犯人はプーチンです。私はその証拠も持っている」と宣言した元KGB中佐のアレクサンドル・リトヴィネンコ氏も放射性物質ポロニウム210によって11月に殺害された。ロシア中央銀行副総裁も9月に射殺されている。こうした例は枚挙に暇がない。

格闘界でも、リングスで活躍したロシア極真王者のボロージャ・クレメンチェフが、90年代に謎の射殺死を遂げている。殺されるまではいかなくても、90年代にニコライ・ズーエフが地元エカテリンブルグで開いたリングス・ロシア大会では、マフィアによって偽のチケットが大量に販売され、売り上げに大打撃を与えた。まさに魑魅魍魎の跋扈する国である。

ヒョードルを擁するレッドデビルのワジム会長（左）。そして、写真中央でグラスを持つこの男性こそ、『ボードック』とレッドデビルの橋渡し役を果たしたキーパーソンで、米国格闘技団体MFCのオーナー、ジュリアス・ファインスタイン氏。アメリカ東海岸を中心に音楽イベントなどを手がけるロシア系の資本家だ。このロシアン・コネクションが今後の格闘技業界に多大な影響を与えることになるのか。

ロシア格闘技事情と その市場の可能性

ロシア人の国民性として、もともとサンボや柔道、レスリングなどの格闘技は非常に人気があり、総合格闘技が受け入れられる素地は充分にある。そしていまや、高い入場料を払うことができるニューリッチ層も数が増えた。90パーセントの国民が貧困にあえいでいても、人口1億4000万の国だから10パーセントでも1400万人だ。ワジム氏の弟はサンクトペテルブルグでポール・マッカートニーのコンサートをプロモートしたが、高いチケット代を払って5万人もの客が集まった。また、カーレースも人気が高まっており、年間500もの大会が開催されている。

したがってテレビなどを使ってうまくプロモートし、ヒョードル級の人気選手を出場させれば、総合格闘技も充分に興行は成り立つはずだ。ただし、日本やアメリカなど外国の会社がプロモートする場合、複雑な税制でとてつもない税金を課せられる上、腐敗しきった役人たちに、巨額の袖の下を要求されるので、1円の利益も出ない可能性がある。またロシア軍からありとあらゆる武器を入手しているロシアン・マフィアの脅威も大きいので、ロシアで開催するなら、現地のプロモーターに任せるかたちでないと難しいかもしれない。『ボードッグ』にしろ、DSEにしろ、ロシア大会の自力開催はかなり厳しいだろう。

日本商社も参加していた石油・天然ガスの開発事業サハリン2がこの10月、突如「環境破壊」を口実に中止させられた前例もある。環境破壊などこれまでまったく気にもせず、老朽化した原子力潜水艦を極東の港に放り出して錆びて沈むに任せている政府が環境破壊を口にすること自体ちゃんちゃらおかしい話で、単に政治的理由（日本より中国と仲良くしたい、とか）でプロジェクトを中止したと推測されるのだが、投資していた日本企業は何十億円もの大損害を被ったはずだ。ロシアとのビッグビジネスにはラスベガスでの一大博打など比較にならない、とてつもないリスクが伴なうと考えたほうがいい。

ロシアとのビッグビジネスは ラスベガスでの博打とは 比べものにならないリスクがある

日本悪夢の

American Dream

巨大化したアメリカMMAマーケットが日本を吸収!?

格闘文化先進国、日本。これまで世界中のファイターが成功を夢見て、この黄金の国・ジパングを目指してきた。しかし、海の向こうアメリカで"格闘技のメジャーリーグ"UFCがかつてない繁栄を迎えると、多くの企業や投資家が格闘技界に進出。現在、米格闘技界はバブルの様相を呈している。このアメリカの勢いは、世界中の格闘家・団体に、どう影響を与えるのか?

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンが
クールなUSAニュースをお届け!!

Vol.9

USA Cool 宅急便

PRIDEヘビー級王者・ヒョードルの他団体出場情報が駆けめぐり、『PRIDE　無差別級GP』覇者・ミルコが〝メジャーリーグ〟UFCからオファーを懸けられるなど、風雲急を告げる格闘技業界。その震源地アメリカでいったい何が起こっているのか？

聞き手／デューク東郷　助手／上杉再お引っ越し

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』（http://www.mmaweekly.com/）を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「ラブ＆ガッデム!!」。

興隆する米MMA団体の忍び寄る魔の手 今後の日本格闘技業界の運命やいかに!?

スコット　今月もやってきました！　アメリカMMA業界のニュースをお届けする『USA Cool宅急便』！

――っていうか、やってくれたよねえ、スコット。前号で「また延期になりそうだ」ってアンタが言ってた12・2 MFC『ボードッグ・ファイト決勝戦』バンクーバー大会。ちゃんと開催されたじゃんかよ！　しかも!!　大会前日に**『ボードッグ』がヒョードルと試合契約を交わしたという情報まで流れてる**し！

スコット　まあ、ヒョードルの件については『PRIDE』サイドは否定しているし、実際はどうなってるのかはよくわからないけどさ。

――情報はずいぶん錯綜しているね。

スコット　ま、『ボードッグ』に関していえば、ボクは「延期になりそう」とは言ったけど、「延期になる」とは言わなかったからね。フフン。

アメリカの市場規模が飛躍的に拡大

――はあ？　せめて一休さんばりのトンチを効かせてくれよ!!

スコット　（無視して）『ボードッグ』も、なんとかギリギリで調整がついたんじゃないかなあ。それより、WFAがトンじゃったね。

――WFAはいったいどうしちゃったのさ？　**ヒース・ヒーリングやペドロ・ヒーゾら豪華メンバーをラインアップ**していたけど。

スコット　簡単に言えば、**WFAについていた投資家が見放した**のさ。ヒースやランペイジ・ジャクソ（クイントン・〝ランペイジ〟・）ジャクソンらビッグネームの名前を出して、なんとか衛星テレビ局のディレクTVを獲得しようとしていた。けど最終的には、PPVの内容があまりにもヒドかったことが影響して、テレビ局はつかなかった。つまり、**PPV放映枠が取れなかったん**だ。で、「それじゃぁ、やる意味がない」ってことで投資家が中止という判断を最終的に下したんだ。

――なるほどねえ。

スコット　結局、一番の被害を受けたのはファイターたちだよ。とくにマービン・イーストマン。彼はPRIDEラスベガス大会に当初参戦するはずだったのに、WFAが彼と結んだ契約を持ち出して、出場を取りやめさせたんだ。「マービンをリングに上げたら、法的手段も辞さない」と言ってね。

――イーストマンはPRIDEラスベガス大会で中村カズと闘うはずだったんだよね。

スコット　そうしてイーストマンはWFAでの試合に備えてのトレーニング費用もかさんだのに、アテにしていたファイトマネーがもらえなくなって悲惨な状況だよ！

――『猪木祭り』ヒョードル戦のファイトマネーをいまだにもらえない永田さんよりはマシかもしれないけど。

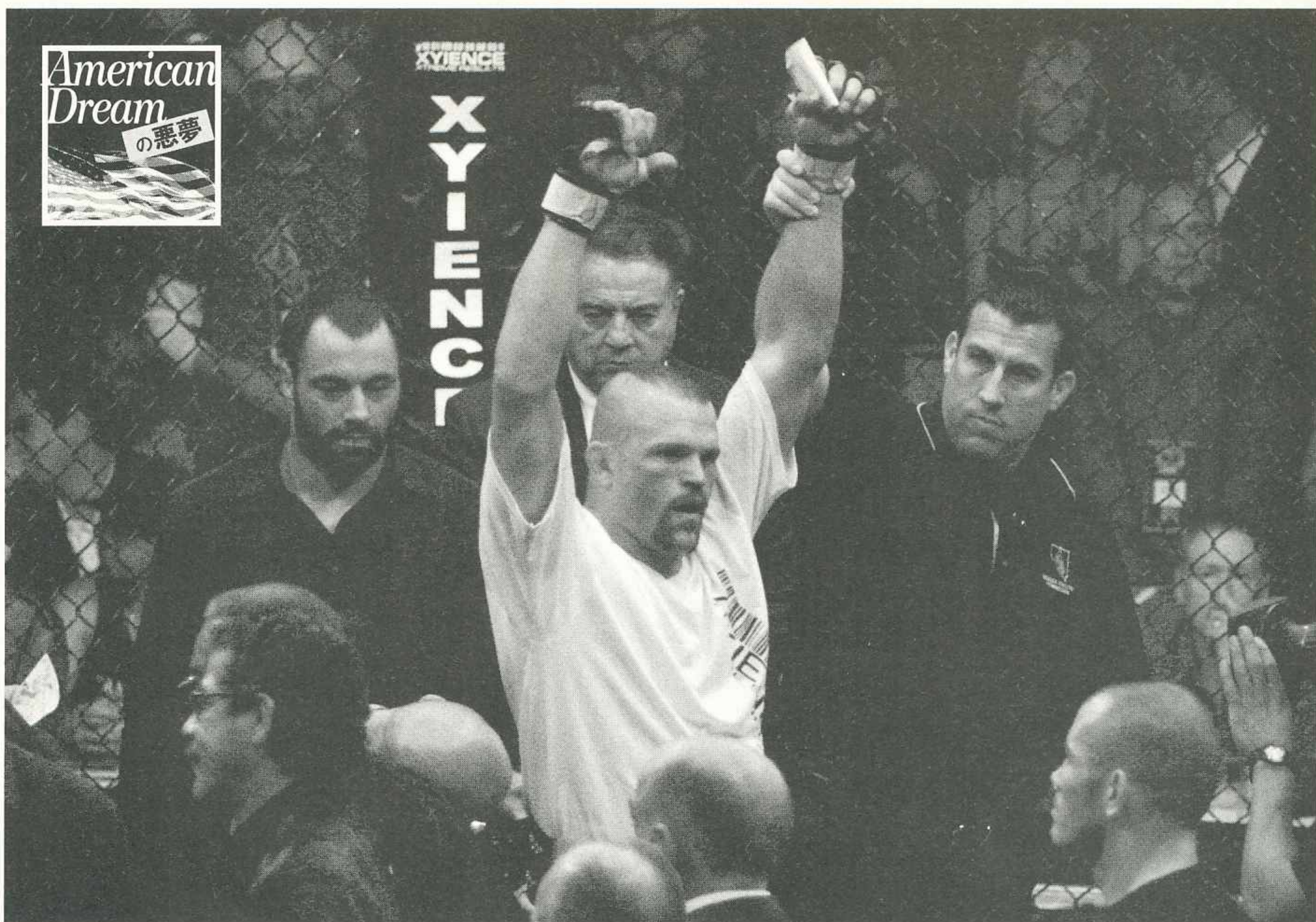
スコット　（無視して）ともかくWFAは大会を「中止」ではなくて「来年に延期」と発表しているけど、失なった信用は大きいよ。**再浮上の目は限りなくなくなった**と言っていいかも。

――やっぱりさ、ブーム真っ只中のアメリカMMA界だけど、実際に成功するのは簡単にはいかないというわけか。

スコット　それでも格闘技への一般的な認知が拡がるにつれて、スポンサーが増えて市場規模は飛躍的に拡大。団体、テレビ局、それに選手、関係者も揃って潤っている。スパイクTVは、リアリティショー『TUF』の広告枠を拡大して過去最高収益を叩き出しているし、（チャック・）リデルや（マット・）ヒューズなどスポンサーに支援してもらう格闘家もだいぶ増えた。

――それに伴なって、ギャランティも上昇

事実上、フリー・エージェントとなったジャクソン。かねてよりダナ・ホワイトが興味を示していることから、UFC参戦決定か？

American Dream の悪夢

PPVセールスの配当により一試合で1億円稼ぐ選手も

しているの？

スコット　無名の選手のギャランティはまだ低いけど、中堅どころは少しずつ上がっているし、**トップファイターはPPVのインセンティブもあって、一試合で100万ドル稼ぐ選手も出てきた。**

——1億円ファイター！

スコット　選手が夢を持てる業界になったことはいいことさ。そしてもちろん、選手だけじゃなくて、成功を目指して、マーケットには続々と新しい事業家が入ってきているのも事実。

——そこに巨大資本で参入してきたのが、さっき話したMFCのスポンサーであるボードッグだ、と。

スコット　まあ、一スポンサーというか、**ボードッグがMFCというイベントを買い取った**と言ったほうが正しいね。その12月2日の大会はリアリティショー『ボードッグ・ファイト』の決勝大会として開催されたわけど、PPV放送に加えて、IT企業らしくネット配信を行なって放映環境を整えてきた。

——放送環境はいいとして、実際の大会は盛り上がったの？

スコット　それがねえ……。PPV放送を観たんだけど、ちょっと改善の余地ありだね。お金があっても、コンテンツがねえ。大会進行も仕切りも悪いし、レフェリングが曖昧だったり。

——あと最後の〝百八つビンタ〟では暴動が起こったり。

スコット　だから『猪木祭り』の話じゃないよ！　女性のリングアナを入れたり、『PRIDE』の演出をそっくりマネするのはいいけどさ、イベント制作は一朝一夕でできるもんじゃない。それに**事実上のメインイベントだったMFCミドル級タイトルマッチはなぜかPPVでは放映されなかったんだ！**

——なんで!?　観客がリングになだれ込んで暴動騒ぎになっても『猪木祭り』はPPV放送し続けたのに！

スコット　もう『猪木祭り』の話はいいって！　放送時間枠をオーバーしたなら、話はわかるけど、そういうことでもない。さんざん、PPVの番宣ではタイトル戦を煽っていたのに、**当日、まったくなんの告知**

ホントに高騰中？

UFC65 ギャランティ一覧

選手	ギャランティ
マット・ヒューズ	75,000ドル
ティム・シルビア（※）	60,000ドル
フランク・ミア	36,000ドル
ジョルジュ・サンピエール（※）	29,000ドル
ブランドン・ベラ（※）	20,000ドル
ジェフ・モンソン	13,000ドル
ジョー・スティーブンソン（※）	12,000ドル
ニック・ディアス（※）	12,000ドル
アレッシオ・サカラ	10,000ドル
三島★ド根性ノ助	8,000ドル
ジェイク・オブライアン（※）	6,000ドル
ジェームス・アーヴィン（※）	5,000ドル
シェルマン・ペンダーガースト	4,000ドル
ドリュー・マックフェッドリース（※）	4,000ドル
グレイソン・チバウ	3,000ドル
ジョシュ・ショックマン	3,000ドル
アントニー・ハードンク（※）	3,000ドル
ヘクター・ラミレス	3,000ドル

※カリフォルニア州アスレチック・コミッション発表

上記のギャランティはベースの金額。試合に勝った選手（※印で表示）は、勝利者ボーナスを含めて、この金額の2倍のギャランティを得ている。なおトップファイターには、上記のファイトマネー以外に、PPVセールスの売り上げに応じてインセンティブが支払われており、その金額はファイトマネーよりもはるかに大きな収入となっている。そのため、トップファイターの収入は驚異的に上がっているが、それ以外のファイターの収入は劇的には変化していない。

ボードッグ・ロシア大会は事実上のレッドデビル興行に

もなく放映されなかったんだよ！観客はず～～っと静まりかえっていたし、だいたい『アメリカvsロシア』っていうテーマでマッチメイクがされてたけど、そもそも、それをカナダでやっても会場は盛り上がらないよね（笑）。

――そのロシアチームのキャプテンとして、ヒョードルが来場するはずだったんだよね。

スコット　それがキャプテンのヒョードルは来なかったんだ。もっともヒョードルが来場したとしても、それはこれまでの『ボードッグ』とレッドデビルの関係性を考えると、べつにたいした驚きでもないんだけど、その代わりのサプライズとして、大会前日にヒョードルが契約書にサインしたことが発表されたというんだ。

――そいつは**ボンバイエな流れ**だねえ。アメリカのネットメディアでは、**来年3月にサンクトペテルブルグで試合をする**と報道されているね。

スコット　なんでも、『PRIDE』との契約では、ヒョードルが**ロシア国内で試合をすることに制限はなかった**というのが『ボードッグ』の言い分なんだ。

――一部報道で『ボードッグ』関係者が以前から口にしていた「ヒョードルの契約に穴がある」ということは、このことだったのかな。

スコット　しかも対戦相手は、**UFCヘビー級のトップコンテンダー、ジェフ・モンソン**になりそうだって。モンソンはタイトル戦でティム・シルビアに負けたとはいえ、アメリカ国内での知名度は高い。さらに、その大会にはヒョードル弟の**アレキサンダーも参戦するらしい**。対戦相手としては、その大会でエリック・ペレに負けたアントニオ・シウバの名前も挙がっている。

――**事実上の"レッドデビル興行"になりかねない**ってことか。

スコット　**アメリカや日本も含めて世界でPPV放映するらしい**けど、まだ本当に大会が実現するかどうかわからない。『PRIDE』側も同じ時期にロシア大会を開くと言っているし。でもこれで『ボードッグ』は次回大会から、さらに注目を集めることになるね。

――ところでもう一つの大会の目玉、ホジャー・グレイシーのデビュー戦はどうだったの？

スコット　25万ドルとも言われる高い契約

"寝技世界一"アブダビ王者のホジャーがついに総合デビュー！ キッチリと一本勝ち!!

12.2（現地時間）
MFC bodog FIGHT
『アメリカ vs ロシア』
カナダ・バンクーバー/アグロドーム

○ホジャー・グレイシー
［1R 3:38 腕ひしぎ十字固め］
ロン・ウォーターマン×

【MFCウェルター級タイトル戦】
○エディ・アルバレス（王者）
［1R 1:05 KO］
アーロン・ライリー（挑戦者）×
※ストレート連打

○エリック・ペレ
［1R 2:40 TKO］
アントニオ・シウバ×
※パウンド

8.26MARS両国大会に来日したアルバレスは、秒殺劇でその強さを誇示。これまで無敗のA・シウバは、格下ペレに初黒星を献上。また、このほかリアリティショーで勝ち上がったアメリカ人選手たちがロシアチームと対抗戦を繰り広げた。

金で『ボードッグ』が獲得したホジャーは、ウォーターマンに腕十字を極めて総合デビューを飾った。試合内容自体は典型的なレスラーvs柔術家の一戦で、たいしておもしろくもなかったし、ホジャーが打撃力を身につけて総合格闘家に転身したことを証明できたわけじゃないけど、ウォーターマンは決して弱い選手じゃない。これからに期待はできるね。ちなみにホジャーは**『ボードッグ』と二年の独占契約**らしい。

――そうやって次期スター候補も育てつつ、ビッグネームを引っ張ってきて大会を開催。かつリアリティショーで若手選手を紹介していくと。大会内容はともかくとして、陣容は整ってきているね。

スコット　そういえば、ジョシュ（・バーネット）も試合を観戦していたよ。

PRIDE、K―1はもう米MMA団体のライバルですらなくなるかもしれない

対戦が待ち望まれる、ヘビー級王者・ヒョードルと無差別級GP準優勝者・ジョシュ。この試合が『PRIDE』以外のリングで実現する可能性も……。

――ホワタッ！　ジョシュも現場にいたの？

スコット　そう。リングサイドの一番前でね。ＰＰＶの解説者もなぜかジョシュのことを「元ＵＦＣ王者で、さらに大きなものを求めて日本で闘ってる」と紹介していたよ。『ＰＲＩＤＥ』の"プ"の字も言わずに（笑）。

――それもまた、キナ臭い話だね～。

スコット　何があるかわからないよ。現在のアメリカＭＭＡ市場の勢いは日本人の予想以上だからね。それに伴なって業界の再編も進んでいる。ＵＦＣはＷＥＣの買収に動いて、ファーム化を実現して選手の供給元を確保しようとしている。またボードッグは『ストライク・フォース』のスポンサーにもなったし、アメリカン・トップチームのファイターが多数出場しているフロリダのマイナー団体も買収した。

――『ＰＲＩＤＥ』が日本市場において、フジテレビの撤退で不安を抱えてるあいだに、海の向こうでは合併などで市場が活性化していた、と。

スコット　その結果、アメリカ国内でも二極化が進むわけだけど、ＵＦＣら"勝ち組"はますます強大に。そしてトップファイターへのギャランティは、囲い込み合戦の結果、高騰している。ヘタすると、金にモノを言わせて、**『ＰＲＩＤＥ』から選手をゴッソリ引き抜く**ことも可能。しかもその場合、ＵＦＣのライバルはＫ―1や『ＰＲＩＤＥ』じゃなくて、ＭＦＣなど同じ米国内の団体になるかもしれない。

――この"仁義なき闘い"で日本の市場はどうなるんだろねえ。

スコット　う～ん。ボクも日本を見限って、もうしばらく来日しなくなるかもね。

――はぁ？　いいかげんな情報ばかり流しているアンタは、その前に強制送還だよ！

American Dream の悪夢

USA NEWS Cool宅急便

ボードッグ代表、初のPPV大会に来場せず……。

北米回避!?　オンライン・カジノ会社ボードッグ代表の"10億ドル長者"カルビン・エアー氏が、12月1日にカナダ・バンクーバーで開催された『ボードッグ・ファイト』初のPPV大会の来場の見合わせた。オンライン・カジノの違法性から、アメリカ領土に入れば、即逮捕される可能性もあるエアー氏。大会開催前に、「初のPPV大会開催は素晴らしいことだけど、それは山ほどある事業のうちの一つにすぎない」と語り、来場しないことを明言していた。大会当日は、本社をコスタリカから移転予定のカリブ海の小島、イギリス領・アンティグアバーブーダ島の政府関係者とミーティングを行なったとのこと。アメリカでのオンライン・カジノ禁止法制定の影響を受けて、業界再編の波に巻き込まれるボードッグ。格闘技業界にどう影響を与えるのか注目だ。

ボードッグ、ストライク・フォースのスポンサーに！

ボードッグが勢力拡大？　12月8日、『ストライク・フォース』はカリフォルニア州・サンノゼで大会を開催し8701人の観衆を集めた。メインイベント前に、契約書を頭上に振りかざしながらリングインしたフランク・シャムロックは、以前カード発表されたものの実現しなかった、フィル・バローニとの試合を行なうことを発表。その契約書によると、次回4月の大会で二人の対戦が行なわれる予定。なお、この日の大会は『ボードッグ・ファイト』と銘打たれており、ボードッグが、MFCに続いて『ストライク・フォース』にも資金を提供している事実が判明した。

賃金未払い！ WFAに早くも崩壊危機!!

米MMA界に衝撃！　12月のラスベガス大会を延期したWFAのジェレミー・レイペン社長が賃金未払いなどの契約不履行で出資者を訴えている事実が判明した。カリフォルニア州の裁判所に提出された書類では、レイペン社長はWFAのオーナーがレイペン社長ならびに従業員に今年の6月から長期間給料を払っていないと陳述。また、すでに従業員の多くが、その職場を離れていることも明らかにされた。動向が気になるファイターについては、7月の再旗揚げ興行に参戦したマット・リンドランドやアイヴァン・サラベリーはIFLとすでに契約を結んでおり、バス・ルッテンもIFLのコーチに就任済み。また12月の試合に出場する予定だったヒース・ヒーリングのもとにはすでに多くの団体からオファーが来ているとのこと。クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンとともにその動向に注目が集まっている。

新興団体WFOが立ち消えに……。

来年1月のニュージャージー大会でヘンゾー・グレイシー vs フランク・シャムロックの一戦を発表していたWFOだが、マッチメイカーのシーザー・グレイシー一派が離脱。今後の活動の見通しが立たなくなっている。シーザーが発表した声明では、シーザーが調査したところ、実際にニュージャージー大会を開催する予定は立っておらず、またそのための資金も団体側にはなかったとのこと。それにより、シーザーは自身の傘下の選手が、この大会のために他のオーガニゼーションからのオファーを断る可能性があるため、不参加を表明。同団体マッチメイカーの職も辞任した。アメリカでのMMAブームに乗って増加した新興団体の内実は……？

これで立派な企業に？　IFLが株式上場!!

地域チーム別対抗戦を行なうなど、ユニークな路線をひた走るＩＦＬが、なんと株式上場！　不動産会社の資本をベースに、これまで自動車メーカー・スズキやマイクロソフト社X boxをスポンサーとして獲得し、経営力だけは評価されていたIFL。観客動員では苦戦しながらも、アントニオ猪木を国際大使に就任させたり、ケーブル局のFOXスポーツ・ニュースと契約して、ファンの認知を広げていたが、11月29日にIPOを果たし、その株式が市場で売買されることとなった。また、IFLは7日にネバダ州アスレチック・コミッションからプロモーターライセンスの認可を得たことを発表。株価は上昇している。（12月8日現在）。

PRIDE米PPV解説者・トリッグが現役復帰!!

PRIDEアメリカPPV放送のコメンテーターとして人気を博していたフランク・トリッグが現役復帰！　前UFCウェルター級王者、マット・ヒューズのタイトルに二度挑戦した経歴を持つトリッグだが、UFC離脱後、今年4月の『ランブル・オン・ザ・ロック』でカーロス・コンディットに敗れて引退を表明。しかし12月1日、ハワイで7カ月ぶりの電撃復帰を果たした。復帰戦でいきなりジェイソン・ミラーの持つアイコンスポーツミドル級王座に挑戦したトリッグ。サッカーボールキック連発でTKO勝ち。次は『PRIDE』のリングか!?

バルヴァーがTUFコーチに就任！

"赤い悪魔"が鬼教官に!?　前UFCライト王者、ジェンス・パルヴァーがスパイクTVの人気リアリティ番組『TUF』のコーチになることが決定した。これにより、『TUF』シーズン5は、初のライト級に特化したものになると予想され、新王者、ショーン・シャークが誕生したライト級戦線を活性化させたいUFCの方針がクリアになった。また、もう一人のコーチ候補として、ライト級戦線転向を表明したBJ・ペンの名前も挙がっており、パルヴァーがすでにファイター契約もUFCと結んでいることから、シーズン終了後にこの二人が一騎打ちを行なう可能性も高い。

オフィシャル・サイトWWE.comで明らかになった『PRIDE』との急接近！

世界最大のプロレス団体WWE “MMA進出”の可能性を追う！

ボクシングマッチ、ライバル団体買収、XFL……。

WWEが次に仕掛けるのはMMAの立ち上げか？

UFCの台頭に押されてはいるがそれでもWWEはこんなに凄い！

アメリカマットにおける“巨万の富”の象徴的存在といえば、数年前ならWWEだけだったが、現在はUFCが凄まじい勢いで台頭してきており、この両団体がしのぎを削っている状態だ。そんな中、WWEのオフィシャル・サイトで『PRIDE』との会談の事実が唐突に明かされた。アメリカ市場でプロレス団体のWWEが、MMAのプロモーションであるUFCとビジネス上で衝突することはないと思われていたが、ここにきて『PRIDE』を巻き込むことで状況が混沌としてきた。『PRIDE』との会談を持ったWWEの意図はどこにあるのか？　過去に仕掛けた大型事業などからその真意を探れ！

文／阿部タケシ（フリーライター）

designed by bun-chan（Two Three）

11月19日、いつものように何気なくWWE.comを覗いてみると、何やら見覚えのあるロゴがトップページに掲載されていた。

「PRIDE-WWE meeting」

〝『PRIDE』とWWEがねぇ……。へっ!?〟。あまりに唐突すぎる掲載にボク自身、志村けんばりに二度見した。その掲載内容は以下のとおりだ。

「**WWEと『PRIDE』は金曜日にミーティングを行ないました。『PRIDE』は世界的なMMA市場のリーダー的存在で、さらに『PRIDE』は『ハッスル』と呼ばれている日本で人気のレスリングブランドがあります。今後の『PRIDE』とWWEに関する情報はWWE.comにてチェックしてください**」

この文章を読んでから、ボクの妄想は膨らむばかり。〝UFCの台頭によるアメリカにおけるMMAブームにWWEが加わり、21世紀版テレビ戦争になだれ込むのか？〟

photo／George Napolitano

シェイン・マクマホンはMMAに興味を抱いているらしいが……

って感じで、とにかくいろんな妄想で頭がパンパンになった。
　あくまで噂レベルの話だが、なんでもシェイン・マクマホンはMMAに対してもの凄く興味を抱いているとか、いないとか。スーパースターの中にもMMA好きな人間がいる。アンダーテイカーがまさにそうで、バイカーキャラからマイナーチェンジした際も、オープンフィンガー・グローブは外さなかったし、下からの腕ひしぎ十字固めや三角絞めなんかも試合でよく繰り出していた。怪奇キャラなのに！現ECW王者のラシュリーもレスリングに関しては相当な猛者だと聞く。
　WWEのMMA路線はいまに始まった話ではない。1998年頃、UFCで活躍したケン・シャムロックを特別レフェリーとして招聘し（その後レスラーへ）、さらに〝ザ・ビースト〟ダン・スバーン（なぜか日本語字幕は「ダン・セベリン」だった）を起用。ケージマッチを敢行している。それに「ブロール・フォー・オール」なんかもそう。ボクシング・グローブを着けてラウンド制で闘い、許されるルールはパンチとタックル。早すぎたアルティメット・ボクシング！ホーク・ウォリアー、スティーブ・ウィリアムス、スコーピオ、ブラッドショー（JBL）が、嫌そうな顔でボクシング・グローブを着けて取っ組み合いをしていたのが懐かしい。ホーク・ウォリアーのアルティメット・ボクシングは時を経て「真撃」で開花したのだった（妄想）。
　そんな時流に乗った他ジャンルをいろいろと実行に移すのもWWE。代表的な例は「XFL」だ。アメリカンフットボールのプロリーグをゼロから興し旗揚げをしたのだ。いまではときおりWWEのストーリーの中に笑い話として出てくる「XFL」。だが旗を振ったビンスは大真面目にアメフト改革に乗り出した。

4ページからのインタビューで、ビンス・マクマホンとの会談を認めた榊原代表。内容は「表敬訪問」とのことだが、当代きってのビジネスマン同士がどんな会談を繰り広げたのか？　非常に気になるところだ。

　「いまのアメフトには刺激がない」というスローガンを掲げ、2001年にNBCとの合弁事業で始めた「XFL」。中継カメラの台数を増やし、ロッカールームに監督と選手を出演させ、実況はジム・ロスとジェリー・ローラー、レポーターはジョナサン・コーチマン、ジェシー・ベンチュラが解説を務めた。と、いった具合で完全に顔ぶれは『RAW』なんだが、休憩中にチアガールのシャワーシーンを流すなど、かつてのアメフトにはなかった数々の演出を施し、いろんな意味で常識を覆した。
　だがNFLやCFLに影響を及ぼした点もある。「スカイカム」がまさにそれで、地上にカメラを埋め込み、臨場感溢れる映像を配信した。それはのちにNFLでも採用された。ビンスの〝刺激〟は間違っていなかった！
　「XFL」は、開幕当初は高視聴率を獲得するも、次第に視聴率と観客動員数は激減。結局一シーズンで終了し、XFLは解散の憂き目となった。その理由としては〝エンターテインメント〟を掲げているWWEが〝プロスポーツ〟の世界に馴染めなかったという点。国民の誰もが「〝あの〟WWEがプロフットボール？　ヒャヒャヒャ！」という評価を下したほど。ちなみに負債額は7000万ドル。笑えない数字である。さらにXFLは、2002年7月における『TVガイド』誌の〝最悪番組ランキング第3位〟に選ばれるという、ありがたくない称号まで手に入れた。
　ほかにも映画界に進出するなど、プロレス以外のジャンルにビジネスを広げたWWEだが、あまり成果を得ていないのが現状だ。
　最近、アメリカのあるスポーツ評論家が「WWEは『PRIDE』との会談がもし失敗したら、自社でMMAを始めるかもしれない」と衝撃予測。この話が発端でさらに過熱していくWWE vs MMA。『PWI（プロレスリング・インサイダー）』のデイブ・シェーラー氏は「シェインはたしかにMMAファンだ。でもそんな話は根も葉もない噂だ！」と真っ向否定。といってもゴシップサイトが否定しているのだから、これも真相とは言えないのが正直なところ。
　ただでさえECWの失敗が取りざたされているだけに、WWEがMMAを立ち上げるのはありえない話。かといって『PRIDE』の選手がWWEでプロレスをやることも考えにくい。過去に「K−1対WWE、レッスルマニアで開催！」なんていう噂もあったが、盛り上がっていたのはフロント同士だけで、ファンはまったく無関心だった。
　WWEはTNAよりUFCのほうが無視できない存在のはず。UFCはWWEと肩を並べるほどまでPPV加入者数を獲得している。WWEは『PRIDE』との提携で戦略いかんではUFCを迎撃できる。UFCと人気を二分する『PRIDE』は是が非でも手を組みたいパートナーのはず。
　UFCにはない大胆なWWE流の演出と、一流ファイターが揃った『PRIDE』が合体すれば、世界中がビビってたじろぐ事態になるだろう。

WWE 2006年度 PPV契約件数（全世界）

日付	大会	件数
4.2	レッスルマニア	約930,000件
4.30	バックラッシュ	約210,000件
5.21	ジャッジメントディ	約231,000件
6.11	ワンナイトスタンド	約280,000件
6.25	ヴェンジェンス	約313,000件
7.23	ザ・グレート・アメリカン・バッシュ	約330,000件
8.27	サマースラム	約320,000件
9.17	アンフォーギブン	約285,000件

UFC 2006年度 PPV契約件数（米国内）

日付	大会	件数
4.15	UFC59	約425,000件
5.27	UFC60	約620,000件
7.8	UFC61	約775,000件

（大会開催日はすべて現地時間）

UFCの台頭を語る上で「UFCのPPV契約件数がWWEを上回った」というのが常套句のようにもなっているが、WWEは全世界で放映されているため最終的にはかなり数字を伸ばしている。レッスルマニアは完全に別格だ。選手層が厚く、毎月一～二回のペースで大規模なPPVを開催できるのも強みだ。世界最大のプロレス団体であり上場企業でもあるWWEの豊富な資金力は決してあなどることはできない。

なぜか年末恒例!
kamipro
超常現象SP
2006

今年も超衝撃の“真実”が発覚!

防衛庁が防衛省に昇格したのは宇宙人の侵入を防ぐためだったんですよ!!

スクープ!!
これがアメリカのウィスコンシン州で目撃されたUFOだ!

この事態こそ超常現象?
3年連続本誌登場

超常現象研究家/たま出版社長

韮澤 潤一郎

毎年、テレビ朝日の大晦日恒例『ビートたけしの超常現象スペシャル』に出演し、大槻教授と激しいトークバトルを繰り広げてきたUFO研究家の韮澤さん。本誌にも一昨年、昨年と“大晦日特集”にかこつけて、インタビュー&対談で登場。今年は番組自体が30日放送となり、“大晦日特集”という大義名分すらなくなったが、おもしろいので3年連続登場決定! 今回もまた宇宙に関する驚愕の“真実”を語ってくれた!

聞き手/堀江ガンツ　構成/辻ちゃん
designed by bun-chan (Two Three)

韮澤　どうもどうも。『kamipro』さんは、毎年インタビューに来てくれますね。
——ええ。やっぱり年末といえば超常現象だろうということで、プロレス・格闘技専門誌にも関わらず、なぜか3年連続でお話をうかがいにまいりました（笑）。
韮澤　今年の年末で『TVタックル』の超常現象スペシャルも9年目だからね。
——もう9年もやってるんですか！（笑）。
韮澤　でも、さすがにここ数年は『PRIDE』とか『Dynamite!!』に視聴率で負けてたんで、そろそろヤバいかな〜と思っとったんだけれども、なんとか30日に繰り上がって生き残ったんですよ。
——いやぁ、30日になってくれたおかげで、格闘技ファンも心置きなく超常現象スペシャルが見られますよ（笑）。
韮澤　大晦日じゃなくなったけど、時間は長くなって二時間半やりますし、内容もこれまでにない、充実したものになりますからね。目玉企画もありますし、海外取材もやってますから。期待しててください！
——いや〜、俄然楽しみになってきました。
韮澤　しかし、今年は国会に殴り込もうと思ったんだけどね〜。それが悔やまれるな。
——UFO党以来の政界進出も考えてましたか！（笑）。
韮澤　やっぱりいま宇宙問題は政治レベルで考えんといかんところまできてますからね。去年の3月、参議院の総務委員会で山根隆治議員が麻生太郎総務大臣（当時）にUFOの質問をしましたけど。その流れでもう少し防衛庁の秘密の部分に探りを入れようというのがあるんです。それから去年、『Kamipro』さんで（ザ・グレート）サスケさんと対談したときには言わなかったことがあって。じつは皇居上空に10数機のUFOの編隊が通過してたんですよ。
——皇居上空にUFOが飛んでましたか！
韮澤　これを目撃したのが政治関係の秘書で。私がレポートもらって、年末の『TVタックル』でやったんですけど、もう一つパッとしなかったんで、ほとんどカットされたんですよ（笑）。
——そんな重大事件がカットされていたとは、つくづく悔やまれますねぇ（笑）。
韮澤　あれは反対派が必死でそれをごまかそうとして、そういう流れになっちゃったんだよねぇ（悔しそうに）。いくつか写真も出したんですけど、最近のUFOは透明になってて、見えにくくなってるんですよ。
——透明のUFO!?　スケルトンブームは一足遅れて、UFOにも及びましたか。
韮澤　「そんなバカな！」って言う人もいますけど、実際そうなってますね。
——透明で見えにくいということは、中に入ってる宇宙人も透明なんですか？
韮澤　それはどうなってるかわからないけどね。その事件は日本テレビ本社のアンテナ付近を10数機のUFOが飛んでいくのを目撃したという証言で、その方向は皇居上空になるんですよ。だけど、これが青空を飛んでいるとあまり見えないんです。透明だから。そして今年の10月頃に新横浜駅前にある会社から私に「たったいま飛んでいきました！」って電話がありましてね。それを今年は取材します。
——おぉ〜〜。ついに謎の透明UFOの核心に迫りますか！
韮澤　そのときも集団で上空を飛んでいて、みんながそれを見てるわけです。一人じゃなくて社員大勢で。最近、集団で編隊を組んで飛んでいくというケースが世界的に多いんです。アメリカのウィスコンシン州でも公園にいたお母さんと子どもが透明のヤツを目撃したという情報がありますし、メキシコでは何百機も発見されてるんですよ。

すでに多国籍の地球防衛軍が組織されてるんですよ！

——何百機もですか。さすがUFOの本場メキシコですね（笑）。
韮澤　そのときもメキシコの空軍の偵察機が接触して、メキシコ防衛本部の調査結果として正式に発表したんです。でも、そのとき飛行機に乗ってたパイロットの肉眼ではUFOは見えなかった。ところが、赤外線のレーダーで調査したらちゃんと映ってるんですね。それが空軍の飛行機を取り囲んだり、そういったことも起きてますね。
——それは何を意味してるんですか？
韮澤　もちろんみんなUFOがどこから来ているのか、なんの目的で来ているのかという興味はありますよね。
——もちろん知りたいですよ！
韮澤　でもそれを発表しちゃうと、地球外の文明の実態を明らかにしなきゃいけない。そうなると、非常にまずいという結論を下したんですね。「なんで公表しないんだ！」という人が多いと思うけど、これは人類学的な学問からそういう結論を出してるんです。高度な文明が開発途上の文明に接した場合、低い文明のほうは必ず滅びてるんですよ。これは地球上の歴史が証明している。
——大航海時代とかそうですよね。とくにUFOの本場である南北アメリカ大陸は。
韮澤　そういう同じケースが地球上でも起こり得ると。そういう結論になったんです。それで「いっさい隠蔽しましょう」ということになっちゃって。地球側もいろんな技術を駆使してガッチリ防衛してるんですよ。宇宙からの侵入を食い止めようということで、入ってきたら撃ち落とすとかね。
——あ、異星人に対するそんな防衛態勢がすでにできてるんですか（笑）。
韮澤　そうなんですよ。もう多国籍の地球防衛軍みたいなものができてるんです。
——なんと地球防衛軍は実在した！　これは大スクープですよ（笑）。

去年も一昨年もぶっ飛んでいた!!
ニラサワ語録をPlayBack

No.82
二年前の年末、大晦日格闘大戦争特集のどさくさに紛れて、本誌初登場を果たした韮澤さん。「宇宙人はかっこよくて、見た目は地球人と変わらないんです」「月のクレーターの周りにUFOが並んでいた」「コンピュータは地球人のものじゃなくて、宇宙人から盗んだものですから！」と衝撃発言を連発。さらには『TVタックル』の舞台裏についても、「台本どおりのところはカットされて、それを踏み外して大変になったところだけオンエアされてるんです」というシュート発言も!　だから大槻教授とのトークバトルはあんなにも熱く、おもしろかったのか。

No.94
プロレス界一UFOに詳しいと言われる我らがザ・グレート・サスケと韮澤さんの夢の対談が実現。「アブダクション（身体検査）を受けた人は世界で1億人ぐらいいる」「UFOのパイロットは地球に接近できないんだけど、規則を破って地球に来てるんです」「アポロ11号が月面に着陸したとき、途中からUFOにつけられていた」「親父が亡くなる直前に、『おまえが受胎したときにUFOを見たよ』と言われた」とトバしまくる韮澤さんの話を食い入るように聞くサスケは、もはやファンと化していた。

韮澤　これはまた来年、別の企画でやりますけど。これがホントに凄いんだ！　だから宇宙側もあからさまに来たら撃ち落とされるかもしれないので、こっそり目に見えないかたちで入ってきてるんだよね。それが現状ですね。

――UFOの透明化は宇宙人による地球防衛軍対策でしたか（笑）。ところで、その地球防衛軍には日本も入ってるんですか？

韮澤　もちろん日本も入ってますよ。これにいま探りを入れようと思ってましてね。防衛庁から防衛省に昇格する法案が成立濃厚ですよね。これはなんのためかというと、もちろん対北朝鮮ということだけじゃないんです。北朝鮮が何をやろうとしても、日本の国力からいけば大丈夫なんですよ。だから本当の目的は、宇宙人の侵入を防ぐためだったんです（キッパリ）。

――防衛省への昇格は、地球防衛のためでしたか！

韮澤　ええ。実際、アメリカでも11月から宇宙における防衛を改めて見直そうとブッシュ大統領自ら演説してますからね。宇宙防衛における政策変更も行なっています。

――じゃあ、宇宙人の侵略に関しては、世界規模で危機感があるということですね。

韮澤　そうです。これを最初に告発したのはカナダの元国防大臣なんですよ。そういう危機があるので、「宇宙側と地球はもっと平和的に交渉を始めなきゃいけない」と去年演説してるんですよ。

――地球人と宇宙人は和平を結ぶべきだと。

韮澤　それに乗じてカナダの政府というのは、アメリカのミサイル防衛協定に反対してきたわけです。日本はそれに組み込まれていたんですけど。でも、去年の10月、その演説の直後に政府が解散してしまったんです。これもテレビで話したんだけど、結局オンエアされなかったんだよね（笑）。

――いやぁ、つくづく残念です！（笑）。

韮澤　そのミサイル協定に反対した政府は、汚職事件に巻き込まれて解散しちゃったんです。そのあとにイギリスでハッカー事件が起きたんです。まだ若いイギリスの一市民ですよ。彼を身柄引き渡しまで迫って、テロリストとして口封じをしたんです。これはおもしろいと思いますよ。このあとの話はまたの機会で。

――あぁ～、早く聞きたい！　でも、いまの話を聞くと、もはや宇宙問題については世界が動き出してるわけですね。

韮澤　そうなんです。昨年のサスケさんとの話にも出てきたんですけど、今週の『週刊新潮』（12月7日号）に日航ジャンボ機UFO遭遇事件の記事が載ってましてね。

特別読物 「JALジャンボ機、UFOに遭遇！」20年後の証言

これまで頑なにマスコミとの接触を拒んでいた寺内氏が、20年ぶりにあの事件について語ったのが上の『週刊新潮』（06年12月7日号）の記事。寺内氏は「私は目に見えたものを、なんだかわからないけど見たとおりに説明しただけですよ」とインタビューに答えている。

結局、UFOのことを口にするとロクなことがないんですよ!

――はいはい。寺内機長でしたっけ？

韮澤　そう。これは新潮の記者が体当たり取材してるんですよ。彼のインタビューの原文がウチのホームページに掲載されてるんですけど。そのデータに基づいて、当時この事件を日本に報道した共同通信の記者を追いかけて、現在の寺内機長の自宅に押しかけたんですよ。これまで私のところに何度も海外から取材の申し込みがありまして、国内のテレビ局も取材を計画したんですけど、機長の強い意向でずっと拒否されてきたんです。それが今回、自宅まで来てもらったこともあると思うんですけど、立ち話のような感じではあるのですが、インタビューに答えてますよ。

――ほぉ～。20年ぶりにあの事件について語ったわけですね。

韮澤　彼は自分が遭遇した事件を語ったばかりに左遷されてしまったんですよ。

――あ、そんな憂き目に遭ってたんですか。

韮澤　会社側の思惑もあったんでしょうけど、社会的に認知しないということが国際航空協定の中にありましてね。UFOを目撃したパイロットは、その情報を口にしてはいけないという圧力があるわけですよ。

――そんな掟がありましたか（笑）。

韮澤　ええ。みんな口封じされて。この記事の最後のところで寺内機長の奥さんがしんみりと語るわけです。「あなたは、見なくてもいいものを見ちゃったんだよね」って。現在は北関東の田舎のほうで農業をやりながら暮らしているらしいですけど、相当ひどい目に遭って辞めてるみたいですね。パイロットといえどもサラリーマンですから。だからもう二度と取材には出たくないと。しかも本人は「幻想だ、幽霊を見たんだと言われてもかまわない」という投げやりな発言をしてるんですよね。でも『週刊新潮』もいまになってこういうのを出してくるとは……なかなかニクいですね。

――ちょっと悔しそうですね（笑）。

韮澤　この事件も社会的な方向性、アメリカの国家政策としてのUFO問題隠蔽に押し潰されてしまった。だから寺内機長は犠牲者の一人ですね。結局ね、UFOのことを口にするとロクなことがないんですよ！……まぁ、そんなこと言いながら私は今年もテレビでさんざんUFOの話をするんですけどね（笑）。

――ダハハハハ！　韮澤さんだけは、危険を顧みずUFO問題の〝真実〟を語り続けるわけですね（笑）。

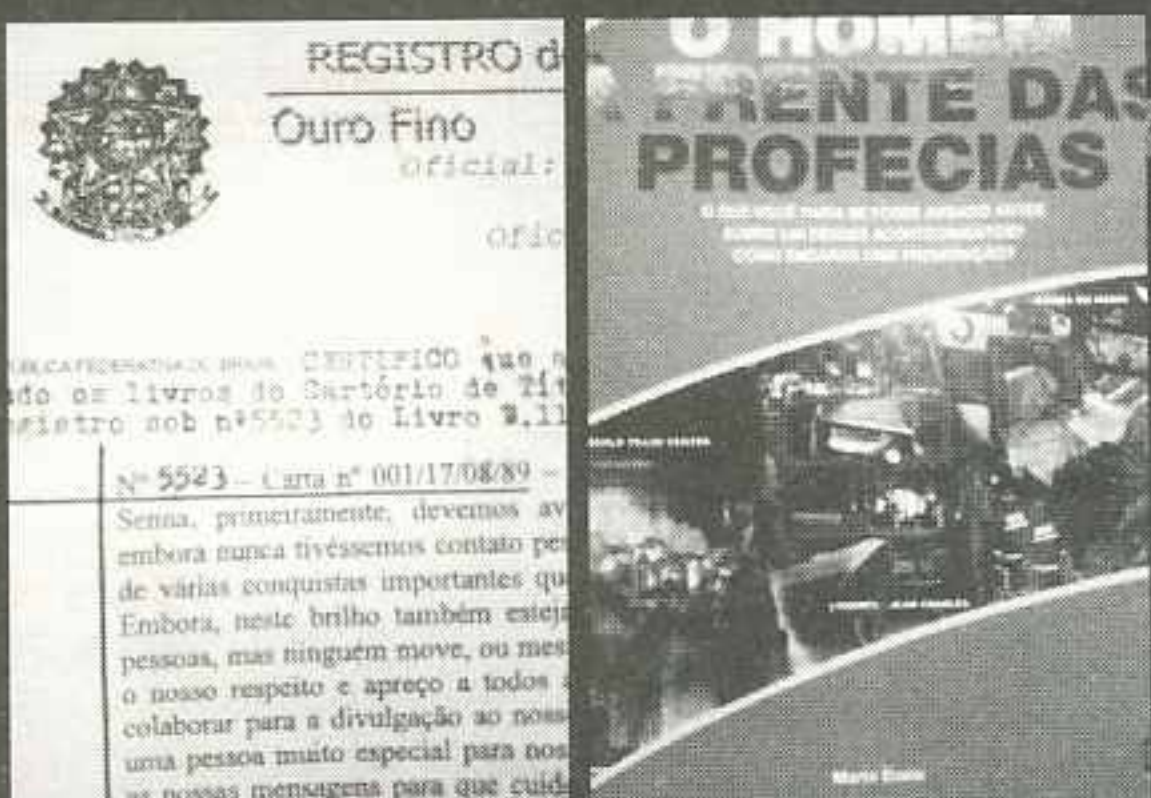
韮澤　また今年もひどい目に遭うかもしれないから、ここはぜひともサスケさんの助けを借りたいなぁ～。でも状況は難しくなってきてるんで、とにかく言い続けなきゃ

驚愕!! 伊豆に出現した宇宙人はこんな顔だった！

これが王監督の従兄弟の家に侵入したという宇宙人の似顔絵だ！　ビートたけしor北海道日本ハムファイターズの森本稀哲のようにも見えるが、間違いなく宇宙人だという。

いけないんですよ。あともう一つ、関西のテレビでもやったんですけど、宇宙人目撃者による宇宙人の似顔絵があるんですよ（図を見せる）。
――これが宇宙人の似顔絵ですか！　なんか、耳の長いビートたけしさんにしか見えないんですけど（笑）。
韮澤　見た人はこういう顔だったって言うんですよ。これはいわゆるグレイタイプなんですけど、15年ぐらい前に伊豆で事件が起きてるんです。熱川から伊東のあいだあたり起きたんですけど、これを目撃した人は王貞治（福岡ソフトバンク・ホークス監督）さんの従兄弟で、ラーメン店をやってる方なんですよ。ここの庭にUFOが着陸したんです。
――王監督の従兄弟の庭にUFOが着陸してましたか！
韮澤　その翌日、宇宙人が家の中に入ってきたんですよ。
――宇宙人が自宅に侵入！
韮澤　それをお母さんが目撃したんだけど、腰抜かして動けなくなって。宇宙人が2、3人ぐらいバーッと入ってきて、台所の冷蔵庫をあさって、コカ・コーラを持っていっちゃったらしいんだよね。
――ダハハハハ！　なぜコーラ（笑）。
韮澤　しかもその宇宙人は壁の中に消えたんですよ。そこはもう突きあたりで行けないところなんですよ？　この事件は当時、『伊豆新聞』が取材してます。
――コカ・コーラも壁をすり抜けられたんですかね（笑）。
韮澤　（無視して）さらに、その宇宙人が乗っていたUFOの着陸跡から一匹の鳥が出てきたんですよ。
――鳥がですか!?
韮澤　そう。これがまた変わった鳥でね～。人間を恐れもしない非常にふてぶてしいヤツなんです。黒い鳥でね。
――それは……カラスじゃないかと思うんですけど（笑）。
韮澤　いや、違います。クチバシが真っ赤なんですよ！
――新種なんですか？
韮澤　見たこともない鳥なので、『伊豆新聞』の記者が専門家のところまで持っていって、調べてもらったんですよ。だけど、「なんの鳥かわからない」と。そしてその鳥は肉しか食わないんですよ。しばらく篭の中に鍵を閉めて入れておいたんですけど、ある日突然消えちゃったんです。
――ほぉ、凄いミステリーですね。でも、コーラ盗んだり、鳥が消えたり、わけがわからないですけどね（笑）。
韮澤　これはね、伊豆っていうのは横須賀が近いでしょ？　横須賀というのは軍港ですからね。そこになんらかのヒントがあるんじゃないかと……。
――軍や国防に絡んでますか！
韮澤　いや、この件について言えるのはいくら『kamipro』さんといえどもここまでです。
――残念！　UFO問題はいつもすんでのところで真相がわかりませんね（笑）。
韮澤　でも、今回はUFO以外にもとっておきの話がありますから。海外取材もやってますよ。
――それはなんですか？
韮澤　ブラジルに凄い予言者が現われたんですよ。しかもいま生きてるんです。
――ノストラダムスと違って、現在生きてる予言者ですか。どういう人なんですか？
韮澤　名前がジュセリーノ・ダ・ルースといいまして、高校の先生をしているんです。いま47歳ですね。彼は子どもの頃から予知

ブラジルに8万8000件の予知夢を見た男がいるんです！

能力があって、40年以上毎日寝ているあいだに未来の映像を見るらしいんです。
――それは夢の中で未来の映像を見るということですか？
韮澤　彼の予言というのは、いわゆる予知夢なんですよ。頭の中に映像が入ってきて、「どこどこに警告を送れ！」って文字が出てくるらしいんですね。だから40年以上前から現在にいたるまでの世界的な事件のほとんどを予知しているんですよ。8万8000件の予知をしたと言ってますからね。
――8万8000件ですか！（※毎日一回、予知夢を見たとしても、240年かかる計算になるが、きっと毎日いくつも見るのだろう！）それはまた、とんでもない数の予知夢を見てますね（笑）。
韮澤　ええ。最近で言えばニューヨークの2001年9月11日の同時多発テロ。それから2004年末のスマトラ島沖地震。この両方を彼は10年以上前から予知しているんですよ。しかも発生する年月日まで正確にわかるんです。
――年月日まで！　10年以上も前から。
韮澤　とにかく不吉な予感がすると、彼はブラジリアにある大使館から世界各国へ手紙を送ってたんですよ。資料としてその手紙の書留も残っています。年月日もちゃんと記されているんです。でも、彼は凄い貧乏なんだよね～。
――ダハハハハ！　それだけ手紙を送ったら郵便代もバカにならないでしょうね。
韮澤　それだけじゃなくて、彼は一般の人からも相談を受けるんですけど、いっさいお金は取らないんですよ。
――なるほど。人が良すぎるんですね。
韮澤　でも、天気予報なんかにしても事前に知ってるのと知らないのとでは全然違うじゃないですか？
――そうですね。今日は午後から雨が降るから傘を用意しようとか。
韮澤　準備することが大事なんです。でも、雨が降らない場合だってあるわけですよ。そういう意味では予報や予言というのは100パーセント的中するわけではないんです。もちろん彼の予言にしても。でも、事前に対策を講ずれば防げると。そのためにやってるんだと彼は言ってましたね。事件だけじゃなくてスポーツに関することで言えば、横浜で行なわれた2002年のサッ

写真右が"21世紀のノストラダムス"ジュセリーノ氏。見た目はいたって普通のオッサンだが、幼少の頃から恐るべき能力を持っていた。本文中には出てこなかったが、じつは9.11のテロ事件のあとにフセインが隠れている場所も予知していたというのだから、恐れ入る。ジュセリーノ氏の著書「未来からの警告」（写真中）は、ただいまたまま出版が突貫作業で翻訳中。ポルトガル語なので何が書かれているのかさっぱりわからないが、セナの事故死についても綴られている（写真左）。さらに「これからアジアや日本でも何かが起こる」という記述もあるらしい。これは3月になったらみんなも書店に駆け込んで、この本を手に入れよう！　……まあ、取り越し苦労に終わるかもしれないが。

カーワールドカップ決勝戦があります。
——ブラジルvsドイツですね。ブラジルが2−0で勝った。
韮澤　そう！　その顔合わせも、2−0も彼は20年も前から予知してるんですよ。
——サッカーの結果まで予言（笑）。
韮澤　それからF1でもそういう例がありましてね。彼と同じブラジル人なんですけど、アイルトン・セナという非常に優れたレーサーがいましたよね。彼は94年5月にイタリアのイモラサーキットで事故死したんですけど、それも予言してたんですよ。最初に予言したのは91年だったと思います。
——セナがバリバリで活躍してるときに予言していた、と。
韮澤　最初はイモラサーキット宛てに「セナの身に危険が生じるので注意しなさい」と手紙を出してるんですよ。その手紙のあとにいろんな怪電話があったりして、どうやら3人の男が関わってることが判明したんです。詳しい経緯から割り出されたところ、ステアリングコラム、いわゆるハンドルが故障していたらしいと。その首謀者が細工を仕掛けた可能性が高いと言われていますね。私もF1好きですから、ちょうど夜中の中継を見てましたよ。それでカーブのところで曲がらないで壁に一直線に入っていったんですよ。いまでも覚えています。
——セナの側近がジュセリーノさんの手紙を信じていれば……悔やまれますね。
韮澤　そのほかにも彼は昭和天皇の崩御も当てていまして。去年亡くなられたローマ法王のヨハネ・パウロ2世に対しても「容体が心配なので、医療体制をしっかりしてほしい」という手紙を出してるんですよ。だけどバチカン市国はそれに対処した形跡がまったくないんです。どうやら受け取りましたという返事ぐらいはしてたらしいんですけどね。
——まぁ、見知らぬブラジル人から「もうすぐ死にます」なんて手紙が来ても、まず信用しませんよね（笑）。
韮澤　でも、対応できてたら変わっていたと思うんですよ。実際、彼は教え子の自殺を防いでいます。両親も気づいていなかったんですけど、その教え子が死ぬために使おうと思っていた道具が隠されている場所を指定して。それで彼が説得して、自殺は免れたんですよ。彼のおかげで、いまその教え子は幸せに暮らしているらしいですよ。
——はぁ〜、世のため人のための予言者なんですね。この方が日本のメディアに登場するのは今回が初めてなんですか？
韮澤　そうです。これまでいっさい表には出てこない人だったんですけど、9・11のテロやスマトラ島の地震が起きて、もうこれは手紙を出すだけでは手に負えないと思ったんでしょうね。やはりこれからはマスコミの力も借りて、世界に発信しなきゃいけないということを決意したんです。彼について詳しく書いた『未来からの警告』という本を来年3月にたま出版から出そうと思ってますんで、詳しくはそれを読んでもらったほうがいいかもしれない。

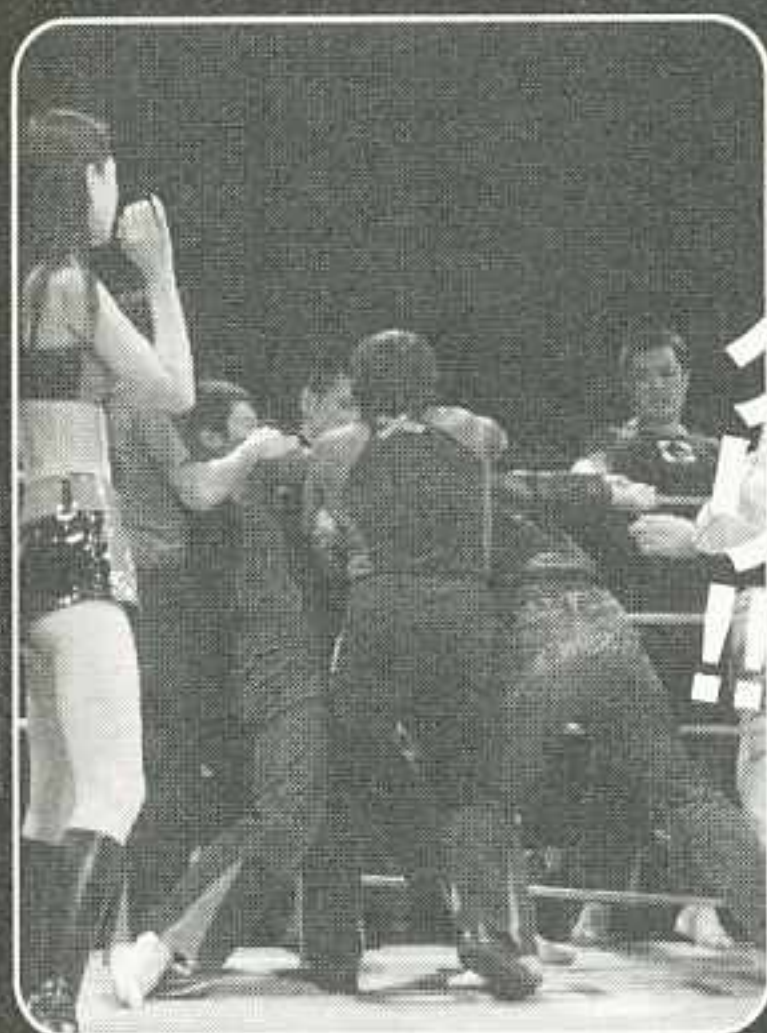
にらさわ・じゅんいちろう■1945年新潟県出身。法政大学卒業。小学生時代にUFO目撃して以来、40年以上に渡るフィールドワークを伴った研究を続け、UFO研究家の第一人者となる。現在、たま出版社長。毎年、年末の『超常現象スペシャル』では大槻教授と激しいトークバトルを繰り広げている。

今年の超常現象スペシャルは、宇宙人の愛用品を公開します！

——さりげない宣伝ありがとうございます（笑）。ジュセリーノさんにその本の売れ行きも予言してもらいたいところですけどね。では、最後に12月30日放送の『超常現象㊙ファイル』の見どころを語っていただきたいんですけど。
韮澤　例年だと私と大槻教授とのバトルが中心になるんだけれども、今回は夜6時半スタートで子どもも観る時間ですから。討論というよりバラエティ色が強くなると思うんですよ。
——あ、そうなんですか。バトルが減るのは残念ですねぇ。
韮澤　それに収録中はあんなに言い争うんだけど、終わったら結局何を言ってたのかわからなくなるんだよね。こっちは毎年いろんな証拠を持ってきてるのに、向こうは否定するだけだから。それが腹立つんだよな〜。あの番組に出ても、俺の本が売れるわけでもないしさ（笑）。
——名著『ニラサワさん』の売れ行きは伸びてませんか（笑）。
韮澤　なかなかね（笑）。でも、もうそろそろ大槻教授とも決着をつけるときだと思いましてね。今年はとっておきのものを用意してるんですよ。
——おっ！　それはなんですか？
韮澤　ズバリ宇宙人が所持していた物品を公開します！
——宇宙人の愛用品公開ですか！（笑）。
韮澤　そこで全国の皆さんにも物的証拠として見ていただきたい。ここらでいい加減ケリをつけますよ。毎年そう思いながら9年目になっちゃってるんだけど（笑）。
——いままで宇宙人の写真や住民票まで出しても決着はつきませんでしたからね（笑）。
韮澤　これはある理由があって触らせられませんけど。あくまでも見せることを目的としたものです。大槻教授も触らせません。スタジオで格闘になったら奪われないようにしないといけない。
——そうなると、宇宙人の愛用品を守るために、ますますサスケさんの助けが必要ですね（笑）。では、30日のオンエアを楽しみにしてます！
韮澤　期待してください。今年こそ決着つけます。とか言いながら、5年後も10年後もまだやってそうな気もするけどね（笑）。
——『PRIDE』だけでなく、『超常現象スペシャル』も"不滅"と言うことで（笑）。ありがとうございました！

【06年12月5日／都内新宿区・たま出版にて収録】

『ビートたけしの超常現象㊙ファイル』
12月30日（土）18:30〜21:00
テレビ朝日系列でオンエア!!

UFOを目撃した直後の寺内機長を
インタビューした原文も掲載されている
たま出版 ホームページ
http://tamabook.com
いますぐアクセス!

衝撃パンクラス！12.2有明大会で事件ボッ発!!

ラウンドガールもビックリ!!

ヤジ馬記者の場外乱闘体験記

パンクラスで乱闘ボッ発!! パンクラスで乱闘といえば、数年前の後楽園大会での鈴木みのると佐藤光留の師弟乱闘が記憶に新しいが、12月2日のディファ有明大会で久々に起こってしまったのです。しかも今回の乱闘は選手ではなく熱くなりすぎたファンが原因でした。なぜか、その真っ只中にいた、わたくしチョロがリポートします！

構成／松澤チョロ 写真協力／BOUT REVIEW
designed by bun-chan (Two Three)

激闘を制した中西だったが、試合後、事態は急展開!!

この日のメインはネイサン・マーコートの王座返上によりランキング1位の竹内出と2位の中西裕一のあいだでの王座決定戦。正直、地味な二人の対決だったが試合は白熱の大熱戦に！

竹内有利という大方の予想に反して1ラウンドに中西のパンチが顔面をとらえ竹内は大流血！後半、血まみれになりながら竹内が盛り返したものの判定は2-1で中西の勝利という結果に。

大熱戦となったメインだけに試合中から両陣営の応援団は異様な盛り上がり。中西の勝利が告げられると以前から熱狂的な応援ぶりで知られる中西ファンが祝福のため我先にリングに上がろうとしたから大変。パニック状態！

応援団に「落ちついてください」と懇願する中西だったが効果なし。ならばと廣戸レフェリーが「そんなことしたら（ベルトを）剥奪しなきゃいけない可能性もあるんだぞ！」と一喝するも事態は収まらず……。

「前半から好試合が多く、とってもおもしろかったと自画自賛。ただ、最後にとても残念な出来事がありました。何が悲しいって、こんなのが記事になって、せっかくの好試合が記事にならなかったら、残念至極です。今回の出来事はいろんなことを考えさせられます。覚えておいてほしいのは〝乱闘騒ぎが起きた大会〟というのではなくて〝おもしろい試合が続いた大会〟ということです。よろしくお願いします」

唐突ですが、右の文はパンクラス広報兼鈴木みのるマネージャーの関口氏が大会後の深夜に自らのブログに書いていた原稿です。たしかに、この日は前半戦から大熱戦となったメインまで好勝負が続出、〝おもしろい試合が続いた大会〟というのは、まったくもって、そのとおりだと思います。でも、関口広報ごめんなさい。「こんなの」を思いっきり記事にしてしまいました。テヘッ！（小池栄子似の妖精さん調）。

騒動後の尾崎社長も報道陣に向かって「こんなときばっかり大きく扱わないでね」と苦笑いを浮かべていましたが、ボクはなぜだか条件反射で目を逸らしてしまいました。テヘッ！（↑しつこい）。

まあ、結果的にはケガ人も出なかったようだし、乱闘騒ぎを起こした人たちも、さすがに反省してるでしょうから、今回の記事はプロ野球の珍プレー好プレー集のようなものだと思って、各方面の皆さま勘弁してください。

そういえば、扉に驚くラウンドガールの写真を使ってますが、もう一人のラウンドガールの竹内綾香ちゃんは、これまたブログに「メイン戦は生まれて初めてのことが起こりました。乱闘騒ぎです。ナニ‼～（中略）～熱狂的な中西ファンが中西選手が判定勝ちを言われた瞬間、興奮してリングに登ってきたんです。びっくりして頭が真っ白になっていたら、いきなり中西選手にお姫様抱っこされるし、わけわからなくなってました」（顔文字大幅に省略）と興奮気味に書き込んでいました。たしかに、乱闘の真っ只中、お姫様抱っこなんてされたら誰だって動揺するでしょう。

この日のメインはミドル級王座決定戦・竹内出vs中西裕一戦でした。どちらも地味強（つよ）ファイターなので、正直、メインとして盛り上がりに欠けるんじゃないかと思ってたのですが、ところがどっこい。こ

毎回必ず何かが起こる！パンクラス有明伝説、続行!?

の日は一試合目から一本決着が多く、心配されたメインも1ラウンドから大熱戦。絶対有利と言われていた竹内がパンチで大流血、その後、血まみれになりながらもゾンビのごとく中西を追い詰めていくという展開に両陣営の応援団も異様な盛り上がり。結果的に敗れはしたものの、これまでの竹内のベストバウトと評する人も多かったです（まあ、そんなこと言われても、本人はうれしくはないだろうけど）。

話は乱闘に戻ります。判定は2―1と割れながらも、中西の勝利が告げられた瞬間、熱狂的な中西応援団が大仁田信者ばりにリングに一斉に駆け寄ってきたのです。それだけならまだしも、リングをまたごうとする不届き者が続出。中にはあきらかにアルコールが入った者も数人いて、奇声やら怒声を発しながらエプロンでレフェリー陣と押し問答を繰り広げています。

「何が起こってるんだ?」と野次馬根性丸出しでボクは怒号が渦巻く方向にノーガードで向かっていきました。リング上からは新王者になったばかりの中西が「やめてください！」と懇願するも効果なし。ならばとパンクラスの〝絶対レフェリー〟廣戸聡一審判部長が「そんなことしたら王座剥奪になる可能性だってあるんだぞ！」と冷静かつ的確なメッセージを投げかけても、イスを投げて暴れ回る暴君まで出る始末。

レフェリー陣だけでは収まらず、最後はセコンドやケガで欠場した坂口憲二の兄・坂口征夫らも出てきてなんとか事態を収拾。「あ～、よかった」とホッとしたはいいが、なんだか身体のあちこちが痛い。

というわけで、いささか強引ではありますが、乱闘をド真ん中で体感した結論！

「珍プレー　端から見れば笑えるが　巻き込まれたら　たまらない」（川柳。テヘッ！）

お粗末さまでした。皆さん、熱い応援はオッケーですが、痛い暴言は禁止ですよ！

それでは良いお年を‼

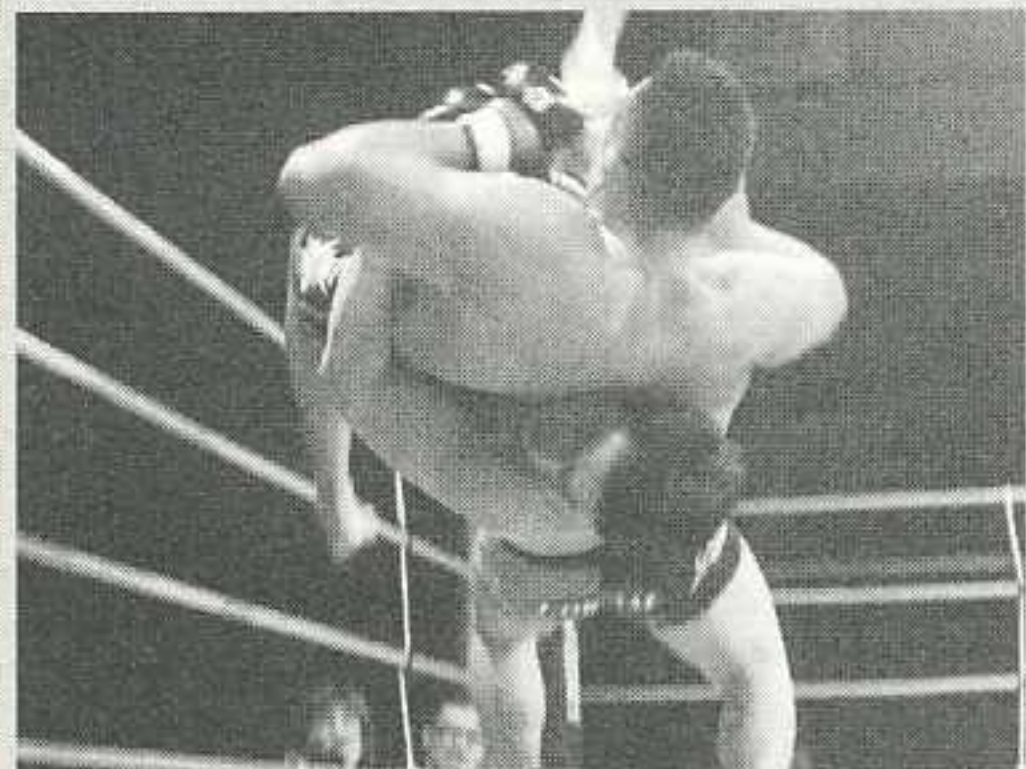
この日はタイトルマッチ認定宣言とチャンピオンベルトの授与を自ら行なった尾崎社長。騒動が一段落したのち、苦笑いを浮かべつつ新王者の中西にベルトを巻き何やら声をかける尾崎社長。来年の春過ぎには久々に大会場への進出も示唆している尾崎社長。期待してますよぉ！

まだまだあるよ！

衝撃パンクラス‼ 12.2ディファ有明大会ダイジェスト

コイツはヤバイ！ ライト級にロシアのブッ壊し屋が登場！

9.9 DOG有明大会で飯田崇人相手にパウンドによる戦慄のKO勝利を飾ったSKアブソリュート・ロシアのウマハノフ・アルトゥールがこの日も宮崎裕治をバックドロップ一発でKOという衝撃のパンクラスデビューを飾った！

お帰り、ムベ様！ "プロレスLOVE"に肩固め‼

久々に日本マット登場となるチェ・ムベが元・全日本プロレスの河野真幸を豪快なジャーマンで投げ捨てると、最後は肩固めで勝利。試合後は日本語で「元気ですかーッ!?あなたが好きだから‼」と絶叫すると四方にムベ様ポーズ！

エレクトリック Hand Power

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

“60億分の1の煽りVアーティスト”
佐藤大輔、kamipro Handで『男祭り2006』の見どころを語る!!

やれんのかーッ!!

105号のインタビューも大反響！の『PRIDE』煽りVアーティスト佐藤大輔氏が携帯サイト初登場！　前号のインタビュー登場後の反応、エメリヤーエンコ・ヒョードルの持つ底知れぬ不気味さ、そして五味隆典 vs 石田光洋に見る“二人のヒーロー”論について語りまくり！　大晦日の前に必読!!

（12月18日更新分より抜粋）

──『男祭り』で真っ先に発表されたエメリヤーエンコ・ヒョードルvsマーク・ハントのタイトルマッチですけど、このカードはどう見ていますか？

佐藤「ヒョードルは、映画で言うと『時計じかけのオレンジ』みたいな世界だと思うんですよね」

──ヒョードルは『時計じかけのオレンジ』！

佐藤「なんか、ヒョードルってニュータイプなんじゃないかって思わせるようなところがあると思うんですよ。見た感じ朴訥なイメージなんだけど、朴訥な殺人鬼みたいなね。見たことないでしょ、あんな人」

──ていうか、何が目的で闘ってるのかさえもわからないんですよね。

佐藤「そうそう！　何インタビューしても、現地にいっても、全然わからないんですよ。お金を儲けていい暮らしをしたいのかと思ったら、ロシアでは、つつましく暮らしてるんですよね。ヒョードルの自宅、見たことありますか？」

──僕は自宅には行ったことないですけど、写真で見る限り、せいぜい日本で買った大きなテレビがあるぐらいで、べつに豪勢な暮らしをしてそうには見えませんよね。

佐藤「べつに豪邸じゃないんですよ。マンションというか、アパートと表現するほうが適切な感じの集合住宅でね。そのアパートのリビングで、弟たちとまずそうなパイを食ってるんですよ」

──まずそうなパイ（笑）。

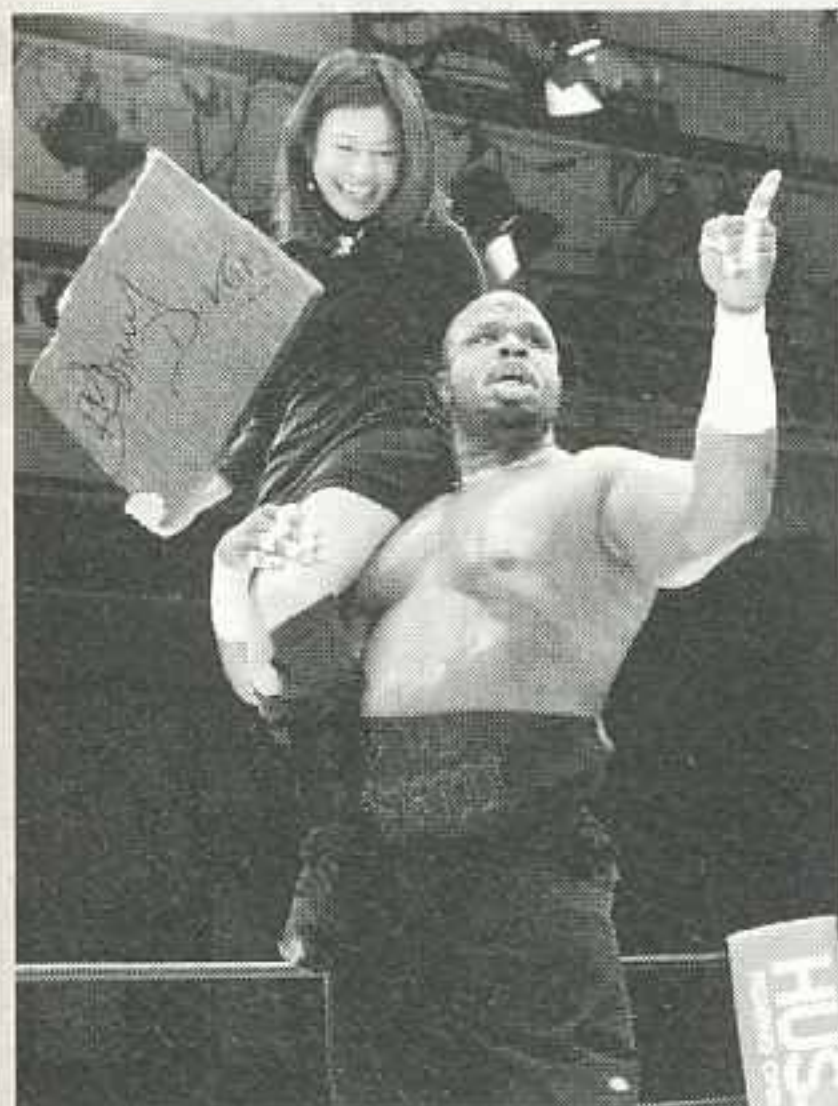
佐藤「ホントにまずそうなんです、これが（笑）。まったくゼイタクしている雰囲気もないし。ただ唯一あるのは、自分より強いと言っている人間に対し、本能的に潰しにかかるような感じはあるんですよ」

──確かにそれは感じますね。

佐藤「僕はそこだけのような気がするんですよね、彼は。生物としての本能なのかもしれない。だけど、あれほどチャンピオンになってもモチベーションがダウンしない、闘いが変わらないっていうのは本当にわかんないですね。ミルコとかは、一時期けっこう落ち込んだというか、大変な死のロードみたいなときがあったけど、ヒョードルには心のゆらぎみたいなものって、ないのかなぁって。見えないでしょ？」

──こんなにわけがわからない人はいないですよね。

佐藤「だから本当にニュータイプだと思う。たぶん世界中の格闘家であんな人、ほかにいないと思いますよ」

※続きはkamipro Handの「PRIDEマニア」コーナーでチェック！

Handユーザー限定！

チーム3Dの机の破片をプレゼント!!

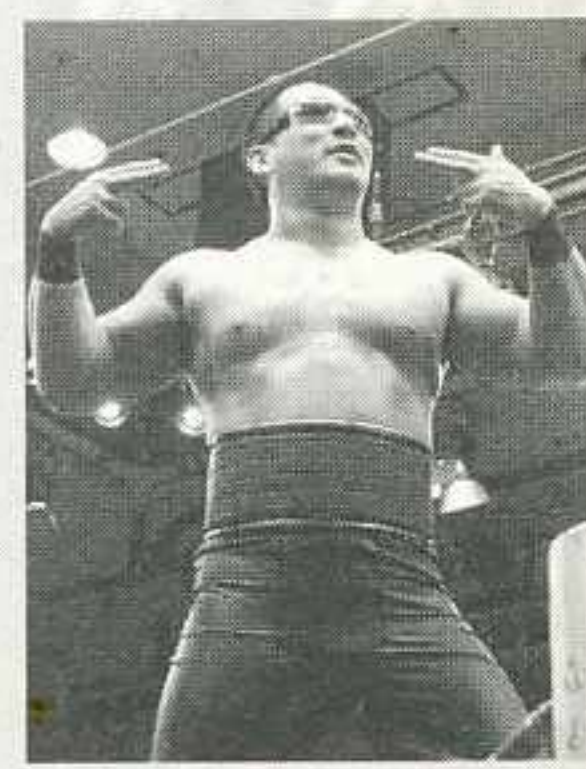
毎月更新のHandユーザー限定プレゼントコーナー。今月はなんと『ハッスル・ハウス』で観客の女性にプレゼントされた、チーム３Ｄのサイン入り机を放出!!
プレゼントされたリングサイドの女性は、実は全日本キックのスタッフ。というわけで「チーム３Ｄ＆全日本キックボクシング連盟提供」の世界に一つだけしかないプレゼント。ゲットするためにはHandユーザーになるしかない!!

また、先月は思いも寄らぬ「応募者ほぼ全員にDVDプレゼント」という大冒険をなしとげた“エッジな人々”マッスル坂井のサイン色紙もプレゼント中です！　いますぐ加入、いますぐ応募せよ!!

12月更新のボイスはDDT特集！

高木三四郎、男色ディーノ、マッスル坂井登場！

毎月更新の「kamiボイス」は、更新直前に惜しくも解散となったチーム２サウザンアイランド総帥・高木三四郎が登場だオラーエー！　さらに男色ディーノとマッスル坂井の、ほかでは絶対にゲットできないボイスを配信中！　電話＆メール着信、朝起きるときもDDTと一緒！　総帥の写真はギャラリーで配信中！

※電車の中や会社で鳴ったりすると相当恥ずかしいので、使用するときには充分注意!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

「kamipro」で一発検索!!

DoCoMo	iMenu ▶	メニュー／検索 ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
Soft bank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

［QRコード］

木曜コラムはターザン山本！ が毎週暴走中！ 石原真理子へのラブレターは要チェック!!

所英

“空手バカ一代”
幻想ふたたび

空手こそ、元祖“なんでもあり”の闘いである

日本空手道・数見道場館長

数見肇

平成の“空手バカ一代”が なんと総合格闘家育成へ大前進

空手界で数々の偉業を成し遂げてきた、平成の“空手バカ一代”数見肇。大山倍達の世界に魅了され、ひたむきに強さを追求してきたこの男が、このたび、総合格闘家の育成に乗り出したという。いま、数見の中でいったい何が起こっているのか。

聞き手／橋本宗洋　構成／松下ミワ　撮影／乾晋也
写真提供／ワールド空手　designed by shiraki (TwoThree)

「空手とは本来、総合武術なんです」

かつて極真空手の全日本大会で5度の優勝を収めた数見肇はそう語った。12月11日、『RI―KWON―DO』記者発表の席上でのことである。『RI―KWON―DO』とは、数見（代表師範）と、彼の極真時代からの先輩である岩崎達也（最高師範）が率いるRKJ（Real Karate Japan）が新たに設立した総合格闘技で勝つための選手育成部門。数見は指導者として総合格闘技に本格的な一歩を記そうとしているのだ。

空手、とりわけ極真は現在の格闘技界のルーツ的存在である。そもそも大きな大会を開き、メディアを最大限に活用して世間一般に強さをアピールすること自体、極真が始めたことだったのだ（極真におけるメディアは漫画『空手バカ一代』。現在の格闘技では、それがテレビにあたる）。

これまで総合の世界では、空手が大きな存在感を残してきたとはいえなかった。だが数見の手腕によって、今後はそれが変わるかもしれないのだ。本誌が期待するのは、拡大解釈可能な〝空手魂〟ではない。拳の肉が削げ、骨が見えるまで巻き藁を突く特訓であり、百人組手であり、究極は牛殺し、熊殺し。そこから立ち昇る〝幻想〟である。常人にはできないこと、やろうともしないことに「押忍！」の一言で臨み、それを成し遂げてしまう人間力である。

そして数見肇こそは百人組手の完遂者であり、試合中に骨折しながら顔色一つ変えず全日本大会で優勝を重ねた、まぎれもない空手幻想の体現者。そんな男なら、ルールの違いやジャンルの壁など、軽々と乗り越えてくれるのではないか――。

――今回、数見師範が打撃系総合格闘技を標榜する『RI―KWON―DO（ライコンドー）』という流派というかクラスを開設されたということで、インタビューにうかがいました。

数見　はい、よろしくお願いします。

――数見師範は、以前からパンクラスの大石（幸史）選手に打撃の指導をしたり、お弟子さんがパンクラスゲートの試合に出たりと総合格闘技へのアプローチをされてきたんですが、『RI―KWON―DO』のコンセプト、目的はどういったものなんでしょうか。

数見　まず、空手の道場と格闘技をはっきり分けようと思ったんですよ。空手の道場に通う人というのは、必ずしも試合に出るというわけじゃなくて、健康のためとか、さまざまな理由があるんですよ。

――それこそ「気持ちよく汗がかければそれでいい」という人もいるでしょうね。

数見　道場全体が試合を目指すものになってしまうと、そういう人たちを受け入れられなくなってしまうんですよ。以前からそのへんの葛藤があったんです。なので、これからは空手という武術の追求は『数見道場』でやって、『RI―KWON―DO』では総合に限らず格闘技の試合に専念していこうと。

――より専門的に特化したわけですね。

数見　我々が危惧しているのは、いまの若い人の中にはラクして強くなりたいっていう人が多いんですよ。

――それは、すぐに流行りの技術に飛びついたりということですか？

数見　それもありますし、あとは空手を学びさえすれば強くなれるんじゃないかっていう勘違いをする人も多いんですよ。

――苦しい練習をしないで、習っているというだけで満足してしまうという。

数見　僕らは、これまで空手をやってきた中でそれなりにキツい思いもしてますし、それが財産になってるんですよ。それがあるから、現役を引退しても、さらに奥深い道に進んでいけるんであって。そういうことを若い人にも経験してもらいたいというか。試合に向けて苦しい思いをする中で、生き方を学んでほしいんですよ。試合っていうのは、本当に自分を助けるものが自分自身しかない世界なんですよ。そういう世界を経験するのは、人生の中で大きな役割を果たすと思うんですよね。

――そういう経験をしてみたいという人たちに、その場所を与えるのが『RI―KWON―DO』であると。試合に特化したクラスということは、数見師範のお弟子さんがいままで以上にさまざまな試合に打って出る機会が増えることになるわけですよね。

数見　そうですね。まず試合に勝つことに専念してもらおうと。空手っていうと、イコール、フルコンタクト空手ルールの試合と受け取られがちなんですけど、そうではないですから。『数見道場』では空手という武術を勝ち負け関係なしに追求する、人生を高めるということをやって、『RI―KWON―DO』では試合に勝つということを追求していこうと。

――『RI―KWON―DO』の対象になるのは、打撃のある格闘技全般になると考えていいんでしょうか。

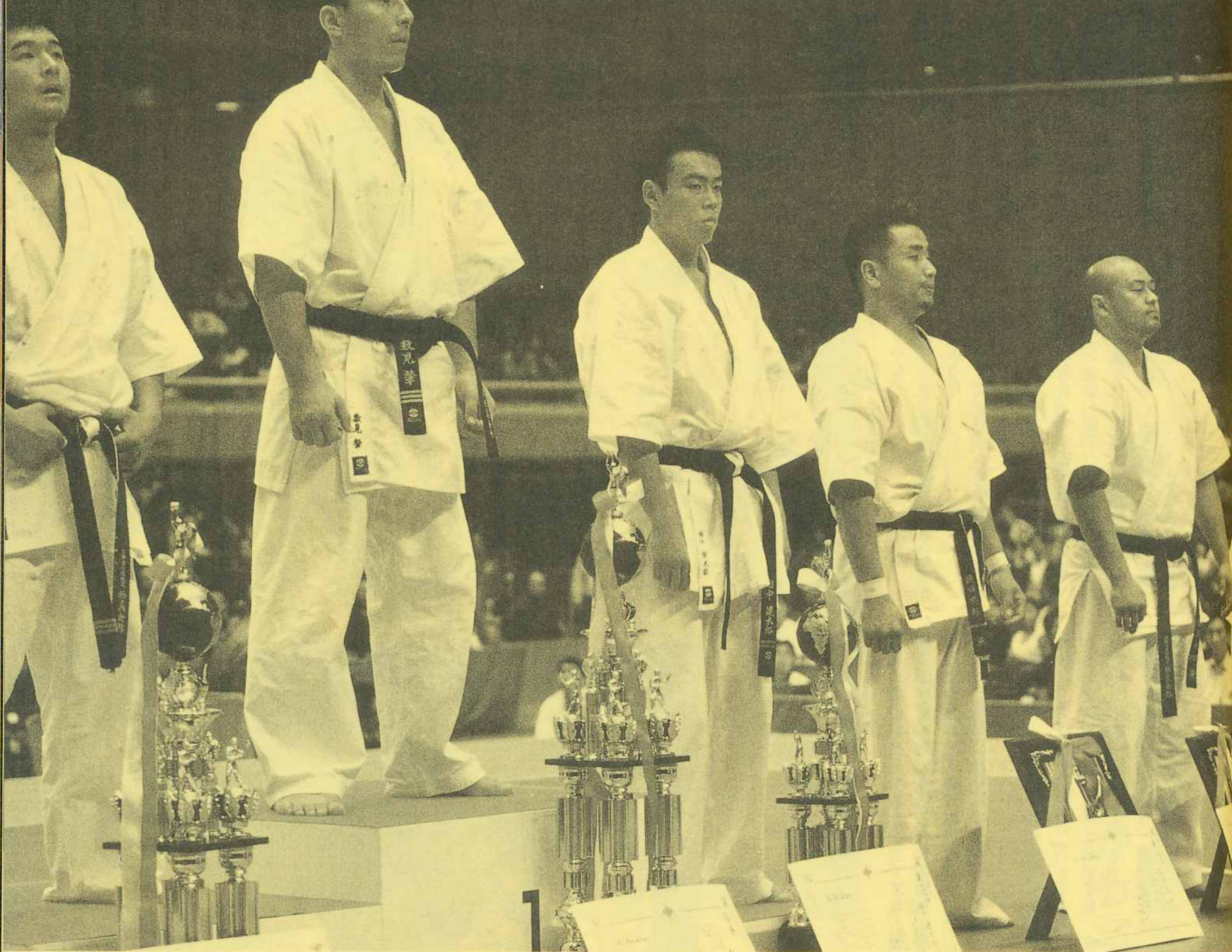
数見　中でも、一番は総合格闘技ですね。空手というのは、生きるか死ぬかのところで生まれた武術なんですよ。相手が刀を持っている、あるいは相手が複数というときに、いかに闘うかという武術ですから。そういう空手の源流に、いま一番近い試合が総合格闘技だろうと。その総合格闘技の試合で通用する空手、打撃というものを我々は検証というか、試していきたいなと考え

本来の空手の源流にいま一番近い試合が総合格闘技だろうと

空手バカ一代、幻想ふたたび
数見肇

02年に行なわれた第34回全日本空手道世界選手権で、数見は最強の敵・木山仁を撃破し5回目の優勝を遂げる。前評判では、度重なるケガで優勝は絶望的だと言われていた数見だが、ただただ感嘆の結末となった。

所英

K−1や総合格闘技に対しては見たくねえな、って気持ちがあった

ていますね。

——考え方の根底として、空手の打撃で総合格闘技にチャレンジしていくというのと同時に、総合格闘技自体が本来の空手に近いものである、という。

数見　ボクシングやキックボクシングなどさまざまな格闘技がありますけど、いまある試合形式の中では一番近いですよね。

——いってみれば、空手というのはそもそも〝なんでもあり〟なんだということですよね。

数見　そうなんですよ。空手というのは本来〝なんでもあり〟の状況で闘うものですから。『総合』という言葉は、たとえばフルコンタクト空手はつかみなし、顔面なしの突き、蹴りのみ、キックはグローブを着けての打撃のみとかいろんなルールを、それこそ『総合』してそう呼ばれるわけですよね。でも空手には、そのすべてがもともとあると。

——であれば、空手が総合の試合に挑むのも当然ですよね。『R—I—KWON—DO』では、どんな取り組み方で総合の試合に勝とうとしているんですか。コンセプトというか技術のポイントというか。

数見　打撃ですね。打撃を使って、いかなるルールでも対応というか、勝てるように追及していこうと。

——たとえば寝技という局面でも、打撃を使って切り抜けていくというか。

数見　それもありますね。それに、寝技があるから寝技に対処していこうというのではなくて、まずは相手が寝技に入ってこられないような立ち技の打撃を身につけましょうと。そこからですね。

——それって、いまの総合格闘技のメインストリームになってますよね。たとえばミルコ（・クロコップ）選手もそうですけど、相手に寝技に持ち込ませることなく、打撃で仕留めるという。そういう試合は数見師範の考えに近いというか、納得できるものがあるんじゃないですか。

一撃では相手は倒れないですよ そういう欲があるとまず当たらない

数見　そうですね。結局、打撃が曖昧だからタックルに入られてしまうということがあると思うんですよ。手足自体が武器になっていれば、相手は入ってこられないですからね。

――手足自体が武器！　そういう考え方が、まさに今回インタビューさせていただいた理由というか、我々が空手家に期待する素晴らしさなんですよ。

数見　それだけの打撃を、やはり空手家としては身につけたいですよね。それと、試合では怖さがあるから、どうしてもくっついてしまうんですよ。

――くっついてしまえば打撃を封じられると。それは初期ＵＦＣにおけるグレイシー柔術のコンセプトでもありますよね。

数見　でもそれは、くっつかれたときに出せる武器がないからなんですよね。くっつかれたときの武器がこっちにあれば、相手にくっつかせないことも可能になりますから。そういうところにいろんな選手が気づいてきたのが、いまの総合格闘技の流れなんじゃないかと思います。

――それにしても、極真を独立されてからの数見師範の行動を見てきたものには納得がいくんですけど、ビギナー格闘技ファンや極真時代の数見師範しか知らない人には、いまのお話は意外かもしれませんね。「え、極真のチャンピオンだった人が総合を？」という。極真時代の数見師範は、ほかの競技には脇目もふらずに試合に打ち込んできたっていうイメージが強いですから。

数見　やっぱり、それは空手イコール、フルコンタクト空手の試合というイメージがあるからでしょうね。ただ、私としては新しいことに挑んでいるというより、源流をたどっていってるという感覚なんですよ。

――フルコンタクトルールの試合だけにくくられない武術としての空手、“なんでもあり”の空手という源流を意識するようになったのは、いつ頃からなんですか？

数見　もともと、顔面（パンチ）のあるなしっていうのは語ること自体がナンセンスというか、「そんなものはあって当たり前だ」という気持ちは選手の頃からありましたね。

――あくまでも、試合のルールにはないからやらないだけだ、という。

数見　ただ選手というのは、どうしても試合の中での闘い方に専念してしまうという部分はあるんですけどね。

――現役を終えたところで、視野が広がったというか。

数見　そうですね。それとアメリカで総合の選手の練習を見たこともありましたし。

――アメリカのジムで、ティト・オーティズとリコ・ロドリゲスのスパーリングを目撃されたんですよね。

数見　あれは大きかったですね。ジムの中に金網があって、そこで取っ組み合いをしてるんですよ。なんていえばいいか……迫力というか、外国人ならではのパワー、荒々しさというかね。

――檻の中でケモノ同士が噛みつき合っているというような。

数見　まさにそんな感じなんですよ。僕も世界大会で外国人の強さというのは身体で感じてきてはいたんですが、殴る蹴るだけでなく取っ組み合っている状況がね。

――フルコンタクト空手の試合では想定しない状態で闘っているわけですからね。

数見　その衝撃っていうのは、やはりありましたね。

――それから、極真時代からの先輩で現在も一緒に活動されている岩崎達也最高師範が、国立競技場の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』でヴァンダレイ・シウバと闘ったこともありましたよね。

数見　あの試合も大きかったですね。岩崎最高師範は、僕より先に総合格闘技に取り組んでいたんですよ。以前から「これ（総合）から絶対に目を逸らしちゃダメだ」と。それに（フランシスコ・）フィリォが極真の世界大会でチャンピオンになった直後に、Ｋ―１で負けた試合がありましたよね。

――ジェロム・レ・バンナ戦ですね。左ストレート一撃でＫＯになった。

数見　あの試合のときも、岩崎師範は「このままじゃいけないんだ」と。

――空手の源流を考えたときに「ルールが違うから負けてもしょうがない」では済まないだろうと。数見師範の現役時代というのは、まさにＫ―１や総合格闘技が盛り上がってきた時期と重なってますよね。そういう新しいものを、以前はどういう目で見てましたか？

数見　僕の場合は、正直いって目を向けなかった部分がありましたね。

――それよりも、いま自分が取り組んでいる試合に専念するんだと。

数見　それもあるんですけど、それ以上に「見たくねえな」っていう気持ちがあって。そういう自分が嫌だった時期もありましたね。

――意識せざるを得ないんだけど、あえて

これまで全世界空手道選手権大会において日本人以外の選手が優勝したことはなかったが、99年に行なわれた第7回大会では、ベスト4に残った日本人は数見のみ。さらに数見はグラウベ・フェイトーザを準決勝で破り、堂々決勝戦へ。優勝をおおいに期待させた。

所
英

"空手バカ一代"幻想ふたたび
数見　肇

骨が見えるまで拳を鍛える、それがスポーツから"道"につながる

無視しようという。

数見　そういう部分はありましたね。でも、やはりそれじゃいけないんだと。

――武術とか格闘技を学ぼうっていう人は、やっぱり「強くなりたい」って気持ちなわけですよね。だとすると、ルールが違っていてもほかに強いとされるものがあれば意識はそっちにも向きますよね。「オレは顔面なし、つかみなしの世界で強くなりたいだけだ」とは、あまり考えないですもんね。

数見　そうなんですよ。僕自身も、空手を始めた理由が「ケンカに強くなりたい」とかね、「牛を倒す」っていう世界に憧れたからですから。試合に向けた練習とは別に、普段の稽古の中ではそういう強さを意識しましたよ、やはり。

――たとえば「オレがあの金網（オクタゴン）の中に入ったら、どうやって闘おう」というような。

数見　実際にそのための練習をするかしないかは別として、意識の中にそれはありましたね。

――やっぱり、空手をやっている、強さを求めている以上、そういう意識はどうしても出てきますよね。たぶん、空手家の多くがそうなんじゃないかなと思うんですが。

数見　そうだと思いますよ。表立って発言はしないだけで、気持ちの中には当然、あると思います。

――それは空手として当然の取り組みであるという考え方もあるんでしょうけども、一方でかなりリスキーでもありますよね。数見師範の実績と名前があれば、フルコンタクト空手の指導に専念していても安泰というか、まあ俗な言い方をすれば充分に商売になるわけじゃないですか。それをあえて踏み込もうというんですから。

数見　結局、それだと自己満足にしかならないんですよね。最初にも言いましたけど、指導をするってことは生徒に生き方も学んでほしいですから。それはキツい思いとか嫌な思い、苦しい思いも含めて学んでいくことなので、ラクなほうに行っちゃいけないんですよ。

――数見師範も総合の練習、スパーリングなんかをかなりされてきたんですか。

数見　そうたくさんではないんですが、実際に練習してみました、はい。

――実際に関節を極められたり、首を絞められたりっていう経験も……。

数見　しましたね。新鮮でしたし、"こうなったときが危ないんだな"っていうのを肌で知ることができましたね。

――その中で気づかれたことって何かありましたか。たとえば"実際にやってみると、考えもしなかったこういう部分があった"とか、"やっぱりこれは通用するな"とか。

数見　両方ありましたね。いままでやってきたことでよかったのは、重心の部分。腰を重くするというか。それはどんな競技でも共通するんだなと思いましたね。

第7回全世界空手道選手権大会の決勝で数見はフランシスコ・フィリォと対戦。本戦、延長と凄まじい激闘をかわした二人の対決は旗判定でも決着がつかず、結局、勝敗は試割り3枚差でフィリォに軍配。フィリォは外国人として初めて世界大会の頂点を飾った。

「合理的じゃない」なんていう人はやらない言い訳を探しているだけ

——数見師範の組手は、とくに腰をどっしり落とした構えでしたからね。

数見　そうですね。そこは活かせるなと。逆にいままでになかったのは、フルコンタクト空手の場合、打ったあと、蹴ったあとに隙が多いんですよ。総合格闘技の場合、どんな瞬間でも気を抜けないんですよね。そのルールに慣れてるかどうかって部分もあるとは思うんですが。

——打撃の試合の場合、クリンチ状態になったら〝待て〟や〝ブレイク〟がありますからね。でも総合だと、そこからまた攻防が続くわけで。

数見　一番怖いのは、〝待て〟や〝ブレイク〟がある試合に慣れきってしまって、稽古自体が馴れ合いにようになってしまうことなんですよ。

——最終的な理想形は、やはり一撃で相手を倒すということになるんですよね？

数見　いや、専門的なことをいえば、一撃では相手は倒れないんですよ。というより、まず当たらないですね、一撃で倒そうっていう欲があると。

——実際の試合でも、よくセコンドが「狙うな！」とか「一発じゃなくて散らせ！」っていいますよね。

数見　現実的には、一撃で倒そうとすればするほど倒せないものなんですよ。そういう実際の技術的な面でもそうだし、稽古における〝欲を捨てる〟っていう部分にも、それはつながってくるんですけどね。一撃で倒すっていうのは、だから結果論だと思いますね。先ほども言ったように自分の手と足を武器にまで高めておけば、結果的にそうなることもあるという。

——数見師範が考える理想の闘い方というのは、いまの選手では誰に近いですか？　やはりミルコ選手とかシウバ選手になるんでしょうか。

数見　僕が考えているのは、打撃の威力で相手を近づかせない、言ってみれば距離の問題だけではないんですよ。

——ジャブや前蹴りで距離を遠ざけるとか、タックルに入られる前にKOするといったものだけではないと。

数見　もっと精神的な部分も含めての〝入らせない〟が理想だと思いますね。実際に攻撃する以前の段階で、相手が怖くて接近できないという。

——それこそ、触れる前に眼力だけで相手に勝てるというような。そういう試合、一度見てみたいですねぇ。

数見　そのためには、肉体的にも精神的にも逃げない姿勢っていうのが大事になってくるんですけどね。

——そうか。そういう面でも武道的、武術的なスタンスっていうのが活きてくるわけですね。それプラス、「総合格闘技というものがあるんだったら、そこから逃げちゃいけない」という姿勢であり。

数見　僕自身もそうなんですけど、ボクシングだったり柔道だったりレスリングだったり、いろんな格闘技がある中で、どうして空手を選んだかっていうことなんですよ。それはやっぱり、「ケンカに勝つなら空手だ」っていう思いがあったからなんですよね。だったら、いかなるルールであっても空手で勝てるように追求したいですよね。

——もう一つ、我々が空手家に期待する理由が〝幻想性〟みたいな部分なんですよ。たとえば、空手には一見、非合理的に思える稽古の伝説がありますよね。肉が削げて骨が見えるまで巻き藁を突いたとか、数見さんも完遂された百人組手であるとか。それが試合に役立つかどうか、科学的な根拠があるわけじゃないんだけれども、でもそれをやった人は間違いなく強いだろうという。

数見　ああ、それはつまり〝●●●じみた稽古〟ってことですね。

——そうです、まさにそうです（笑）。そういう姿勢は、凄く大事じゃないかなと思うんですよ。いまは科学的なトレーニングとか、合理的な練習っていうのが全盛なんでなおさら。

数見　合理性ばかり追っていくと、結局スポーツで終わっちゃうような気がするんですよね。自己満足というか、ちょっといい汗かいて終わるとかね。でも、骨が見えるまで拳を鍛えるっていうことでスポーツから〝道〟につながると思いますね。その世界にどこまで没頭できるかという、生き方まで含めた姿勢というか。

——やはり数見師範はそういう姿勢のほうが、まあ好きという言い方もなんですけども（笑）。

数見　好きですね、はい。方法論が合ってたかどうかっていうのは結果としてあると思うんですけど、どんなことであれやって無駄なことってないと思うんですよ。

——はいはいはい。

数見　「これはやっても無駄」とか「合理的じゃない」なんていうことはね、やった人間にしか言えないことなんですよ。

——やってもいないのにわかるのかよ、と。

数見　「合理的じゃない」なんていう人は、結局やらない言い訳を探してるだけじゃないかと思いますね。僕が選手のときでいうと、あんまりたくさんの練習方法を取り入れるタイプじゃなかったんですよ。

——「最新のトレーニング方法があるからやってみよう」というのではなく。

数見　それよりも稽古の時間とか量ですね。そこで自分を徹底的に追い込んでみよう、という。

——いいですねぇ。〝幻想性〟っていうのは、まさにそこから生まれるんじゃないかと思いますね。たとえばサンドバッグは何ラウンドくらいやるのが一番効果的で、それ以上やるんだったらスパーリングに時間を使ったほうが効率がいい、とかではなく……。

数見　そうじゃないんですよね。サンドバッグはサンドバッグで徹底的にやるし、スパーリングはスパーリングで徹底的にやればいいんであって。

——バランスの問題じゃないわけですね。

数見　バランスではないですね。とにかく全部、徹底的にやる。で、血尿が出て満足感を覚えたりね。

——逆に言うと、血尿が出ないと満足できないという。

数見　あとは砂袋を蹴ったあとに、鉄パイプでスネを殴ったりであるとか。でもそれは「試合には役に立たない稽古だけど」とは思わなかったですね。「どんな頑丈な外国人が相手でも、この鍛えた足で骨をへし折ってやるんだ」っていう、そういう気持ち

02年8月28日『Dynamite!』では、数見の先輩にあたる岩崎達也がヴァンダレイ・シウバと対戦。岩崎はヴァンダレイの怒濤の打撃によりあえなく敗戦を喫してしまったが、以前、数見に話した「総合から目を背けてはいけない」という言葉を自らの身体を張って示してみせた。

所英

〝空手バカ一代〟幻想ふたたび

数見 肇

かずみ・はじめ■1971年12月14日、神奈川県出身。極真に全日本選手権大会では前人未到の5度の優勝をはたし、4年に一度の全世界空手道選手権大会には二度出場、いずれも準優勝という結果を残している。また、99年には極真空手の究極の荒行である『百人組手』を達成。02年に現役空手を引退し、その後、日本空手道・数見道場を設立。最近、同道場で打撃系総合格闘技部門『RI-KWON-DO』を開設した。

でしたから。

――「正しいフォーム」とか「効かせる個所はここ」っていうのと同時に「誰よりも硬いスネを作ってやる」と。

数見　効率よくやるのは大事なんですけど、それが小賢しくなっちゃ駄目ですからね。小手先というか。それに、なんでも実際にやってみると経験値になるんですよ。「今日はここまでやる」って決めても、やっぱり人間って手を抜きがちじゃないですか。そういう気持ちとの闘いであったり、あとは我慢。

――我慢するということ自体が稽古になるんだと。

数見　「これだけのことをやってきたんだ」っていう我慢してきた経験が、試合での自信にもつながりますからね。それも、やらされる稽古じゃ駄目なんですよ。自分で決めた練習メニューで手を抜いてしまうと、自分の場合もの凄く自己嫌悪に陥るんですよね。だからこそ徹底的にやるし。

――「やった人間じゃないと無駄だとは言えない」というのは、総合格闘技に打って出る姿勢にもつながりますよね。

数見　そうですね。やっぱり若いうちは、やらないで自己満足するんじゃなくて、実際にやってみてほしいんですよ。そのための環境を、僕は『RI―KWON―DO』という形で作ってあげたかったんです。僕自身「もしオレが若かったらやってみたかったな」っていう思いはありますし。

――数見師範が「現役だったらコイツとやってみたかったな」っていう総合ファイターって誰かいますか？

数見　具体的に誰っていうわけじゃないんですけどね。それに、いまの自分があるのはフルコンタクト空手の試合を徹底的にやってきたからですから。極真の試合を中途半端にしたままで総合に行くっていうのは、僕はしなかっただろうし、やっちゃいけないと思いますね。「空手じゃ駄目だから総合に行く」とか、そういう姿勢では結局、総合でも勝てないと思いますよ。

――どんな試合を選ぶにしても、まずはそれを徹底的にやれと。

数見　何かを徹底的に追求した人間なら、ほかの分野に行ってもどこかで通用する部分を見出せるはずなんですよね。それが〝生き方を学ぶ〟っていうことでもあるでしょうし。

――空手を極めた人間であれば、違うジャンルでも強さを発揮できるはずだっていう。

数見　それは思いますね。まして空手っていうのは、さっきも言いましたけど本来〝なんでもあり〟の武術なわけですから。それは試合に限らずですよね。僕の原点にあるのは、やっぱり漫画の『空手バカ一代』や映画ですから。『地上最強のカラテ』とかですね。あの中に出てくるのは試合だけじゃないですからね。空手で牛を倒すとか熊を倒すとかね、そういうロマンに惹かれるんですよね。

――「鍛え上げたスネでどんな屈強な外国人でも倒す」ってお話がありましたけど、その先には「牛でも倒す」「熊でも倒す」というロマンがあるわけですね。

数見　ありますね。現役を引退しても、そういうロマンって消えないものなんですよ。現役時代にもありましたけど、いまは試合の枠にとらわれなくなったぶん、余計に強まったっていうところはありますね。あとはケンカですよね。実際にはやらないんですけど、でも頭の中では「相手が3人だったらどうする」、「5人だったらどうする」、「刃物を持ってたらどうする」っていうのを常に考えてましたよ。

――素晴らしいですねぇ。

数見　いまの選手はわからないですけどね。僕の時代は漫画でも、いまはテレビでやってる格闘技に憧れて道場に入る人が多いでしょうから。

――でも、テレビを見て格闘技を始めた人と牛殺し、熊殺しをロマンとして抱いている人では、最終的な強さで差があるような気がするんですよ。

数見　それはあるでしょうね。テレビは現実そのままですけど、漫画の世界には誇張もあるわけじゃないですか。でも、こっちはその誇張を信じて、実現したいなと思ってやってきましたからね。

――では、数見師範自身の次の目標は牛殺しということで。これはぜひやっていただきたいですねぇ。

数見　まあ実際にやるかどうかはわからないですけど（笑）。でも常にね、〝何かとてつもないことをやってやろう〟っていう姿勢は持ち続けたいですね。というより、そういう気持ちっていうのは一生抜けないと思います。

【06年12月5日／数見道場にて収録】

数見道場に総合格闘技部門「RI-KWON-DO」開設!

数見肇代表師範、岩崎達也最高師範が率いるRKLが打撃系総合格闘技部門『RI―KWON―DO』を開設！　道場内にオクタゴンを備えた数見道場にて、プロ、アマ問わず練習できます。強くなりたいヤツは、すぐ問い合わせよう！
【住所】東京都品川区中延4―6―16
【TEL】03―5751―7833

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック

宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！　一度加入したら絶対やめられなくな

所英男×宇野勝

所英男、憧れの人とついに対面！

プロ野球界の〝伝説の男〟が奇跡のkamipro初登場!!

中日ドラゴンズ打撃コーチ

少年時代、プロ野球選手を目指していた所英男が、憧れの名選手とついに対面！　80年代の中日ドラゴンズで本塁打を量産する大型遊撃手として活躍。その一方で、“ヘディング事件”を始めとしたスリリングな守備で、“ミスター珍プレー好プレー”とも呼ばれる宇野勝が奇跡のkamipro初登場をはたしてくれた。現在も語り継がれる数々の伝説の真実が、いま明かされる！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫

designed by Tani-yan（Two Three）

所　あ、どうもはじめまして。所英男です！

宇野　はじめまして（ニッコリ）。

――宇野さんは所選手のことはご存知でしたか？

宇野　はい、知ってます。

所　ありがとうございます！　光栄です！

――所選手は子どもの頃からのドラゴンズファンなんですよね？

所　はぁい。そうなんです。子どもの頃からずっと。今日もこのホテルの部屋に来るまでに、ロビーでいろんな選手にお会いして（※当日、中日ドラゴンズ優勝祝賀パーティが行なわれていた）興奮して、完全に一ファンになってました（笑）。

宇野　そうなんですか。じゃあ、パーティ会場に来ればよかったのに。

所　い、いや。そんな、恐れ多くてとても……。でも、嬉しかったです。

宇野　出身はどちらですか？

所　あ、岐阜なんです。

――岐阜県はドラゴンズエリアですよね。

所　はぁい、モロ、そうです。

宇野　愛知県の隣ですからね。でも、同じ隣県でも意外と三重県は違って、阪神ファンが多いんだよね。

――所選手はドラゴンズの中でもとくに宇野さんの大ファンだったんですよね？

所　はぁい。宇野さんに憧れてて、それでずっと野球やってたんですよ。子どもの頃はドラゴンズに入るのが夢だったんですけど、僕の実力じゃ、まったくかすりもしませんでした（笑）。

宇野　僕を好きな人っていうのは、個性が強いんですよね。僕はいまの福留（孝介）みたいに成績が安定してませんでしたから。ときには打つけど、ときにはとんでもないことやっちゃうタイプだったんでね（笑）。

――ダハハハハ！

宇野　だから僕のファンは、野球選手目指してたのに、途中から格闘技に行っちゃう人が出てきたりしちゃうのかな（笑）。

――所選手もときには凄い大物選手に勝つんですけど、逆に意外と勝てそうな選手にコロッと負けちゃったりするんですよ。そのあたりが、ある意味、"宇野イズム"を受け継いでるのかなと（笑）。

宇野　僕の現役時代もそういう選手が多かったですよ。いまの選手は野球をやる姿勢が真面目だし、まぁ、僕が真面目じゃないというわけじゃないけど（笑）。

――当時のドラゴンズは"野武士軍団"と呼ばれたぐらいですから、豪快だったんでしょうね。

宇野　やっぱり星野（仙一）さんを筆頭に、谷沢（健一）さん、大島（康徳）さんとかね、アクの強い人が多かったですよ。はい。

――所選手はいつ頃から宇野さんのファンだったんですか？

所　ちょうど中日のユニフォームが変わったときに、オープン戦で何本も連続でホームラン打ったところを見て、子どもながらに凄い選手だな、と思って大ファンになったんですよ。

宇野　１９８７年。監督が星野さんに代わった年ですね。たしかに、あの年はオープン戦でけっこう打ちま

僕はときには打つけど、とんでもないこともやっちゃったから（笑）

宇野さんに憧れて野球やってたんですけど僕自身は全然ダメでした（笑）

宇野勝 × 所英男

宇野勝伝説

長嶋茂雄、ガッツ石松、マサ斎藤……愛すべき真の男たちには、必ずファンからファンへと語り継がれ、真偽のほどは定かではない"伝説"が数多く存在する。そしてプロ野球界において"ミスター"長嶋茂雄と並ぶ伝説の持ち主こそ、この宇野勝である。ここでは、そんな宇野勝の素晴らしき伝説をいくつか紹介しよう。

【ヘディング事件】

1981年8月26日、後楽園球場での巨人×中日戦。巨人はこの試合まで、前年から158試合にわたって連続得点を記録。なんと一年以上にわたって完封負けがないという超強力打線だった。その巨人の記録を止めるべく意気込んでいたのが、打倒巨人に執念を燃やす中日のエース星野仙一。星野は気迫溢れるピッチングで6回まで巨人打線を二安打無失点に抑える完封ペース。しかし7回に事件は起きた。

7回二死一塁、巨人・山本功児がショート後方に内野フライを打ち上げ、星野がスリーアウトチェンジを確信しベンチに戻りかけたそのとき！　なんとショート宇野が打球をグラブではなく、頭で受けとめてしまったのだ！

宇野の頭に当たったボールは大きく跳ね返って外野を転々とし、その間に一塁走者がホームイン。あわれ星野の巨人連続得点記録阻止は夢と消え、星野はグローブを地面に叩きつけて激怒したのだった。

【珍プレー好プレー誕生事件】

前記の"ヘディング事件"はフジテレビ『プロ野球ニュース』（『すぽると！』の前身）内の「珍プレー好プレー」コーナーで取り上げられ大反響。『プロ野球珍プレー好プレー大賞』というスペシャル番組として独立させるきっかけとなった。あの名物番組は、宇野によって生まれたと言っても過言ではないのである。そのほかにもTBS『風雲！たけし城』で「君も宇野くん」なるヘディングゲームが登場するなど、宇野の"偉業"は各方面に衝撃を与えたのであった。

【失策王伝説】

宇野のエラーといえば、ヘディング事件が特別というわけではなく、当時のドラゴンズファンから「チョンボのうーやん」の愛称で呼ばれるほど有名であった。1979年、初めてレギュラーの座をつかんだ宇野は、失策27で早くも失策王の座に輝くと、その年から4年連続で失策王に君臨。さらに一年おいて二年連続失策王を獲得し、最終的には通算7度の失策王獲得をはたすという、ハ

したね。シーズンに入ったらダメだったけど（笑）。

——ダメでしたか（笑）。

宇野　シーズンに入っても4月は良かったんですよ。

所　オールスター前までにホームラン22本打たれたんですよね。

宇野　そうです、そうです。そこから失速しました（笑）。

——所選手は子どものころ、野球やるときは宇野さんのマネとかしてたんですか？

所　はい、やってたんですけど、僕自身は打てませんでした（笑）。

宇野　あんまり真似しないほうがいいかもしれないね（笑）。なんで格闘界に入ったの？

所　高校まで野球やってたんですけど、まったくダメで。野球やりながらも前田日明さんのいるリングスという団体が好きで、格闘技のジムにチケットを買いに行ったら、ジムの人に誘われて始めた感じですね。

宇野　でも、格闘技って痛いでしょ？

所　あ、はい。試合は痛いです（笑）。

宇野　それに人と闘うって怖いよね。

所　でも、バッターも怖くないですか？

宇野　やっぱりデッドボールは怖いですよ。僕も二回凄いの当たったことありましたけど、ヘルメットの上からでも腫れますからね。格闘技でも自分より大きい人と闘うときはおっかないでしょ？

所　やっぱ怖いですね。でも、乱闘で外人が向かってくるほうが怖いかもしれないです（笑）。

宇野　あれも怖いよね！　彼らの腕は凄いですから。タイロン・ウッズなんてもの凄い腕してますよ。

所　アレックスの背筋とか凄いですよね。あと昔、ディステファーノっていましたよね？

宇野　あいつはマフィアみたいなもんだから！

——マフィアですか！（笑）。

宇野　イタリア系でケンカっ早いんですよ。もともとボクシングかなんかやってて、**大宮さんとの乱闘**観た？

所　観ました！　オープン戦なのに退場になったんですよね（笑）。

宇野　あんときバッコンバッコン殴ってね。悪いヤツだったな～。

所　乱闘になると必ず出てきてましたよね？　当時のドラゴンズで**乱闘といえば、**ディステファーノと**小松崎さん**って感じで（笑）。

宇野　ディステファーノは野球全然やらないんだよ（笑）。格闘技はやっぱり練習もキツいですよね？

所　キツいことはキツいんですけど、好きなことをやってるし、時間的には二時間ぐらいなんで大丈夫です。

宇野　俺は練習キツくてしょうがなかったけどな～（笑）。

——プロ入り当時は相当練習したんじゃないですか？

宇野　でも、いまの子と比べたらどうかわからないですけどね。いまの子の練習はキツいですよ。

所　ドラゴンズの練習量は12球団イチだって言いますよね。

宇野　それぐらいやらなきゃ勝てませんからね。勝負の世界ですから、自分の成績が上がらないと、気持ちがどんどん滅入っていって、僕も「野球やるの嫌だな」みたいなことを考えたこともありますよ。いいときは、こんな楽しい商売はないな、と思いますけどね。

——数字が残る世界ですからね。

宇野　所選手も勝ち負けの世界だから大変でしょう。

所　はぁい、そうですね。

宇野　いまいくつ？

所　29歳です。

宇野　荒木なんかと一緒か。

所　はぁい。福留選手とか。

宇野　スポーツ界一般で一番力が出るときじゃないですかね。30歳前後というのは。35歳ぐらいまでいいんじゃないかな。

——宇野さんはドラゴンズのコーチになられて3年ですけど、コーチ就任一年目の頃はキャンプで選手以上にバット振ってたって噂を聞いたんですけど（笑）。それはホントなんですか？

宇野　たしかにバットは振ってましたね。僕は現役時代、ナゴヤドームでプレーしたことないんですよ。ナゴヤ球場しか経験してないんで。それでコーチに就任したとき、「この広いドームでも（ホームラン）入るかな？」と思っちゃったんですよ。

——なぜかコーチなのに自分がホームラン打てるかどうか気になっちゃいましたか（笑）。

宇野　それである日、ナゴヤドームでフリーバッティングの練習するのに、ゲージがセッティングされてて、バッターより先にバッティングピッチャーが準備してたんで、そのとき打たせてもらったんです。そしたらホームラン入ってね（笑）。

所　凄いですね！

これが数々の伝説を残した宇野コーチの現役時代の勇姿だ！　そのスリリングな守備で通算７度の失策王という栄冠に輝き、『珍プレー好プレー大賞』では毎年主役級の活躍。その一方で、遊撃手として史上最多本塁打を記録するなど、まさに記憶にも記録にも残る男、それが宇野勝なのだ。

ーリー・レイスのNWA王座もビックリの大記録を打ち立てることに成功した。

こんなエラーの多い宇野だが、意外と難しい打球をダイビングチャッチしたりするファインプレーも多く、じつは名遊撃手との評価もある。そしてなによりエラーを取り返すほどのバッティングが最大の魅力だった。

ちなみに三振王も二度獲得。本塁打王を獲得した84年は、じつは失策王、三振王と合わせた〝隠れ三冠王〟でもあったというから、さすがなのである。

【遊撃手歴代最高本塁打伝説】

宇野はこのほかにも、インタビュー中でも語られているユニフォーム忘れ事件、一塁走者を追い抜いてアウト事件などを始め、数多くの伝説が存在する。ファンのあいだで語られている真偽が定かではないものも含めると、数えきれないほどだ。しかし、宇野の魅力は珍プレーだけではもちろんない。自慢のバッティングがとにかく凄かったからこそ、ファンからも愛され続けたのである。

84年に37本塁打で本塁打王に輝いた宇野は、翌85年には年間41本塁打を記録。この年は阪神のランディ・バースが年間54本塁打という記録を残したため、二年連続の本塁打王とはならなかったが、遊撃手の41本塁打は前人未到の記録であり、いま現在も遊撃手としては歴代最高記録なのである。

※注釈 **【大宮さんとの乱闘】**

90年3月15日、ナゴヤ球場で行なわれたプロ野球オープン戦、中日×西武。この年から中日に助っ人として入団したディステファーノは、西武・鹿取投手の投じた死球に激怒！　鹿取にバットを投げつけ、さらの止めに入った西武の捕手・大宮竜男をボコボコに殴りつけ、オープン戦史上初の退場となった。ディステファーノはシーズンに入ってからも、乱闘時には活躍したものの、肝心のバッティングはさっぱりであり、打率2割1分5厘のていたらく。8月にはあっさり解雇となったが、いまだにドラゴンズファンの心に残る伝説の助っ人である。

【乱闘といえば小松崎さん】

小松崎善久。１９８０年から91年まで中日ドラゴンズに在籍した（90年のみ日本ハムファイターズ）外野手。打率は2割そこそこで決していいとは言えなかったが、乱闘の際には真っ先に飛び出すことから、岩本好広内野手と並んで、星野政権の下、〝乱闘要員〟としてベンチ入りしていると噂された。

宇野　いま48歳だから、45歳のときですけど、意外と入るんですよ。それで選手の練習前、僕が何度か打たせてもらったんですよ。

―選手として現役を引退したいまも"バットマン"なんですね。

所　宇野さんはコーチになる前、現役が終わってからマスターズリーグで打撃開眼したってホントなんですか？（笑）。

宇野　はい、コーチをやる前にね。もっと現役時代に開眼してたら良かったんだけど（笑）。

―その"伝説"はホントでしたか。

宇野　マスターズリーグは楽しかったですね。真剣にはやるんですけど、あまり真剣にやると足切れちゃうから、無理はしないでね。

―宇野さんはマスターズリーグの試合で、『中日スポーツ』の一面を飾ってるんですよね（笑）。

宇野　現役時代だったらよかったんだけど、なぜか引退してから飾っちゃってね（笑）。

―それぐらい引退してからも名古屋のドラゴンズファンに愛されてたってことですよね。今回、宇野さんの取材をさせていただくにあたって、インターネットでいろいろ調べさせてもらったんですけど、宇野さんの伝説的なエピソードが次から次へと出てくるんですよ（笑）。

宇野　それはだいたい星野さんマジックですよ。

―星野さんマジックですか（笑）。

宇野　この前、フジテレビの『ジャンクSPORTS』で星野さんがゲストだったんで、僕のところにもVTR出演してくれってお話がきたんですよ。でも、ちょうど阪神さんと熾烈な優勝争いしてる最中だったんで、「ドラゴンズコーチの宇野が、阪神の星野シニアディレクターと珍プレーの番組に出てたぞ」って言われたらまずいんで、さすがに断っちゃったんですよ。

―さすがにまずいですよね（笑）。

宇野　まぁ、いいんでしょうけどね、僕だったら（笑）。

―もし出演してたら伝説のヘディング映像とかも使われたんでしょうね。

宇野　あれもいろんな人に言われるんですよ。しかも尾ひれがついて。ボールが頭に当たってそのままスタンドインしたとか（笑）。

―ダハハハ！　そんなに話が大きくなってますか（笑）。

所　あれはフライを捕るときに、ライトが目に入ってしまったんですか？

宇野　いや、下手だっただけです（笑）。

―そうでしたか（笑）。あの事件がきっかけで、ある意味、宇野さんの名前が全国区になった部分ってありますよね。

宇野　だから、最初の頃は言われるの嫌でしたけど、途中からはもう「おまえらもやれるもんならやってみろ！」とか言って開き直ってますよ。

―でも、80年代のドラゴンズってそういった宇野さんを筆頭に個性的なメンバーが揃ってて、当時の打順をいまのファンでも覚えてるぐらいインパクトがありましたよね。

宇野　そうですね。それはいまも同じことがいえて、荒木、井端という1、2番がしっかりしてて。打順がしっかり固定できてるときは強いってことですよね。あと、たしかに僕の時代はみんな個性強いッス！　おっかないッス！

―おっかないですか（笑）。そのおっかない代表選手というと……。

宇野　星野さんです（即答）。

―やっぱり星野さん（笑）。

宇野　僕は高校卒業してすぐプロ入りして、一年目で一軍入りしたんですけど、一軍のベンチのピリピリした感覚がね、いまでも思い出しますけど、もう毎日一時も気が休まらないくらいでしたね。

―そのおっかない星野さんがとくに燃える巨人戦で、完封目前というときに、あの"ヘディング事件"を起こしちゃったわけですよね（笑）。

プロ野球選手に憧れ、野球少年だった所が初めて甲子園球場へ行ったときの写真。周りが少年野球の帽子を被る中、一人中日の帽子を被るほどのドラゴンズファンだったのだ。

宇野　そうなんですよ（苦笑）。ジャイアンツがあのとき160試合連続得点記録というのを作ろうとしてて、星野さんが完封してその記録を止めようと燃えてたんですよね。それで7回まで0点で抑えて、富田（勝）さんのタイムリーもあってリードしてたんですよ。そんなときに、僕が内野フライをヘディングしちゃって、ジャイアンツに得点許しちゃったんですよ（笑）。

―よりによってそんなときに（笑）。

宇野　でも、7回でツーアウトまでいってたところで、僕の前に谷沢さんがエラーしたんですよ。谷沢さんがエラーしなかったら、そこでスリーアウトチェンジで僕のヘディングもなかったと思うんですけど（笑）。

―ダハハハ！　あれ取ってくれてれば終わってたのに（笑）。

宇野　しかも、ちょうど後楽園球場にビジョンが設置されたばっかりの年だったんですよ。だから、あのエラーのあと、なんとかスリーアウトになってベンチに戻るとき、球場が沸いてるから「何かな？」と思って振り返ったら、ビジョンでリプレイしてるんですよ（笑）。

―ダハハハ！　最新機器がそんなところでさっそく役に立ちましたか（笑）。

宇野　それに、ちょうどそのとき兄貴が後楽園に来てて、あのシーンを兄貴が観てるんですよ。ホントに穴があったら入りたいというのは、このことです。

―試合後、星野さんには何か言われましたか？

宇野　まだ、あの頃はペーペーで一軍の一番下のほうでしたから、逆に星野さんが気を使ってくれて「メシ食いにいくか？」って誘ってくれたんですよ。

―そのとき、食事に誘ってくれた星野さんの車に追突したという伝説は事実じゃないんですか？

宇野　いや、事実です。

―事実でしたか！（笑）。

宇野　星野さんが「メシ連れていくから、俺のあとについてこい」って言うんで、車で後ろからついていったんですけど、球場出てすぐのところで星野さんの車が停まったら、そのままコツンと追突しちゃったんですよ。

―今度は車でヘディングしちゃった、と（笑）。

所　おもしろいですね（笑）。

宇野　こっちはおもしろいどころじゃないけどね。

所　でも、宇野さんってエラーがあったりしても、毎回バットで返してた印象がありますよ。

宇野　やっぱりエラーしたあとっていうのは、絶対に（点を）取り返してやろうと思ってましたし、俺にはそれしか返すものがないという考えは持ってましたね。いつもはちゃらんぽらんですけど、そういうときはとくに気合いが入りましたね。

―ユニフォームを忘れてコーチのユニフォームを借りて試合に出場したときもホームラン打ったんですよね（笑）。

宇野　ありましたねぇ（しみじみ）。

ユニフォームと間違えてパジャマを持ってきたというのはさすがに作り話ですよ（笑）

そういう話をみんなが本当のことだと信じちゃうのが凄いですね（笑）

宇野勝×所英男

あれはねぇ、移動日なしの遠征だったのがいけないんですよ。ユニフォームって僕以外にも忘れてる人はけっこういるんです。田尾（安志）さんも忘れてるし。でも、みんな月曜日とか試合のない移動日に気づくから試合には間に合っちゃうんです。でも、僕の場合は移動日なしのときに忘れたんで、試合直前にバッグを開けたら、なんか荷物が少ないんですよ。

――ユニフォームがないわけですからね（笑）。

宇野 それでおそるおそるコーチに「あの……ユニフォーム、ないっス」って言ったら、コーチが貸してくれたんですけど。他人のユニフォームを借りるとなると、背番号が違うわけじゃないですか。だから相手球団に許可をもらわなきゃいけないんですよ。

――そうなんですか。

宇野 それで相手球団が「ダメ」って言ったらダメなんですよ。そのとき、相手が大洋ホエールズで関根（潤三）さんが監督さんだったんですけど、「いいよ」って言っていただいたんで77番の背番号つけて出られたんですけど。

――ホントは背番号7なのに、その日だけ77番（笑）。

宇野 ちゃんとメンバー表も全部「77」に変更するんですよ。

――そうなるとお客さんにはモロバレですよね（笑）。

宇野 モロバレで、もちろん大笑いされました（笑）。

――で、その試合でホームランかっ飛ばしたんですよね？

宇野 二本打ちました。

――二本もですか！ 凄いですねぇ。やっぱりそういう記憶に残るプレーがたくさんあるんですね。高校時代、ユニフォームと間違えて、似た柄のパジャマを持ってきたというのはホントなんですか？（笑）。

宇野 それはさすがにないよ！

――それは単なる伝説でしたか（笑）。

宇野 さすがにユニフォームとパジャマは間違えないでしょう。それはかなり作ってますね（笑）。

所 でも、みんなが本当だと思っちゃうところが凄いですよね（笑）。

宇野 ただ、スパイクとグラブを忘れたことはありましたね。そのときはさすがに監督さんも怒ってゲーム出してもらえませんでしたけどね（笑）。……ちょっと、タバコ吸っていいですか？

所 あ、はい。大丈夫です。

宇野 格闘家はタバコ吸わないんですか？

所 吸わない人が多いですね。

宇野 お酒は？

所 お酒もあんまりは飲まないですね。

宇野 そうですか。格闘技系の方は飲むイメージがあるんですけどね。

所 いまはそうでもない人が多いですね。

――所選手の師匠である前田日明さんの世代とかは凄いんですよ。

所 ドラゴンズも宇野さんの現役時代はお酒のほうも凄かったんですか？

宇野 そんな浴びるように飲みませんでしたよ。星野さんは飲まなかったですしね。いまの選手もあんまり飲みませんね。とくにシーズン中は飲まないんですけど。

――ドラゴンズは新日本プロレスのレスラーと接点がけっこうありましたよね？

宇野 それも星野さんのつながりですね。猪木さん、藤波さん、木村さん、藤原さんたちと食事したりする機会はよくありました。

――その時代の新日本プロレスの方々はよく飲みますよね？

宇野 強烈なイメージでしたね。

所 メンバー聞いただけで凄そうですね（笑）。

宇野 この人たちが街歩いてて大丈夫かな？ みたいな。とくに藤原さん（笑）。

――やっぱり組長は凄いですか（笑）。宇野さんも酒豪だと聞きましたけど。

宇野 いや、僕は飲みますけど強くないですね。強いのは野球選手にたくさんいますからね。僕は両親が飲まないし。それにファンの目があるんで、そんなに酔えないんですよ。

所 名古屋とかで飲んでたら言われますよね。

宇野 だから現役時代は名古屋ではほとんど飲んでないですね。みんな自分のこと知ってるんで。だから現役時代、遠征先の大阪とか東京は知ってても、名古屋の街は知らないんです。やっぱり現役時代に名古屋で飲んでたりすると、モメる機会が多いんですよ。

所 モメるってどういうことですか？

宇野 「負けてるくせに、酒飲みやがって」みたいに言われたりとか。

所 ああ、なるほど。

宇野 だからいまの選手も現役中はあんまり地元で飲まないんです。

――野球選手ってそうですよね。「打ってないくせに」とか言われがちですよね。

宇野 そう！ こっちも「おまえに飲ませてもらってるわけじゃねぇ！」とか言っちゃったりね（笑）。

――ナゴヤ球場は狭かったから、野次とかもキツかったんじゃないですか？

宇野 よく聞こえましたよ。けっこうキツいっス。僕の場合、とくに野次の多い選手じゃないですか？

――そうなんですか（笑）。

宇野 応援もたくさんしてもらったんですけど、野次も多かったんで、球場に家族を呼んだことないんですよ。呼んだのはオールスターだけですね。オールスターは野次られないんで。

――いやぁ、大変ですね。プロ野球選手は。

宇野 罵声の少ない選手はいいんでしょうけどね。

――所選手も両親が来てる前で、負ける姿を見せたりするのはつらいですよね。

11.23『ZST.11』4周年記念大会 ディファ有明 DIGEST

所さんはタッグマッチに出場。バレット・ヨシダとGT-F王者コンビを結成して、稲津航&佐東伸哉組と対戦。スピーディーな動きで積極的に極めにいったが、タッグということもあり一本は奪えず時間切れドローとなった。

小谷直之が、2月に所を破ったエリカス・ペトライティスと対戦。エースとして4周年大会のメインを勝利で締めたいところだったが、序盤いきなりダウンを奪われ、そのまま悔しいドロー。

矢野卓見が柔術世界王者フーベンス・シャーレスとグラップリングマッチで対戦。結果はドローながらもパワー差で攻められまくった矢野は試合後「十段（今成正和）と闘ってほしい」とコメント。

"骨法の狂気"の異名で90年代に大原学に次ぐ骨法のエース格だった小柳津弘が参戦。初期骨法道着で登場し、掌打、浴びせ蹴りなど骨法技で攻め込んだが、長井憲治にドクターストップ負け。

リングス最後の新人、伊藤博之が30キロ近い減量をして久々にMMA出場。頭を丸め気合い充分だったが、"ミニホンマン"奥出のトリッキーな動きに翻弄され、劣勢のまま時間切れ。

撮影／乾晋也

所英男 × 宇野勝

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。少年時代から宇野勝に憧れ野球に打ち込むが、甲子園出場は叶わず、プロは夢のまた夢となり、クリーニング専門学校へ進学。その後、白洋舎に就職するもプロ格闘家目指し退職。闘うフリーターとなり、昨年、『HERO'S』で大ブレイクした。170cm、68kg。

うの・まさる■1958年5月、千葉県出身。銚子商業高校で76年に夏の甲子園に出場。77年にドラフト3位で中日に入団。84年には本塁打王に輝き、85年には遊撃手として史上最高となる41本塁打を記録した。92年にロッテに移籍。94年に現役引退し、04年より中日打撃コーチに就任した。

すよね？

所　そうですね。負けるぐらいならいいんですけど、親の前で失神したりすると、やっぱり悪いことしたなと思いますね。

宇野　そうだねぇ。ウチもおふくろは一回も球場で観てませんね。兄貴は何度か来てますけど。所さんは、年末これから忙しいんでしょ？

所　そうですね。はぁい。大晦日に試合があるんで。

宇野　大晦日まで試合するんだから大変だよね。その点、野球選手は12月は一番のんびりしてるからね。

所　でも、シーズン中はずっと大変ですよね。

宇野　シーズン中は毎日気が張ってますけどね。12月1月は休みなんでね。大晦日はどこでやるんですか？

所　大阪ドームです。去年もやらせていただいたんですけど、デカさにビビりました。

宇野　じゃあ、今度はナゴヤドームで闘うのもいいんじゃないの？

所　やってみたいですねぇ。でも、欲を言えばドームじゃなくて、ナゴヤ球場のほうでやってみたいですね。子どもの頃から憧れてた球場だったんで。ナゴヤ球場で野球はできなかったんですけど、格闘技でやってみたいなって。

宇野　でも、ナゴヤ球場は照明取っちゃったんで、夜はできないね。昼間の野外っていうのも雰囲気いいかもね。

所　やってみたいですね。それが僕の夢ですね。

宇野　空が見えるのがいいよね。

――やっぱり宇野さんもナゴヤ球場が好きでしたか？

宇野　やっぱりナゴヤ球場で育ったんでね。それでドラゴンズの本拠地がナゴヤドームに代わる前の年、ナゴヤ球場での最後のゲームで僕はラジオの解説でしゃべってたんですよ。思わず、ヤバかったですね。もう涙が出そうで。やっぱり思い出があるのがナゴヤ球場ですね。

所　僕も毎年、夏休みになるとナゴヤ球場に連れてってもらってたんで、凄い思い出深いですね。

――所選手は中日ファンとして今年のシーズンはいかがでしたか？

所　リーグ優勝したのが凄く嬉しかったです。

――宇野さんはコーチになって3年間で優勝2回ですよね。

宇野　それはもう選手に感謝ですね。よくやってくれたと思いますし、僕らは練習の手助けと励ますことしかできませんからね。よくやってくれたなって。僕はラッキーでしたよ。ドラゴンズは1929年に初めて優勝して、そのあと20年間かかって49年に優勝。どんどん優勝間隔が狭まってきてるんですけど、まだ連覇がないんでね。だから来年は連覇したいのと、日本一になりたいと思ってますね。

所　日本一になるところは凄く観たいです！

宇野　ぜひ同じアスリートとしてやってる中で、勝ってまた中日と所さんがタイアップして何かできたらいいと思いますね。

所　ぜひ、僕にできることがあれば、何かやらせていただけたらと思います。

――所選手も大晦日、そして来年は同い年の福留選手や荒木選手並みに活躍してほしいですよね。

所　いや、同い年といっても、高校野球の頃から「凄いなぁ」って思ってた人なんで、全然実感ないんですけど（笑）。

宇野　じゃあ大晦日の試合、頑張ってください！

所　あ、頑張ります！　すいません、最後に一つお願いしていいですか？

宇野　なんですか？

所　宇野さんの現役時代のサインボールを持ってきたんですけど、ここにいまのサインを入れてほしいんですけど……。

宇野　わかりました（笑）。

――では、所選手は最後まで単なるドラゴンズファンだったということでお開きにしたいと思います（笑）。ありがとうございました！

【06年11月28日／名古屋市内某ホテルにて収録】

めざせ、一人勝ち!?

とにかく今年もはりきって

ん〜、ダイナマイッ!!

05年『PRIDE 男祭り』に迫る5時間半の放送枠を確保!

FiELDS K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!

2006.12.31

巨人投入で金字塔は打ち立てられるのか?

!の視聴率はど〜なる!?

構成／松下ミワ　designed by matsu (TwoThree)

"桜庭健在"か"世代交代"か　真のヒーローはどっち!?

桜庭和志 vs 秋山成勲

これぞDynamite!!　夢の巨人対決実現

曙 vs ジャイアント・シルバ

"世界の所さん"がグレイシー引退試合に大抜擢

所英男 vs ホイラー・グレイシー

俳優vs"最強素人"の弟の異種格闘技戦

金子賢 vs アンディ・オロゴン

所の兄貴分が永田さん弟戦でDynamite!!デビュー

永田克彦 vs 勝村周一朗

元WBA王者と元K-1王者の"カリスマ"対決

魔裟斗 vs チェ・ヨンス

さあ、今年も大晦日格闘技大戦の時期がやってきた！……と思いきや、なかなか大晦日へ向けて格闘技界が温まってこないのは、『Dynamite!!』vs『PRIDE』の視聴率大抗争がないからという面もあるのではないか。しかし！　そんな状況下でも『Dynamite!!』が闘わねばならぬ敵はほかにもいるのだ。その敵とはもちろん『Dynamite!!』以外の大晦日ゴールデン番組である。

そんなわけで、各局で放送されるライバル番組を眺めると——まずは昨年『男祭り』で『Dynamite!!』の平均視聴率を上回ったフジテレビ。今年はイナバウアーで注目を集めたフィギュアスケートの録画放送が決定している。これについては『PRIDE』の煽りVでおなじみ佐藤大輔さんが「せいぜい5パーセントでしょうね（アッサリ）」と非常に鮮やかに切っている一面もあるのだが。他方、日本テレビでは『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!』という強者バラエティ番組で出陣。しかも、人気罰ゲーム企画「笑ってはいけない」シリーズで堂々参戦というのは他局にとっては非常に脅威である。また、例年は我らが韮澤さんが登場していたテレ朝の『たけしのTVタックル』だが、今年は超常現象SPではなく永田町SPとして政治をお題にバトルが展開されるようだ。と聞いて残念に思った人はご安心を。韮澤さんの超常現象バトルは30日にテレ朝にチャンネルを合わせればお楽しみいただけます。そしてそして！　昨年は必殺・みのもんたの司会抜擢で平均視聴率42・9パーセントを叩き出した本命・NHK紅白歌合戦も当然マークだ！　識者からは「目玉がない」「テ

追い風か、向かい風か、**大晦日格闘技地上波独占放送!**

2006年Dynamite!!の

2006年大晦日の番組構成 ※2006年12月12日現在

NHK総合
『第57回NHK紅白歌合戦』
(19時20分～11時45分)

NHK教育
N響"第9演奏会"
(19時～)
モーツアルト・イヤー2006ハイライト
(20時30分～24時15分)

日本テレビ系
『ピン子のウィークエンダーリターンズ2006』
(18時～21時)
『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!! 大晦日笑ってはいけない警察官SP』
(21時～翌0時15分)

TBS系
『K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!』
(18時～11時34分)

フジテレビ系
『細木数子の大みそか』
(19時～21時)
『メダリスト オン アイス2006』
(21時～)

テレビ朝日系
『ドラえもん大晦日だよ! 生放送SP』
(18時～19時55分)
『たけしのTVタックル 言わずに年が越せるか 嵐の大ゲンカ!! 年忘れ激動の永田町SP!!』
(20時～23時)

テレビ東京系
『第39回年忘れにっぽんの歌』
(17時～21時30分)
『ガイアの夜明け年末スペシャル』
(21時30分～23時30分)

レスリング五輪金メダリストが"神の子"に挑む
山本KID徳郁 vs イストパン・マヨロシュ

出場予定選手

須藤元気　武蔵　宇野薫

大晦日『Dynamite!!』の歴代視聴率

2003年
平均視聴率=19.5%
瞬間最高視聴率=43% ＞曙 vs ボブ・サップ

2004年
平均視聴率=20.1%
瞬間最高視聴率=31.6% ＞山本KID徳郁 vs 魔裟斗

2005年
平均視聴率=14.8%
瞬間最高視聴率=25.8% ＞曙 vs ボビー・オロゴン

K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!
大阪・京セラドーム大阪／12.31(日)15:00 (開始予定)
[決定対戦カード(13日現在)]
曙 vs ジャイアント・シルバ
所英男 vs ホイラー・グレイシー
魔裟斗 vs チェ・ヨンス
永田克彦 vs 勝村周一朗
桜庭和志 vs 秋山成勲
金子賢 vs アンディ・オロゴン
山本KID徳郁 vs イストパン・マヨロシュ
[出場予定選手]
須藤元気、武蔵、宇野薫ほか ※出場選手はケガなどの理由により変更となる場合もあり
[チケット料金]
SRS 32,000円／RS 22,000円／SS 18,000円／S 12,000円／A 6,000円 ※全席指定・税込
[問い合わせ] (株)FEG TEL.03-3796-5060

レ東の『年忘れにっぽんの歌』で充分」などと厳しい声が飛んでいるが、その底力をあなどってはいけない。初出場者のメンツだけ見ても徳永英明、今井美樹、スガシカオのように固定ファンを持っていそうな実力派から、DJ GOZMA……じゃなくてDJ OZMA、絢香など若年層に響きそうな布陣になっているのだ。

そんな大晦日の視聴率バトルに唯一の格闘技であるTBSの『Dynamite!!』は対抗しうるのか!? 心配ご無用! なぜなら『Dynamite!!』には"視聴率三銃士"がいるんだから。それは誰だって? もっちろん、曙、ジャイアント・シルバ、金子賢ですよ!! 彼ら三銃士が力を合わせて"マット界のダルタニアン"ことがタニカワさんと、『Dynamite!!』を救ってくれるのに違いない!! とにかく、打倒・格闘技以外!

混沌とする世界的格闘技大戦に
サダハルンバは……メカ化で応戦!?

米格闘技界の巨大化も、『HERO'S』海外進出も、それから大晦日の『Dynamite!!』も
いまこそプロモーターの手腕が問われるときがやってきた!

「ボクはヒョードルやシュルトより強いんだぞ〜!」

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

K-1 WGPも無事終わり、いよいよ大晦日の『Dynamite!!』に向け発進! と、一部メカ化して力強く拳を突き上げてくれた谷川さん。しかしその前に、やはり今年起こった数々の気になる事件についても語っていただきました。空前の格闘技ブームに見舞われている海外のこと、フジテレビの『PRIDE』中継撤退のこと、もちろん『Dynamite!!』のことも、いろいろ教えて、谷川さん!

聞き手/ジャン斉藤　構成/松下ミワ　撮影/平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

谷川貞治

――谷川さん。今日はよろしくお願いします。

谷川 あ～、そういえば、ジャンくんは編集長になったんだったねえ。おめでとうございま～す！

――ありがとうございます。今後ともよろしくお願いし……。

谷川 （聞かずにさえぎって）それでねえ、ちょっと聞いてくださいよ。凄いんですよ、ボクゥ！（鼻の穴を膨らませて得意げに）。

――はあ（笑）。では、お聞きしますが、いったいどこが凄いんでしょうか？

谷川 じつは昨日、外国のお得意さんと話をしていたら「どうしても『Wii』がほしい！」って言われちゃいましてね。

――任天堂の『Wii』。手に入れるのはかなり大変らしいですね。

谷川 それが手に入ったんですよ！（『Wii』が入っている紙袋を得意げに持ち上げて）ほらっ！

――あ、ホントだ！ 凄いじゃないですか！

谷川 うん。ボクってツいてるよなあ。

――ダハハハハ！ さすが谷川さんですね（笑）。

谷川 ホント、大変だったんだよ！ ……もうちょっと自慢していい？

――どうぞ、どうぞ。

谷川 四方八方に連絡してようやく手に入れたんだよ！（再び紙袋を得意げに持ち上げて）ほらっ！

――それは先ほど拝見しました（笑）。

谷川 （聞かずに鼻息荒く）ハッキリ言ってさ、昨日今日頼まれて『Wii』を手に入れるなんて、『kamipro』の人間にはできないよね。会長（山口日昇／『kamipro』前・非常勤編集長）だって無理だと思うなあ～。

――でも、『kamipro』の版元は『ファミ通』と同じなので、そのルートで手に入れようと思えば入るよう気がしますけど。

レコvsレミー戦で勃発した予期せぬレコの二度の金的。これにレミーは重ね重ね苦しめられたが、リザーバーとして上がったアーツが決勝まで勝ち上がってしまうなど、興行としてK-1 GPはむしろドラマチックな展開となった。

谷川 んあ～!! 本当ぉ!? ……ボクもほしいなあ。

――ワハハハハ！『Wii』に興じる谷川さんはぜひ特写したいですけどね（笑）。

谷川 ちょっとお願いしますよ。いや～、ボクはやっぱりツいてるなあ（満足げに）。

――ツいてるといえば、谷川さん。先日のK－1 WGPのときも「ボクってツいてるなあ」っておっしゃってましたよね。

谷川 ツいてたねえ～！（しみじみと）。だってさあ、トーナメントに出た選手ってほとんどがヨーロッパの選手だったんですよ。それがちゃんとジャパニーズ・スタイルの興行になりましたからね。とにかくMVPはステファン・レコですよ！

――一回戦敗退のレコがMVP！ ピーター・アーツでもなくアーネスト・ホーストでもなく。

谷川 そのレコとレミー（・ボンヤスキー）の試合はいろいろあったじゃないですか。

――ありましたね、いろいろと。まあ、金的に尽きるんですけど（笑）。

谷川 そうそう。レミーへの金的攻撃のアクシデントで試合が後回しになって、控室でレミーの回復を待ったんですけど、思ったよりダメージが深くてね。ボクは控室でずっと吐いてるレミーに「頑張れ、頑張れ！」って励ましたんですよ。

――「頑張れ、頑張れ！」ですか（笑）。

谷川 だってK－1ルールだと、もしレミーが再試合できないとなると、KO負けしていないレコが準決勝に上がることになるんですよ。

――規定どおりとはいえ、それはちょっと説得力ないですよね。

谷川 だから、ボクはレミーに「男だったら頑張れ、頑張れ!!」って励まして。なんとか再試合になって、ダウンを奪ってレコには勝ったけど、もう一回、金的を蹴られたからねえ。また控室で「準決勝も頑張れ、頑張れ！」ってずっと応援してたんですよ。

――とにかく「頑張れ、頑張れ！」と（笑）。

谷川 あのままレミーの代わりにレコが出たとしても、お客さんは誰も納得しないじゃないですか。でも、レミーは本当にダメージが深くて、どうしたもんかなあと思ってたら、なんと「レコもケガしちゃったから、レミーの代打は無理です！」って連絡があったんです。ああ、これでもうレミーはがんばらなくていいなあって。

――ダハハハハ！ 今度は頑張らなくていい！（笑）。それで第一リザーバーのアーツが出場することになったんですね。

谷川 すぐにドクターストップですよぉ（笑）。そもそもピーターはレコがレミーの金的を蹴った段階から「この場合、俺が出れるのか？」って本当にうるさかったんですよ。

――レミー欠場のおかげといってはへんですけど、そのアーツが出たことで一気にGPのドラマ感が増しましたもんね。アーツ出場を発表するのに角田（信朗）さんがリングに上がったときなんて、ボクはもう「待ってました！」っていう感じでした（笑）。

谷川 あのときの角田さん、みのもんたさんばりのタメでしたからね。「……レコ選手が出場……するはずなんですがっ!!」って（笑）。ボクは心の中で「よっ！ 角田」って叫んでましたね。

――「本来ならばアーツなんですが！」「本来ならばセフォーなんですが！」って感じで、最終的には武蔵までたどりつきかねないあのタメの効き方（笑）。

谷川 あとは、ホーストの引退もよかったし、なんだかんだで、今年最後のK－1はいい終わり方ができてよかったなって。今年は『PRIDE』さんとフジテレビの問題とか、業界的にはいろいろ暗いニュースがあったけど、無事に終われそうな感じですね。

――今年はマット界が揺らぐような事件が頻発しましたよね。

谷川 しましたねえ。でも、今年をちゃんといいかたちで終えられそうなのは、海外のパワーに支えられたというのもあったんですよ。日本でのK－1人気は全盛期の頃から考えると若干テンションが落ちてる部分があると思うんですけど、いま、

ボクは控室でずっとレミーを励ましてたんですよ、「頑張れ、頑張れ！」って

アメリカで『HERO'S』をやったときは皆さんに大笑いしてもらえると思いますよ

谷川貞治

海外の熱は凄いんですよ。たとえば、今年オランダで初めてK―1が地上波で放送されたんですけど、その占拠率は25パーセントだったんです。

――ということは、視聴者の4世帯に一人はK―1のチャンネルを合わせていた。

谷川 それにヨーロッパ以外でも、韓国だって格闘技は非常に盛り上がってますからね。

――もはや日本だけのK―1じゃないんですね。

谷川 ボクの手の届かないところに行っちゃったんだよなあ……(しみじみ)。

――『W・i・i』は手に入るけど、K―1は遠くになりにけりと(笑)。じゃあ、来年もK―1は海外を中心に回るんでしょうか?

谷川 必然的に多くなるとは思いますけど、そのへんはバランスよくやりますよ。でもへんな話、オランダで占拠率が25パーセントもあるんだったら、オランダ大会をやったアムステルダム・アリーナで決勝戦をやったほうが客は入ると思うんですよね。5月の大会も会場の3分の1くらいを使ってやったんですけど、2万5000枚が大会の3ヵ月前に完売だったんですよ。

――へえ~。プラチナチケット化してるんですか!

谷川 だから、来年は半分のスペースでやろうかって話をしてるんですけど、ボクはスタジアム全体を使う7万人バージョンでも入るんじゃないかって思うんですよね。

――だったら東京ドームにこだわらなくてもいいですね。

谷川 あるいは韓国で開幕戦や決勝戦の開催もあるかもしれないですよ。いまやアメリカの総合とか、ヨーロッパや韓国のK―1って、日本格闘技界が一番盛り上がっていた頃よりも熱がありますもんね。

――その影響なのか、総合シーンでの選手争奪戦がつとに白熱しているじゃないですか。

谷川 大変ですよね。アメリカのマーケットがあそこまで盛り上がってると、K―1ファイターも含めて影響はあると思いますし。アメリカでは、上場した団体までありますからねぇ。でも、たぶん2~3年でだいたい淘汰されますよ。アメリカだと、UFCともう一つか二つくらいしか残らないでしょ。

――そのK―1の海外戦略からすれば、いまの米MMA界の盛り上がりには……。

谷川 (さえぎって)もちろん乗りますよ! 乗らない手はないです。それに、イベントのノウハウというか〝うまさ〟では、申し訳ないけど、ダナ(・ホワイト)よりもボクらのほうが上だと思いますからね。それは『PRIDE』さんだってそう思ってるでしょう。

――イベントのノウハウではK―1や『PRIDE』に及ばないUFCがこれだけ勢いを増しているのは、やっぱりPPVという基盤が強みになってるからでしょうね。

谷川 PPVって、その放送を観るかどうかなんですよ。それはどういうことかというと、たとえば一つだけでも観たいカードがあれば、PPVを購入するんですね。二つあったら絶対に観る。それに対して日本の格闘技の基準は、地上波のテレビの平均視聴率なんですよ。だから、いいカードが一つあっても放送枠の二時間はもたないんです。つまり、二時間枠でどういう考え方をするかというと、最初の〝つかみ〟と〝またぎ〟、それからメインのカードが非常に重要なんですよね。

――じゃあ、最低3試合は魅力的なカードを揃えないと厳しいということですね。

谷川 それだけじゃなくて、もう一つ重要なのがその3試合のあいだに視聴率が〝落ちない2試合〟が必要なんです。だから、結局は5試合くらいいいカードと作らないと地上波のテレビでは成り立たないんですね。

――極端なことをいえば、UFCはメインにだけにお金を注ぎ込めばいいわけですよね。実際、UFCの前座のときは客席がガラガラだって聞きますし。

谷川 だから、UFCのメイン級ファイターのファイトマネーはどんどん上がっちゃうんですよ。もちろんPPVで多くの収益が上がるっていうのもあるんでしょうけど、格闘技イベントの作り方が日本とアメリカではそもそも違うんですよね。ボクが一番感じるのはそこの部分ですよ。

――ちなみに谷川さんは『PRIDE』のラスベガス大会はご覧になりましたか?

谷川 PPVでライブで観ましたね。プロモーションとしては大成功じゃないですか。『PRIDE』を立ち上げた頃の情熱をもって、スタッフ全体で取り組んでいる感じが伝わってきましたね。ボクの場合は試合がどうというより、どこのスポンサーが入ってるんだろうとか、リングサイドに誰がいるんだろうとか、お客さんがどんな反応をしてるんだろうとか、そのほうが気になりました。

――つまり、マーケットとしての『PRIDE』進出のほうが気になったということですね。

谷川 だから、リング上の闘いやマッチメイクで何か特別に思ったことはないんですけど、全体として非常に勉強になりました。

――『HERO'S』も来年にはアメリカ進出を予定されてるそうですけど、何か戦略はあるんですか?

谷川 まあ、ボクらはずっとK―1ラスベガス大会をやってきてますからね。あと海外のイベントは慣れたところもありますし。

――海外戦略のノウハウはある、と。

谷川 それでボクはアメリカで総合をやるとしたら、ファミリー向けの格闘技をやりたいんですよね。

――ファミリー向けですか! つまり、ハルク・ホーガン擁する80年代WWEのファミリー路線みたいな?

谷川 そうそう。ああいうのがやりたいですねえ。

――それは非常に谷川さんに似合ってますね(笑)。

谷川 子どもからおじいちゃんおばあちゃんが観て楽しめる格闘技っていうんですか。ボクはUFCのコ

『kamipro』ではUFC代表ダナ・ホワイトの秘めたるパワーをしつこいぐらいにお伝えしているが、来年『HERO'S』がアメリカ進出を果たした際に、ダナは果たして何を思うのか? 谷川さんの戦略に"きょとん"としたダナの表情が見られるかも?

ドラゴン奇跡の『kamipro』初登場!!　エー!!　本当なの？

ア路線よりもＷＷＥの路線のほうが好きですね。

――宗教でいうところの"教義"では、ＵＦＣと勝負しないというわけですね。

谷川　そうです。ＵＦＣの方向性ではボクはやりたくない。もっとファミリー向けの空間を作りたいなと思ってます。だからねえ、たぶん、アメリカで『ＨＥＲＯ'Ｓ』をやったときは皆さんに大笑いしてもらえると思いますよ。

――"大笑い"のアメリカ進出！（笑）。成功する確信はありそうですね。

谷川　そうですねえ。戦略的なことは多くは言えないけど、ボクってツいてるからなあ。

――ワハハハ。それで先ほどもお話に上がりましたが、今年のマット界で一番象徴的な出来事というと、『ＰＲＩＤＥ』からのフジテレビ撤退だということですけど、いまの『ＰＲＩＤＥ』をどのようにご覧になってるんですか？

谷川　ほかの団体を気にするような余裕はボクらにはないんですけど、いまイベントをやるってことはもの凄く苦しいんですよ。とくにいま格闘技界の需要と供給のバランスがもの凄くイビツになってるじゃないですか。

――先ほどのＵＦＣの話にもありましたけど、選手のファイトマネーは"日本基準"から"世界基準"に移り変わってますよね。

谷川　しかも「俺らが出れば儲かるんだ！」というような勘違いしている選手が多いですからね。その状況がボクらにとってはキツい。初期のＫ－１に出ていたホーストだとかアーツ、それからアンディ・フグなんかの世代は「オレらが頑張らなきゃ、Ｋ－１がなくなっちゃうぞ！」みたいな意気込みがあったじゃないですか。初期の『ＰＲＩＤＥ』の、まさに桜庭選手なんかもその典型だったと思います。でも、いまは平気で最初から「いくらくれるの？」って感じでしょ。

――そういう選手に対して、谷川さんはどう対応するんですか？

谷川　それはもう「ああ、それならヨソへどうぞ！」って感じですよ！（キッパリ）。

――ダハハハ！　なんの未練もなく（笑）。

谷川　そういうこと言われると、な～んか冷めちゃうんだよなあ。それに、ここ数年で格闘技の放映権料が3倍になったとか、客が3倍に増えたというわけでもないのに、ファイトマネーだけどんどん高騰してるじゃないですか。そうすると、団体自体がなんのためにやってるのかわからなくなりますからね。

――選手ありきというよりも、根本はイベントありきですからね。

谷川　だから、ボクら作り手がマッチメイクを含めて、いかにおもしろいソフトを作るかということがやっぱり重要なんですよね。だからね、ボクはどんなに強かろうが、どんなに有名であろうが、ムチャな要求をする選手はもういらないです。へんな話、どんなに強くて素晴しいチャンピオンがいても、それよりも自分のプロモーターとしての手腕のほうに自信がありますから！

――意訳すると、どんな選手より谷川さんのほうが強い！　と（笑）。

谷川　ボクはヒョードルやシュルトより強い！　絶対にそうだと思うけどなあ。ボクの場合は新しい選手を使って興行をやるほうが楽しいし、スタッフ含めて一緒に作り上げていく人たちがちゃんと潤わないとイヤですから。なんで選手ばっかり潤わなきゃいけないの！

――じゃあ、国際競争化している選手争奪戦に、Ｋ－１が割って入る気は……。

谷川　（さえぎって）まったくないですねえ。

――ハハハハ！　まあ、いまのアメリカを基準にしちゃうと、ちょっと日本市場では成り立たなくなりますよね。

谷川　適正価格なら興味がありますけどね。ボクがもし、そういう争いに関わらないといけなくなったら、引き抜き合戦に加わるというより、こっちが最強の選手を作り上げて、ファイトマネーをほかからもらって、その最強といわれている選手を潰しにいきますよ！

――それまた凄い戦略ですね（笑）。

谷川　でしょ？　ボクも現場にいる人間だから、世界トップクラスといわれる選手のファイトマネーも知ってますけど、ヘタしたら一人のギャラで日本で一興行できますよ。それよりボクにとっては所（英男）くんみたいなファイターのほうがよっぽど大切ですね。彼はファンも多いしね。

――で、そういう状況下で大晦日『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』が迫ってきてますけども。今年の『ＰＲＩＤＥ男祭り』は大晦日の地上波放送がありませんけど、そのことについてはどう思われますか？

谷川　誤解してほしくないのは、これでボクらの一人勝ちということはないんですよ。プラスはないですよね。どっちかって言えば、対立概念

どんな素晴らしいチャンピオンがいても自分のプロモーターとしての手腕のほうが自信がある

谷川貞治

があったほうがいいですから。『PRIDE』がヒョードルvsノゲイラやるんだったら、「よーし、こっちは曙vsボビーだ！」って燃えるわけですしね。

—たしかに、大晦日らしい盛り上がりがあまり感じられないというか、ほかの番組も含めてここ2〜3年では一番、テンションが低いですよね。

谷川 あとはやっぱりフジテレビのパワーって凄いですから、なんだかんだ言って今年そのパワーがないのは格闘技界全体にとってはマイナスに見られやすいですよね。それは雑誌でも同じじゃないですか？ たとえば『週刊プロレス』が凄く売れてると、『週刊ゴング』も絶対に売り上げいいでしょ。当事者の『週プロ』のスタッフから見たら「『ゴング』なんかなくなれ！」という気持ちもあるんだろうし、そういう気持ちで雑誌を作ることは大事なんだろうけど、本当になくなったら業界自体が危ないですよ。

—ライバル不在というのも問題なんですね。

谷川 そうですね。『PRIDE』さんの好調、不調はいずれにせよボクらに影響ありますよ。やっぱりそれだけ大きな規模になってるわけですからね。

—そういう意味では、地上波の相乗効果は期待できないところですが、これまで二時間枠で放送された『Dynamite!!』は、今年は5時間半の枠を取って放送されますね。

谷川 ねえ。……どうしましょう（困惑して）。

—ワハハハハ！ やっぱり見せ方は問われてきますよね。これまでの『Dynamite!!』は二時間で凝縮してたからちょうどよかったと思うんですけど。

谷川 それが二倍以上だからねえ。これもね、なぜ5時間半に拡大したかというと、やっぱり『PRIDE男祭り』があったからなんです。前に『kamipro』でも答えたんですけど、去年、武蔵vsボブ・サップっていう凄くいいカードを番組のオープニングにやったんです。でも前の番組から引き継いだときの視聴率は5パーセントぐらいで、『PRIDE』側はすでに桜庭和志vs美濃輪育久戦が流れてて、ずっと20パーセント近くをキープしてたでしょ。

—すでに温まってる『PRIDE』とは、ちょっと勝負にならないですね。

谷川 これは凄いハンデで、勝負にならないと。そういう反省のもとに、『PRIDE男祭り』の出方を想定してのTBSの戦略が5時間半枠だったんですよ。だけど、逆にフジテレビのほうがなくなってしまいまして（苦笑）。

—『Dynamite!!』の前に『亀田祭り』とかを二時間やって、その高視聴率を引き継ぐかたちが理想だったんでしょうけど。

谷川 そうなんですよ。『亀田祭り』はやってほしかったなあ（悔やむように）。

—ホントもったいないですよね。

谷川 ボクらとしては『Dynamite!!』で5時間半の枠を取るよりも、亀田選手の番組があったほうが視聴率は良かったと思うんですよね。亀田選手だったら凄い数字が出ますからね。30パーセントくらいから『Dynamite!!』がスタートできてましたよ。そしたらボクはなんにもしなくてよかったのになあ、もう！

フジテレビのパワーはやっぱり凄いですから それがないのは業界全体にマイナスですよね

—どういう悔しがり方なんですか、それ（笑）。

谷川 それなら本当に紅白（歌合戦）にも勝てたと思いますよ。でも期待してたものが全部なくなって。

—今年の『Dynamite!!』には、アッと驚く隠し玉はあるんですか？

谷川 いまって、なかなか夢のカードや隠し玉はないじゃないですか？ なんかある？

—そうですねえ。対世間を考えれば、オーちゃんvs曙とか。

谷川 それはいいねえ。ちょっとお願いしてよ〜！

—いったい誰にお願いするんですか（笑）。

谷川 そういうのってなかなかないですからね。長期的に考えて、地道にコツコツやって力を取り戻したところで、ボブ・サップや曙みたいな選手を投入していけばいいと思うんですよ。

—じゃあ、今年の『Dynamite!!』は、かつての曙参戦みたいに対世間を見据えた姿勢はちょっと弱まるってことですか？

谷川 気分的には大晦日らしいマッチメイクよりも、いまこそコアな層に向けたカードをやりたいですね。たとえば、魔裟斗vsブアカーオだったり、『PRIDE』さんでいうと、ヒョードルvsノゲイラみたいなカード。

—格闘技そのものの魅力が浮き上がるカード。『PRIDE』の放送がないだけに有効ではありますよね。

谷川 そうそう。そんな気分なんですよ（笑）。

—ちなみに、8日の現時点で桜庭和志vs秋山成勲の試合が決まってますけど、谷川さんは桜庭さんが『HERO'S』に移籍したときに、「自分だったら桜庭選手をうまく使える自信がある」って言われてましたよね。

谷川 第一回目の桜庭vs（ケスタティス・）スミルノヴァスの試合は凄くよかったと思うんですよね。あれはボクの想像を超える桜庭選手の良さが出たと思うんですよ。

—それは具体的にどういう良さなんですか？

谷川 ボクはそもそも〝桜庭ワールド〟っていうのが『HERO'S』向きだって思ったんですよ。でも、スミルノヴァスとの試合を観て、〝桜庭ワールド〟って意外と〝PRIDEワールド〟だなって思いましたね。そこが大きな勘違いというか、大発見ですね。

—谷川さんの言う〝桜庭ワール

ドラゴン奇跡の『kamipro』初登場!!　エー!!　本当なの？

いまの時代は絶対にコア層に響くカードのほうがいいと思うんだよなあ

ド〟というのは、ヴァンダレイ・シウバとの抗争以前のイメージだと思うんですけど。〟グレイシー狩り〟時代の桜庭和志というか。

谷川　そうそう。いまの『PRIDE』のガチガチの中ではサクちゃんは活きないなって思ってたんですけど、やっぱりサクちゃんって、なんだかんだいってもPRIDEファイターだなって思いましたね。試合に対する気構えとか、発言とか、闘う姿勢を見ているとね。でも、それは『HERO'S』に確実に新しいファンを増やすと思います。

――その桜庭さんを『HERO'S』で今後どういうふうに活かしていこうと思ってるんですか？

谷川　いずれにしても来年の『HERO'S』はやっぱり秋山（成勲）選手、サクちゃん、この二人が中心になっていくと思うんですよ。秋山選手は秋山選手で人気ありますし、かっこいいですから。だから正直言うと、サクちゃんの相手は秋山選手がいいかっていうと本当はそうは思ってないんですけど、とにかく秋山vs桜庭戦では、秋山選手に勉強してもらえればいいかなと、そういう気持ちで組みました。

――「プロとは何か？」ということを桜庭戦で学べ、と。

谷川　そういう思いです。勝ち負けはあんまり気にしてないですし。あとはさっきも言いましたけど、いまはコアなカードをやる時期だと思うんですよね。よく「今度はどの芸能人出すの？」とか、そういうこと言う人も多いんだけど。

――押尾学vs金子賢とか（笑）。

谷川　逆に「やってどうすんだよ、そんなの！」って思いますしね（笑）。

――でも、『Dynamite!!』にはそこを期待してるってことじゃないですか？

谷川　それだったら芸能人柔道大会でもやったほうがまだいいよ。いまの時代は絶対にコア層に響くカードだと思うんだよなあ。まあ、でも最後はボクらしい、『Dynamite!!』なカードを並べ尽くしますから、期待してくださ〜い！

――わかりました。今年はやはり〟コア〟な『Dynamite!!』を期待させていただきます！

【06年12月6日／『kamipro』の人間だけでは入れない青山の高級会員制クラブにて収録】

と、谷川さんにお話しいただいた翌々日、『Dynamite!!』カード発表記者会見で曙vsジャイアント・シルバというカードが発表されました。やっぱり谷川さんは凄い！

メカマミーから「『Dynamite!!』への挑戦状をぜひ谷川氏に渡してほしい」と頼まれた編集部は依頼どおり任務を敢行。しかし、谷川さんは挑戦状より、むしろ「これ、ほしいなあ」とばかりにメカ製の武器に夢中になってしまったのだった。んあ〜！

聴率獲得間違いなし!

の注目カードはこれだ!
トシルバ徹底比較

「だまれチビ! ウガーッ!!」

ジャイアント・シルバ
GIANT SILVA

所属	フリー
生年月日	1963年7月21日
出身地	ブラジル／サンパウロ
身長／体重	230センチ／180キロ
バックボーン	バスケットボール
実績	88年ソウル五輪バスケットボール・ブラジル代表選出 92年バルセロナ五輪バスケットボール・ブラジル代表選出
得意技	スラムダンクパンチ、ジャイアントロック、ジャイアントプレス
ニックネーム	南米の大巨人

ウガーッ!! まさか、まさかの電撃移籍!! 『PRIDE』&『ハッスル』を主戦場としていた"南米の巨神兵"ジャイアント・シルバが『Dynamite!!』に参戦へ!

——この期待感はなんだろう。マット界の大勢にはまるで影響のない"大型"移籍ではあるが、なんと対戦相手が曙だというから、『kamipro』としては胸騒ぎが止まらない。

曙vsジャイアント・シルバ——。プロレスラーとしても活躍する両者は、格闘技での戦績はともにこれまで一勝を上げたのみ。いや、そもそもこの二人の真価は、試合の勝敗なんていうちっぽけモノサシでは到底計れないのだが、試合展開がまるで想像や予想が難しいのも事実だ。おもしろくなることは確実だけど、まったく試合が読めないよ!!

そこでこの試合を64倍楽しむために、まずは簡単に両者の出陣前の様子を考察してみよう。

03年のボブ・サップ戦から3年連続で大晦日参戦を果たしてきた曙は、出陣決定の報に「リ

連続大晦日出場!!

03年『男祭り』 vsヒース・ヒーリング戦

瞬間最高視聴率 20.0%

シルバが総合初挑戦。元バスケットボール五輪ブラジル代表として、スラムダンクパンチを繰り出すが、決定打は与えられず。試合後、「プロレス技を使うことはできなかった」と素直にコメント。番組の平均視聴率は13パーセント。

04年『男祭り』 vsチェ・ムベ戦

瞬間最高視聴率 20.5%

韓国レスリング界の猛者・ムベは差し合いの体勢から、シルバを簡単にテイクダウン。力任せにムベの身体を跳ねのけたシルバだが、再び倒されサイド・ポジションを奪われると、万事休す。肩固めであっさりとタップした。番組平均視聴率は14パーセント。

05年『男祭り』 vsジェームス・トンプソン戦

瞬間最高視聴率 20.4%

"ゴング&ラッシュ"の異名を持つトンプソンが、試合開始とともにシルバを襲撃。サッカーボールキックで圧勝。何もできなかったシルバだが、番組平均の15.3パーセントを大きく上回る20.4パーセントの視聴率を獲得。やはり大きいことはいいことだ。

※シウバは02年大晦日の『猪木ボンバイエ』にも出場していますが、非公式試合のためカウントしていません。

[戦績]
総合＝1勝6敗

2003年12月31日『PRIDE男祭り2003』
×ヒース・ヒーリング[3R 0:35 スリーパーホールド]

2004年4月25日『PRIDE GP2004開幕戦』
○戦闘竜[1R 4:04 チキンウィングアームロック]

2004年6月20日『PRIDE GP2004 2nd ROUND』
×小川 直也[1R 3:29 TKO]

2004年7月19日『PRIDE 武士道 其の四』
×杉浦貴[1R 2:35 TKO]

2004年12月31日『PRIDE 男祭り 2004 SADAME』
×チェ・ム・ベ[1R 5:47 肩固め]

2005年12月31日『PRIDE 男祭り 2005 頂 ITADAKI』
×ジェームス・トンプソン[1R 1:28 TKO]

2006年4月2日『PRIDE 武士道 其の拾』
×美濃輪育久[1R 2:23 TKO]

瞬間最高視聴率獲得

大晦日、最大の注目
曙vsジャイアント・シ

「相撲をナメんな!!」

曙
AKEBONO

所属	チーム・ヨコヅナ
生年月日	1969年5月8日
出身地	アメリカ／ハワイ州オアフ島
身長／体重	203センチ／210キロ
バックボーン	相撲
実績	第64代横綱、幕内優勝11回、幕内成績566勝198敗181休
得意技	ランニングボディプレス、ボノボンバー、右四つ
ニックネーム	横綱

ングが壊れるぐらい暴れる！」とコメントを寄せた。そう。曙はリングを壊すのである。

一方、これまでにも『PRIDE』で戦闘竜、そして『ハッスル』ではハッスルRIKISHIと、相撲とは縁の深い相手とたまたま闘ってきたジャイ・シルだが、あの男の無関心な性格からして元・横綱と闘うことに深い感慨はないに等しい。普段着のジャイ・シルだ。

というわけで、パドックからはまったく何もつかめない……。強いて勝負のポイントを挙げるとすれば、ジャイ・シルは倒されると滅法弱い一面がある。そこで戦場の同時性。曙も倒されるとヤバイから、つまり、テイクダウンしたほうが負ける可能性は高い（もしくは自分から先に転倒）。しかし悲しいかな。両者にはタックルの技術は持ち合わせてない……が！　いやいや、相撲には差し合いからのサバ折りがあるじゃないですか！　やはり最後は曙の「相撲をナメるな！」パワーが炸裂!?　あとは文字数の都合上、読者の皆さん、勝手に考えてくださ〜い！

[戦績]
K-1＝1勝8敗／総合＝3敗

2003年12月31日 K-1 WORLD GP 2004
×ボブ・サップ[1R 2:58 KO]

2004年3月27日 K-1 WORLD GP 2004
×武蔵[3R 判定3-0]

2004年7月17日 K-1 WORLD GP 2004
×張慶軍[延長R 判定3-0]

2004年8月7日 K-1 WORLD GP 2004
×リック・ルーファス[3R 判定3-0]

2004年9月25日 K-1 WORLD GP 2004
×レミー・ボンヤスキー[3R 0:33 KO]

2004.12.31『Dynamite!!』
×ホイス・グレイシー[1R 2:13 リストロック]

2005年3月19日 K-1 WORLD GP 2005
○角田信朗[3R 判定3-0]

2005年3月19日 K-1 WORLD GP 2005
×チェ・ホンマン[1R 0:42 TKO]

2005年7月29日 K-1 WORLD GP 2005
×チェ・ホンマン[1R 2:52 TKO]

2005年12月31日『Dynamite!!』
×ボビー・オロゴン[3R 判定3-0]

2006年5月3日『HERO'S』
×ドン・フライ[2R 3:50 フロントチョーク]

2006年7月30日 K-1 REVENGE 2006
×チェ・ホンマン[2R 0:57 KO]

祝！ 4年連続 大晦

瞬間最高視聴率 43.0%

03年『Dynamite!!』
vsボブ・サップ戦

曙のK-1デビュー戦の相手はボブ・サップ。プレッシャーをかけて前に出た曙だが、"野獣"の右ストレートの前にあえなく撃沈。カエルのような格好で前のめりに倒れることになったが、その瞬間最高視聴率はなんと43パーセント！　驚異的な数字で『紅白』を上回った。

瞬間最高視聴率 22.1%

04年『Dynamite!!』
vsホイス・グレイシー戦

K-1で連敗続きだった曙が総合初挑戦。相手は業界のパイオニアにして"レジェンド"ホイス・グレイシー。2年連続で『Dynamite!!』のメインを務めることになった曙だが、自らグラウンドに飛び込むと、呆気なく手首固めの餌食に。番組平均視聴率は20.1パーセント。

瞬間最高視聴率 25.8%

05年『Dynamite!!』
vsボビー・オロゴン戦

第64代横綱と"史上最強の素人"の対決。3年目の『Dynamite!!』参戦にしてメインから外れた曙。序盤からボビーにプレッシャーをかけていくが、すぐにスタミナ切れを起こすことに。後半、アグレッシブに攻めたボビーが判定勝利。番組平均視聴率は14.8パーセント。

K-1幻想（イリュージョン）とは何か？

時限爆破、ハンディキャップ、そして……牛！

kamipro的 予想的中？座談会

前号座談会で、リザーバーの武蔵とホンマンによる決勝戦実現という予想を立てた本誌。結局、ホンマンは欠場し、武蔵はリザーブマッチで敗退。しかし武蔵を倒したアーツがトーナメントに出ると、観客の大声援を受けることに。この現象の正体はいったい……？

構成／上杉秀人　designed by matsu (TwoThree)

堀江ガンツ（本誌編集部。以下ガンツ） さて、12・2K−1GPについては、大会前にもK−1からお叱りを受けかねないトンデモ座談会をやったわけですけど、そのときの予想は見事に外れましたね（笑）。

橋本宗洋（フリーライター。以下、橋本） だから、前回の出席者と大幅に入れ替えをしたってこと？（笑）。

松林貴（本誌編集次長。以下、松林） まあ、予想とはいっても、武蔵とチェ・ホンマンの〝リザーバー決勝戦〟と、ボブ・サップがエンディングに乱入するという超万馬券狙いだから、当たりっこないんだけど（笑）。

ガンツ でも、オープニングでマジックを披露したマジシャンのセロが「ビックサプライズを用意している！」と宣言したので、『ツァラトゥストラはかく語りき』（サップのテーマ曲）が流れたとき、一瞬「もしや……!?」と期待で胸が膨らんですけどね（笑）。

橋本 あの曲はK−1のドーム大会恒例のオープニング曲でもあるんだよ、たしか。しかし、セロは最初の瞬間移動マジックはおもしろかったけど、二回目の1ドル札（をペンで貫通させる）マジックは、ドームのスケール感にはまったく合ってないでしょ（笑）。

押切伸一（以下、押切） あれ、俺だって簡単にできるし、街のマジック自慢のお父さんたちは「なんであの程度でテレビに出てんだ!?」って思ったはずだよ。東京ドームという空間で、あのマジックはかなりぜいたくな話だけど（笑）。

ガンツ そんなことより、大会自体はどうでした？　リザーバーが決勝に上がるという点では、無理矢理ではあるけど予想は当たったわけですけど。

橋本 大会前は、K−1はもう徹底的に競技化の道、世界路線を進むのがいいと俺は思ってたんだよ。世界予選からの勝ち上がりシステムをより強化して、F1みたいな世界になっちゃえばいいじゃんって。ファン投票とか繰り上がり出場での盛り上がりって、どうしても〝その場だけ〟な危うさがあるからさ。でも、いざアーツが代打出場してみると……応援しちゃうんだよ、これが！

松林 俺があの大会を通じて感じたことを簡単に言うと「K−1がK−1であることの安心感」なんだよね。角田（信朗）さんがアーツの繰り上がり出場の発表をするためリングに上がった瞬間もその安心感の一端なんだけど、「いよっ！待ってました!!」っていう感じだったからね（笑）。で、終わってみれば、いかにもK−1というGPになってすべてをひっくるめて安心感があった、と。

ガンツ ボクは2階席で観てたんですけど、途中から（新日本プロレスの）1・4ドームにいるかのような気がしたんですよ。プレミアム感より〝毎度感〟が漂うというか。

橋本 つまり、いい意味でも悪い意味でも、年末の風物詩という感じがするってこと？

観客の気持ちの部分でK−1が“平成のプロレス化”している（堀江）

ガンツ そうだねえ。たとえるなら、かつての全日本プロレス『世界最強タッグ決定リーグ戦』みたいな雰囲気。（最強タッグのテーマソングの）『オリンピア』を聞くと年末感が出るみたいなさ。

橋本 『オリンピア』って、いまの読者はなんのこっちゃわからないよ（笑）。まあ、たしかに東京ドームでK−1を観て、本屋に『このミス（このミステリーがすごい！）』が並ぶと「ああ、もう年末だなあ」って気持ちになるんだよな。

ガンツ だから観客の気持ちの部分でK−1がいつの間にか凄くプロレス化してるな、と。今回K−1を観てあらためて思ったのが、勝つことに意味はあるんだけど、負けることに意味がないというか、負けることへのリスクをあまり感じないんですよね。格闘家にとってのリスクって、「負けたら価値が落ちる」っていうところにあるわけでしょ。

橋本 はいはい。『PRIDE無差別級GP』のときに感じた、「このメンバーのうち一人を除いて全員負けちゃうんだよな……」っていうヒリヒリ感はあまりないね。

ガンツ そのヒリヒリ感の根源は、「負けたら価値が落ちる」というリスクがあるからこそ感じるわけじゃないですか。でも、毎年テレビ番組として放送するために、「たとえ負けてもあまり価値が落ちないようにする」という方向になるしかないと思うんですよ。

押切 それはほかのスポーツでもそうだよ。同じ選手が何度も闘うでしょ。テニスの（ビヨン・）ボルグと（ジョン・）マッケンローがお互いに通算何勝何敗かわからないぐらいにさ。……たとえが古すぎるか。

橋本 まあ、さっきの『オリンピア』よりはマシです（笑）。

ガンツ しかし、何度も闘うという仕組みでは同じなのかもしれないですけど、大相撲の本場所は年6回もやってるのに、それなりに緊張感あるじゃないですか。それは横綱や大関が負け越したら、カド番や陥落が待っていたり、引退に追い込まれたりするからなんですよ。ところがK−1の場合……。

橋本 GPのベスト8は翌年の開幕戦に自動的に出られるシステムだから、そう簡単には陥落しない（笑）。極端なことをいえば、開幕戦だけ勝ち続ければ、毎年K−1GPにエントリーできるわけだ。

松林 今回のアーツなんてさらに凄かったからね。ファン投票の後押しもあってリザーブファイトに組み込まれたわけだけど、GP開幕戦を病気で欠場したからという理由もあるんだから（笑）。

ガンツ ガハハハハ！ 病欠エントリー（笑）。

松林 でも、そんなことはまったくオッケーなんだよ。前回も言ったけど、K−1は「余計なこと言わないの！」っていう世界なんだからさ（笑）。

ガンツ それはそれとして、もちろん選手本人たちは「負けたくない！」という気持ちは強くあると思う。でも観てるほうにとって、「この選手が負けたらヤバい！」という緊張感がないんですよ。

押切 そのギャップはあるね。それと、アンディ・フグはよく負けたけど、もの凄くショッキングで印象に残る負け方をしてたんだよ。「あの倒れ方は絶対長期欠場だ！」と思わせるような。だから、次の試合で勝利したときがドラマチックだった。そしてこれは層が厚くなった証拠でもあるけど、ファイターが皆100キロを超えて技術も高くなると、KOの鮮やかさは薄れてくる。

橋本 以前のように体重差による圧勝劇がなくなってきてますよね。

押切 そのうえ組み合わせも限られてくるから、勝っても負けても“行って来い”になりやすいというのはあるな。

ガンツ それでもK−1がつまらないかと言えば、おもしろいわけですよ。そのおもしろさって、“平成プロレス”のおもしろさなんですよね。“昭和プロレス”ってじつは負けることへのリスクが凄くあって、勝敗が選手の価値を左右するから反則決着や両者リングアウトで勝敗をうやむやにしていた。でも、完全決着しなきゃいけない時代になったら、毎回決着をつけるいい試合をしながら、勝ったり負けたりして各選手の価値を保っていった。それが“平成プロレス”でしょ。いまのK−1ってそれと同じ構造になってると思うんですよ。

橋本 馳のジャイアントスイングを観て、ムタの毒霧を観て、「ああ、今日も楽しかった」って帰っていくっていうね。

ガンツ だから（ジェロム・レ・）バンナのあいかわらずの人気ぶりって、蝶野（正洋）がいまでも会場人気が高いのと同じだと思いますよ。あと“番長”って呼ばれるだけあって、ホント、清原和博的な人気というか。みんな応援するけど、どっかで「今年もダメだろうな……」って思ってる（笑）。

押切 そこはやっぱり歴史を背負ってる選手にみんな感情移入するわけだよ。ボブ・サップと闘ったときのホーストへの求心力ったらなかったわけだし。

ガンツ 今回のアーツ人気にしたって、あれってNOAHで忘れたころに大爆発する“田上火山”みたいなもんでしょう（笑）。

橋本 どーでもいいけど、最近の読者にはピンとこないプロレスのたとえ話が続きすぎだよ！（笑）。そのアーツで言えば、武蔵を簡単にKOしたことで、「今日のアーツは強い！」っていう伏線が効いてたんだよね。だから、観客は角田さんの（ボンヤスキーが準決勝を棄権して、代わりにアーツが出るという）アナウンスで沸いたところもあったわけでしょ。

ガンツ このあたりで一発サプライズが起こってほしいなっていう期待感がありましたよね。

松林 その“期待感”こそが最初に言った“K−1がK−1であるこ

座談会出席者

押切伸一（左）
ライター＆フジテレビ系格闘技番組『SRS』などの構成作家。『PRIDE』地上波撤退でも、やはり大晦日はたまアリに行くことになりそう。今月から『スカパー！ バトルライフ!!』でコラム「押切伸一の“GACHI! ON!（ガチョ〜ン）”」を執筆中。

橋本宗洋（右）
マット界の話題が大晦日に集中する中、録り貯めたビデオで『お笑いウルトラクイズ』の復習に励む日本最重量級フリーライター。先日、押切氏とのブログ『格闘まむしの兄弟』（http://ma64.blog77.fc2.com/）をリニューアル。イラストは『パチ漫』のかわかずお先生!

松林貴
『kamipro』編集次長。ちっちゃい『紙のプロレス』時代から谷川氏や柳沢氏ら現K-1首脳部と愉快なつながりを持つ。ロシア取材では、RTT総監督のパコージン氏をも唸らせるほどの酒豪っぷりを発揮。前号K-1座談会での大穴予想は外れたが、ギャンブル全般への造詣は深い。

堀江ガンツ（左）
『kamipro』編集部、熱狂的かつ変態的なUWF信者〜リングスファンを経て業界入り。血中UWF濃度が凝縮され『PRIDE』を通過した果ての俺イズムからくる、ブレのない格闘論には定評がある。しかし、年末は格闘技よりも韮澤さんとの超常現象トークに関心が移りがち。

サプライズへの期待感まで含めてがK−1がK−1であることの安心感（松林）

との安心感〟だと思うんだけど。つまりサプライズを含めての安心感だよね。「何が起こるかわからない!?」っていうキャッチフレーズどおりの。

ガンツ どんでん返しがなきゃK−1じゃない！ ある種の『シベリア超特急』的というか（笑）。

橋本 今度は『シベ超』かよ！

押切 そのアーツにグラウベ（・フエイトーザ）が負けた瞬間、実況席の藤原紀香が「凄いシナリオですね、これ！」って叫んだら、谷川さんが「んあ〜！ K−1の魔物はホントに凄い！」だって（笑）。

松林 まあ、なんだかんだいっても、あの安心感を作り上げるのはけっこう難しい作業だよ。ズバリ言ってしまえば、K−1でなければ作ることができない安心感というか。

ガンツ 要は安心感って、究極のマンネリズムですけど、競技でマンネリ度が高いって凄いことですよ！

押切 でも、これからはその安心感を維持するのって大変難しいねえ。

橋本 難しくなりますよねえ。ホーストにしろアーツにしろ、観る側に蓄積された記憶の氾濫みたいなこともあって、余計盛り上がったわけじゃないですか。次の世代で氾濫させるだけの記憶を持っている選手って、なかなかいないですからね。

押切 レコがレミーの代わりに闘ったとしても、アーツほどは沸かなかっただろうし。レミーは最高の形でバトンを渡したよ。

松林 ちょっと考えたのは、リザーバーがアーツじゃなくて武蔵だったらどうなっていたんだろう？ ってことなんだけど。

押切 まあ、いまは日本人選手に対する期待感は薄いけど、『ホースト・ジャパン』という日本人選手育成構想が発表されてたじゃない。それをテレビがバックアップして時間をかけてキャラも掘り下げられればおもしろくなるとは思うけど。

橋本 要するに、K−1版リアリティショーってことですよね。うまくいけば新しい金脈になるし、ジャパン勢の活かし方にもなる。

押切 ホーストは見込みのある選手しか教えないらしいから、あっさり見捨てられるストーリー展開もあったりするんだろうね（笑）。それから『ガチンコ！』的に日本人選手がホーストに刃向かったり、ホーストが「おまえら弱い世界じゃ強いじゃろうが、強い世界じゃ下の下じゃ！」と怒鳴ったり。あ、でもやるんだったら、TBSじゃなくて絶対フジテレビでやりますから（笑）。

ガンツ あとヘッドコーチ役の角ちゃんがいつかみたいに「K−1ジャパンは賞味期限切れ！」って断罪したり（笑）。

橋本 でも、角田さんの場合、そうなると自分も選手として出たくなっちゃうでしょ（笑）。

ガンツ それはあり得る！ 勝って泣いて、負けて泣いて、テストに落ちて泣いて……一人でとことんドラマチックにやりそうだなあ。

押切 まあ、マジメな話、競技化を目指す過程で、ちょっとバラエティチックな要素は絶対に必要だけどさ（笑）。濃いキャラのコーチはマストだよね。欽ちゃん（萩本欽一）みたいにド素人で野球チームの監督をやるみたいなオヤジはいないかね？ シンボル的な存在として。

橋本 星野仙一とかどうですかね？

『PRIDE』転戦を経て、4年ぶりに決勝トーナメントに出場したレコ。本誌前号では「俺が本物のK-1に戻してやる」と宣言しつつも、ボンヤスキーにローブローを連発。結果的にこれがアーツの決勝進出を招き、K-1らしいサプライズを演出することに。

押切 星野監督だとちょっとマジメすぎちゃう。やっぱり、みの（もんた）さんかな。

ガンツ いいですね〜。『みのジャパン』の試合は、『プロ野球珍プレー好プレー』ばりのナレーションつきで放送したり（笑）。そういうリアリティショーをやったら、ボクが最初に言った〝負けの意味〟が出てくるんですよ。だって負けたら番組から落ちちゃうわけじゃないですか。

橋本 俺はさ、リアリティショーじゃなくても、簡単にはGPに出られないというシステムを作るべきだと思うんだよ。「セフォーでも出られなくなっちゃうんだ」「武蔵もロートル扱いされちゃって」という格の高いイメージがほしいから。

押切 一時期のK−1は、そういう煽りをしたことはあるんだけどね。でもいつの間にか〝ベスト8救済〟ができちゃったんでグダグダになっちゃったけど。

ガンツ やっぱり、いままで決勝に上がってたヤツらが予選で落ちるのは相当なドラマになるはずなんですよね。Jリーグだってある意味、一番盛り上がるのはJ1とJ2の入れ替え戦じゃないですか。

橋本 ワールドカップでも、強豪国のオランダやイングランドですら出られないことがよくあるわけだし。だから、むしろ四角四面にシステムを固めたほうが、ダイナミズムが出てくるような気がするなあ。そのほうがスターが出てくる余地もあるんじゃない？

ガンツ やっぱりキッチリしてるからこそ、遊べる余裕も生まれてくるところもあるんでしょうし。

橋本 あと凄く不思議なのが、セーム・シュルトっていう絶対王者は、なぜ好かれないのか？ ということ。間違っても『僕らの空手ヒーロー』じゃないよねぇ（笑）。

ガンツ まあ、ジョルジョ・サンピエールがマット・ヒューズに勝ったら、〝空手の逆襲〟とのんきに定義づけしちゃう老舗格闘技雑誌の

2006.12.02 K-1 GP決勝戦 REVIEW

［K-1 GP 準々決勝］
○グラウベ・フェイトーザ vs ルスラン・カラエフ×
（1R 1分11秒 KO）
カラエフが速射砲パンチからスピンキックで襲いかかるが、極真代表・グラウベはブラジリアンキック一閃! 一撃魂を見せつけて勝利した。

［K-1 GP 準々決勝］
○アーネスト・ホースト vs ハリッド"ディ・ファウスト"×
（延長1R 判定3-0）
ホーストが引退を懸けてリングに。延長戦、ローでハリッドの前進を止めるとパンチを連打。判定でプロ通算98勝目を収めた。

［K-1 GP 準々決勝］
○セーム・シュルト vs ジェロム・レ・バンナ×
（3R 判定3-0）
前年度覇者・シュルトとの対戦を指名したバンナ。前蹴りで距離を取るシュルトに飛び込びフックを放つが、シュルトの牙城は崩せず。

［リザーブファイト.1］
○ピーター・アーツ vs 武蔵×
（1R 2分53秒 KO）
「リザーブからの出陣は日本人として恥」と奮起した武蔵だが、アーツのヒザ蹴りからのパンチ連打であっさりと崩れ落ちた。

ドラゴン奇跡の『kamipro』初登場!! エー!! 本当なの？

ことはほっとこうよ（笑）。

橋本　でも、ちゃんとシュルトを振り返ってみると、大道塾とパンクラスでの王者の時代があり、UFCと『PRIDE』で屈辱を味わい、K－1でも長い道のりを経てチャンピオンになってる。ほかの選手がこの道筋をたどったら、かなりのドラマだよ！（笑）。

押切　やっぱり、シュルトって、あのデカさにしては素晴らしく動くんだけれども、常人離れした部分がないじゃない。そこなんじゃないの。

橋本　ああ、あれだけの体躯がありながらも、前蹴りとジャブでじわじわ攻めますからね（笑）。サップにあった、愛すべきブキッチョさみたいなところがない。ファンはけっこう感情移入しづらいのかもなあ。

ガンツ　おそらく「アンドレ・ザ・ジャイアントがチャンピオンになったらダメ」という心理に近いんじゃないですかね。デカイんだから、勝ってあたりまえ！　という（笑）。

橋本　たしかにアンドレが絶対王者になられても困るなあ。

ガンツ　たとえば同じ前蹴りでも、ブアカーオの場合は「凄い！」って思うでしょ。でもシュルトのを見たら、「ズルい！」って思うし（笑）。

松林　そういえばさ、ジョークだろうけど谷川さんが「シュルトは前蹴りとヒザを禁止にしたいなあ」って言ってたよね（笑）。

ガンツ　ガハハハハ！　だからシュルトって存在自体が禁止なんですよ。だって、ロープエスケープありのパンクラス時代の頃なんて、関節技を取られそうになっても、ひょいって腕を伸ばしたらロープブレイクなんだから（笑）。

橋本　もうさ、2メートル級の選手ばっかり集めたK－1モンスターGPをやって、「いかにシュルトがデカいだけじゃないのか」というのをちゃんと見せてあげるしかないかも。

ガンツ　でもシュルトって、ほかの2メートル超の選手に負けそうな気がするなあ。

橋本　それはさすがにチェ・ホンマンぐらいでしょう。あのシュルトが迎える王座陥落のドラマや、逆にシュルトの技術がいかに磨かれてるかっていうことを証明させてくれる存在として、俺はホンマンに凄く期待してるんだよね。

ガンツ　ボクはホンマンこそ、アンドレ的な幻想が作れると思うんだけどね。ホンマンって判定では負けてるけど、KO負けはもちろん、ダウンしたことないでしょ。だからフォール負けがないアンドレと一緒でさ。昔アンドレをボディスラムで投げただけで勲章になったように、ホンマンからダウンを奪っただけで「世界で○人目！」とか騒がれるという（笑）。

押切　そういう意味では、『PRIDE』で（セルゲイ・）ハリトーノフにボコボコにされたイメージが強いシュルトよりも、ホンマンに幻想はあるんだよな。シルムの横綱だけあって腰が相当に重いから、総合でもテイクダウンはなかなか取られないだろうって。

橋本　でも、ホンマンにはうっかり総合に出ないで、幻想を守り続けてほしいなあ。最近のK－1ファイターの何が不満かって、うっかり総合に出て負けて、選手の幻想を落としすぎてるんですよ。レコもバンナもそう。アーツなんか大山（峻護）に負けてるんですよ!?

松林　まあ、実況アナがレコの入場時に言ってたけど、「日本は再チャレンジに優しい国」らしいから（笑）。

橋本　でも、いまって幻想を落とすのは簡単ですけど、上げるのって容易じゃないですよね。

ガンツ　だから、ホンマンの幻想を高めるために、かねてからI編集長が訴えて続けてきた〝プロレスルールを大胆に取り入れたK－1ルール〟を作ってほしいですね。ジャブは禁止にしてもいいから、ネックハンギングツリーはOKとか（笑）。

橋本　もはやK－1じゃないだろ、それ（笑）。

ガンツ　でも、バカバカしいようなことも、ちゃんとルールに則ってやれば、そこに勝負論は生まれてくるはずなんですよ。お祭りの『Dynamite!!』ならなおさら許されるでしょうし。たとえばシュルトの間合いを取らせないために、前蹴りができないようにチェーンデスマッチにしちゃうとか（笑）。

押切　ハンデとして3人掛けのほうがまだ現実的だよ（笑）。

ガンツ　あ、それってじつは『Dynamite!!』の会見で谷川さんが匂わせてたんですよ。

松林　さすが谷川さんだなあ（笑）。

ガンツ　谷川さんは、シュルトの試合について「バンナとアーツとホーストの3人でようやく勝てるぐらいだと思うんだよね～」っておっしゃってました（笑）。

押切　日本人3人掛かりでもいいよね。さっき言ってた『ホースト・ジャパン』のリアリティショーの最終回がシュルト対3人っていう。

ハリトーノフに負けたシュルトよりもホンマンに幻想がある（押切）

[K-1 GP 準決勝]
○ピーター・アーツ vs グラウベ・フェイトーザ×
（2R 1分02秒 TKO）
試合続行不能になったレミーのに続き、レコが棄権。本戦に出た第一リザーバーのアーツが右フックでグラウベからダウンを奪ってTKO勝ち。

[K-1 GP 準決勝]
○セーム・シュルト vs アーネスト・ホースト×
（3R 判定3-0）
巨人シュルトは引退を懸けたホーストにミドルキックのようなハイキックを炸裂。最後の試合を終えた4タイムス王者は静かにリングを降りた。

[リザーブファイト.2]
○レイ・セフォー vs メルヴィン・マヌーフ×
（1R 0分40秒 KO）
『HERO'S』ライトヘビー級トーナメント準優勝者、マヌーフがリザーブマッチに。しかし体格で圧倒的に上回るセフォーに秒殺負け。

[K-1 GP 準々決勝]
○レミー・ボンヤスキー vs ステファン"ブリッツ"レコ×
（3R 判定3-0）
レコがローブローを連発。試合を中断するほどのダメージを負ったレミーは判定勝利を収めるも、ドクターストップにより準決勝に進出できず。

ガンツ　いいですね〜。ヤマハ・ブラザーズvsアンドレとか国際軍団vs猪木さんみたいに（笑）。
橋本　しかし、たとえ話が懐かしのプロレスばっかだね（笑）。
ガンツ　いやあ、プロレスってK−1に持ち込める要素がいくらでもあるんですねえ。
松林　K−1の凄いところはさ、いくらプロレスの要素を持ち込んでもK−1だったら許されるんじゃないかって思えるところだよね。実際に俺は許しちゃうし（笑）。でも、『PRIDE』で考えた場合にはそれを背負えるキャラクターがいないでしょ。美濃輪（育久）とかジャイアント・シルバあたりなら可能なのかもしれないけど（※後日、ジャイアント・シルバは『Dynamite‼』参戦を発表！）。
ガンツ　いや、ホントに大仁田厚がやっていた時限爆破マッチをK−1が導入しても、なんの文句はありませんよ！
押切　さすがにあるだろ（笑）。
ガンツ　10分以内に勝負が決まらないとリングが爆発するとなったら、お互いKOや一本狙いにいくでしょ。これでグダグダのフルタイムもなくなるし、いいアイデアだと思うけどなぁ。
押切　時限爆破の是非はともかく（笑）、『PRIDE』では不可能な世界だから、K−1にとってはチャンスなんだけどね。地上波から『PRIDE』が消えて、K−1しか観ないライトな層には、どんな飛び抜けたルールでも、「これが基準なんだ」って思う人はいそうだし。
松林　そういった行為を世間一般的には「歪曲」と言うんですけどね（笑）。
押切　まあまあ（笑）。でも、UFCだって最初に金網でガチンコやるって聞いたときは「え〜、ウソだろ!?」って思ったから。
橋本　映画『地獄の黙示録』の脚本家、ジョン・ミリアスがオクタゴンを考えたんですから、そもそもが大げさなハリウッド仕込みなわけですよね。
松林　まあ、その「歪曲」もやりきってしまえば、やがてはスタンダードになるってことでね。だからK−1では何が起ころうと、俺的にはまったくノー問題というか、6月のソウル大会みたいに「この出場メンバーを見たら、何があろうと現地へ行かねば！」と、期待感を抱いてしまうわけですよ。
ガンツ　いずれにしても、負けたときのリスクなしに緊張感って生まれないわけだから、とにかく「負けたら大変‼」っていうルールを作ってほしいですよ。そうしたら絶対おもしろくなるし、これはこれで一種の競技化ですよ！
橋本　たしかに10分以内に倒さないと爆破するってなったら、真剣にやるんだろうけど。なんか話を突き詰めていくと『お笑いウルトラクイズ』を目指せってことなんじゃない？（笑）。K−1のメンツは『お笑いウルトラクイズ』に出てもおかしくない人ばかりだし。
ガンツ　もともと『お笑いウルトラクイズ』に出てた空手家って、K−1の原点である佐竹雅昭とウィリー・ウイリアムスだし（笑）。
押切　K−1にもちょっと極真イズムが入ってるけど、極真は自動車飛び越えちゃったり、熊と闘ったりするんだから（笑）。
橋本　その場合は『お笑いウルトラクイズ』に極真魂があると考えたいですね。やっぱりキーワードは『お笑いウルトラ』なのかぁ……。
松林　なんか、またK−1からお叱りを受けそうな結論に達しそうだなあ……（笑）。
橋本　じゃあ、ちょっと格闘技寄りに話をまとめると、極真の原点は〝牛殺し〟ですから、K−1 GP優勝者は『Dynamite‼』で牛と闘う！（笑）。
押切　いいね〜。牛と闘うなら、初めてシュルト目線になるし、ようやく前蹴りとジャブに期待を持って楽しめる（笑）。
松林　それを聞いたら俺もようやく「シュルトを応援しなければ！」という気になってきた。でも、これで『Dynamite‼』のシュルトの相手が牛じゃなかったら、どんなにつまらないことか（笑）。
ガンツ　というわけで、毎年『K−1 WORLD GP』優勝者は、大晦日に『Dynamite‼』で牛と闘え！　ってことで。頑張れ、人類代表シュルト！

【06年12月5日／都内・焼肉屋『牛角』にて収録】

突き詰めると、K−1は『お笑いウルトラ』を目指せってこと（橋本）

『Dynamite‼』っていうなら時限爆破マッチぐらいやらなきゃダメ!?

これぞ闘いの原点！
K−1戦士vs動物、もし闘わば？ 勝手にメンバー発表‼
先鋒戦　角田信朗 vs アリクイ
次鋒戦　ガオグライ・ゲーンノラシン vs 鶏
中堅戦　武蔵 vs 猫
副将戦　チェ・ホンマン vs 月の輪熊
大将戦　セーム・シュルト vs 牛

[スーパーファイト]
○バダ・ハリ vs ポール・スロウィンスキー×
（3R 判定3-0）
試合前日、前戦での自身の態度について「感情的になり迷惑をかけた」と反省の言葉を述べたバダ・ハリ。判定3-0で試合を制した。

[K-1 GP 決勝戦]
○セーム・シュルト vs ピーター・アーツ×
（3R 判定3-0）
リザーバーからの決勝進出となったアーツに会場からは大歓声。しかし、シュルトはヒザをアーツに突き刺しダウンを奪取。GP二連覇を達成した。

谷川K−1イベントプロデューサーの大会総括

K−1らしいというか、ドラマのあるおもしろい大会になったんじゃないかと思いますね。MVPはやっぱり、アーツ。今年は病気で開幕戦には出られなかったんですが、その怒りをぶつけるような復活でしたね。で、裏MVPはレコだなと（笑）。何をやっているんだろうと思いましたね。ボンヤスキーの金的を二回も蹴って、（ボンヤスキーがドクターストップで欠場になったら）今度は「出場できない」と言いだして、ビックリしました。さすが〝道を踏み外した男〟（笑）。そういうふうに、試合前のVTRで出ていたんですけど、今日も道を踏み外しましたね。いいキャラになりましたよね（笑）。それから、シュルトについてはホーストが唯一、勝てなかったのが相手じゃないですか？　価値が高いですよね。全体的にハズレがない試合ばかりだったんで、満足してます。あと、日本人はドン底に落ちたなって感じがしますね。これからどうやって這い上がってくるかに期待したいです。

ドラゴン奇跡の『kamipro』初登場!! エー!! 本当なの？

藤波さん、『kamipro』ですけど……
おじゃましてもいいですか？

ようこそ、いらっしゃい!!

金沢克彦
かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして活動中。新日系レスラーの信頼度は絶大! でも夏目ナナにはメロメロな凸凹大学校特別講師。

松下ミワ
まつした・みわ■『PRIDE』やダン・ヘンに豊富な知識を誇るも、プロレスは超初心者……だが新日本道場に一日入門! などその動向は業界に波紋を投げかけている新人編集者。

3年G組
金沢先生

新日本プロレス凸凹大学校SPECIAL
“ワクワクお宅訪問”編

ドラゴン邸に大潜入!! 前編

～教えて!! ドラゴン基礎講座の巻～

「マッチョドラゴン～♪」と口ずさみながら、金沢先生とミワがやってきたのはなんと、ドラゴンこと藤波辰爾邸!! 『kamipro』誌上でも（勝手に）さまざまな伝説が語られてきたこの超大物が本誌初登場! スペシャル拡大の前・後編でドラゴンハウス&ドラゴン自身に迫る!

講師／3年G組 金沢先生 生徒／プロレス超初心者 松下ミワ 撮影／平工幸雄
構成／真下義之、松澤チョロ design by さおとめの事務所

見て!! 聞いて!! そして感じろ!! これがドラゴン邸の全貌だ!!

気分はもう、家康公!? 一城の主、ドラゴンがご挨拶!!

マット界随一の素敵なおしどり夫婦、ドラゴン＆伽織夫人がドラゴン邸の天守閣、二階ベランダからご挨拶！　まだまだ「趣味は城めぐり」で、徳川家康をリスペクトし続ける男、ドラゴンは今日もいい夢殿様気分!?

ミワ　（ダルそうな顔で）金沢先生～。先月のナナ先生ではデレデレでしたけど……今月は大丈夫なんですか？

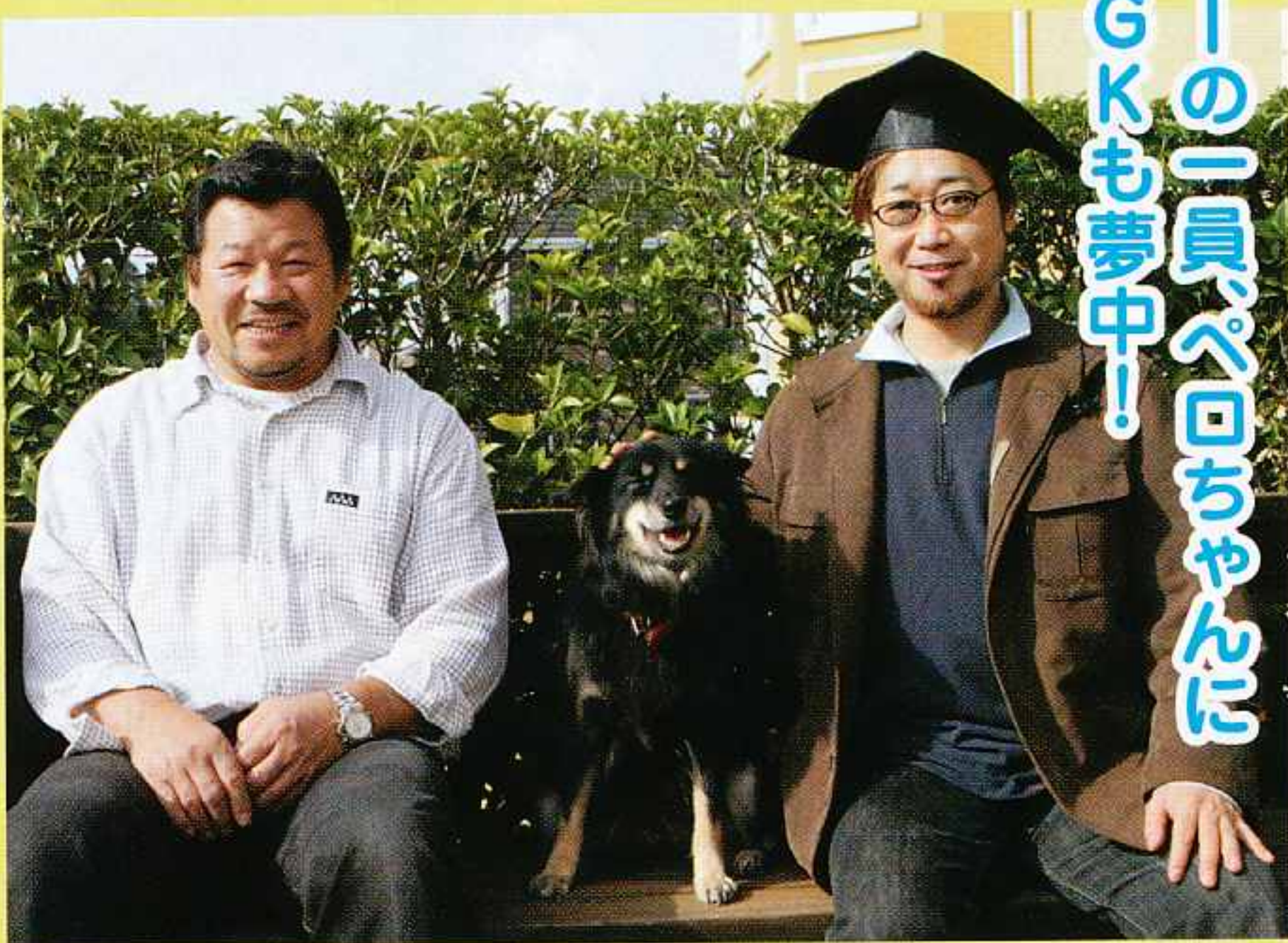
GK　ハッハッハ！　読者から「GKを止めろ！」と苦情のハガキも来てるようだし。今回は超大物ゲストだからビシッとキメますよ。今日はドラゴンこと、藤波辰爾さんのご自宅におじゃましました！

藤波辰爾（以下、藤波）　ようこそ！　いらっしゃい（と満面のドラゴンスマイルで）。

藤波伽織夫人　どうぞ～。お待ちしておりました（と美しい笑顔で）。

ミワ　わ～、すてきなおうち！　すてきなご夫妻！　かわいい犬！　おじゃまし～す！

これがドラゴン邸名物！　庭先の前に広がるゴルフ場だ！　芝生のグリーンが目にまぶしい美しい景色！　あの馬場さんも会員だったという、このゴルフ場はドラゴン一家ももちろんメンバーとのこと。さらにゴルフ場の向こうにはキムタク＆工藤静香の別荘が！

ドラゴンファミリーの一員、ペロちゃんに「犬、大好き!!」なGKも夢中!

ゴルフ場で迷い犬になっていたのをドラゴンが救出！　ドラゴン一家の一員となった愛犬、ペロちゃん（スペイン語で犬の意味）。伽織夫人のかけ声でお座りする姿に「犬、大好き！」なGKも夢中！

いまも変わらぬラブラブぶりを見せつけるドラゴン夫妻。このあたりは空気が澄んでおり、伽織夫人曰く「夜は庭から観る星が、もの凄く綺麗！」なので、コートを着て二人で星を眺めてるらしい！

玄関でドラゴンスマイル＆『白雪姫』の登場キャラクターの人形に迎えられ、意気込んでドラゴン邸玄関の扉を開けると……そこにはもう一つ広々とした玄関が！　ドラゴンファミリー共用のゴルフバッグも立てかけられている。

ドラゴン邸の階段で出迎えるドラゴン。ここから二階のテラスへ上がっての外の眺望はさらに絶景だ！　一階はリビング中心、二階は藤波夫妻の寝室や子ども部屋などの各個室があるが……撮影は断念！

ドラゴン邸のトイレには「つまづいたっていいじゃないかにんげんだもの」でおなじみ、詩人の相田みつを氏の日めくりカレンダーが！　ドラゴンは「あれ、今日変えてない？」とカレンダーチェンジ！

これぞリアル『ちょっと、ごはん食べにこない？』状態だ！　同名の料理本の著書もあり有名シェフも絶賛！　な料理の腕前を持つという、伽織夫人を台所でキャッチ！

どーだい？ この景色!! ドラゴン邸名物、庭の前がゴルフ場!!

ドラゴン邸には、荘厳なオペラがよく似合う……

夫婦円満の法則は「とにかく尻に敷かれろ！」なドラゴン。吹き抜けがあるメルヘンな部屋でくつろぐバックには伽織夫人のかけるオペラが荘厳に鳴り響き、華麗なインテリアの数々ももちろん伽織夫人の趣味で統一！

ミッキー&アンナちゃん ドラゴンファミリーの愛犬物語

室内犬“アンナ”をだっこする伽織夫人。室内犬は二匹、もう一匹の“ミッキー”はかなりの老犬。目や動きも不自由なので目が離せない。「私より年上になっちゃってねぇ」といたわる優しさを発揮！

ドラゴン邸、究極のお宝発見！ 「G1の優勝トロフィーです!!」

見てみぃ！ このドラゴンスマイル！ 掲げるのは93年、G1優勝時のトロフィー！ だがプロレス系の品は、伽織夫人の実家へ送ったため、ドラゴン邸では「これだけ」らしい……。

これが伝説のドラゴン・バーベキューパーティだ！

探偵GKスクープ！ ディス・イズ・事故現場！ 吉江はその巨体の重量でドラゴン邸のテラスの階段を破壊！ そんなトラブルも笑顔で振り返る伽織夫人は最高です！

庭ではドラゴンを囲んで7人のゆかいな無我仲間が笑顔で集結！ 和気あいあいパーティは無事終了と思いきや、巨漢の吉江豊がある大失敗をしていたらしい……。

邸内ではドラゴン御用達の寿司職人が寿司を握り、庭ではドラゴンが直々にブ厚いステーキ焼きまくり！ 「このステーキ最高にうまかったなぁ〜！」とは取材した松澤チョロ談。

8月5日にドラゴン邸で開催された『無我』旗揚げの打ち上げパーティ！ 無我オールスターズはもちろん、ドラゴン一家と親しい女優の山口いづみさんも参加する豪華っぷり！

教えて!! ドラゴン基礎講座 前編

ドラゴンに初接近遭遇したミワは、ドラゴンのジェントルな物腰に激しく感激！　取材後も「『無我』に行きたいんです！」とすっかりドラゴンのトリコな毎日だ。

GK　藤波さん！　このへんは見渡しはいいし、空気もうまい！　なにより凄い立派なおうちですねぇ〜。

藤波　ありがとうございます！　じつはこの家は、セカンドハウスなんですよ。普段は東京のマンションにいて、週末とかに、女房や子どもとこっちに来てるんです。

ミワ　レイアウトや家具も本当に素敵です！　ただ藤波さんは以前、「お城みたいな家を作りたい！」という夢があったと聞いてるんですけど……。

藤波　ええ。僕は昔からお城めぐりが好きでね。そういう夢も持ってたんだけど、女房に却下されちゃってね（笑）。

ミワ　あ、却下されちゃいましたか。

藤波　どうしてもあきらめられなかったから「もしも城を作ったら」と一度だけ、大工さんに見積を頼んだことあるんですよ。……そしたら、ビックリするような金額が来ちゃってねぇ。

GK　いったい、いくらだったんですか？

藤波　……800億円ね。

GK　は、800億!!　いったいどんなお城をモデルに見立てたんですか!?

藤波　大阪城！（胸を張って）。

ミワ　お、大阪城ォ!!

藤波　天守閣の部分だけなんですけど。構造とか特殊すぎるし、石とか素材を考えて建築すると、そのくらいかかっちゃうみたいでねぇ（心から残念そうに）。それで、さすがにあきらめました（笑）。

GK　ところで藤波さん！　この『kamipro』って雑誌はご存知ですか？

藤波　ええ。もちろん知ってますよ（ニッコリ）。もう、スタートして何年くらいになるの？

ミワ　じつは判型が大きくなってから、今号でちょうど10周年なんですよ。

GK　ただ今回、藤波さんの記念すべき『kamipro』初登場……なのに恐縮なんですが。この子は『PRIDE』は大好きだけど、プロレスのことがほとんどわからない困った子なんですよ。

ミワ　す、すみません……。自分も困ってるんです。

GK　なので、今回はこのミワに藤波さんの偉大さをレクチャーする意味もかねて、藤波辰爾の基礎講座という感じで、お話をうかがいたいと思ってます！

藤波　（ミワに向って）ま、いまのプロレスって細かすぎてわかりづらいでしょ？　僕も何団体あるかわからないしねぇ。

ミワ　あ、藤波さんもですか!?　私もです！　ちなみに藤波さんはいままでず〜っと新日本プロレスだったんですね？

GK　そう！　30年以上、新日本一筋ね。それが今年、ついに退社されて『無我ワールド・プロレスリング』を旗揚げした。……じつは僕も昨年、『週刊ゴング』を退社してスッキリしたんですが、藤波さんもストレスがなくなったんじゃないですか？

藤波　そうねぇ。それはたしかに言えるかも。しかし金沢さん、今日は……おもしろい帽子被ってるねぇ（笑）。

GK　あ〜。これは『kamipro』に無理矢理、被らされてるんですよ！

ミワ　とくに前回の夏目ナナ先生のときは嫌そうでしたね、先生（冷たく）。

GK　（無視して）それで、藤波辰爾に憧れてプロレスラーになった人っていっぱいいると思うんですが、そういう人たちが憧れたのはやっぱり、ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデン（MSG）でWWFの世界ジュニアヘビー級のベルトを獲った姿だったと思うんですよ。

藤波　日本もアメリカもいい時代だったよねぇ〜。

GK　で、彼女に当時の藤波さんがどれくらい人気があったかってことをてっとり早く説明するならば、藤波さんは、いまでいうK−1 MAXの魔娑斗みたいな存在だったと思うんですよ！

ミワ　はぁ〜。当時の藤波さんは魔娑斗みたいなカリスマでしたか！

GK　そう、魔娑斗!!　しかも毎週毎週、

教えて!! ドラゴン基礎講座

藤波さんは"お城のような家"も作りたかったとか？（ミワ）
それが見積もったら……「800億円」って言われちゃって（藤波）

テレビに出てたから、魔娑斗よりも衝撃があったかもしれない。ある日、突然お茶の間に若きニュースターが現われた。筋肉質な鋼の身体で、腹筋が割れていて、顔が小さくて、男前で……。

藤波 （さえぎって）男前かどうかはわかんないよ（笑）。

GK いやいや、めちゃくちゃ格好よかったですよ！

藤波 でも海外に行く前は見送りなんて誰もいなかったのに、帰ってきてからの反応があまりに違いすぎたし、想像もできないような状況になってたからね。

GK 帰国時には、空港に凄い人だかりができたみたいですし。

藤波 うん。報道陣に囲まれて記者会見したんだけど、もう自分を見失なっちゃいそうだったよね。会場にも女性や子どもがどんどん来て、新日本のファン層が一気に変わっちゃったり。……自分のこと言うのもおかしいけど、冗談抜きで、あのときの状況は魔娑斗クン以上の人気だったろうねぇ。

GK でしょうねぇ～（深くうなずいて）。

藤波 本当に、どこの地方に巡業に行っても満員だったもんね。

ミワ あ～。魔娑斗さんは地方に行かないですしね。

GK ハハハハ！ それに魔娑斗はMSGに上がってないし、世界から声がかからないじゃない？ でも当時の藤波さんなんか日本がシリーズオフになったら、みんな休んでるのに自分だけ、防衛戦でニューヨークやヨーロッパ、メキシコとか世界各地を飛び回ってたんだから！

ミワ よく身体がもちましたねぇ。

藤波 いや、無謀なスケジュールでも、当時は自分自身がもの凄く乗ってた頃だし、なぜかまったく疲れ知らずだったんだよね。もう忙しすぎて、時差ボケも関係なくなっちゃってるんだけど。……でも、本当にあの頃は「朝が来るのが楽しみでしょうがない」って気分だったね。

ミワ 朝が来るのが楽しみ！ 凄く夢がありますね。

GK それに、藤波さんの存在がなければ、タイガーマスクもライガーもみちのくプロレスもドラゴンゲートもなかった。日本でジュニアという存在がここまで確立されることもなかった。そういう意味で、藤波さんはプロレスファンに「俺もプロレスをやれるかもしれない！」って夢を一番与えた人だと思うんですよ。

藤波 ああ、そういうチャンスやワクを広げた部分はあるかもしれないね。

GK それまでのプロレスって身体の大きいモンスターみたいな人ばっかりだったわけだから。

藤波 当時のレスラーって存在感あったしね。馬場さんに坂口さん。……猪木さんなんか、身体が小さいほうだったから。

GK それで、ジュニア時代の藤波さんの試合ではテレビの生中継で観たチャボ・ゲレロとの試合が強烈なんです。ドラゴンロケットで、イスに突っ込んで、大流血して……。

藤波 無茶やってましたね（笑）。いまはいろんな選手が空中殺法やってるけど。みんな平気であんな技よくやるよねぇ～。僕なんかいまだにあの技やると凄く怖いんだけど……。

一同 ワハハハハ！

GK あのドラゴンロケットって、メキシコでもやってたんですか？

藤波 いや、やってなかった。最初にメキシコであの技を見て「凄いな～」って思ったし。場外マットもないとこに平気で飛んでいくから、僕なんか「怖くてできない！」と思ってたけど……。結局、僕が日本で最初にアレ（トペ）をやったんだよね。

GK あ、日本に帰ってきて初めてやったんですか？

藤波 そう。それが日本に凱旋帰国した初戦（vsマスクド・カナディアン）でしょ？ で、当時の全盛期の新日本の営業部長の新間寿さんが、第一戦のときに僕の控室に来て「何か一つ、派手なことをやれ！」って（笑）。

GK ドラゴンスープレックスだけじゃなく、プラスアルファの技をやれ、と。

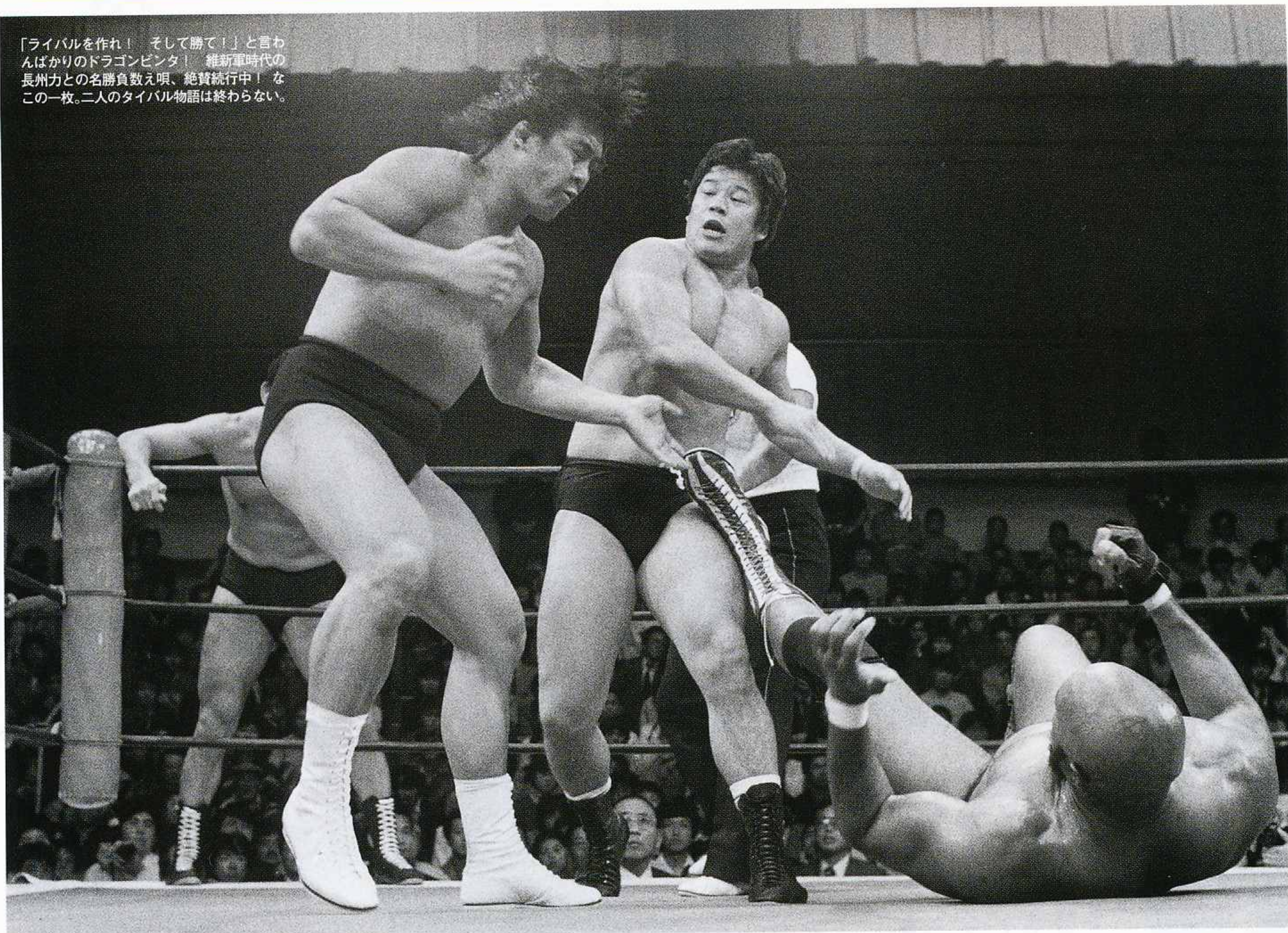
藤波 試合前に「ドラゴンスープレックスは、それは出るだろう？」って。「もう一つ、なんかない？」って言われたから「ないわけじゃないけど、できるかわからないです……」って。それでイチかバチか、本番ぶっつけでやったのが、あのドラゴンロケットですよ！（笑）。

GK あの技は、当時のメキシコでも珍しかったんですか？

藤波 ごく一部の選手しか使ってなかったね。それを帰国第一戦でやったから、今度はドラゴンロケットを毎回やらざるを得ない状況になっちゃって……。「ドラゴンロケットが観たくて、お客は切符買ってるんだ！」って言われるんだよね。あの技は練習のしようがないし、僕はもともと器用じゃないから、つらかったねぇ～。

GK それから、藤波さんといえば外せないのが長州力との一連の名勝負数え唄ですね。最近も長州さんが「俺のハイスパート・レスリングに対応できたのは藤波さんだけだった」って言ってましたけ

どーだい？ この若さ！ 「もう一丁！」と声が聞こえそうなこの写真は「アイ・ネバー・ギブアップ！」なWWFジュニアヘビー級チャンピオン当時のヤングドラゴンな一枚。

「ライバルを作れ！　そして勝て！」と言わんばかりのドラゴンピンタ！　維新軍時代の長州力との名勝負数え唄、絶賛続行中！　なこの一枚。二人のタイバル物語は終わらない。

巌流島での試合って、藤波さんのアイデアだったんですよね？（GK）
そう、長州とね。でも「猪木さん、やっちゃったんだぁ……」って（藤波）

ど。あのときって長州さんのスタイルに合わせていたんですか？

藤波　ま、二人で作り上げたハイスパート・レスリングだったんだろうね。長州もその前は、ああいう試合はやってなかったし……。

GK　本来の藤波さんのプロレスって、無我みたいなスタイルなんですかね。

藤波　う～ん。正直、どれが本来のスタイルか？　ってわからないんだけどね（笑）。

GK　なるほど。ところで、周囲はいろんなこと言うと思いますけど、じつは藤波さんと長州さんって、仲は悪くないですよね？

藤波　あ、それは全然大丈夫ですよ！　長州とは言い争いをしたことないし。お互い業界のことをよくわかってるし。自分が社長のときも言葉を発しなくても「どうしたいのか？」ってわかる関係でしたし。

GK　で、藤波さんと長州さんは常に〝あの方〟と闘っていたと思うんです。

藤波　そうねぇ。（ミワに向かって）あの方って、わかる？

ミワ　えっ……。アントニオ猪木さん？

藤波　フフフ。正解っ！

GK　で、猪木さんといえば……これは最近、公になった話ですけど、じつは〝巌流島の決闘〟って藤波さんのアイデアだったらしいですね。

藤波　あ、そうなんですよ。

GK　藤波さんが長州さんとの巌流島対決のアイデアを会社に出したら、いつのまにか猪木vsマサ斉藤にすり替わっていた！　って（笑）。

ミワ　え～！　それって、横取りじゃないですか！

GK　藤波さんはさぞや、頭にきたと思うんですけど。

藤波　いやぁ……べつに。僕はそれがすべてじゃなかったし。「ああ、やっちゃうんだぁ」って（笑）。

一同　ワハハハ！

藤波　ただ、最初のひらめきは僕だったね。87年に長州が新日本に戻ってくるタイミングで巌流島で試合できないか？　って。それもノーピープルじゃなく、お客さんを入るだけ入れて長州軍と新日本で対抗戦をやろうって、興行的な部分も考えてたんだけどねぇ……（無念そうに）。

GK　ミワは巌流島の試合って知ってる？

ミワ　はい。噂だけは……。えっと、結局、お客さんは入れなかったんですか？

GK　入れない、入れない。マスコミだけのノーピープルマッチでやったんだよ。

藤波　ねぇ？　もったいないよねぇ～？

（腕を組みながら）。

ミワ　でも、なぜ巌流島でやろうと思ったんですか？

藤波　たまたま新日本のツアーで山口県を回ってて、高速道路のサービスエリアで休憩してたときに、ちょうど巌流島が真下に見えたの。当時、山口県の興行は営業の上井（文彦、現・上井ステーション駅長）が担当してたんだけど。

ミワ　えっ！　あの上井駅長が……！

GK　上井さんは地元が下関ですからね。

藤波　で、彼と「長州の新日本復帰のタイミングでいいアイデアはないか？」ってお茶飲みながら話してたときに「あそこでやろうか？」ってね。上井も「おもしろいですね！　じゃ、巌流島が使えるか調べてみます」って。彼はそういうの大好きだから（笑）。

GK　ハハハハ！　しかしそういう部分で藤波さんって、新日本では損な役回りが多かったというか……。

藤波　（さえぎって）いや！　僕は損とかは考えてないですよ！　……ただ「猪木さん、やっちゃったんだぁ」って思うだけで。

GK　あ、そういうもんですか。

教えて!! ドラゴン基礎講座

藤波　ただ巌流島にしろ、僕が興行のことまで考えちゃうのは、新日本に入ったときは選手兼、猪木さんの付き人兼、営業って感じで、ポスター貼ったり、チケット売ったりしてたから。

ミワ　藤波さんがそんなことまで！

藤波　うん。新日本の選手も旗揚げ当時は、そういうこともやってたんですよ。

GK　いまでいう、インディーの立ち上げですね。言ってみりゃあ、新日本は元祖インディーなんだよ。

ミワ　はぁ〜。新日本は〝元祖インディー〟ですか？

藤波　うん。本当に一緒一緒。だから『無我』をやるときも、スポンサーに頭を下げたり、チケットを売ったり、もともと新日本でやってたから、「あたりまえだな」って部分はあるよね。

GK　新日本って、ヘタしたらいつ潰れてもおかしくなかった状況下から、黄金時代を築いたわけですよね。そういう苦労を知ってるのは旗揚げメンバーの猪木さんであり、山本小鉄さんであり、藤波さんなんでしょうね。

藤波　うん。当時は「明日、潰れるかもしれない」って状況だったから、必死だったね。だって、給料なんかないし、その週あった試合の経費を差し引いた残りで、「おまえは1万円、おまえは2万円」って感じで配布されるだけ。だから旗揚げ当時は、レスラーで結婚していたのは山本小鉄さんと猪木さんだけだし。

GK　その新日本プロレスが、来年も1・4ドームを開催しますけど、藤波さんはいまの古巣にはどういう思いがあります？「踏ん張ってほしい」って気持ちですか？

藤波　そりゃ、そうでしょう！

GK　もし、新日本から協力してほしいとか、上がってほしいという要請があったら、考える余地は？

藤波　……ないでしょう！

GK　あ、そこはないですか（笑）。

藤波　僕が上がることはないでしょうね。もちろん西村（修）とか吉江（豊）であれば可能性はあるでしょうし、僕も上がってほしいし、止めません。ただ、もう僕は新日本の批判をする気もないしね。

GK　藤波さんは、そういう固い意志を貫いて……

藤波　いや！　意志は弱いですよ！（キッパリ）。

一同　ワハハハ！

GK　じゃあ、頑な感じでもなく、卒業みたいな感じですかね。いつまでも卒業しない猪木さんみたいな人もいますけど（笑）。

藤波　ま、猪木さんに対しても何もないですよ。それに猪木さんって、たまに会うんですよね。駅とかでバッタリ。

ミワ　そんな偶然があるんですか！

GK　は〜。そういうときは猪木さん、やっぱり笑顔ですか？

藤波　ニッコリと、屈託のない感じでね（笑）。

GK　でもそういうことですね、人間って。直接会うと許せちゃうっていうか。

藤波　僕はそういう付き合いはキチンと続けていきたいし、いままで新日本って看板があったから、どこか壁があったけど、もう街で長州に会おうが、猪木さんに会おうが、個人と個人の関係で会えるから。

GK　は〜。こりゃあ、やっぱり藤波さん、ストレスなくなってますよ！

藤波　そうかもね。最近は、プロレスに偏見もなくなってきてますし。

GK　あぁ、先日は学生プロレスのリングに抜き打ちで上がったとか。

ミワ　え！　藤波さんが学プロのリングに？

藤波　西村に連れられて、『無我』の宣伝を兼ねてね。

GK　もの凄い盛り上がりだったみたいですけど、そういう部分でも考え方が変わったんですか。それこそ新日本の社長時代だったら……。

藤波　いや、考えられなかったね！（笑）。

GK　「ふざけるな！」って話ですよね。ちなみに、藤波さんは『ハッスル』とかご覧になったことは？

藤波　……ない！（キッパリ）。

GK　あ、『ハッスル』はない。でも、なんとなく噂は聞いてると思うんですが。

藤波　いや〜。それよりも自分は新日本を離れてから、ほかの団体からのオファーがまったくないんですよ！

GK　ということは、オファーがあったら考えます？

藤波　……それは、まぁ、来てみないとわかりません！

一同　ワハハハハ！

GK　藤波さん！　そういうこと言うと、きっとすぐにでもオファーが来ますよ！

藤波　本当？　じゃあ、カイヤさんと試合やれるかな（笑）。

ミワ　じゃあ、ぜひ次期GMに！

GK　鈴木みのるまで『ハッスル』に上がりましたから。あれだけ頭が固かった男が、お笑い芸人のRGと楽しそうに試合やってましたからね。

藤波　あっ、そうなの。……みんな、割りきってるんだねぇ（しみじみと）。

GK　ハハハハ！　割りきっても、それが楽しめたらいいと思うんですけどね。まだまだ聞きたいことはあるんですけど、今月はこのへんで。引き続き来月は、伽織夫人も交えてご夫婦のお話をうかがわせてください！

【06年12月2日　藤波宅にて収録】

ふじなみ・たつみ■1953年12月28日、大分県出身。日本プロレス入門後、72年、新日本プロレス旗揚げに参加。78年にWWWFジュニア王座獲得。凱旋帰国で"ドラゴンブーム"を巻き起こす。長州力との名勝負数え唄、飛龍革命などで活躍、99年〜04年まで新日本社長を務めるが、06年に退団し、西村修らと『無我ワールド・プロレスリング』を旗揚げ。身長183cm、体重104kg。

ドラゴンに会いに行こう！『無我ワールド・プロレスリング』大会インフォメーション

11月5日、法政大学・市ヶ谷キャンパスの学園祭での学生プロレスのリングに無我ワールド所属選手が突如殴り込み！　集まった観衆はもちろんリング上の選手も「聞いてないよ〜!」とビックリも最後は大歓声！

『無我ワールド・プロレスリング』大会日程

『無我2007　First Journey』

1月

19日（金）北海道・札幌テイセンホール（19：00開始〜）

20日（土）北海道・旭川地場産業振興センター（18：00開始〜）

24日（水）岩手県・大船渡市民体育館（19：00開始〜）

28日（日）東京・後楽園ホール（18：30開始〜）

※電話予約・お問い合せ
03-3402-2474
『無我ワールド・プロレスリング』

次回予告！

まだまだ続く、ドラゴン劇場！　愛と感動の藤波夫妻編を見逃すな！

「もっと聞かせていい話！」と、来月はさらにドラゴン夫妻に肉薄！　松下ミワが恋愛、結婚について聞きまくります！

ザ・エスペランサ
ペラ”『ハッスル
替わる実験的な
レスは急速なエ
演劇ってなんだ
みる8ページ特
構成／真下義之、

「後楽園発～プロレス復興行き夢列車、
ただいまより発進いたします！」

“平成のポッポ屋”

いまこそ上井駅長に RIDE ON!!

ピーーッ!!

12.3 上井駅
出発進行～ッ!
大特集

12.3 後楽園ホール大会

UWAI STATION
大特集でシュポ～!

整備不良（というか人身事故というか、なんというか）のため発車を見合わせていた「上井ステーション」が12月3日、“プロレス復興”を目指し出発進行ッ! 自ら“駅長”を名乗り後楽園ホールから発車した「上井ステーション」。駅長は上井さん! 乗客はボクら! プロレス不況が叫ばれるいまだからこそ、上井駅にライド・オン!!

乗客／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　designed by shiraki（TwoThree）

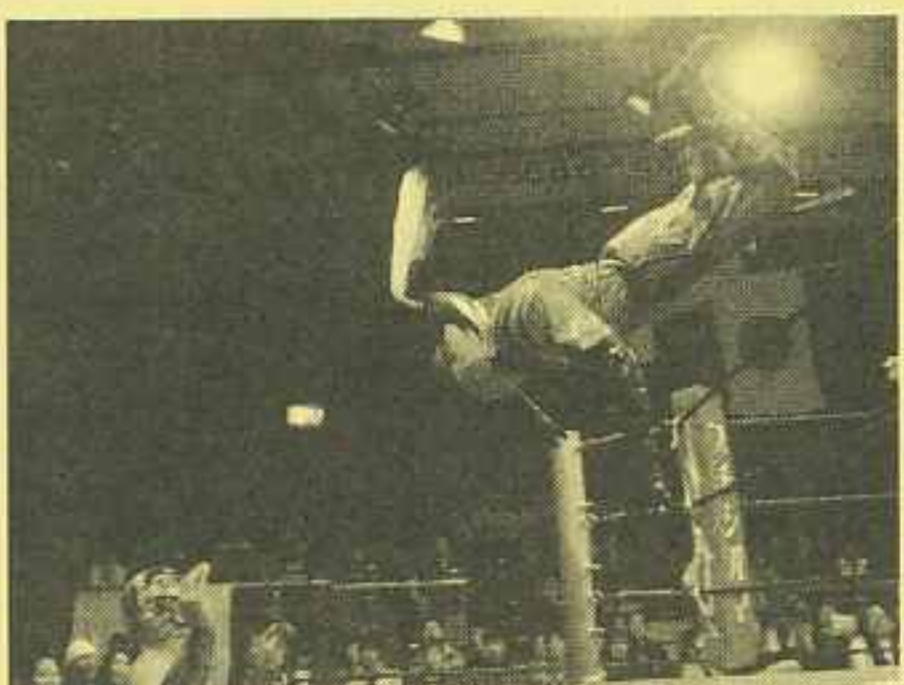
出発進行〜ッ!

12.3 上井駅
出発進行〜ッ! 大特集

見てみい、この駅長ぶり! 大会前、リング上で挨拶した上井駅長は、この日が長州力の誕生日であることを報告。約一時間後、場内に「パワーホール」が鳴り響くとは、この時点では誰もが思わなかったはずだ、コラッ!

第1ステーション

記念すべき第1駅は上井駅長にビッグスポンサー「プチシルマ」を紹介したドン荒川が菊タローとのタッグで登場、NOSAWA論外&MAZADAと対戦するも最後は菊タローが丸め込まれ敗戦。しかし、菊タローはしっかりと乗客に「プチシルマ」をアピールし退場!

第2ステーション

第2駅ではBML時代から、たびたび登場の義経とラッセが「上井ステーション」ならぬ「上井ターミナル」といった感じの大空中戦を披露。最後も義経がアクロバット飛行で勝負を決めた。

第3ステーション

久々に日本マット登場となるノートンに続いて「パワーホール」と「テイク・ザ・ドリーム」で登場した"X"は泉州力と健心。この日が誕生日の長州を尊敬してやまない泉州は「俺はこのリングのド真ん中を歩くぞ、コラッ!」と健心とともにノートンに挑んだものの超竜パワーの前に完敗。暴れたりないノートンがメインに出場する高山とみのるに対戦を要求、さらにはリング上で得意の腕相撲を披露。乗客相手に剛腕を見せつけたノートンは満足げにリングをあとにした。

踏切……

ノートンはビッグスポンサー「プチシルマ」の加畑社長とガッチリ握手して控室に引き上げると、再び上井駅長がリングインし、12月30日の後楽園大会のアナウンスを敢行。「関西方面の同階級では最強の男」とリングに呼び込んだのが駅長が"第二の門馬秀貴に成りうる男"と大プッシュする総合格闘家の毛利昭彦。毛利は12・22MARS横浜大会でケガがなければ、次回大会でDDTの飯伏幸太とプロレスデビュー戦を行なうことが発表となった。

上井文彦とザ・ブルーハーツ。う〜ん、なんだかしっくりこない。では、上井駅長と『トレイントレイン』ではどうだ? これなら、なんとなくそれっぽい感じがするだろう。

なんのことかというと、12・3『上井ステーション』の試合前、上井駅長がリングインする際に流れていたのがブルーハーツの名曲『トレイントレイン』だったのです。

「♪栄光に向かって走る〜　この列車に乗って行こう」、「♪見えない自由がほしくて〜　見えない銃を撃ちまくる〜」という、お馴染みの曲とともに、何やら片手に握りしめロープをまたいだ上井駅長。

リングマットには前々から語っていたとおり、志村けんと研ナオコのCMで有名な「プチシルマ」のロゴがしっかりと入っている。

当初、第一弾興行として予定されていた10・8後楽園大会は自ら組んだマッチメイクに納得がいかず延期となり、発車も危ぶまれていたが、約2ヵ月後、入念に車両点検し、無事出発のときを迎えたのだった。

四方に深々と礼をした駅長は、これまでの経緯を乗客に説明すると、「わたくし『上井ステーション』の駅長になりましたので、発進の準備をさせていただきたいと思います」と語ると、おもむろに駅長帽と白手袋を装着し、「それでは、12月3日、後楽園発、プロレス復興行き夢列車、ただいまより発進いたします!」と高らかに宣言。続けて「ピーッ!」と勢いよく発車のホイッスルを吹き鳴らすと、場内にはゴダイゴの『銀河鉄道999』が鳴り響いたのだった。

もともと『上井ステーション』のステーションとは情報発信基地といった意味の"ステーション"としてつけられたということは上井駅長自ら語っていたが、いつからか「ステーション=駅」ということになり、『上井ステーション』は、これまでのマット界には例を見ない、プロレスと鉄道のコラボという斬新すぎる進化(?)を遂げたのだった。

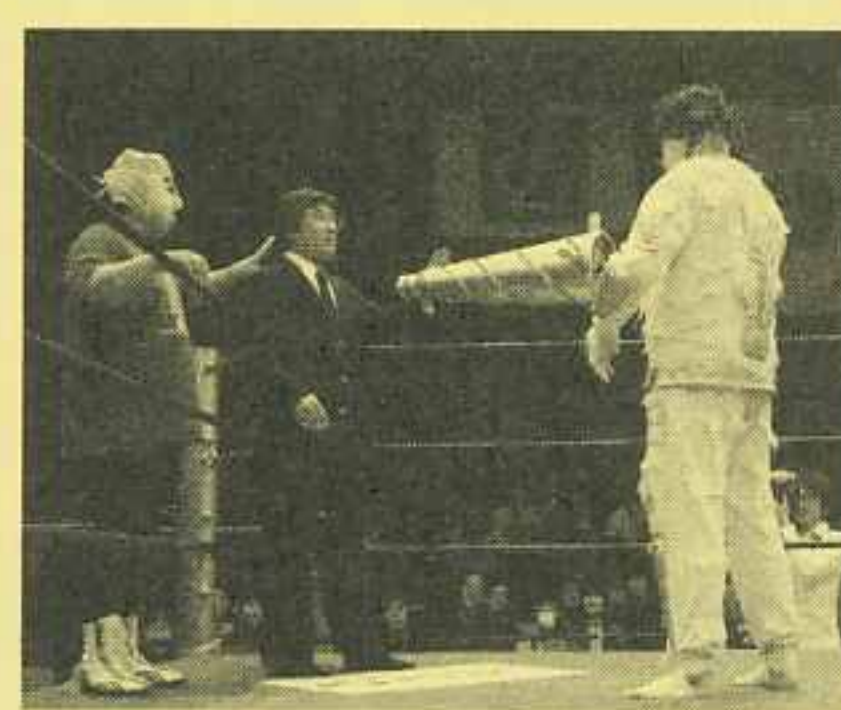
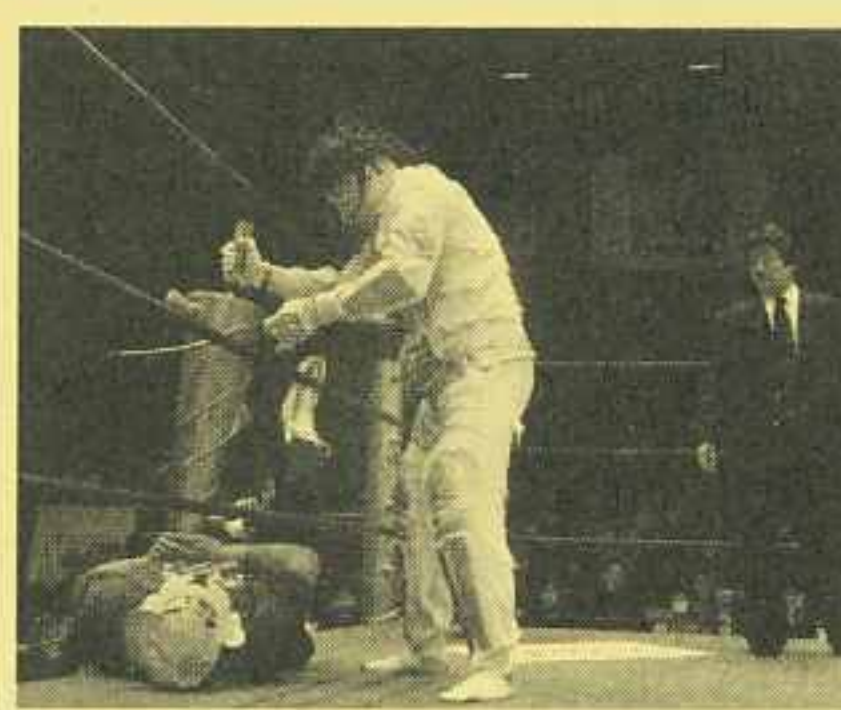
結果的に、これは成功だったと言えるだ

ザ・エスペランサ
ペラ"『ハッスル
替わる実験的な
レスは急速なエ
演劇ってなんだ
みる8ページ特
構成／真下義之、

メカステーション

駅長がリングを降りようとすると突如、場内が暗転。不気味な音楽とともに来場を予告していたメカマミーがドリルとメカフィストを装備しリングイン。いきなり駅長を威嚇したメカマミーは、なぜか隣にいた菊タローにドリルを突き刺し、胸のハッチから秘薬ならぬ挑戦状を取り出し駅長に手渡す。「フリーランスレスラーが世界各国から集まる、この大会に今年最もアゲアゲだったメカマミーがエントリーされていないのはなぜだ？　参戦が認められない場合は上井駅長を拉致してメカ上井に改造します」と自ら代読した駅長は戸惑いながらも「必ず上げます」と参戦を受諾。12.30、駅長の命が危ない!

第4ステーション

この日がデビューからちょうど二年となるフジタ"Jr"ハヤトが前日までNOAHに参戦していたブライアン・ダニエルソンと二周年記念試合を行なうも、あえなく敗戦！

第5ステーション

ノートン一押しのハワイアン・ライオンとセミで対戦した柴田勝頼。レスリングでたしかな実績を持ち総合経験もあるというライオンは柴田相手にグラウンドで優位に立つなど非凡なセンスを随所で披露。柴田との激しい打撃戦も繰り広げたライオンだったが、最後はアームブリーカーから腕を極めたまま卍固めで捕獲し柴田が勝利。試合後、柴田は自ら握手を求めライオンをたたえた。

第6ステーション

「上井ステーション」メインはブルー・ウルフ＆後藤達俊＆小原道由と鈴木みのる＆高山善廣＆SUWAというアクの強いメンツがズラリ勢揃い。現在はモンゴルで実業家として活躍するブルー・ウルフが先発で登場（この日で引退との報道もあったが本人は否定。詳しくは次号インタビューにて）、ジャンケンで負けた高山と激突。「寛水流を見せろ!」との乗客からの声援に燃えた後藤がみのると激しい張り合いを見せるも、最後はみのるが「いくぞ、プチシルマ!」と叫んでからのゴッチ式パイルドライバーで小原を沈め、無事終電!?

プロレス復興!!

2006.12.30 後楽園ホール

駅長の大会総括

「総括ですか？　全然100点満点の興行じゃないけど、皆さんに支えられて達成感はあります。久々の（スコット・）ノートンも素晴らしかったし、ハワイアン・ライオンは（ノートンが）推薦するだけの選手だったし、ブライアン（・ダニエルソン）も凄いわ。控室でノートンが一番感心していたのが柴田というレスラーの凄さ。自慢の弟子のライオンの素晴らしいところを引き出してくれたと。あとは（ブルー・）ウルフもそうですけど、今回はノートンとか予期せぬ助っ人に助けてもらってホントにありがたいです。切羽詰まると助けてくれる人が現われて、出てくれた選手、あきらめず観に来てくれた人たち……自分の信用は地に落ちたとはわかってますが、ここから這い上がっていきたいと思います。（駅長の帽子と手袋はご自身で?）これはこちらの方（「スカパー！　バトルLIFE」の井上崇宏氏を指さし）が用意してくれまして。笛は自前です。『夢列車』というコピーも応援してくれている『リングソウル』の藤永さんが考えてくれたんです。どこに終着駅があるかわかりませけど、プロレス復興を目指してやっていきます。『プチシルマ』さんという素晴らしいスポンサーがプロレス界のスポンサーになれるような橋渡しをするのが僕の使命だと思ってますんで。それと、ファンをもう一回プロレスのリングに呼び戻さなければいけないと思ってます。（リング上で披露するはずだったプチシルマ体操は?）練りに錬ってるみたいで。ホント大変なものになりそうですよ！　これに関しては箝口令が敷かれてますから。2月の大会では大変なメンバーが揃うんじゃないですか？　来年はヘタしたらドン荒川ブームが起きるかもしれませんよ。ブームって何歳になって来るかわかんないですからね。左卜全さんや星野総裁の例もありますし。プロレスラーといえばドン荒川っていう日がホントに来るかもしれないですよ」

※12.30「上井ステーション」後楽園でメカマミーvs上井28号電撃決定!!

ろう。マスコミも悪ノリして『上井ステーション』と鉄道ネタを関連づけて報じれば（翌日の『東スポ』の「廃駅ピンチ」のコピーはさすが）、メインに登場した鈴木みのるからは「俺らは特急だから各駅には停まらない」と継続参戦拒否を匂わす発言も飛び出す始末。大丈夫かなぁ？　が、しかし！「松澤さん、『トレイントレイン』って、ホントいい詩ですよねぇ」

おそらく、ブルーハーツの存在は認識していないだろうが、こんな素敵なセリフを真顔でつぶやく"ホラ吹き"あらため"笛吹き"の上井駅長を応援せずにはいられないってもんです。シュポ〜!!

12.3 上井駅
出発進行〜ッ!
大特集

「今回の大会は何から何までノートンに助けてもらいました！」（by駅長）

スコット・ノートン

SCOTT NORTON

極太腕繁盛記

12.3『上井ステーション』後楽園大会で約半年ぶりの来日を果たしたスコット・ノートン。
上井駅長からの信頼も厚く、今後の『上井ステーション』にとっても重要な役割を果たしていくことになりそうだ。
そんなノートンを大会前日にキャッチ！　腕相撲のことやマサ斉藤とのヤンチャ話などなど、おおいに語ってもらった。

聞き手／山本宗忠（THE PEHL WANS）　同乗／チョロ　試合撮影／平工幸雄　designed by shiraki（TwoThree）

プ演

ザ・エスペランサ
ペラ〞『ハッスル
替わる実験的な
レスは急速な
演劇ってなんだ
みる8ページ特
構成／真下義之、

——久々の来日ですね！　いつ以来の日本になりますか？

ノートン　4月のニュージャパン（4・30『NEW JAPAN CUP 2006』尼崎大会）以来だから約半年ぶりだな。

——新日本から離れてもう半年以上が経っているんですねぇ。

ノートン　新日本側と次の契約の席についたんだけど、合意点に達することができなくて……。残念ながら新日本とは道を分かれてしまったんだ。

——名残惜しさはありませんか？

ノートン　もちろん名残惜しいよ。16年間もいたから、そりゃあ特別な感情も持つし、みんな仲間だと思っているからな。思い出もたくさんあるし、自分の人生の一部だと思っていたので、そんな簡単に新日本を忘れることなんてできるわけがない。

——ですよねぇ……。

ノートン　おお、そうだ、そうだ！　今回日本に来る際、飛行機の隣の席に座っていたのが、なんとサイモンだったんだよ！

——えっ!?　念のため確認しますけど、新日本プロレスのサイモン・ケリー猪木社長のことですか？

ノートン　イエス。

——マジっすか!?　凄い偶然ですね！　いったいどんな話をされたんですか？

ノートン　この半年間、どうだったかってことを語り合ったんだ。

——ノートン選手はサイモン社長に対し感情的にならなかったんですか？

ノートン　サイモン個人についてはなんの恨みもない。オレもこの業界の人間としてビジネスのことはわかっているし、切られたことについてとやかく言うつもりはまったくない。明日は『上井ステーション』に出るが、今後新日本以外のリングで活躍することによって、また新日本との関係がいいほうに変われればいいなと思っている。そのようなことをサイモンには伝えた。

偶然だけど、今回来日時の飛行機の隣の席はサイモンだったんだよ！

——サイモン社長はなんと？

ノートン　「いつかね」と。オレは彼や新日本を尊敬している。

——そうでしたか……。それにしても機内で隣り合わせなんて凄い偶然ですねぇ（笑）。

ノートン　じつは、日本に着いてからいろんな選手や関係者から「サイモンとどんな話をしたんだ!?」って聞かれるんだよ！

——えっ？　日本に向かう機内で一緒だったわけですよね？

ノートン　日本に向かっている最中であることは間違いないんだけど、トランジット先のロサンゼルス空港に向かう国内線で一緒だったんだ。で、ロス空港に着いたときにワイフと電話で話をしたんだけど、「サイモンと隣り合わせだった」っていう話もしたんだ。そうしたら、オレがロスから日本に向かっているあいだにワイフがいろんな人にしゃべりまくっていたと。日本に着いたら「どんな話したの？」って凄い勢いで電話がかかってくるし、東京ドームホテルに着いてパソコンのメールをチェックしたら、そのことに関する質問で受信箱がいっぱいだったよ（苦笑）。

今回の来日では、東海テレビの収録で吉本の芸人と腕相撲をしたり、12.2ノア横浜大会を観戦しに行くなど、精力的に動き回ったノートン。携帯もひっきりなしに鳴っていたが、その携帯にはライオンマークのステッカーが貼ってあった。

——ノートン選手がどういう対応をしたのかは気になるでしょうからね（笑）。

ノートン　中には「サイモンを飛行機から落としたんじゃないのか？」って内容のメールもあったよ（笑）。ガッハッハッハッハ!!

——そんな偶然もあって来日されたわけですけど、半年ぶりの日本はいかがですか？

ノートン　空港から都内までの車の中で「やはりオレにとって東京は、ただ働く場所ではないんだ」ってことを再認識したよ。で、ホテルに着いたときにファンの男の子が一人、オレを見かけて駆け寄ってきたんだ。そして、オレに聞くんだよ。「なんで新日本で試合をしないんだ？」って。「ボクはノートンが来ないならもう新日本を観に行かない！」ってな。

——熱狂的なノートン・マニアですねぇ〜。

ノートン　つたない英語で話しかけてくれたんだが、言葉がシンプルだったために余計に心に響いた……。「ウワイのリングで大暴れしてやるぜ」と心に誓ったよ。ウワイは相変わらずエキサイティングな男だよな。今回のオファーをもらったときも凄い興奮しながら、新しいビジョンだとか団体の方向性の話をしていたよ（笑）。

——熱い方ですよね（笑）。さて、ノートン選手といえば〝腕相撲世界一〟で有名ですが、そもそもアームレスリングを始めるきっかけとなったのは？

ノートン　アームレスリングっていうのはアメリカの学生ならみんなやるもんだけど、18歳のときに人の勧めでミネソタ州の大会に出たらいきなり優勝したんだ。今度は4州が集まるトーナメントに出場したら、また優勝。さらに今度は全米選手権に出場したら、それも優勝。まったく努力もすることなく優勝してしまったんだ。その後、世界大会で3回、全米選手権も6回優勝して、そして自分の獲ったキャリアの中でもっとも大きいのが、（映画『オーバー・ザ・トップ』のサントラCDを指さし）これだよ。

——87年の世界選手権のことですね。

ノートン　そう。世界中の猛者756人が参加したトーナメントだった。

——『オーバー・ザ・トップ』は、この大会の中でシルベスター・スタローン演じるリンカーン・ホークが優勝するという設定なんですよね。

ノートン　この映画はフィクションにノンフィクションのシーンを混ぜたもの。ノンフィクションのシーンとは、もちろん実際

1998年9月には蝶野正洋が負傷で返上したため行なわれた王者決定戦で永田裕志を倒し、第23代IWGP王者となったノートン。2001年3月には佐々木健介を破り同王座に返り咲き、じつは二度もIWGPを獲っているノートン。写真は98年に同王座を獲得したときに懐かしいnWoジャパンの面々と。また、ノートンはIWGPタッグ王座も2度獲得し、99年には武藤敬司とのタッグでG1タッグ・リーグ戦も制している。

の大会の模様の映像だ。そして、大会終了後にフィクションシーンの撮影があったんだけど、途中でメナヘム・ゴーランという監督が何回もやり直しを要求してきて少しナーバスになってさ。で、結局、役を降ろされたんだ。役どころとして指示されたのは、「オレが世界一だぁ!!」と叫ぶような簡単なことだったんだが、当時はプロレスラーになる前だったのでどう演技をしたらいいのかよくわからなくて全然ダメ。いま思えばヒドい演技だったよ（笑）。いまのオレだったら、パチン！（指を鳴らして）。これだけですぐに役どころに入り込めるのに。

——腕相撲世界選手権、『オーバー・ザ・トップ』を経てプロレスに転向したノートン選手ですが、きっかけは高校時代の友人である故ホーク・ウォリアーさんからの勧めだったと聞いていますが？

ノートン　ＡＷＡでプロレスデビューする際にホークからアドバイスをもらったのはたしかだよ。だけど、きっかけはブラッド・レイガンスからの勧めだ。日本ではいつの間にか「ホークからの勧めで」ってなっていたんだな。

——きっかけはレイガンスだったんですね。聞いてみたかったんですけど、腕相撲世界王者のノートン選手に怪力自慢のプロレスラーが腕相撲を挑戦してきたりしませんでしたか？

ノートン　誰もいなかったなぁ……あっ、一人いた！　バーン・ガニアが挑戦してきたよ。「ちょっとやらせてみろよ！」って言うからしょうがなくやったんだけど、ガニアは爺さまだろ？　手加減したんだよ。そうしたらガニアが「おい、ふざけんな！　真剣にやれ！」って言うから、「フンッ！」って少し力を入れたら、ガニアは肩を故障。手術するハメになっちまった（笑）。

——ＡＷＡの帝王の肩を破壊！（笑）。やはり凄い怪力ですね。日本で腕相撲といったらゲーリー・グッドリッジも有名なのです

SCOTT NORTON

ザ・エスペランサ
ペラ"『ハッスル
替わる実験的な
レスは急速なエ
演劇ってなんだ
みる8ページ特
構成／真下義之、

マサとの思い出を語ると、いくら話しても時間が足りないよ（笑）

が、グッドリッジと腕相撲されたことは？

ノートン　ゲーリーのことはよく知っている。友だちだよ。もちろん腕相撲もしたことある。100戦100勝だった（キッパリ）。ただ、彼の名誉のために言っておくと、オレとゲーリーとでは体重差がありすぎる。だって、オレはスーパーヘビー級で彼はライトヘビー級だぜ。彼のことはアームレスラーとしてもシュート・ファイターとしても尊敬しているよ。

――へぇ～、GGとも接点があったんですね。話を元に戻して、AWAでデビュー後、新日本で長らく活躍されるわけですが、日本に来るきっかけとなったのはマサ斉藤さんからの勧めなんですよね？

ノートン　そのとおりだ。レイガンスのところでトレーニングをしているときに、レイガンスから「おまえは日本のストロングスタイルのほうが向いているんじゃないかな？」って言われていたんだ。ちょうどその頃、レイガンス道場でマサと会ったんだ。

――そのマサさんとホークさんが六本木の飲み屋で、日本に来ていた某NFLの選手たちをボコボコしたという話があるんですが、ご存知でしたか？

ノートン　ハッハッハッハッ！　ああ、聞いたことあるよ。マサやホークは本当に無茶だよなぁ（笑）。あと、やはり六本木でアメフトのカレッジチームの連中もボコボコにした話があるんだけど、聞いたことあるか？

――ないです！　ぜひ聞かせてください！

ノートン　メンツは次の5人。レイガンス、ホーク、マサ、オレ、そしてハットリ。

――マサさん曰く「喧嘩したら一番強い」タイガー服部も！　危険なメンツですねぇ。

ノートン　だろ？（笑）。そのカレッジの連中の奴らの一人がオレらに絡んできたんだ。そうしたら、まずホークが一人を黙らした。

――「黙らした」とは拳で注意したということですか？

ノートン　イエス（笑）。「うるせえぞ、このガキ！」って言いながらね。言っておくが、そいつらは大学生とはいえアメフトをやっている連中だから、オレらと同じかそれ以上にデカいヤツばかりだぜ。

――NFL予備軍ですもんね。そのときノートン選手は？

ノートン　オレはマサから常々、「日本では絶対にトラブルを起こすな」って口ずっぱくなるほど言われていたので、ホークに「おい、やばいぞ！　やめとけ！」ってあいだに入ったら、そうこうしているうちに、そのマサが別の男をボコボコにし始めたんだ。もう半殺しだよ。飄々とした顔でボッコボコに殴っているんだ。「えぇ～!?」って感じだよ（笑）。

――さすがですねぇ～（笑）。

ノートン　で、そのマサが半殺しにした選手というのがラインバッカー（"ディフェンスの花形"と呼ばれ、オールマイティにディフェンスを求められるポジション。アメフトでは重要なポジションの一つ）の選手だったみたいで、今度は向こうの連中が揃って血相を変えてかかってきたんだ。

――ラインバッカーの選手がやられたら向こうも黙っていないでしょうね。

ノートン　ハットリもレイガンスも大暴れしているし、オレにも何人もの男が襲いかかってきたから、「しょうがねえか」って思って大暴れして、みんなでボコボコにした。で、次の日、新日本のバスの中でマサが一言。「昨日はよくやった！」って（笑）。

――普段は「トラブルは避けろ！」とあれほど言っているのに（笑）。話の中でホークさんの話が出ましたが、残念ながらホークさんは3年前に帰らぬ人となってしまいました。かつてノートン選手と激闘を展開した橋本真也さんも昨年……。

ノートン　……悲しいことだ。昔、巡業でホテルに泊まっているときに、外国人レスラーはオレだけで、とても退屈していたんだ。あまりに暇で鳩に餌をあげるくらい（笑）。そうしたら遠くからワイフと子どもを連れた大きな男が、鳩に餌をやるオレのことをカメラで撮影しているんだ。「おや？」と思ってよく見るとハシモトだったんだ。ハシモトは笑いながら「おまえはいい男だ！」と何回も言うんだよ（笑）。恥ずかしいったらないんだけど、彼の名前が出るときは決まってそのときのことを思い出す……。「ハシモト、何を言っているんだ。おまえのほうがいい男だった」。天国の彼にそう伝えたいね。愛嬌のあるいい男だったよ。

――いい話ですね……。

ノートン　……ホークもハシモトも偉大なレスラーだった。あと、ブラック・キャット（故人）もな。彼とはリング上での接点はそんなにないんだが、オレも含めて外国人レスラーたちから一番尊敬されていた。

――ブラック・キャットさんは外国人レスラーの世話役としても活躍されていましたからね。

ノートン　彼との思い出話をしてもいいか？

――もちろんです！

ノートン　ある長い巡業があった。9週間の長いもので、その中には4日間の中国遠征もあった。その中国遠征のときにオレは原因不明の病気で腕が動かなくなってしまったんだ。

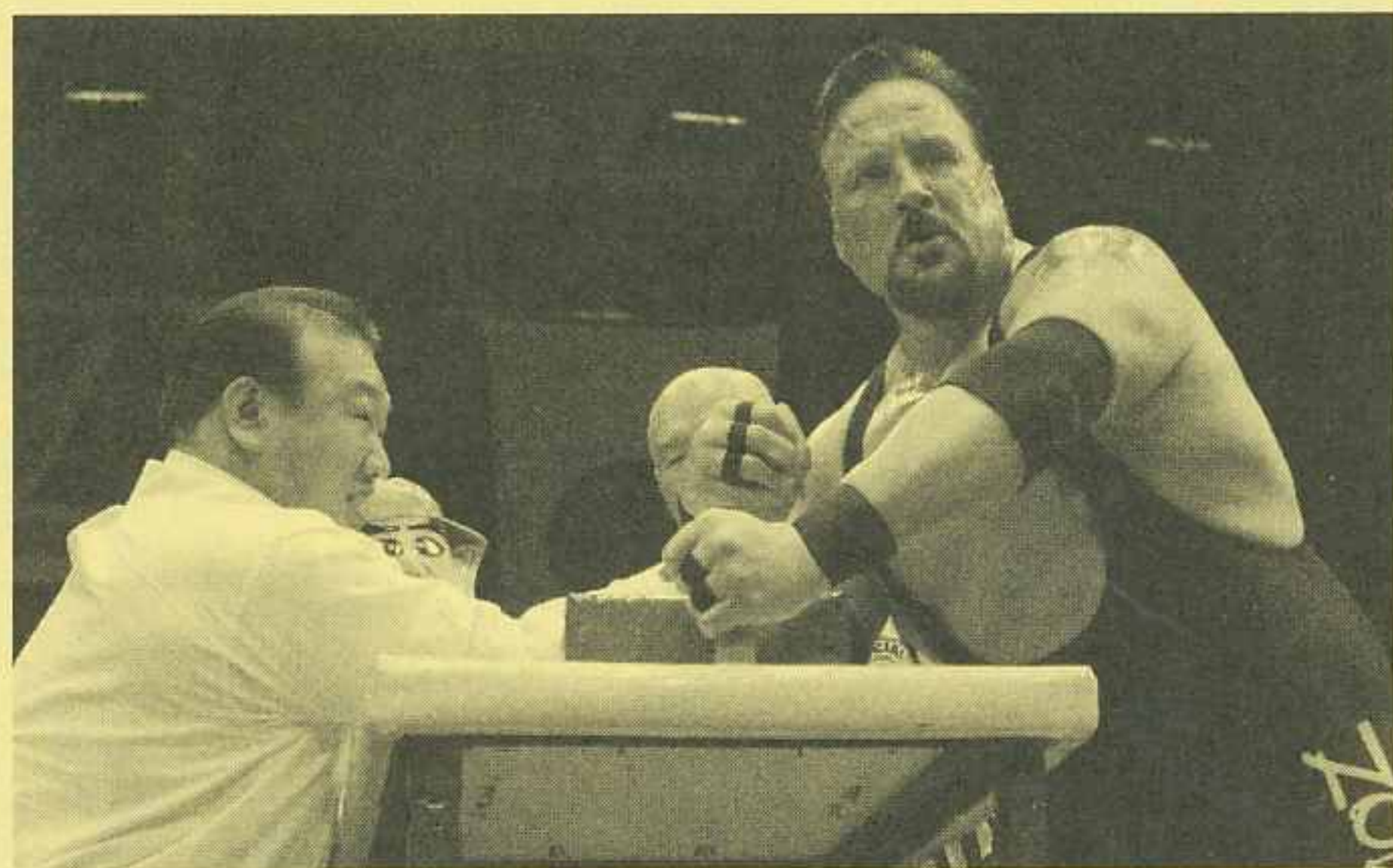
――エコノミークラス症候群ですか？

ノートン　いや、どうやら寿司の中に入っていた寄生虫が原因らしい。まぁ、それでその4日間、高熱も出て大変な思いをしたことがあったんだ。で、4日間面倒を見てくれたのが、ブラック・キャット。彼は第一試合を終えたらすぐに病院に来て面倒を見てくれた。最終的に彼はアメリカまでオレを送り届けてくれたんだよ。彼にとってそれは仕事の一つだったのかもしれないが、オレはあのときのことをいまでも感謝している。とてもいい男だったよ……。

――惜しい人を亡くしましたよね……。今日は貴重な話をありがとうございました。

ノートン　ん？　もうおしまいか？　マサやハットリの武勇伝はまだまだあるぜ（笑）。

――それはまた次の機会にぜひ！（笑）。明日の『上井ステーション』、期待しています！

【06年12月2日／都内・東京ドームホテルにて収録】

SCOTT NORTON■1961年6月15日、米ミネソタ州ミネアポリス出身。腕相撲で全米選手権を6度、世界選手権を3度制した実績を持つ。AWAでプロレスデビューした後、90年に新日本プロレスへ初来日。IWGPヘビー王座、IWGPタッグ王座をそれぞれ二度ずつ獲得。新日本プロレス最強外国人選手として活躍した。現在は自身が立ち上げた新団体「WWCW」代表。188cm、150kg。

『INOKI GENOME』は延期ですが、

ドームはやります!!

そして、『GENOME』もやってほしい

「俺が行ったって、客が増えるわけじゃねえから。ムフフフ……」と言いつつも、

アントンは来場するのか?

ドームでは3度目の新日vs全日全面対抗戦!!

『レッスルキングダム IN 東京ドーム』

東京・東京ドーム
2007年1月4日(木) 試合開始18:00

いいんだね? 獲っちゃって 永田さんが三冠に挑戦!

[全対戦カード]

【三冠ヘビー級選手権試合】
鈴木みのる(王者) vs 永田裕志(挑戦者)

【スーパードリームタッグマッチ】
武藤敬司&蝶野正洋 vs 天山広吉&小島聡

【IWGPヘビー級選手権試合】
棚橋弘至(王者) vs 太陽ケア(挑戦者)

川田利明 vs 中邑真輔

長州力&中西学&飯塚高史&山本尚史 vs TARU&諏訪魔&RO'Z&ジャイアント・バーナード

金本浩二&タイガーマスク&カズ・ハヤシ&TAKAみちのく&井上亘 vs 獣神サンダー・ライガー&稔&ミラノコレクションA.T.&近藤修司&"brother" YASSHI

真壁刀義&矢野通&石井智宏 vs ディーロ・ブラウン&ブキャナン&トラヴィス・トムコ

邪道&外道 vs NOSAWA論外&MAZADA

渕正信&エル・サムライ&田口隆祐 vs 菊タロー&荒谷望誉&雷陣明

※選手のケガ等により、一部対戦カードが変更する場合があります

[チケット料金]
ロイヤルシート 20,000円/アリーナA 10,000円/1FスタンドA 5,000円
1FスタンドB 3,000円/小中高生(1FスタンドB)) 1,000円
※当日のみ、要学生証

[テレビ放送]
【ワールドプロレスリング拡大版】
1/4(木) 深夜1:10~2:20 テレビ朝日系列で即日放送!
【PPV(スカイパーフェクTV!)】
1/4(木) 18:00~22:30 ch.162 生中継
8日まで再放送あり。視聴料金は1回2,100円
スカイパーフェクTV! TEL 0570-039-888

[問い合わせ]
新日本プロレス TEL 03-6407-3111

元気ですか——っ!! 元気があれば、1・4東京ドーム大会も開催できる! その一方でとうとう年内に開催できなかった『INOKI GENOME』だが、来年1月に韓国で行なわれることが決定!(たぶん)。1・4東京ドーム大会を前に盛り上がるプロレス界だが、3度目の延期でも「どうってことねえよ!」とばかりに突き進む『GENOME』のほうが本誌にとっては気になったりするのだ。

それと同じように、新日本より『GENOME』に夢中なのが、我らがアントニオ猪木である。11月16日の成田会見で「昨日、全日本が新日本に協力するというかたちで来年1月4日の東京ドーム大会開催が決定しましたが、猪木さんは来場されますか?」という報道陣の質問に対し、「べつに俺が行ったところで、客が増えるわけじゃねえからな。ムフフフ……」と素っ気なく答えたアントン。だが、興味がないように見えてもちゃんと来場するのがアントン。「こんなカードじゃ客は呼べない」と言って、ことあるごとに新日本のマッチメイクに介入するのもアントン。それで興行がコケると、「俺は触ってねえですから」「かったるい試合が多かった」「メインは見ないで帰った」と言ってしまうのもアントンなのだ!

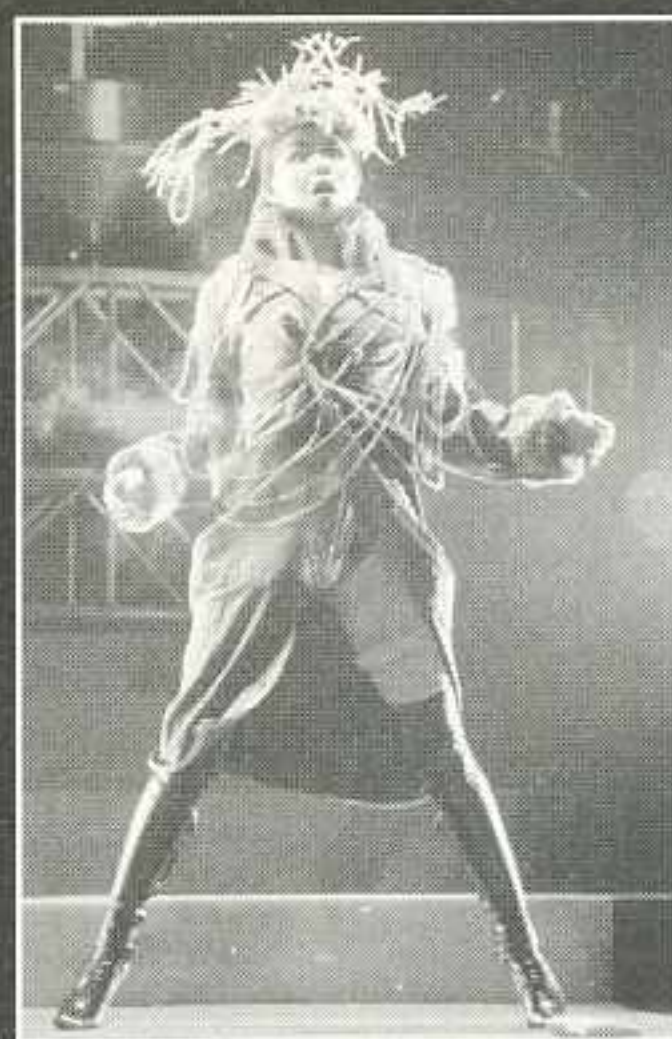
そんなキツい発言を残しながらも、アントンは「やっぱりプロレスに生き残ってもらいたい」と語っており、来年の1・4東京ドーム大会が成功すれば、闘魂に火がついて、韓国で開催される『INOKI GENOME』も大フィーバー!! ……ということになれば、嬉しい限りなのだが。

少しというか、だいぶ『GENOME』の話題に偏ってしまったので、新日本の1・4東京ドーム大会の詳細については、右上の囲み記事を参照していただきたい。来年の1月は新日本の東京ドーム大会、そして韓国で開催される(と思う)『INOKI GENOME』に注目ダ——ッ!!

演劇とプロレス

ザ・エスペランサーの「レーザー・ビターン！」など、〝ファイティング・オペラ〟『ハッスル』誕生を機に、試合中に動きがスローモーションに切り替わる実験的な『マッスル』、新日本の『レッスル・ランド』と、日本のプロレスは急速なエンタメ化、〝演劇化〟が進行中！　でも……そもそも演劇ってなんだろう？　ここらで〝演劇とプロレス〟の関係を考えてみる8ページ特集！

構成／真下義之、ささきい

design by さおとめの事務所

プロレスの向こう側には“演劇”というハードルがあった

人気舞台俳優

古田新太（劇団☆新感線）が語る

〃リアル小劇場〃を知る男

“演劇とプロレス”の共通点

小劇場出身で、現在は舞台を中心に映画にドラマ、ラジオなどでも、マルチな活躍を見せる劇団☆新感線の“俳優”古田新太は、WWEの熱狂的ファンであり、筋金入りの馬場派としても知られるプロレスファン。“演劇とプロレス”をよく知る古田氏に聞く、プロレスと演劇の共通項、そして“最強の演技論”とは何か？

撮影・聞き手／真下義之　写真協力／株式会社キューブ　design by さおとめの事務所

——今日は、演劇やテレビで活躍される俳優であり、熱狂的プロレスファンでもある『劇団☆新感線』（注1）の古田新太さんに「演劇とプロレス」の関係性についてうかがいたいと思います！

古田 よろしくお願いします。『ｋａｍｉｐｒｏ』はけっこう読んでますよ。

——あ、恐縮です。

古田 基本的には移動中に読むんだけど、僕は家に帰るのがあんまり好きじゃないんで、飲み屋で一人で読んだりね（笑）。

——酒のおつまみに『ｋａｍｉｐｒｏ』ですか（笑）。で、最近はとくに『ハッスル』や『マッスル』を代表にプロレスのエンタメ化や演劇化が進んでますが、こういう現象はどう見てますか？

古田 そうだなぁ。僕も『ハッスル』は大好きですけど、観てて感じるのは……正直、「おもしろい、おもしろくないのクオリティに波があるな」って。

——たしかに、出来・不出来の波はありますよね。

古田 そのクオリティを常にキープするのは難しいんでしょうね。ただ僕は、演劇界はプロレスに近づいてほしいって気持ちもあるけど。プロレスが演劇に近づいちゃうのは残念だなって。

——あ、プロレスが演劇に近づくのは残念ですか。

古田 うん。それにエンタメ、エンタメって言ってるけど……。もともと日本のファンって、80年代のアメプロとか嫌いだったじゃない？

——そうですね。試合が大味だとか（笑）。

古田 「あんなのパフォーマンスだけ」とかね（笑）。それが90年代以降のＷＷＥはスキットも練られてるし、マイクもうまいし、ハードヒットもしてるって状況が変わってきた。ＷＷＥが〝黒船〟として日本に上陸する頃に、プロレスの最先端になっちゃったじゃないですか。

——一方では格闘技ブームがあって、プロレスは両極から攻められて、メジャーが衰退し小劇場化していった……。演劇界でも似たような状況っていうのはあるんですかね。

古田 演劇の世界でもメジャー団体と呼べるのは『劇団四季』（注2）くらいじゃないですか？

——『ＣＡＴＳ』や『オペラ座の怪人』でおなじみ『劇団四季』が演劇界で唯一のメジャーですか。

古田 松竹とか東宝もメジャーとは言いがたくなってきてるし。役者の一枚看板だけの一ヵ月の公演も小屋はなかなか埋まらなくなってますね。

——え〜。そうなんですか？

古田 新宿コマ劇場（注3）も演歌の大御所の座長興行だけじゃ、一ヵ月公演がもたなくなってますから。そうなると、小屋側も「ほかの血を入れたい」って「いま客が呼べるのはどこだ？」って話になるわけですよ。

——「どこの小劇場が人気ある？」とか。

古田 そうそう。それで下のほうからピックアップしたり。もしくは即戦力で、舞台じゃなく芸能畑からピックアップするんです。じゃあ芸能界でよく訓練されてて、動員力があるのは？ ってなると……やっぱり「ジャニーズか？ ハロプロか？」ってことになる（笑）。

——究極の二択ですね。でもそれって、いまのプロレス界や『ハッスル』の状況と酷似してますね。

古田 だって今度の帝国劇場（注4）の舞台なんか、堂本光一君（Ｋｉｎｋｉ―Ｋｉｄｓ）で二ヵ月上演ですから！

——作、演出はジャニー喜多川さんらしいですね。

古田 いままでの帝劇なら、ベガーズ・オペラ（注5）や、カルーセル（注6）みたいな古典の演目と、ミュージカルの役者のキャスティングで客が集まったけど動員的にはいっぱいいっぱいなんですね。

——演劇界もルーチンな方法論では頭打ちだ、と。

古田 で、堂本君は帝劇で二ヵ月。しかもほぼ毎日、昼夜やるんですよ。それでもチケットは即完売！ そうなったら小屋主はそっちのほうがいいですよね。

——そういう芸能を取り込んでいる成功例として、去年の『ハッスル・マニア』の和泉元彌さんの試合がありますが。古田さんはあの試合を絶賛されたとか？

古田 あれは最高でした！ 完成度が高かったですね。自分のラジオ番組に和泉元彌を呼んでほめまくりましたもん（笑）。普段、プロレスを観ないような俳優さんにもＤＶＤで見せたんですが、あの試合はみんな最後まで観れましたし。

——噂によると松たか子さんや野田秀樹さんにも見せたとか。

「ず〜っと、うえでまっていたのじゃあ〜！」と『ハッスル・マニア2005』に降臨した和泉元彌と鈴木健想の一戦。"芸能"を取り込んだこの試合はプロレスのワクを越える反響を巻き起こした。

和泉元彌の試合は、松たか子さんもちょっと応援してましたね（笑）

（注1）『劇団☆新感線』＝1980年、大阪芸術大学の学生によって、つかこうへいのコピー劇団として旗揚げ。主宰・演出家はいのうえひでのり。劇画＆マンガ的世界を照明と音響を駆使、歌舞伎の様式美で演出された作品などで、演劇＆音楽ファンも巻き込む人気劇団へ。渡辺いっけい、筧利雄らを排出。

（注2）『劇団四季』＝1953年創立。日本のミュージカルを支える日本最大規模の劇団。年間3000を超えるステージ、俳優、スタッフは700名以上。『ＣＡＴＳ』や『コーラスライン』など、海外からのミュージカル作品はもちろん、オリジナルミュージカルも根強い人気がある。

（注3）新宿コマ劇場＝通称、コマ劇。1956年、新宿歌舞伎町に開場。現在は〝演歌の殿堂〟の異名をとり、の大会場。客席は2092席北島三郎や小林幸子、氷川きよしら、大物演歌歌手が公演を行なう。松平健の特別公演や、『アニーよ銃をとれ』などミュージカル作品も多い。

（注4）帝国劇場＝通称、帝劇。1911年、日本初の様式劇場として開場し、66年には現在の帝国劇場が開場。客席は1917席。現在は阪急東宝グループが運営し、『レ・ミゼラブル』や『エリザベート』など数々の名作が上演され、日本の近代演劇の中心地となった。

（注5）ベガーズ・オペラ＝1728年のロンドンで劇作家ジョン・ゲイが初演したミュージカル。〝ベガーズ〟は貧民のことで「貧民がミュージカルを演じたなら」というアイデアを作品に。ドイツの巨匠ブレヒトはこの作品を参考に名作『三文オペラ』を完成させたといわれる。

（注6）カルーセル（回転木馬）＝1745年に製作されたブロードウェイミュージカル。56年には20世紀フォックスによって映画化。日本には69年に宝塚歌劇団雪組により、紹介される。95年には東宝製作のリバイバル版が帝国劇場などで公開された。

『マッスル』は『大人計画』や『劇団☆新感線』になれる可能性を持ってると思います

古田　見せました、見せました！　最初はみんなでゲラゲラ笑いながら観てたんですけど。途中、元彌にちょっとしたピンチがあるじゃないですか？

――健想選手のニードロップだったり。

古田　そうそう。バックブリーカーのとことか。それでみんな……ちょっと応援しましたから（笑）。

――ワハハハ！　松さんも和泉元彌を応援しましたか！　話を戻すと、日本はそういった興行自体、難しくなってきてるんでしょうか？

古田　東京ドームのライブも、最近は何日も箱を張れるような人がいない。全体的にミニマムになって、各々の熱心なファンしかいかない傾向はあるかもね。

――どのジャンルもどんどん細分化してますよね。

古田　それに動員力を持ってても、うまく使えない場合もありますよね。単純な足し算でいえば、ドーム級の動員力のあるミュージシャンを『ハッスル』に上げればいいのか？　って。タッキー（滝沢秀明）が猪木と試合やったとき（00年3月11日『メモリアル力道山』横浜アリーナ大会）も満員にはならなかったし、ファンはタッキーが猪木に殴られるところなんか観に行かないでしょ？

――若干、来てたみたいですけどね。

古田　若干ね（笑）。じつはいまのWWEにも同じような傾向があるんですよ。

――たしか歌手のブリトニー・スピアーズの元旦那がリングに上がってるとか？

古田　そういうアングルなんだけど、最近のWWEファンって、昔の日本のファンみたいに「もっとマジメにやれ！」って風潮なんですよ。WWEにそれ言うのって、本末転倒だと思うんだけど（笑）。

――は～。アメリカのファンもマジメに観てるんですね。

古田　昔はミスターTとか、シンディ・ローパーなんかに大喜びしてたくせにねぇ。いまは「フットボールの選手が観にきてます！」って紹介でもブーイングのほうが多い。WWEでさえ、そういう〝足し算〟がビジネスとしてつながらなくなってる。……そうなると真面目にコツコツやるしかない。でも真面目にやると縮小化していっちゃう。だから興行には、猪木さんみたいな山師は必要なんだよね。

――たしかにそうですね。

古田　ただ……プロレスは90年代のドーム興行で稼ぎすぎたんですよ！　だから小屋の問題はあるでしょうね。演劇で言えば、名作路線の大劇場に行く人って、質の高いお芝居を求めてるわけじゃないと思うんです。そういうのなら、もっとエッジが効いてる紀伊國屋ホール（注7）とか本多劇場（注8）のほうがおもしろい芝居はやってるぜ！　って。プロレスも1・4みたいなドームはお祭りだから行くけど、じっくり試合を観たいなら後楽園って小屋があるじゃないですか？　一般人もわかってきてるんですよね。

――いまは知る人ぞ知るようなコアな情報が、ネットですぐ得られますしね。ただ、僕らも最初はジョークまじりで〝小劇場化〟って言ってたけど、最近は200～300人レベルの大会が普通になってきちゃってて。

古田　俳優もレスラーもライセンス制度がないじゃないですか？　演劇の素人も駅前劇場で旗揚げできるし。コンビニでバイトしてる兄ちゃんも、自己申告で〝俳優〟って名乗れちゃう。

――最近のプロレスラーも似たような感じですよね。

古田　ライセンスを施行しなかったから、表現の自由度は広がったけど、裾野が広がりすぎちゃった。だから敷居はかなり低くなってますよね。僕は「プロレスはスポーツじゃない」と思ってるんで、なんでもありかなって思いますけど。

――なんでもありだけど……あまり演劇化してほしくないと？

古田　そうですね。プロレスラーが〝マイクでしゃべれないといけない〟世界にはあまりなってほしくないなぁって。

――マイクで言うと、『マッスル』なんかは鶴見亜門さんという本職の演劇の人を加えて、クオリティを上げてるんですよ。

古田　『マッスル』はそれほど観てないですけど、彼らはちゃんとした台本……っていうかストーリー的な展開に重きを置いてるし。やりたいことがハッキリしてますよね。ただ極端なこと言えば……『マッスル』のメインで小橋（健太）vs天龍（源一郎）戦をやったら、『マッスル』の世界観がはたして成立するのか？　って気持ちはありますね。二人のしばき合いが『マッスル』の世界観を凌駕するのか？　（マッスル）坂井君の演出が二人を食っちゃうのか？

――そこは肉体と演出の戦いでしょうね。

古田　それは難しいんじゃないかなぁ。……でも、かつて松尾スズキさん（注9）の『大人計画』（注10）で歌舞伎俳優の中村勘三郎さん（注11）を客演で呼んだことがあったんです。で、勘三郎さんは歌舞伎出身だから、演劇の流派が違うんですね。「どっちが客を沸かせられるか？」って意味で舞台上ではガチンコだったんだけど……『大人計画』のフィールドだったことで勘三郎さんに不利な点もあったような気もします。

――やっぱり、場の力みたいなものがあるんですね。

古田　そういうこともありえるんですね。だから、『マッスル』は、突き詰めればクオリティの高い小劇場は作れると思うんですよ。『大人計画』とか『劇団☆新感線』みたいになれる可能性はある。ちょっと客を呼べるゲストを呼んで、少しずつ表現のワクを広げてゆけばメディア

『マッスル』のお約束といえば、スローモーション！　実際の動きの構成は、マッスル坂井の右腕で『マッスル』では裏方を担当する、男色ディーノによるもの。まさにゲイの振り付け師だって!

（注7）紀伊國屋ホール＝1964年開場。新宿の紀伊國屋書店本店4階に位置。客席は418席。文学座や俳優座、民藝など日本を代表する有名劇団や、過去の人気劇団、夢の遊眠社や第三舞台なども公演するなど、本多劇場とならぶ小劇場演劇のメッカとして知られる。

（注8）本多劇場＝1982年に開場。東京・下北沢にある人気劇場。客席は386席。こけら落としは唐十郎作の『秘密の花園』。小劇場界の大御所的な劇場で、周囲には、本多劇場グループとしてザ・スズナリ、駅前劇場、下北沢「劇」小劇場、OFF・OFFシアターなども。

（注9）松尾スズキ＝俳優であり演出家、脚本家、コラムニストとして活躍。88年に劇団『大人計画』設立、主宰。『ファンキー！　宇宙は見える所までしかない』で第41回岸田國士戯曲賞を受賞。04年には映画『恋の門』で監督デビュー。小説家としても芥川賞候補になるなど、マルチな才能を開花。

（注10）『大人計画』＝1988年に松尾スズキ作『絶妙な関係』で旗揚げ。ブラックジョークや下ネタ、差別用語なども駆使しつつ、クールな視点から人間の本音を暴くが、作品はどれもコメディタッチで料理される。所属俳優に宮藤官九郎、阿部サダヲなど。

（注11）中村勘三郎＝正式には十八代目中村勘三郎。歌舞伎役者、俳優。江戸の世話狂言から、時代物、新歌舞伎まで圧倒的な芸で魅せる。古典歌舞伎を再構成したコクーン歌舞伎や、仮設劇場の平成中村座で公演。劇作家、野田秀樹とのジョイントなど幅広く活動中。

（注12）青山劇場＝1985年、『こどもの城』内に開場。財団法人児童育成協会が運営する劇場。客席は1200席。大人でも子どもでも楽しめる国内外の舞台作品を開催。上演作品はミュージカル『アニー』や少年隊のミュージカル『PLAYZONE』など。

古田新太を観に行こう!

『朧の森に棲む鬼』スケジュール

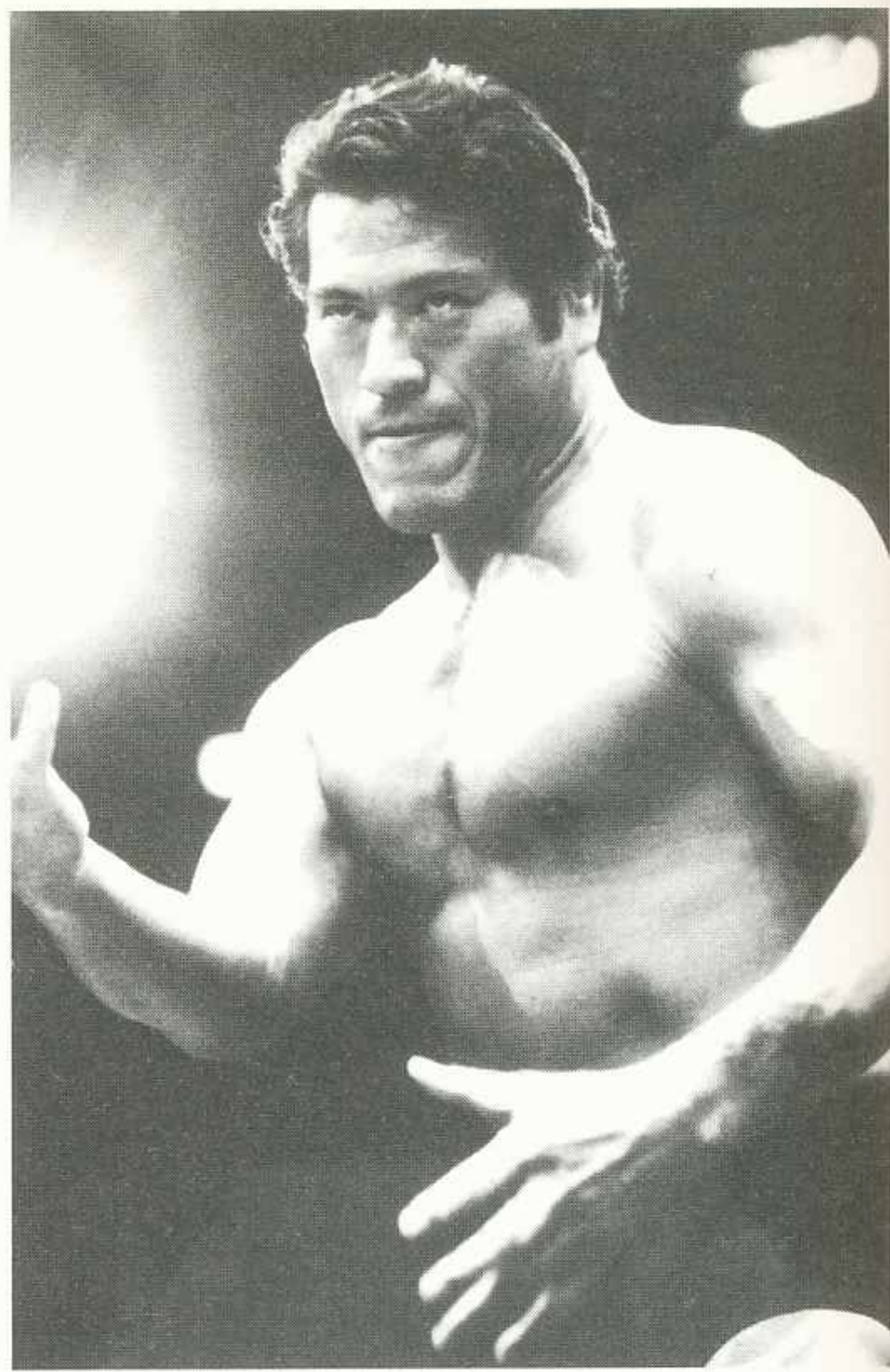
作／中島かずき　演出／いのうえひでのり

●2007年1月2日（火）～27日（土）
プレビュー公演
平成18年12月29日（金）・30日（土）
カウントダウン公演
平成18年12月31日（日）
会場／新橋演舞場

●2007年2月3日（土）～25日（日）
会場：大阪松竹座

［出演］市川染五郎／古田新太／阿部サダヲ／秋山菜津子／真木よう子／高田聖子／粟根まこと／小須田康人／田山涼成

http://www.vi-shinkansen.co.jp/

演技論でいうと、猪木さんは〝アップの芝居〟がうまい人です

に出て行けるんじゃないかって。一方の『ハッスル』は、どっちかというと青山劇場（注12）でやってるような最初からタレントさんを入れたプロデュース興行的スタイルですよね。「眞鍋かをりさんが出てます！」というような。

――たしかにそうですね。

古田　だから、どうしても事務所とか政治的も問題が絡んできちゃうと思うんで、バランスを取るのは大変だろうなって。「どこの事務所とどこの事務所がどうした」とか（笑）。スケール感では『ハッスル』が上でしょうけど。単純に考えると『マッスル』のほうが作品のクオリティを上げるのは簡単だと思いますね。

――もっと演劇的な精度を上げられる可能性がある、と。

古田　うん。ただ、『ハッスル』も『マッスル』も頑張ってると思うけど、演劇やってる立場からすると、こなれてないネタや練り込まれてないモノを見せられるとガックリきちゃう部分はありますね。最終的に「おもしろかったね」で終われても。表現の底上げは必要でしょうね。

――演技やネタの練り込み方は、演劇にはかなわないですし。あと、演劇とプロレスは「お客さんの前で魅せる」という共通性もありますよね。

古田　ライブで観られる芸能って意味で共通性はありますね。

――人前で動いたり、しゃべったり、演技するときって、どういう能力が重要なんでしょう。アドリブなのか？　場を読む力なのか？

古田　あ、全部あてはまりますよ。僕らも、いくら台本どおりに忠実にやっても、間合い一発で客席に気持ちが〝届く、届かない〟ってありますから。プロレスは受け身とか、技の説得力も必要だけど、よりアドリブセンスも問われるでしょうね。これがリック・フレアーあたりだと、伝統芸能の域なんですけど……あれは藤山寛美さんの世界に近いですし（笑）。

――あと表情の作り方はどうですか？　アントニオ猪木さんなんか、前妻で女優の倍賞美津子さんに、鏡を見ながらそういうテクニックを教わった、なんて話も聞きますけど。

古田　……たしかに猪木さんの表情って凄いと思うんですよ。ただテレビと演技の関係で言うと、猪木さんって〝アップの芝居〟ができる人だと思うんですね。

――〝アップの芝居〟ですか？

古田　うん。テレビで猪木さんの睨みつける顔がアップで抜かれると、視聴者にキッチリと感情が伝わる。でも会場でビジョンがない場合、遠くからでは表情は伝わりづらい。テレビの世界って、なんであんな簡単に10代の子がドラマでデビューできるか？　って話ですよね。あれはアップがあるからなんです。全身に緊張感がなくても、目に力があればアップで芝居が持つ。

――テレビでは、〝演技イコール表情〟だと。

古田　「泣け」ってときは、ケツをつねってたっていいわけ（笑）。でも舞台では全身が映っちゃうから、訓練が必要なんですね。プロレスでも会場人気とテレビの人気は分かれるでしょう。

――「テレビで観るとおもしろかった」って試合もありますね。

古田　だから猪木さんがアメリカで馬場さんほどブレイクしなかったのは……おそらくアメリカの箱に対して猪木さんの芝居が小さかったんじゃないかな？　って。

――芝居が小さい、ですか。

古田　うん。当時のMSGで表情を作っても見えないでしょうし。逆にほとんど表情が変わらない、馬場とサンマルチノの試合はお客が入ったわけだしね。

――演劇の世界は、そういう小屋の論理があるわけですね。

古田　そう。歌舞伎だって、江戸時代の庶民の演芸でボロキレみたいな服で出発したのが、時代に合わせてメイクを派手にしたり衣装をゴージャスにした。それで大きな小屋の後ろの席でも「綺麗だね」って思える努力をしていった。

――なるほど。ところで「レスラーがマイクで話す」って部分で、『マッスル』が稽古の段階で取り入れてる〝エチュード〟っていう演劇手法があるんですけど。エチュードについて教えてもらえますか？

古田　いろんなエチュードがあるんです・けど。一番わかりやすいのは、演技する人があるシチュエーションを演出家から与えられるわけです。「締め切りを日の前にした編集者とマンガ家がいる」とか。その二人の状況を細かく説明されて、「ハイ！　そこからお芝居を始めましょう」って投げられる。その状況を役者が想像して、アドリブのお芝居を即興で作っていく。それがエチュードですね。

――どういう部分が鍛えられるんですか？

古田　反射神経ですね。それと自分の言葉だから、場面の適応力が速くなる。あと〝間〟も磨かれますよね。うまい人だったら、デタラメばっかりで、一時間くらいしゃべれますよ。

――プロレスでいう道場のスパーリングみたいなことですか。

古田　そうですね。だから、『マッスル』に出てる演技の素人の方には、台本を渡すより、自分から出てきた言葉のほうが覚えやすいじゃないですか？

――あ、なるほど。

古田　おそらくマイクの練習も、そっちの訓練がてっとり早いと思いますね。……だからよく言われるけど、高田総統は本当にうまいですよ。あの絶妙な切り返しの技術は、小川直也クラスじゃついていけない（笑）。

――そこも反射神経の凄さなんですね。

古田　ディベートみたいなもんですけど。ただ、そういうのも専門的なトレーニングを積めば、ある程度のレベルまで接近できると思いますよ。

――あ、そういうもんですか。

古田　そこは『マッスル』や、『ハッスル』の人にも頑張ってほしいですね。ま、どこへ行ってもいい仕事ができるのが、いい俳優であり、いいレスラーだと思うから。渡り歩いてる人ってのはそれなりの腕を持ってるじゃないですか。

――古田さんもそういう気持ちは？

古田　そうありたいと思いますねぇ。「アイツはどこでもいい仕事する」って言われたいなって。

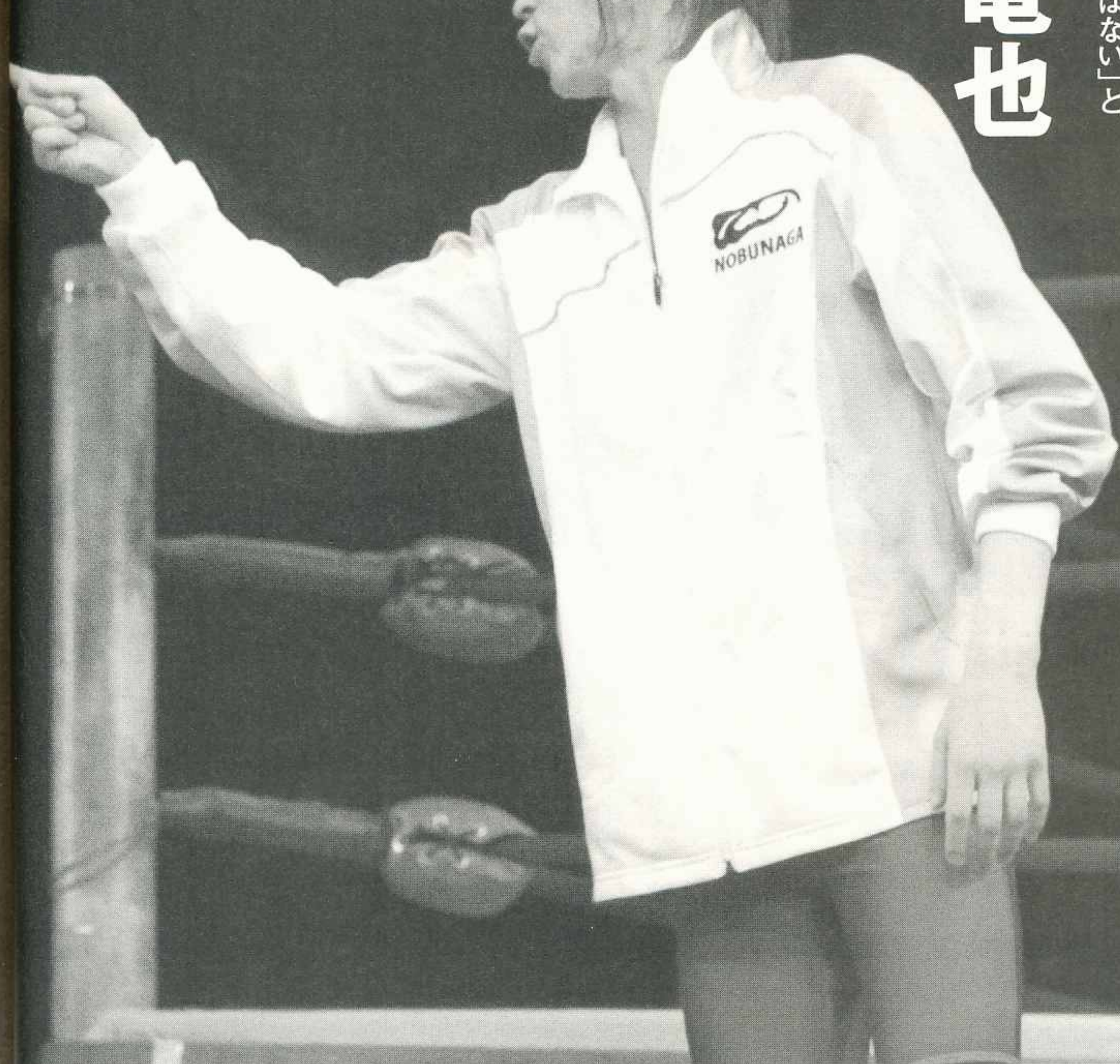
――わかりました。今日は長いあいだ、どうもありがとうございました！

【06年12月1日／キューブ会議室にて収録】

ふるた・あらた■1965年12月3日、兵庫県神戸市出身。俳優。大学の先輩である俳優・渡辺いっけいに誘われて『劇団☆新感線』の公演『宇宙防衛軍ヒデマロ』に出演したのをきっかけに、以降、多くの舞台に出演、現在も同劇団の看板俳優として活躍する。映画、ドラマ、ラジオパーソナリティ、執筆業としても絶賛活動中。

天才 野田秀樹 作・演出

〝プロレス嫌い〟が作り出したプロレス演劇『ロープ』に込められたメッセージとは？

「プロレスは八百長ではない」と信じるレスラー役
藤原竜也

文 ささきい
『kamipro』電気部所属。高校時代は野田秀樹がかつて主宰していた劇団『夢の遊眠社』の解散に大ショックを受けて鬱病になりかける。今回の公演は、自宅にダイレクトメールが届いて編集部の誰よりも早く知った元演劇少女。

「でも、プロレスってどうして、あんなにわざとらしいの？」

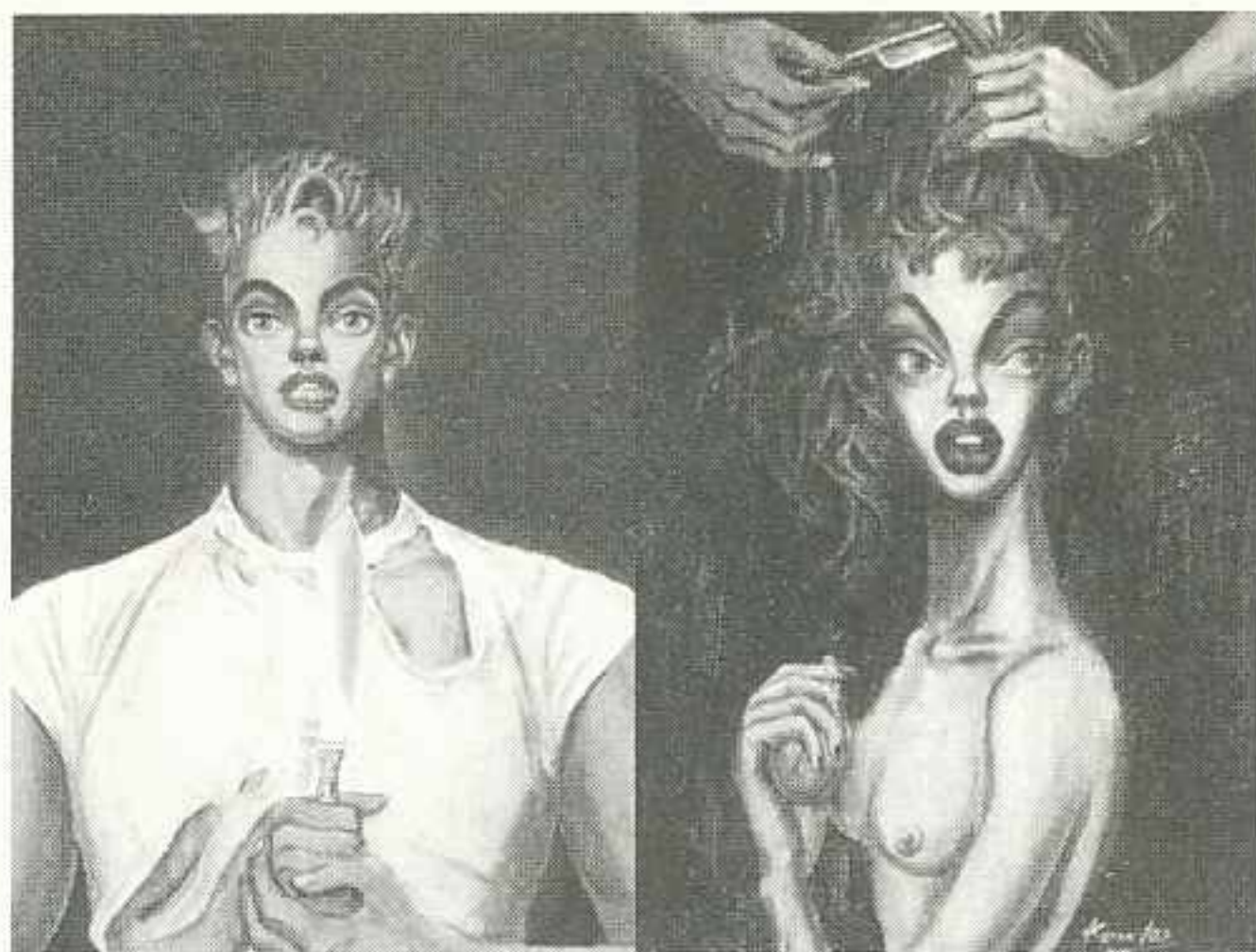
リングの下に住みつくタマシイ（宮沢りえ）の言葉に対し「八百長だと思っているのか、プロレスを？」と、主人公のプロレスラー、ノブナガ（藤原竜也）が繰り返し問い返す。その場面で観客に、ざわめくように笑いが起きた。プロレス界に突き立てるナイフのような言葉のやりとりが、舞台の上で展開される。

私は現在、プロレス側に所属している人間だが、さかのぼること13年前の高校時代は演劇部に所属、卒業後はよせばいいのに劇団までやっていた。

その頃の自分が神様のように崇めていた元『夢の遊眠社』の野田秀樹が、プロレスを題材に芝居を書くと知ったとき、その頃の自分が亡霊のようによみがえって、昔の恋人に会ったようにいたたまれない気持ちになった。同時に、野田秀樹はいったいどんなふうにプロレス界を斬るのだろうと考えた。

久々の演劇鑑賞に緊張しつつ、『ロープ』を観る私に、舞台上からプロレスに対する厳しい言葉が次々に突き刺さる。プロレスは嫌いだ、と言い切る野田秀樹は、愛と熱をキーに闘いを語ることがやたら多いこの世界を俯瞰して、まったく違う角度からプロレスを描いた。

暴露でもなく、己の半生を語るためでもなく、プロレスに対する強い破壊力を持つ言葉の羅列の先に、どうしても伝えたい物語をどっしりと据えて。「弱小プロレス団体が、どうやって食っていける？　レスラーの半分はバイトしてんだよ」。やけにリアリティのあるそんな言葉も添えて。

「プロレスは裏話がおもしろいんだ」なんて言葉を、たくさん聞く。その〝裏話〟を、単なる暴露話ではなく、そこに生きる人と、生きられなかった人のストーリー

INFORMATION

NODA・MAP第12回公演

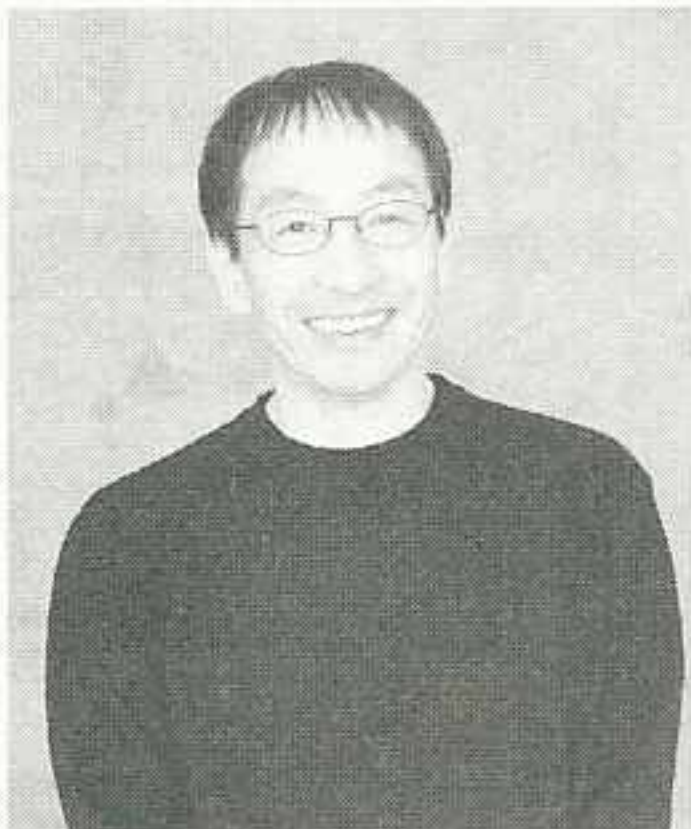
『ロープ』

作・演出：野田秀樹
期間／上演中〜07年1月31日（水）
会場／Bunkamuraシアターコクーン

＜出演＞
宮沢りえ／藤原竜也／渡辺えり子／宇梶剛士／橋本じゅん／三宅弘城／松村武／中村まこと／明星真由美／明樂哲典／AKIRA／野田秀樹

■ストーリー
プロレスのリングの下に棲む〝彼女〟は、自分が未来からやってきたと信じている。そして不可解なほど〝実況〟がうまかった。もう一人、リングの上には「プロレスは決して八百長ではない」と思い詰めているレスラーがいた。彼は思い詰めたあまり、引きこもっている。その二人が出会い、物語は動き出し、やがて彼女は、戦う人間たちの〝力〟を実況し始める。一方、引きこもりのレスラーは……？

http://www.nodamap.com/

野田秀樹とは？

日本を代表する劇作家、演出家、俳優。作品の傾向として独特の“言葉遊び”と古典的な作品に新鮮なアイデアを加える“リメイク”があり、独創的でスケール感のある舞台を作り上げることで、海外でも評価が高い。東京大学在学中の76年に、劇団『夢の遊眠社』を結成。若いファンから圧倒的な共感を得る。83年には、『野獣降臨』で岸田國士戯曲賞を受賞。92年には惜しまれつつ劇団『夢の遊眠社』を解散。一年間、英国に留学し帰国後に企画製作会社NODA・MAPを設立、劇団のワクにとらわれない、プロデュース公演の先がけとなった。以降、12本の本公演と3本の番外公演、1本の一人芝居を発表する。2006年。英語の初書き下ろし『THE BEE』（07年夏、日本でも上演予定）をロンドンで上演し、好評を得ている。

写真撮影／青木司

宮沢りえ

リングの下に棲みつく、実況中継の得意な女役

この演劇のために「ミスター高橋の『流血の魔術、最強の演技』も読んだ」という野田秀樹。舞台上ではじつにあっけらかんと、プロレスへのシュート発言を連発。クールな視線は保ちつつ、プロレスのリングが持つ意味や意義を解体＆再構築してゆく。

として昇華させ、真摯にこの世界に取り組んでくれた作品だと思う。映画『ラスト・サムライ』を観たときに「どうしてこれを作ったのが日本人じゃないのか？」という疑問と悔しさを、幾人もの日本人が抱いたはずだ。

自分の構成要素と近すぎるから書けなかったものを、ほかの国の人に書かれてしまった、という悔しさをわたしは感じたし、己の世界を俯瞰して、普段見えづらくなっていた、本当に伝えるべきことを伝える、という〝伝える側〟としての命題を、わたしはプロレス側の人間として『ロープ』の中に見た。

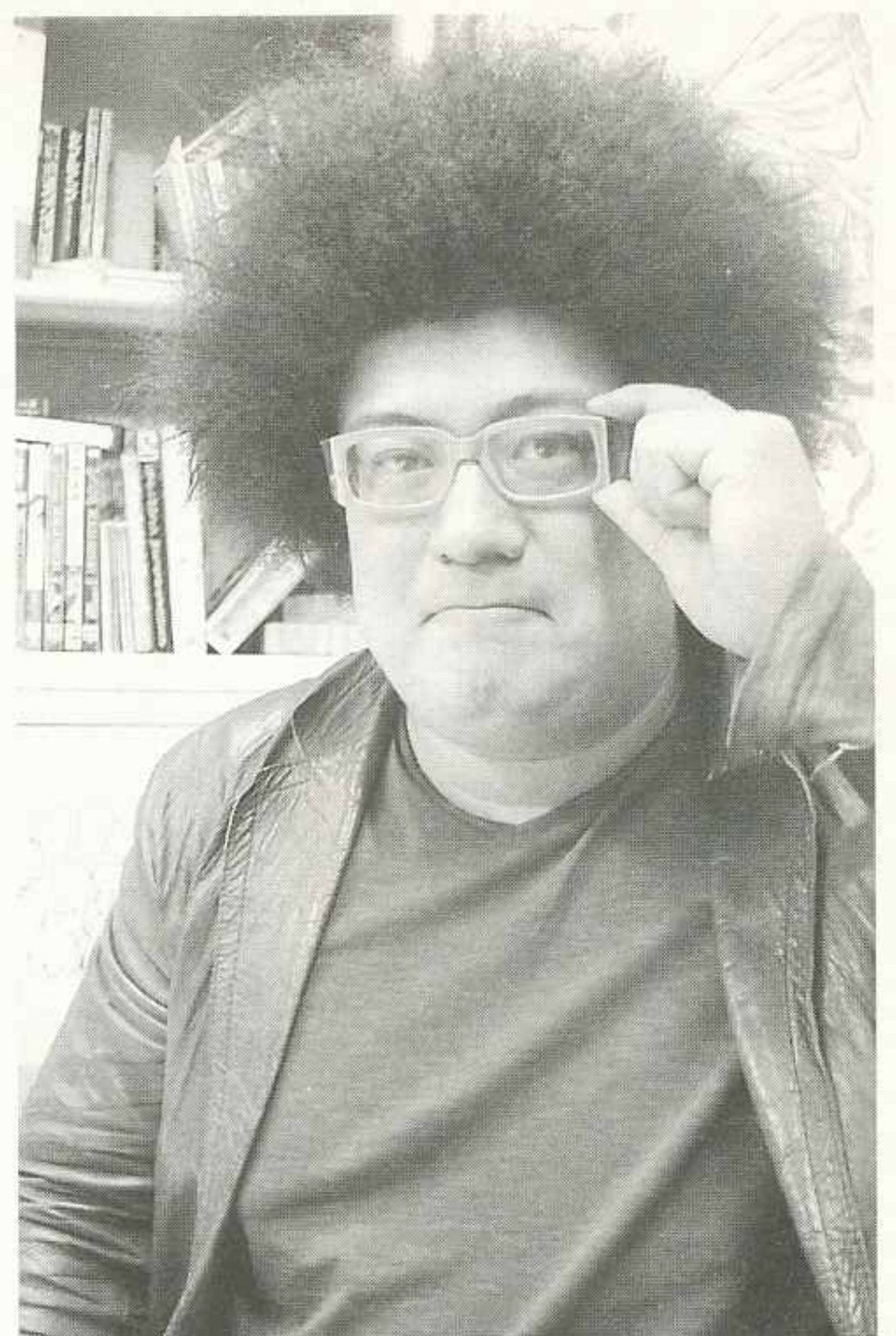
『ロープ』は2007年の1月31日まで、渋谷・シアターコクーンで上演される。上演スタートからわずか3日後の12月8日に発売された雑誌『新潮』に『ロープ』の上演台本が全文掲載されているのには驚かされた。

公演の真っ最中に台本を一般誌に掲載。台本を先に見てから来たってかまわない、もしくは台本だけ読まれてもどうということはない、というそのあからさまなアピールは、『ロープ』の中で徹底的にやりこめたプロレス界に対する、野田側のはっきりとした返答に思えた。

それから、舞台に据えられた、傾いたリングの存在感は大きかった。リングはプロレスの舞台となり、ときに戦場となり、その下に得体の知れないものを棲みつかせる。リングの上と下とでは、同じ人間が対峙していてもその持つ意味はまったく異なる。リングがとても雄弁に場の状況を語っていくさまに、驚くと同時に感心した。リングは、ただ置かれているだけでも、たくさんのことを語る。プロレスの持つ大きな武器は、舞台の上にあっても雄弁で、力強かった。

野田秀樹という強烈なフィルターを通して観たプロレスの世界には、あらたな視点と刺激が山ほど詰められていた。その全部を受け止めて、それでも潰れずカウント2・9で跳ね返すタフさがプロレス界にはあるはずだ。だからこそプロレスは題材として選ばれたのだと思う。

秀樹が、プロレスを題材に芝居を

生きられなかった人のストーリー

マッスル坂井さん、“プロレスの演出”ってなんですか？

“演劇とプロレス”特集の最後は、『マッスル』にて作・演出を担当する鬼才、マッスル坂井が登場！『マッスル』そしてプロレスにおける演出とはなんなのか？ 実際に演出している人に直撃してみました。

聞き手／ささきい　撮影・構成／真下義之　design by さおとめの事務所

お客が演出を受け入れてくれるそのリアクションに泣けますね

——今日はレスラーでなく〝演出家〟マッスル坂井についてうかがいたいと思います。

坂井　いや〜。めっそうもない。ボクはそれほど演出家って意識もないんです。

——でも『マッスル』の台本で登場人物に役割を与えているのは、坂井さんなんですよね？

坂井　ええ。〝台本〟というか……進行台本ですけど。そこだけは尊重してもらって、好きにやらせてもらってますね。みんないい人なんで、ギリギリまで完成を待ってくれますし（笑）。

——でも、普通のプロレスって決められたカードに、選手が勝手に思い入れを込めて試合しますよね。

坂井　ええ。自分で役割を考えて、その役柄を演じなきゃいけないわけですね。

——ただ、『マッスル』では坂井さんの決めたテーマに沿ってやってもらってるわけですよね。

坂井　基本的にはそうです。試合の最低限の部分はおまかせしますけど。あとは間違いなく演出でしょうね。そこは胸を張って言わないようにしてますけど（笑）。

——従来のプロレスと『マッスル』の大きな違いって「演出家がいるか？ いないか？」だと思うんですけど。

坂井　でも、新日本プロレスでの長州（力）さんの現場監督って、そういう役割じゃないですか？ 試合のダメ出しをして、ときには鉄拳制裁を加えて。あげくにはコスチュームから髪型から注文つけるわけですし（笑）。

——長州さんとは方法論は違うでしょうけど、馬場さんなんかもそういう役割はこなしていたでしょうね。

坂井　馬場さんは「田上（明）はきれいにバンプ（受け身）を取れなくてもいい。身体が大きくて受け身がうまかったら、弱く見えるだろ？」とかテレビの解説で言ってたみたいだし。猪木さんも「マイクでしゃべるときは、会場の一番奥の壁を見るといい。そうすると会場の奥の人にも顔が見える」とか。そこは演出というか、演劇的だと思いますね。

——『マッスル』では、坂井さんが現場監督じゃなく演出家を名乗ってますが？

坂井　それは現場監督という肩書きにすると、角が立つからです（笑）。だったら、そこは演劇の世界にたとえればいいと思って。でもプロレスで〝演出〟って言葉を使うのも角が立ちやすいから、『マッスル』はやりすぎくらいシュールにして笑える作品にしちゃえばいいかな、と。やっぱり日本人って笑えるとなんでも許しちゃうところがあるし。

——つまり、バカ負けするというか（笑）。

坂井　それである程度の作品にしちゃえば、その中にちょっとした真実が入っていても認めてくれるんじゃないかなって。

——なるほど。あと『マッスル』の代名詞として、試合をスローモーションにするっていう演出がありますよね。あれは、試合のテーマをより浮き上がらせるための手法ですよね。

坂井　いや、ああいう手法を使うかしかないだけです。ホントに苦肉の策ですから。30分の凄いシングルマッチをする体力はないけど、3日間徹夜して『マッスル』を準備することは頑張れるんです（笑）。

——なるほど。あと『マッスル』の進行台本を書いてて、この人の能力ならここまでできるだろうとか考えるんですか？

坂井　人によってですけど、本物の役者さんの鶴見（亜門）さんはどこまでもできますよ。おそらく彼なら連続で3000文字くらいは覚えられますし。

——それは凄い！

坂井　役者だから、そのくらいは余裕ですよ。「後楽園ホールにお越しのお客様、こんにちは！」から、ボクらの「ちょっと待ってください、亜門さん！」まで、3000文字くらいですから（笑）。

——でも、その部分のリハーサルをこなしても、実際に本番ではどうなるかわからないんですよね。

坂井　わかんないですねぇ〜。この前は「煽りVTRを現場で作ってその場で流す」ってことやったり。「プロレスの追加公演をやったらどうなる？」とかやりましたけど。でも「それがプロレスの興行として成立するのか？」は予想がつかないし。それを確認するためにやってる部分は凄く大きいですね。

——そこは本当に実験ですね。

坂井　ただ、追加公演も一度成功したらボクらはやる必要はないかな、と。その方法論はDDTとかにアダプトできれば。

——なるほど。あと坂井さんは構成、演出、出演して、それで最後には毎回リング上で泣いてますよね？

坂井　あれは、終わってホッとしてるんです。進行台本に「ここで坂井、泣く」とは書いてないですよ（笑）。それに演出っていっても、ボクができることはそんなに多くなくて、進行台本を用意して「ここでスローモーションが始まって、ここで終わる」とかは考えますけど。

——最終的にプロレスとして成立させられるかは、演者にかかってる、と。

坂井　そこで出演者がこちらの想像以上のことをやってくれたり、あとは、お客さんが受け入れたときのリアクションの大きさに泣けることが多いですね。ボクらがやってること「プロレスじゃない」とか言われますけど、スローモーションや、試合中にマンガのコマの絵が入ったり、ドッキリが入ったりって演出をリング上でやって、お客に受け入れられたら、キャッチボール成功ってことですから。

——そういう演出を成立させるのも、させないのも最後はお客さん次第だ、と。

坂井　ええ。いつもビクビクしてお客さんの顔色をうかがってます。これからは、カスタマー・サティスファクション……顧客満足度の追求ですね。もう『カスタマー・サティスファクション』って大会名に変えてもいいくらいですから（笑）。

【06年12月4日／DDT事務所にて収録】

マッスル坂井のこれからやりたい演出

●『マッスル』で外国人を演出したい
外国で現地の人を使って、日本でやってるのと同じ『マッスル』をやりたいですね。演劇では野田秀樹さんもやってますけど。全員フランス人の『マッスル』とか（笑）。

●『ダヴィンチ・コード』的な『マッスル』
力道山の写真に隠された真実を『ダヴィンチ・コード』的に解き明かしたり（笑）。暗号とかウンチクを入れて、楽しめるものをやりたいな、と。ある程度、実在する人とか歴史の要素を使ってできたら、おもしろいでしょうね。

●佐藤大輔氏の煽り映像に沿った『マッスル』
フジテレビから独立された、映像ディレクターの佐藤大輔さんに勝手にウチの選手の煽り映像を作ってもらって、その映像に合わせた興行をやりたいですね。もし「ガチンコじゃないとダメ」と言われたら、そのために総合の団体を旗揚げしてもいいですし（笑）。

<RADICAL特選劇場>
ドラゴンもビックリ!! “最強豪邸” 健介邸潜入!

72号では、今号でのドラゴン邸に劣らない“最強豪邸”健介邸の潜入企画が実現！豪華な洋風インテリアは「9割は北斗の趣味」（健介）。

Stefan"BLITZ"Leko

いまとなっては興味深い発言連発！ なPRIDE移籍時のステファン・レコインタビューも掲載!

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!

no.72 '04.03 840yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

豪邸なら、俺たちも負けない!!

(注) NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jpでお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元 （株）ダブルクロス
平日 13:00〜19:00

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松維親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16〜87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

“新”プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

純プロレス戦国絵巻!
no.37 840yen '01.04
[表紙：小川直也（イラスト）] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る！／アブダビコンバット01一大探検記！

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

“最後の黒船”WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]“首の皮一枚”ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる“U”が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也＆小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也＆小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志]“異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙：橋本＆小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／ 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙：桜庭和志]“道場破り”の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ]“殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙：前田日明＆髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。 ※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

인 사이드 코리아
インサイドコリア

韓龍格闘技ノンフィクション劇場

第10回

キム・イル“韓国の猛虎”大木金太郎、晩年時代の光と影、そして後継者争い

文／大川“隊長”義之

〝韓国の猛虎〟大木金太郎（韓国名キム・イル）が2006年10月26日に亡くなった。トップレスラーとして日韓で成功を収めたキム・イルだったが、80年代以降ほとんど彼の情報を目にする機会はなくなった。

そこで今回は、あまり知られていない韓国での「キム・イル」、後継者問題、そして晩年の彼の人生をキム・イル道場の弟子たちに聞くことにした。

◆

リー・ガクスーの絶頂期であった80年代、かつてキム・イル道場の選手代表も務めたことのある元ストロングマシン2号こと、力抜山はキム・イルをこう語る。

「レスラーとしてのキム・イル先生は、俺らにとって神みたいなもんだよ。ひれ伏すしかない存在。試合でよくタッグを組んだけど、強烈なカリスマがあったね。先生の前に立つと、もう俺らは直立不動さ。不満があってもブルブル震えちゃって言えないのよ。でもいつも厳しかったわけじゃなくて、弟子には優しい面もあった。

昔、俺が先生の付き人やってたとき、先生はいろんな偉い人に会う機会も多かったから、運転手でついていってずっと待ってたら、当時のお金で5万ウォン（現在のお金で10万円以上）をポーンとくれたことがあった。キム先生でもこういう面があるんだなと思ったよ。先生は相当な『節約家』だったからね」

本誌101号に登場した力抜山（ストロングマシン2号）。新日本時代に蓄えた資金でスポーツジムを営み、いまや実業家として成功を収めており、現在でもときおり、試合をこなしている。

キム・イルは、日本でもお金に関してはケチで銭ゲバで有名だったと聞くが、弟子の口からも噂どおりの言葉が出てきた。力抜山は、のちにキム・イルと袂を分かった間柄であるためか、厳しい意見も出てきた。

「亡くなった方のことを悪く言うつもりはないが、先生は引退後、自分の使命を果たさないで亡くなったように感じる。引退後は自分の事業を始めたけど、不渡りを出して借金を作って……。いまの韓国プロレス界を見てみろ。ほとんど団体は残ってないし、大会も年に数回しかやっていない。猪木さんや馬場さんがそうしたように、先生も韓国でプロレスがずっと繁栄するように力を尽くす必要があったと思う。でも、先生はそうされなかった。自分の身内や好きな弟子だけをかわいがって、派閥を作ってしまった。だから実力のあるレスラーは不満を持ってみんな飛び出してしまったんだ。それがキム・イル道場の没落した原因だった」

徐々に語気を強める力抜山は、この後キム・イルの後継者問題にいついても言及し、さらにヒートアップ！

「そういえば先日、後継者とか言われているイ・ワンピョがキム・イル先生の追悼興行をしたらしいが、何が後継者だよ！　アイツにキム・イルの後継者の資格なんてない。世界タイトルを獲ったこともないし、レスラーとしての知名度も実力もない。先生に取り入って後継者に指名してもらっただけだ。追悼興行とか言うが、自分の商売のために先生を利用しているだけじゃないか。

俺ならああいうかたちにはしない。プロレスの大会でやるんじゃなくて、自腹を切ってもホテルでしめやかにやるよ。先生と関係のあった人を呼んで、先生を偲ぶ会をね。それから後継者選びのことについては、選手みんなの意見を聞いたうえで決めてほしかった」

後継者に選ばれたイ・ワンピョを批判する言葉が続くが、これは俺こそが後継者なのに……！　という無念さからくるものだろう。キム・イル道場離脱後、キム・イルとは犬猿の仲だった故チャン・ヨンチョル氏と組んで団体を運営していた力抜山には、キム・イルと親しくしたくてもできなかった政治的な事情もあったようだ。

◆

一方、現在WWAこと、韓国プロレスリング連盟代表であり、現在キム・イル公認の後継者であるイ・ワンピョ選手にも話をうかがった。

「キム・イル先生は冗談もよく言う明るい人だったが、自分の弟子に対しては非常に厳しかった。俺が入門してからデビューするまでの二年間、先生には本当によく殴られたよ。

キム・イル道場ではいまの『PRIDE』みたいな練習をいつもしていた。先生はセメントが強かったからね。スパーリングもすべてなんでもあり。俺にとって先生は、韓国の言葉で「頭師父一体」（親分と師と父は同じという意味）そのものだった。

最初はレスラーの親分格として、そして人

彼がキム・イルから“後継者”として指名されたイ・ワンピョ。決して本田多聞ではないのでRなのDA!

大木金太郎のもとには、甘い汁をすすろうとする魑魅魍魎があとを絶たなかった

生の師、最後にはじつの親父のようだった。生前、俺がそばにいるとき、先生が『いまが一番安らかな気持ちだ』とおっしゃってたことが忘れられないよ。先生は車椅子生活だったから、移動するときは常に俺が付き添っていたが、やっぱり弟子がすべて世話してくれると、安らかな気持ちになったんだろうね」

さすがにキム・イルの後継者だけあって、先生との蜜月の関係をアピール。続いて後継者選びのことについても話してくれた。

「先生が最後に試合をしたのが84年。85年以降、俺がキム・イルプロモーションの代表になったので、その頃から先生が俺に全権を譲ったとみていいだろう。実際に先生が自分の『後継者』として俺を指名したのが94年。継承式をしたのが04年4月の大会だ」

キム・イルは後継者選びで、なぜ実績充分の力抜山を選ばなかったのか？ その疑問をイ・ワンピョにぶつけてみるとこんな回答が返ってきた。

「もちろん力抜山選手は、レスラーとして素晴らしい選手だ。しかし俺は俺で、韓国内でずっと団体運営を継続してやってきた実績がある。だからキム・イル先生は両者を見て、スター性やさまざまな面から、韓国でプロレスの人気をまた盛り返せる者を考えた結果、俺を後継者に選んだんだろう。

それから先生が入院しているときに、弟子と師匠の間柄なら、すぐ病院に駆けつけるべきだったが、力抜山選手は一度も来なかった。彼にも来れない理由があったんだろうが、理由はどうあれ、そういうことも先生の後継者選びに影響があっただろう」

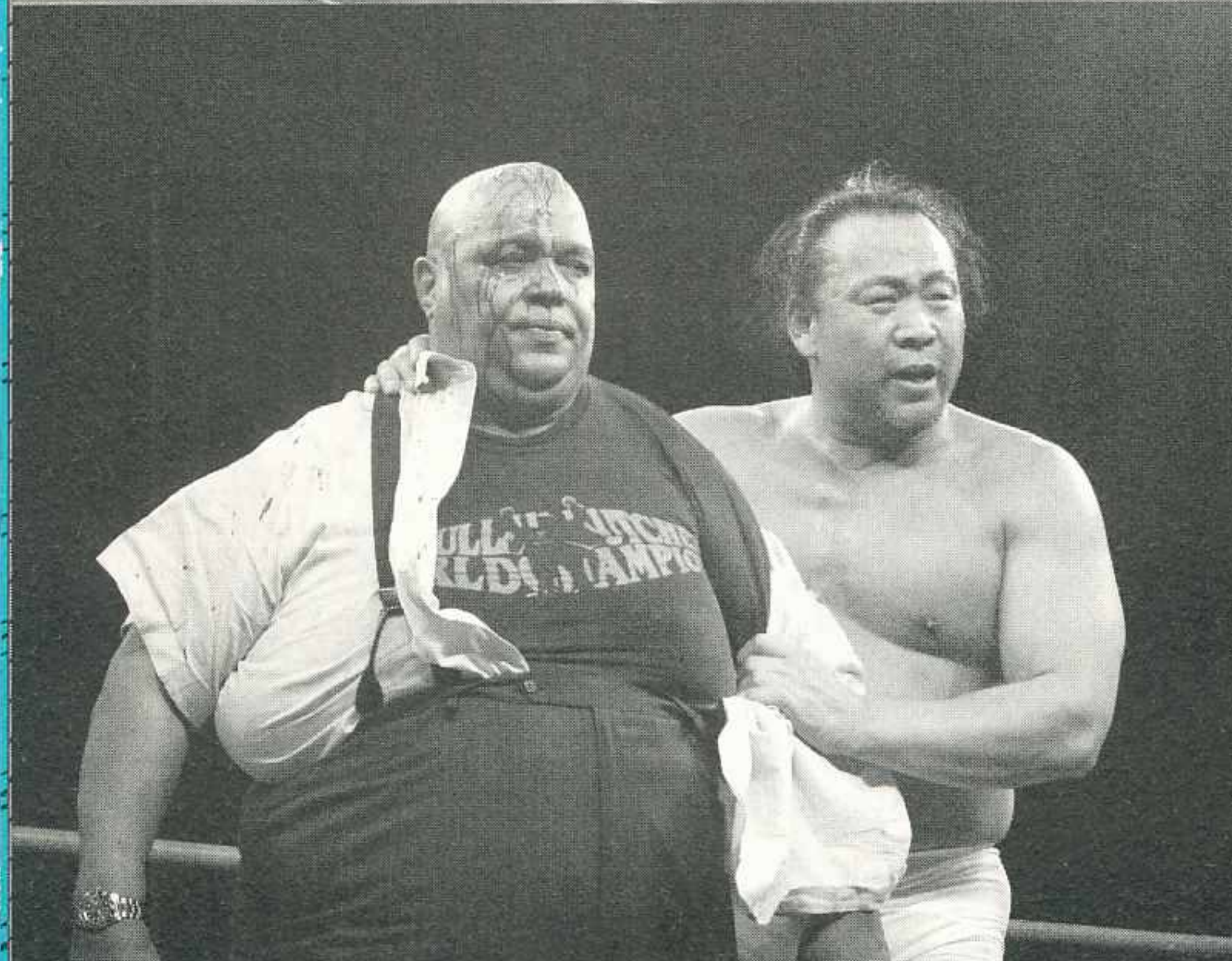
イ・ワンピョが言うように、入院中、一度も病院に現われなかった力抜山に、キム・イルも溝を感じるようになっていったと言う。そしてキム・イルの引退後、韓国プロレスに対する関わりについては、キム・イルの立場を代弁するように語った。

「俺としては、先生は韓国プロレス界に対して最善を尽くしたと思う。本人がもっとやりたいと思っていても周囲の状況がかみ合わなければ、うまくいかないものだ。健康のこともあったし、事業の失敗もあったし。失敗したのはだまされたからだけど、先生はそのだました人のこともまったく悪く言わなかった。……そういういろんなことがあって、結果的に先生の望んだとおりにならないことが多かったんだ」

事実、大スターだったキム・イルのもとには、60年代以降、甘い汁をすすろうとする魑魅魍魎があとを絶たなかった。「どうせプロレスはショーでしょ？」と言われるたびに、キム・イルは「人生そのものがどうせドラマやショーじゃないですか」と切り返えしていたという。

彼の言葉どおり、祖国の英雄にあこがれて密航し、レスラーとして数々の世界タイトルを獲得し、師の突然の死を機に韓国へ戻っても、大スターとして迎えられた全盛期。そして引退後は、人にだまされて事業が失敗して借金地獄、92年には頭突きの後遺症により脳卒中で倒れるなど苦難の時期が続いた。

数々の成功と晩年の挫折。キム・イルの人生は、どんなドラマよりも劇的なものであったに違いない。

晩年は、頭の中で常に鐘の音が鳴り続くという苦しみにあったキム・イル。我々に多くの思い出を残した韓国の猛虎よ、安らかに眠れ——。

イ・ワンピョが主催したキム・イル追悼興行。リングにはキム・イルが生前、使用していた車椅子が持ち込まれ、その死を悼んだ。ゲストで呼ばれたアブドーラ・ザ・ブッチャーも、試合に乱入して大暴れ！ 十八番の額からの流血は、ブッチャー流の献花なのだろう。

レザーフェイスは韓国でも生きていた!? "死亡報道"で話題を呼んだ怪奇派レスラー、レザーフェイスも追悼興行に登場！ オリジナルではないと思われるが……!?

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

4回左折で元どおり!　イエ～イ。こんにちは、ハガキ愛ランドです。最近、公園で一服していたら、幼稚園くらいの子が周りにどんどん集まってきて「遊ぼうよ」と騒ぎ始めました。しかし、自分は「オメェに食わせるタンメンはねえ!!」と言って怖い顔をしてやりました。来年28歳です。それではいきますよ、3、2、1、決闘、決闘、う～、四面楚歌!(子どもに完敗)。

kamipro105号へのお便り紹介

「レザーフェイスは生きていた」特集が一番よかった。今回のガセ死亡記事に惑わされ、フライングで追悼セレモニーまでしたアパッチ軍の話がおもしろかったです。

【埼玉県・岡田郁郎さん・会社員・34歳】

⬇さらに、レザーフェイス特集では、前回のセクハラ問題に続いて登場した板倉教授の法律相談も勉強になりました。でも、「死んでないのに、死んだという報道をしてはならない」なんて、きわめて当たり前のことなんだけど、そういう事例に当てはまる法律って、ちゃんとあるんですね。大変だなあ、法律は。

3年G組金沢先生はいままでの中で一番よかった!『kamipro』にAV女優が出ただけで画期的なことです!　また次にどんなAV女優が出るのかいまから楽しみ――。ムフフフ(アントン調)。

【福島県・長谷川隆さん・自営業・42歳】

⬇そんなにAV女優ばかり登場しないと思いますが、「3年G組金沢先生」には今後もぜひ期待してください。しなくてもいいですが。それより、はたして3年G組が本当にプロレスの授業であるのかどうかということに、生徒の私は正直不安を覚えています。

青木×江頭対談が最高だった。もし、青木と五味とのタイトルマッチが実現したら、エガちゃんに最前列で観戦してほしい。ビジョンに映ってしまう感じで。

【広島県・広川徹さん・会社員・37歳】

⬇対談後、エガちゃんに「会場ではご覧にならないんですか?」と聞いたところ、「俺は、ダメなんだよっ!!　カメラに抜かれたら、じぇ――ったいリングで暴れないと気が済まなくなるから!!(充血)」と言われました。でも、そういうの、ぜひ観たいです!

ボクはPRIDEウェルター級GP舞台裏の記事に引っかかりました。……パウロは昨年の武士道GPでも「!?」だったし……。

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・32歳】

⬇大晦日前のドタバタで、ウェルター級GPのことはすっかり忘れそうになってました。

佐藤大輔さんのインタビューは最高だった!　この男っぷりなら、トップ記事でもよい!!　ぜひ部下として働きたいですよおオオオ。

【石川県・浅井清治さん・会社員・34歳】

⬇ただいま『kamipro Hand』でも、『男祭り』トピックス満載の佐藤大輔さんインタビューを掲載しております。前号に続き、〝男の中の男〟インタビューを読みたいヤツは、いますぐ『kamipro Hand』へ、レッツゴーッ!

埼玉県・稲葉聡さん・フリーター・26歳

➡前号は夏目ナナフィーバーでハガキの数が大変でございました。読者の皆さま、はっきり言って本能のままに行動しすぎです。

ミルコ・クロコップのインタビューがよかった。ミルコの最近の行動が書いてあったので、非常にうれしかった。チームには柔術家二人を加入させたということなので、これはもう、ヒョードル戦が楽しみでなりません!

【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇その肝心のヒョードル情報がいま非常に錯綜しております!なので、二人の対戦は実現はまだ先?　また二年越しとか、そんなこともあったりして。それとも……。

タイガー服部さんのインタビューがよかった。人間、お世話になった人(事)に対して裏切るようなことをしてはいけない。常に感謝する心を持つことが大切であるとわかった。

【神奈川県・佐々木学さん・会社員・41歳】

⬇しみじみするコメントありがとうございます。

ボクは、『PRIDE』とUFCのことを語っている編集部の対談がおもしろかったです。『武士道・其の十三』のことを〝キチンと〟批評してくれたのと、最初にI編集長のことを取り上げてくれたので、感動しました。I編集長、ボクは一日も早い回復を祈っております!

【大阪府・中島一郎さん・会社員・32歳】

⬇I編集長には「俺だってできますよ!」と早く元気に絶叫してもらいたいですね。それに、DJ GOZMAについて編集部の人間がこんなに語っている雑誌はほかにはないのではないでしょうか。

サイモン猪木社長のインタビューがよかった。〝いい人〟ぶりがにじみ出ていました。義理とはいえ、あんな親父がいるのだから、気苦労も並大抵ではないだろうとちょっと同情。

【宮城県・加藤敦さん・会社員・35歳】

⬇〝いい人〟なのに〝ヒール〟ということは、それはつまり「ラブ&ガッデム!!」ということなんでしょうか!　サイモン社長はGBHに入ったりはしないのかなあ。

105号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	青木真也×江頭2:50
2位	佐藤大輔
3位	田村潔司×立嶋篤史
4位	3年G組金沢先生
5位	タイガー服部

105号では、なんとW黒タイツ対談の青木×江頭が1位に君臨!　青木は『男祭り』に、エガちゃんは『ハッスル』でのプロレスデビューが決定しているので、今後もぜひ“金字塔”を打ち立ててほしいですね。そして、2位、3位には、佐藤大輔、田村潔司、立嶋篤史と、なんとも男気あふれる頑固者たちが勢揃い!　また4位は夏目ナナ先生効果でG組大爆発でございました。

埼玉県・中川“画伯”雅博さん・イラストレーター・29歳

➡「10周年、おめでとうございます」ということで、中川画伯からサクマシンのハガキをいただきました。ありがとうございます!　秋山戦はいったいどうなるんでしょうねえ。

105号のおもしろかった記事は「田村潔司×立嶋篤史対談」です。こんな頑固な組み合わせははじめて見ました。それでも、お互いの意見を尊重するのですから、男ですね。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇立嶋さんがあんな格好しているのに、田村さんが半袖だということが、自分は一番気になりました。マッチョボディの人って、あんまり寒くないんですかね。

秋山インタビューがよかった。『kamipro』では新鮮でした。もっと、くだらない……というか、格闘技以外の話でもよかったんじゃないかと、ボクは思います。

【愛媛県・河本弘・公務員・30歳】

⬇初インタビューということでしたが、秋山選手は本当に真面目でまっすぐな人なんだろうなという印象でした。じゃないと、「柔道サイコーッ!」なんていう名ゼリフは生まれません!

目次の「金字塔」、最高でした。

【大阪府・山崎知恵さん・主婦・38歳】

⬇まさか、青木選手もアレができるとは思いませんでしたね!

衝撃ショット!!

①『PRIDE無差別級GP』の会場前でフジメグとツーショット撮影!

今年の『PRIDE無差別級GP』決勝戦の会場にフジメグさんがいました。一緒にいたフジメグさんのご両親に写真を撮ってもらいました。そしてフジメグさんに握手もしてもらいました。そして、腹筋を触らせてもらおうかと思ったけど、それはやりすぎなんでやめときました。「ジョシュ、応援してます!」って言ったら「応援してください!」と言われました。声がめちゃめちゃかわいかったです。
【東京都・新井祐太さん・浪人してます……・19歳】

②新宿FACE1Fのゲーセンで、なんと! アメバルがリズムマシーンに挑戦!!

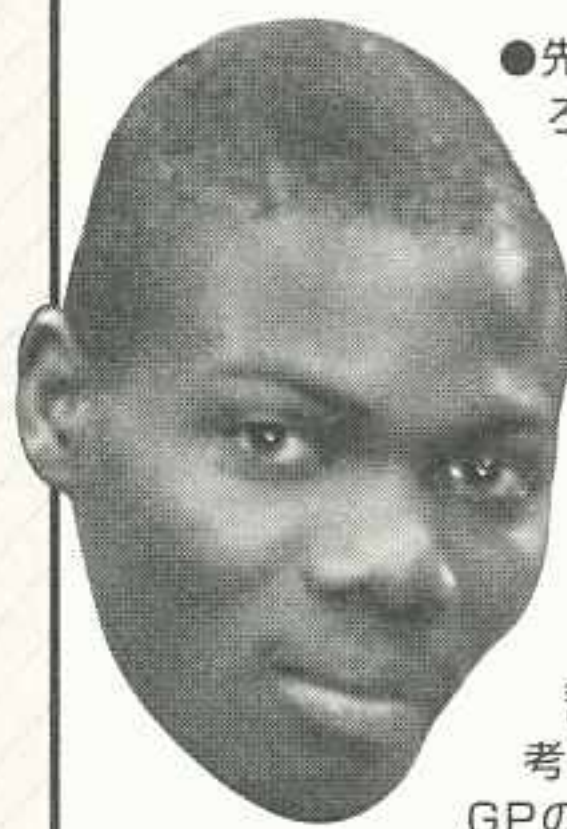
先日、新宿FACEの建物付近を通りかかったのですが、1Fゲーセンのところに人だかりができていました。なんだろう? と思ってのぞいてみると、そこにいたのは……あのアメリカンバルーンではありませんか! しかも、ドラムをたたくリズムマシーンで、超高得点を獲得している始末。あまりの上手さに集まった人も感心するばかりでした。……しかし、彼はいったいいつまで日本に滞在するのでしょうか?
【東京都・パラッパラッパーさん・23歳】

②田村潔司が新事業!? "U-STYLE"という名のカラオケ発見!

都内・登戸付近で、こんなカラオケ屋を発見してしまいました。田村潔司さんのU-STYLE登戸ジムの凄く近くだったし、いつもインタビューをカラオケ屋で収録している田村さんなので、思い切ってカラオケ屋を作ってしまったのかなと思ったのですが……、勘違いですよね!(※おそらく勘違いです)。
【東京都・人生相談さん・モンゴル業・34歳】

スクープ! ザ・目撃!!

●11月29日に、茅ヶ崎のヤマダ電機で小川直也選手を見ました。ちょうどエスカレーターで二階に上がって来るところで、帽子にサングラスといういでたちでしたが、スターのオーラが大変にじみ出ていてビビってたじろぎました。
【喜太バズーカさん (kamipro Hand投稿)】

●『ハッスル・マニア』の3、4日後、ボクは代官山のイタ飯屋で、なんと! あの"妖精さん"らしき人を発見してしまいました。妖精さんは誰かと一緒にいたのですが……、残念ながら誰だったかは確認できず。でも、妖精さんって、現実社会にもいるんですね。
【東京都・ティンカーベルさん】

●先日、東京ドームホテルをうろうろしていたら、須藤元気選手と遭遇しました! ボクは感激しすぎて「試合、がんばってください!」と叫ぼうとしました。でも、恥ずかしかったので諦めました。ですが、さらに次の瞬間、今度はアンディ・オロゴン選手を発見!! そのときは、なんで今日はこんなに凄い選手ばっかり会うんだろうと興奮しまくっていたのですが、よく考えるとその日はK-1 WORLD GPの決勝大会があった日でした。でも、やっぱり嬉しかったです!
【東京都・目撃マニアさん・高校生・16歳】

●プロレス・格闘技とはまったく関係ありませんが、新宿の紀伊国屋書店付近で、なすびさんを見かけました。なんだか久しぶりだなあと思いました。
【東京都・懸賞生活中さん・21歳】

ラーメン
喰い行かね?

東京都・サカモトカズヤさん
➊『ハッスル・マニア』のセットを破壊したザ・エスペランサーのあのレーザー・ビターンはまるで桃白白の"どどん波"ですね!

強く生きよ
我が娘達

目を伏せるな
しっかりと
目に焼き
つけるんだ

埼玉県・稲葉聡さん・フリーター・26歳
➊ラスベガス大会で感動の渦に巻き込んだコールマンですが、今度はなんと1月1日放送の『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』に登場するということで、なんだかわかんないけど、おめでとうっ!!

kamipro初! メカが相談役に!! メカマミーの人生相談

バンザ～イ!! 祝・東スポ話題賞受賞

さあ、今回もメカ的人生相談の時間です。今日は何かな? ……おっと、「いじめ」でお悩みなのですね。これは、いままでになく、なかなか深刻な問題ですね。さあ、メカさんはどんな結論を出すのでしょう?

いじめのことで悩んでいます

お悩みごと

■ロック&ロックさん
(青森県・14歳・中学生・♂)

「こんにちは。初めて『kamipro』に投稿します。いま、いじめのことで大変悩んでいます。いじめられているのは僕ではなくて僕の友達です。小学校時代は親友だったヤツなんですが、中学入学と同時にクラスが離れて以来、気づいたらそういうことになっていました。僕はそいつを助けてやりたいと思っているのですが、僕までいじめられたりするのかとかいろいろ考えると、ちょっと腰が引けてしまいます。こんないくじなしの僕に、何かいいアドバイスをください!」

メカマミー

人間界でいじめが問題になっているというのは、我々メカ界にも当然のように情報が入ってきている。そうだな、アドバイスを送るとしたら、ただ一つ。……そう、正解! 答えはもちろん"メカになれ"ということだ。メカになれば、すべてが丸く収まる。

まあ、メカになる勇気がないというならば、これはもう沢尻エリカの出番だろうな。前号の『kamipro』でのオレが選んだ「2006年度プロレス大賞」はチェキしていただけたかな? MVP、年間最高試合賞、話題賞と3冠を獲得した沢尻エリカこそ、いじめ問題解決のキーパーソンだということは青森県にお住まいのロック&ロックにだけ、こっそりと伝えておこう。しかしだ。沢尻エリカがどう"キー"になってくるかは自分で考えろ。

最後に業務連絡。すでにご存知かとは思うが、本家本元『東スポ』のプロレス大賞話題賞を、わたくしメカマミーが受賞してしまいました。この件に関しては、いち早くクローズアップしてくれた『kamipro』にも感謝している。メカ感謝。

とは言っても今年は、まだ30日の上井ステーション、そして谷川さん次第で大晦日の『Dynamite!!』参戦もありえるからな(ニヤリ)。来年も沢尻エリカ、そして上井駅長に負けないように頑張るぞ!

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。

メカマミーの近況は……もう、本人が本文に書いちゃいましたので省略させていただきます。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「がんばれ、がんばれ!」係まで。
携帯サイト『kami-pro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程と情報が、友情パワーでマッスルドッキング!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

寒さが厳しくなってまいりました。毎年この時期はマニアのみならず、世間の人にも格闘技の話題が自然にでるぐらい盛り上がるわけなんですが、今年はそういう気運が感じられないような気がするのはなぜなんでしょう。僕の大晦日の予定は3年連続さいたまスーパーアリーナに足を運ぶことになりそうです。もし家にいたら地上波は何を見るかって？ そんなもん『ガキの使い』に決まってるじゃないですか！ 担当は辻ちゃんでした。

決定対戦カード
【KO-D無差別級選手権】
大鷲透(王者) vs HARASHIMA(挑戦者)
【DDT EXTREAM級選手権】
MIKAMI(王者) vs タノムサク鳥羽(挑戦者)
【星誕期デビュー戦】
星誕期&柿本大地 vs アメリカン・バルーン&中澤マイケル

チケット情報
特別リングサイド＝5,000円、リングサイド＝ 4,000円（以上は当日500円増）、レディースシート&立見＝4,000円、中高生（要身分証）＝1,000円
◎問=DDT 03-5360-6653

◆伊藤薫プロレス教室／東京・新宿FACE（18:30）

30 SAT.

◆UFC66／米国・ネバダ州ラスベガスMGMグランドガーデンアリーナ
◆UWAI STATION／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆O'zアカデミー／東京・新宿FACE（19:00）
◆アイスリボン軍／神奈川・横浜にぎわい座地下2階小ホール・のげシャーレ（19:00）

31 SUN.

海援隊☆DXが大晦日に復活
デスマッチ、100万円争奪戦もあるぞ!

『インディー・サミット2006～カウントダウン・プロレス～』
東京・後楽園ホール（20:00）

決定対戦カード
【海援隊☆DX復活! 世代闘争10人タッグマッチ】
ディック東郷&獅龍&MEN'Sテイオー&TAKAみちのく&船木勝一 vs 大石真翔&KUDO&岸勝也&野橋真実&ミラニートコレクションa.t.
【"JUST NOW"6人タッグマッチ】
関本大介&HARASHIMA&ビリーケン・キッド vs GAINA&真霜拳號&谷嵜なおき
【蛍光灯6人タッグデスマッチ】
葛西純&"黒天使"沼澤邪鬼&稲松三郎 vs 佐々木貴&気仙沼二郎&アブドーラ・小林
【エンターテインメント3WAYマッチ】
小笠原和彦 vs 吹本賢児
MAZADA vs 斗猛矢
お茶マン&みかんまん vs 趙雲子龍&小仲＝ペールワン
【マスカラ・コントラ・カベジェラ】
菊タロー vs ピンクタイガー
◎問＝静岡プロレス 054-287-8885

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NOAH／東京・ディファ有明（16:00）
◆大日本／埼玉・越谷市桂スタジオ（14:00）
◆Dreamin'Project／埼玉・越谷市桂スタジオ（18:00）
◆El Dorado／神奈川・小田原アリーナ（13:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆ターザン後藤一派／東京・浅草インディーズアリーナ（17:00）
◆EAGLE／栃木・小山市文化センター小ホール（13:00）
◆東海／愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）
◆静岡／静岡市民文化会館（14:00）
◆NWD／愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（17:30）
◆JWP／東京・後楽園ホール（12:00）

25 MON.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆アパッチプロレス軍／東京・新木場1st RING（19:00）

26 TUE.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆ウルティモ・ドラゴン自主興行／東京・新宿FACE（19:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:30）

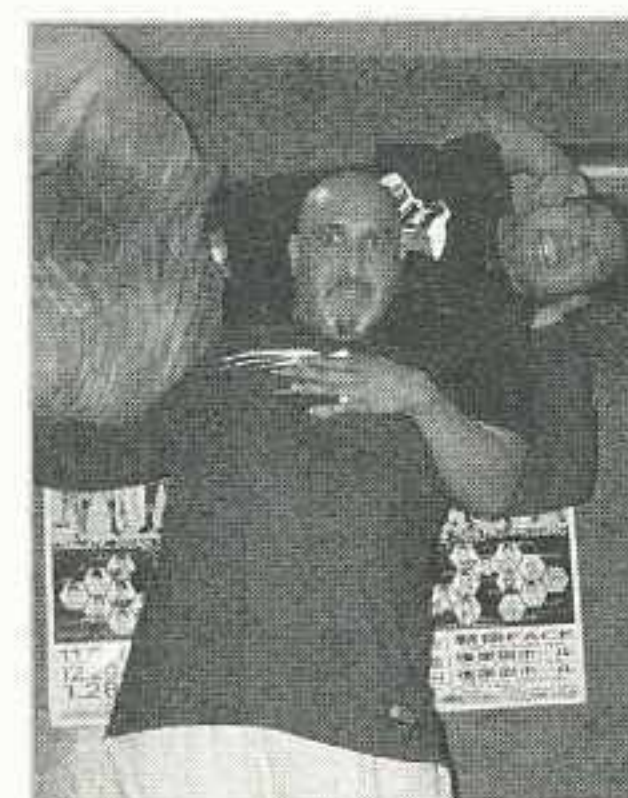
27 WED.

◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）

28 THU.

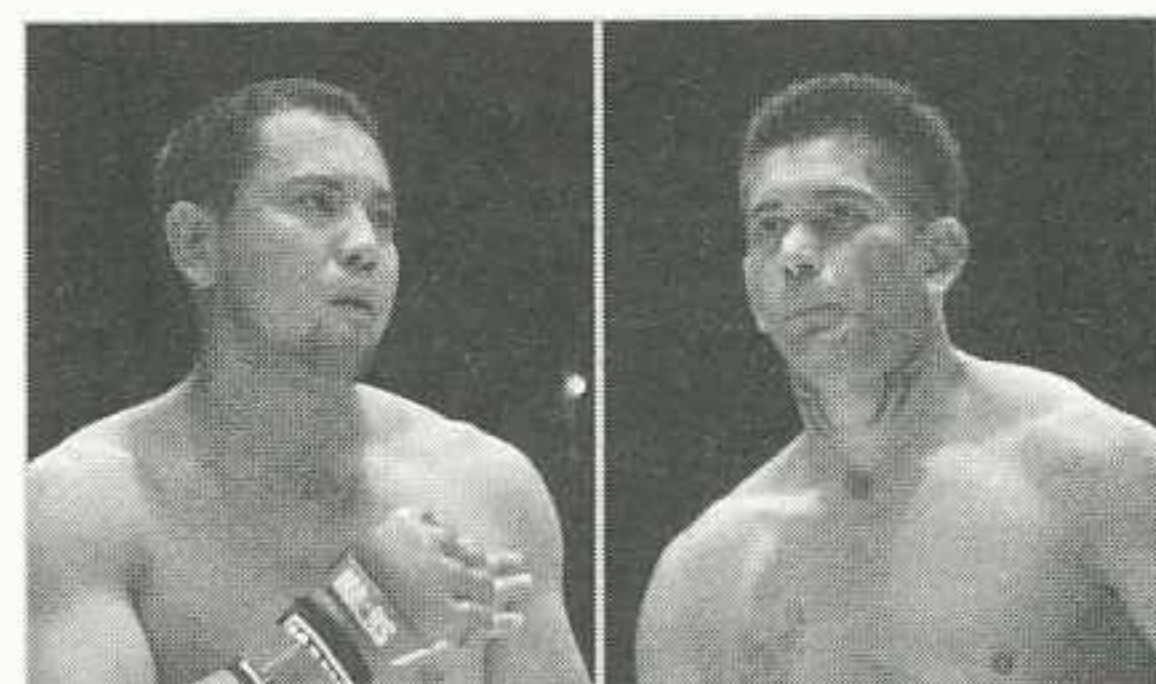
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）

29 FRI.

元十両、星誕期がいよいよデビュー!
大鷲とHARASHIMAがベルトを賭け激突

DDT
『NEVER MIND 2006』
東京・後楽園ホール（19:00）

Fight & Event December 12

22 FRI.

桜木がサイクロンと遺恨決着戦へ
野地の相手は高森を破った、あの男!

MARS
『MARS 06 "RAPID FIRE"』
神奈川・横浜文化体育館（18:30）

決定対戦カード
桜木裕司 vs ファビアーノ・サイクロン
野地竜太 vs エドモンド・カバウカンチ・ジュニオール
MFCチャレンジトーナメント出場者
西内太志郎、坪井淳浩、毛利昭彦、キム・ドヒョン、その他、総合・キックのオープニングマッチ（17:45開始予定）を3～4試合、総合のワンマッチを7試合、キックのワンマッチを1試合予定
◎問＝MARS事務局 03-3368-3355

◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆El Dorado／千葉・千葉ポートアリーナ（19:00）

23 SAT.

◆WRESTLE LAND／東京・後楽園ホール（12:30）
◆SEM／東京・ディファ有明（16:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30）
◆El Dorado／静岡・清水マリンビル（13:00）
◆666／東京・新木場1st RING（18:30）
◆極悪同盟自主興行／東京・新宿FACE（18:30）
◆NEO／神奈川・横浜NEO道場（14:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）
◆NKB／東京・後楽園ホール（17:30）

24 SUN.

◆静岡プロレス／静岡・静岡市民文化会館3F大会議室（14:00）
『静岡プロレス1周年大会』
決定対戦カード
ザ・グレート・コスケ&ザ・グレート・サスケ&佐野直 vs NOSAWA論外&チェーンソー森谷&スタンガン高村

14 SUN.
◆維新力自主興行／東京・新宿FACE（12:30）
『RIKIマニア』
決定対戦カード
維新力&大向美智子 vs 鈴木みのる&アジャ・コング
藤原喜明&輝優優 vs グラン浜田&木村響子
黒田哲広&アイガー vs ランジェリー武藤&おばっち飯塚
松田慶三&竹迫望美 vs 宮本裕向&GAMI
マスクドブランズマンwith謎の美人マネジャー vs戸井克成
【維新力道場生デビュー戦】
スモウ.リキ&スモウ.リキ子 vs 田村和宏&闘獣牙LEON
◎問＝どりんくばぁー維新力の店 0422-45-4933

◆NOAH／福岡・博多スターレーン（17:00）
◆UWAI STATION／福岡・Zepp Fukuoka（17:00）
◆みちのく／宮城・仙台港国際ビジネスサポートセンター（14:00）
◆DRAGON GATE／埼玉・本川越ぺぺホールアトラス（14:00）
◆SUN／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NEO／東京・キネマ倶楽部（13:00）
◆JWP／東京・キネマ倶楽部（17:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:00）

15 MON.
◆NOAH／大分・大分イベントホール（18:30）

17 WED.
◆ZERO1・MAX／東京・新木場1st RING（19:30）
◆NOAH／高知・高知県民体育館（18:30）

18 THU.
◆ZERO1・MAX／茨城・牛久運動公園体育館（19:00）

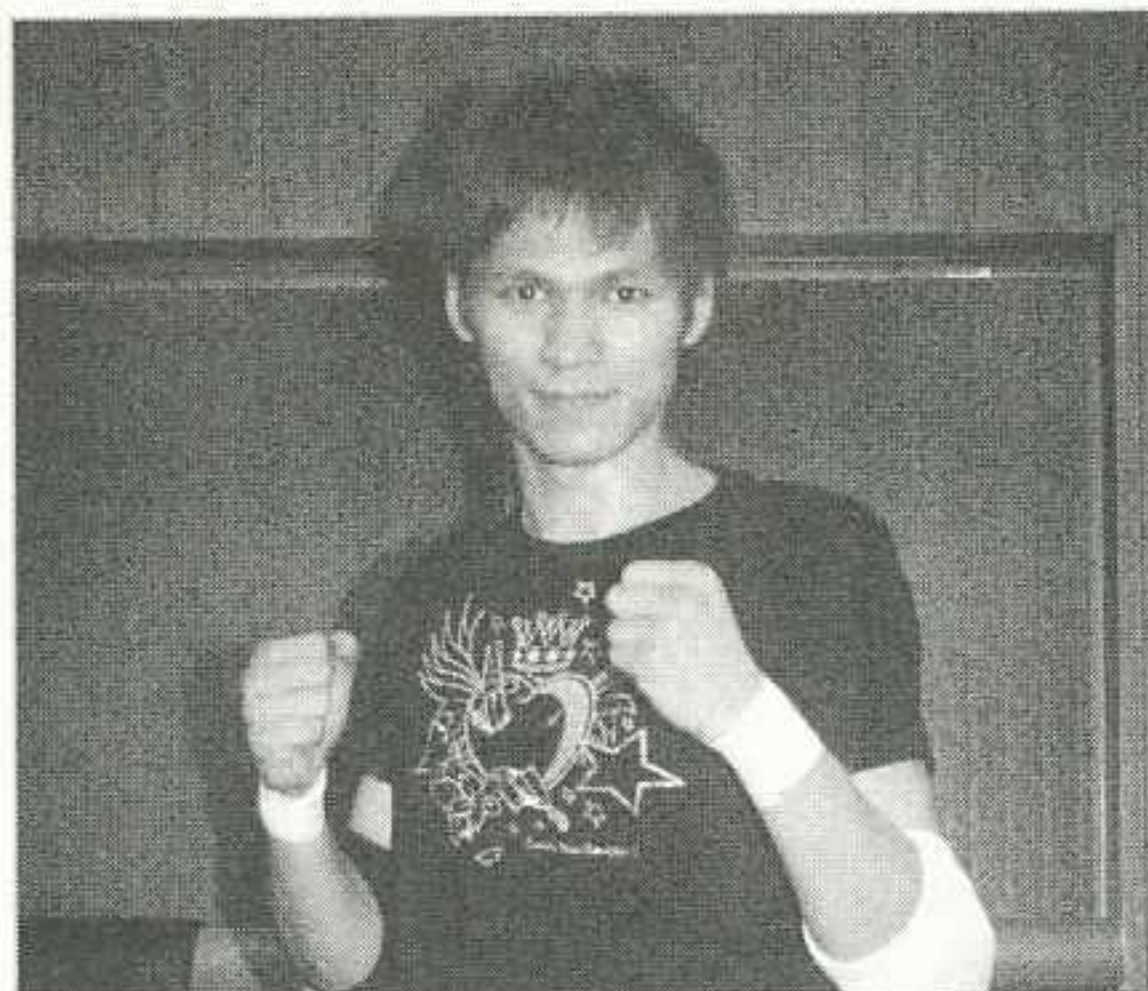
19 FRI.
◆NOAH／静岡・ツインメッセ静岡（18:30）
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）
◆無我ワールド・プロレスリング／北海道・札幌テイセンホール（19:00）

20 SAT.
◆ZERO1・MAX／栃木・矢板市農業者トレーニングセンター（18:00）
◆DRAGON GATE／三重・松阪市総合体育館（18:30）
◆無我ワールド・プロレスリング／北海道・旭川地場産業新興センター（18:00）

21 SUN.
◆NOAH／東京・日本武道館（17:00）
◆ZERO1・MAX／茨城・ひたちなか市松戸体育館（14:00）
◆ベニー・ユキーデプロデュース興行／東京・新宿FACE（12:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・神戸サンボーホール（17:00）
◆大向美智子自主興行／東京・新宿FACE（18:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）

24 WED.
◆無我ワールド・プロレスリング／岩手・大船渡市民体育館（19:00）

25 THU.
◆望月成晃プロデュース興行／東京・後楽園ホール（18:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

全日本キックボクシング連盟
『New Year Kick Festival 2007』
東京・後楽園ホール（18:30）

決定対戦カード
石川直生 vs ワンロップ・ウィラサクレック
大月晴明 vs ジョン・スーミン
【全日本スーパー・ウェルター級タイトルマッチ】
山内裕太郎(王者) vs 望月竜介(挑戦者)
大輝 vs ゲンナロン・ウィラサクレック
佐藤皓彦 vs クンタップ・ウィラサクレック
チケット情報
RS席＝10,000円、S席＝7,000円、A席＝5,000円（全席種当日1,000円増）
◎問=全日本キックボクシング連盟 03-3365-1171

◆新日本／東京・東京ドーム（18:00）

5 FRI.
◆全日本／埼玉・越谷市桂スタジオ（18:30）
◆LLPW／東京・後楽園ホール（19:00）

6 SAT.
◆全日本／東京・八王子会館（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（18:30）

7 SUN.
◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆全日本／埼玉・本川越ぺぺホールアトラス（16:00）
◆NOAH／東京・ディファ有明（17:00）
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DDT／大阪・アゼリア大正（13:00&18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆東海／愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）

8 MON.
◆新日本／東京・後楽園ホール（12:30）
◆NOAH／埼玉・本川越ぺぺホールアトラス（17:00）
◆DDT／大阪・アゼリア大正（13:00）
◆びっくりプロレス／大阪・アゼリア大正（18:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）
◆J-NETWORK／東京・後楽園ホール（18:00）
◆アイスリボン軍／東京・千本桜ホール（12:00&15:00&18:00）

10 WED.
◆NOAH／愛知・豊橋市総合体育館（18:00）

11 THU.
◆NOAH／兵庫・姫路市兵庫県立武道館（18:00）

12 FRI.
◆ユニオン／東京・新木場1st RING（19:30）
◆MA日本キック／東京・後楽園ホール（17:30）

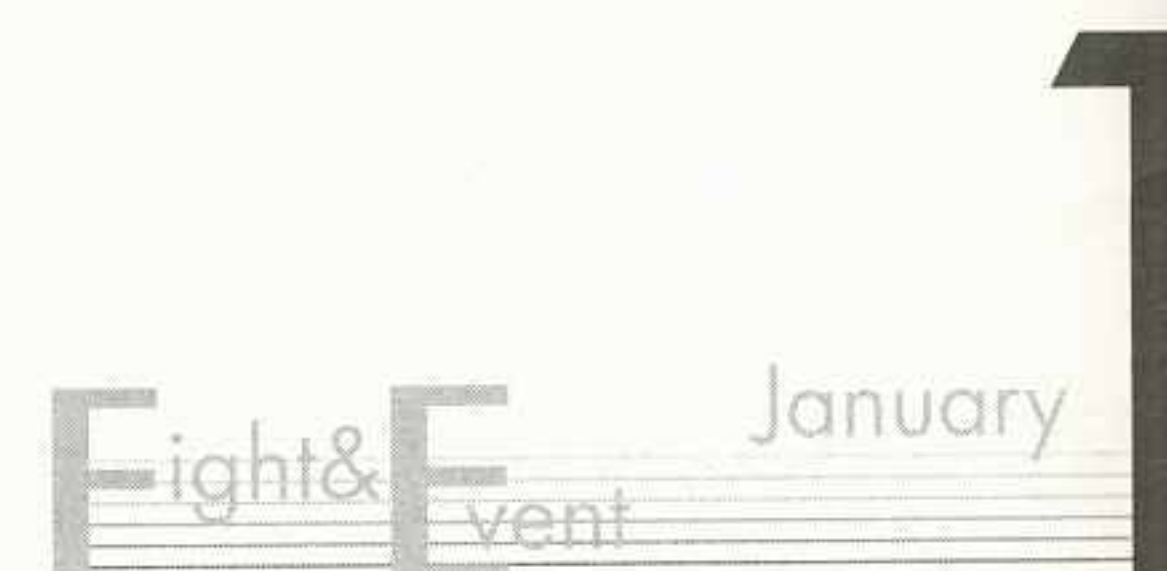
13 SAT.
◆NOAH／福岡・北九州市立小倉北体育館（18:00）
◆みちのく／岩手・矢巾町民総合体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／埼玉・本川越ぺぺホールアトラス（18:30）

男色ディーノ&中澤マイケル&JOEvs ヤス・ウラノ vs バラモン・ケイ&バラモン・シュウ
【バトラーツルールタッグマッチ】
望月成晃&飯伏幸太 vs 澤宗紀&フジタ"Jr"ハヤト
【100万円争奪プレジデントランブル】
高木三四郎（DDT）ほか各団体の社長が参加。
※90秒ごとに選手が入場。オーバー・ザ・トップロープルールを採用
【若手6人タッグマッチ】
西山秀鉱&バナナ千賀&原田大輔 vs 忍&魔蛇美&K-DOJO選抜選手
チケット情報
スーパーシート＝10,000円、特別リングサイド＝6,000円、リングサイド＝5,000円
指定席＝4,000円、立見＝3,000円（立見は当日のみ。スーパーシート、立見席以外は当日500円増）
◎問=インディーサミット2006事務局 03-3537-1233

◆NEO／東京・後楽園ホール（13:00）
『第4回ジュニアオールスター戦 ～椎名由香引退試合～』
出場予定選手
椎名由香、木村響子、江本敦子、栗原あゆみ、希月あおい、勇気彩、野崎渚、松本浩代、渋谷シュウ、中島安里砂
◎問＝NEO 044-422-8344

◆DRAGON GATE／兵庫・神戸市DRAGON GATE ARENA
『COUNTDOWN GATE』
内容
ドラゲー式除夜の鐘!? 108つゴング、選手トークショー、選手と食べる年越しそば、もちつき大会、スペシャルマッチも数試合予定
時間
22:00～26:00頃
料金
6,000円
定員
50人
◎問＝DARGON GATE 078-333-9797

◆PRIDE／埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）
◆Dynamite!!／大阪・京セラドーム（15:00予定）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆浅草寺初詣プロレス／東京・浅草インディーズアリーナ（22:30）
◆埼玉プロレス／東京・浅草インディーズアリーナ（20:00）

Fight&Event January 1

1 MON.
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（17:00）

2 TUE.
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）

3 WED.
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆マッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆大阪プロ／兵庫・兵庫県立総合体育館（14:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（17:30）

4 THU.
ナオキック vs "切り裂き魔"が電撃決定! 大月晴明は韓国王者と対戦

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
050-3685-0478
〒164-0013 東京都中野区弥生町2-18-8-407
http://www.gtkn.com/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル 2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/~shooto/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104
株式会社EWF

■G-STYLE
03-3441-5268
〒141-0022 東京都品川区五反田2-5-11-704
http://www.g-shooto.jp

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

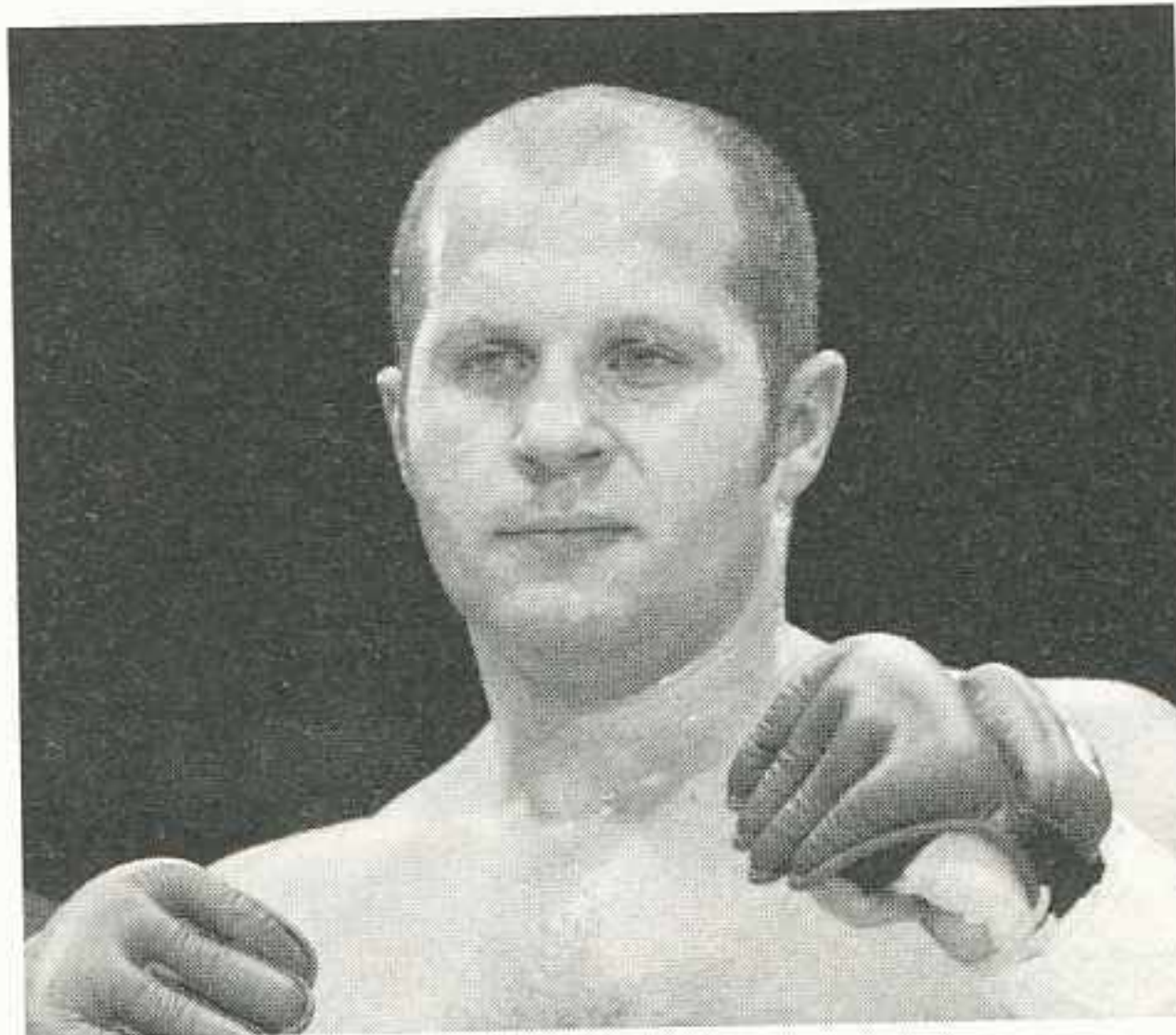
■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Internet

『PRIDE男祭り2006』を DMM.comが インターネット生中継

12月31日（日）、さいたまスーパーアリーナで行なわれる『PRIDE男祭り2006-FUMETSU-』が、総合エンターテインメントサイトのDMM.comにおいて、インターネットで生中継されることが決定した。この生中継を楽しむためには、事前に視聴チケット3,150円の購入が必要となる。当日の配信時間は16:00～22:00の予定。配信ビットレートは768kbpsを予定しており、Windows Media Player Ver.9以上で視聴できる。なお、大晦日の生中継を見逃した方や、もう一度見たい方には1月31日(水)まで継続配信される『PRIDE男祭り2006-FUMETSU-』パックを購入すれば視聴可能となっている。お問い合わせ先については以下の通り。

★問　株式会社デジタルメディアマート
東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー14階MyDMMサポートセンター
http://www.dmm.com/help/guest/-/beginner_qa

Talk

予測不可能！ 異色の組み合わせ 田村潔司とDr.コパが 恵比寿でトークライブ

株式会社コーセー主催の『コーセーアンニュアージュトーク』の第181回目のゲストとして、『PRIDE』を主戦場に活躍する田村潔司選手と風水の第一人者であるDr.コパさんが出演する。このトークショーは90年から始まり、これまで多数の各界の著名人が登場。現在『HERO'S』のスーパーバイザーを務める前田日明氏が、女優の杉本彩さんや石田えりさんと出演したことでも有名だ。テレビや雑誌などあらゆるメディアで活躍するコパさんに対し、"孤高の天才"はどんなタムタムトークを展開するのか!?詳細は以下のとおり。

★開催日時　2007年1月26日(金) 19時開始
★会場　恵比寿ガーデンプレイス ザ・ガーデンルーム
東京都渋谷区恵比寿4--20-3
★料金　前売 2,000円、当日 2,600円（税込）※1ドリンク付、全席自由整理番号付
★チケットぴあ　0570-02-999 or 0570-02-9966［Pコード 608-482］
★問　マーク・アイ 03-3464-0761

Show

いかつい男たちが漫才やコントに挑戦！ プロレスラーだらけの お笑いイベント開催

12月28日（木）18時より、東京・赤坂のシアターVアカサカで、リングドクターの林督元氏がプロデュースするお笑いイベント『ファイティングバラエティショウ-プロレスの逆襲-』が開催される。出演者及び演目については、邪道&外道&タイガー服部のトリオ漫才、三澤威の漫談、村上和成&NOSAWA論外&MAZADA&竹村豪氏によるコントなどを予定。その他出演者は吉江豊、菊タロー、木原文人、アントーニオ本多、ドクター林、ミヤマ仮面、296となっている。なお、出場予定だったディック東郷は諸事情により欠場。リングでは見せることのないレスラーの裏の顔を観に行こう!

Talk

やっちゃっていいんだね？ 武藤&永田が1.4を前に ぶっちゃけちゃいます！

全日本プロレスの武藤敬司が、新日本プロレスの永田裕志選手を招いたトークライブ『1.4東京ドームで形になる』が12月22日（金）20時より千葉県千葉市美浜区（高洲1-22-10金谷ビル2F）のスポーツバークライマックスで行なわれる。司会は本誌でもお馴染みの金澤克彦氏。参加費は一般 5,000円（1ドリンク、軽食付）。定員は先着40名までイベント当日は2007年1月4日の東京ドーム大会のチケットも販売される。

★問　スポーツバークライマックス 043-279-4213
クライマックス事業局 担当 木元 090-1537-1985

Fight

アマレス大学王者も加入 健介オフィス旗揚げ興行で "親子"が一騎打ち！

11月28日、健介オフィスが東京ドームホテルで記者会見を行ない、2007年2月11日、ディファ有明で『健介オフィス旗揚げ興行 Take The Dream ～夢を掴め～』を開催することを発表した。健介オフィスは同大会を契機に、正式に団体としてスタートすることを表明。そして当日のメインカードとして、佐々木健介 vs.中嶋勝彦が発表された。両者のシングルマッチはもちろん初めて。また、馳浩の推薦で、拓殖大学レスリング部4年生の山口竜志（写真左）の入団も併せて発表された。

★問　健介オフィス 048-982-0960

Exercise

フルサイズのリングで汗を流そう！ ゴールドジム行徳千葉が リングレンタルを開始

ゴールドジム行徳千葉が、フルサイズのリングをレンタルするという画期的なサービスを開始した。このリングは某有名団体でも使用されていたという本格的なもので、レンタル料は1時間1万円、その後1時間ごとに5,000円が課金されていく。また、初めて利用する団体は、半額の料金で借りることができる。ロッカールーム、シャワーの使用は無料。これを機に、大きいリングで充実した練習を行なってみてはいかが?

★問 ゴールドジム行徳千葉 047-390-3436
★住所　千葉県市川市湊新田1-6-8 スーパーセレクション2F
★営業時間　平日14:00～23:00　土曜10:00～22:00　日・祝10:00～19:00

イラスト◎師岡とおる

RGのレイザーラモン
英知自慰

最終回 聞いてないヨー！ RGが最終回に大憤激!?

イラスト◎出渕誠

ヨウヨゥヨゥ！　最終回ってどういうことだヨー！　このコラム、『kamipro』のエースだったんじゃねーのかヨー！　打ち切り決めたのは新編集長のジャンなのか？　山口（日昇）会長に聞いたら「え、まだ連載してたの？」だって……。どーなっちゃってんだヨゥ！　人生頑張ってんだヨー！（by岡村靖幸）。じつはほかのライバル誌からもコラム連載の話が来てたんだけど、『kamipro』に育ててもらった恩もあるし、筋を通して断ってたのにヨー！　こうなったらこの場を宣伝の場にしてやりますヨゥ！

オッケ～！　RGにコラム書いてもらいたい雑誌、ウェブ、新聞関係者の皆さーん、連絡お待ちしてまーす！　ただ『週刊ゴング』さんは芸人の諸先輩方がリレーコラムしてるので……。『週刊プロレス』さーん、RGは「リアルにガンバリます」ヨゥ！　あと『週刊ファイト』で連載してた棚橋の「北風と太陽」もどっかで再開させてあげてくださーい。

しかし……思えば『紙のプロレスRADICAL』時代にはイチ投稿読者にすぎなかったこの俺がリニューアルした『kamipro』でコラムを連載し始めてから、『ハッスル』というプロレス団体の最高権力者となり、『ハッスル』がフジテレビジョックから立ち直る現場を指揮し、IWGP王者の後輩とHGとの歴史的会談をブッキングし、学生プロレスにも光をあて、元WWEのスーパースターと試合もし、あげくのはてには現三冠王者と横浜アリーナで試合する……。ある意味、〝プロレス界のオリエンタルラジオ〟くらいの〝成り上がり〟といっても過言ではないだろう。

でも悲しいかな露出が少ない。俺の活躍を知ってるのは熱心なプロレスセレブのみ。この10月、11月とかなり充実した活動を送ったのに一般人の反応ときたら「最近、テレビ出てないね～」だと。

ああ、テレビには出てないさ！　でも俺は声を大にして言う！　『「エンタの神様」に一回出るより、スポーツ新聞に一回の記事！』と。ま、エンタ側からしたら「RG？　論外だ！」って感じだろう。というかエンタは二回ほど出たが春以降、お呼びがかからなくなったのは俺の演技が下手すぎるから、って噂が。HGごめん……。

しかし、俺は今年、何度もスポーツ新聞の紙面を飾った。GM会見で、江ノ島の公開練習でのヒクソンの真似で、そして数々の試合で。ほかのお笑い芸人にできない数々の経験を積んできた。

余計な発言ばっかで、いろんなとこにむやみに喧嘩売ってたGM時代。会見を終えたあと、ハッスルのスタッフから「記者さんたちが、RGMと雑談したいって、帰らないんですよ」と言われ、急遽、着替え直し、RGM独演会をしたこともあったなぁ～。そこからたくさんのとばし記事が発生、多方面に迷惑をかけたが、それもこのジャンルを盛り上げたいという記者さんとRGのツープラトンだったんです！

あ～あ。こんなにおもしろくてプロレスのこと考えて、文章も書けるRGのコラムを終わらせるなんてもったいない……ので、また読者投稿してもいいかな？

でも、こんな機会を与えてくれた『kamipro』に、ありがとうございましタイガードライバー!!

FOREVER

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ『レーザーラモン』HGの相方。07年の元日放送の『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』（日本テレビ系）に出演しますヨゥ！

第14回

俺様vs俺俺

花くまゆうさく リングの汁

この数年、動きが見えなかったイズが、また動きだした!?

PRIDEラスベガス大会にも姿を現わしたらしいイズ。続けて、ジャカレイvsクートゥアーがメインで、マルセーロ・ガルシアやクロン・グレイシーも出場で注目集めるグラップリング大会にも、イズは現われた。当然、このようなグラップリング大会なら、エディ・ブラボーも観にきているはず。

〝俺様〟エディと〝俺俺〟イズ、この二人のニアミスははたしてあったのか!? クソ忙しい12月にそんな社会的にどうでもいいことを考えてたら、エディvsイズの対談っておもしろいんじゃないのかと頭がどうかしてきました。

〝俺様〟vs〝オレオレ〟対談いいんじゃないの。きっとエディ相手にも自分のことしかしゃべらないイズ。イズの止まらない自慢話をうんざりした顔で聞き流すエディ。そんな光景が浮かんでくる。

ゴッチ×ジョシュの対談を『ゴン格』にやられてしまった『kami-pro』は、これを実現すべきでは? とテキトーな提案をしときます。

ZSTで大注目だったシャーレスvsヤノタク。足関なら矢野さんに勝機あるかも、それかシャーレスが矢野さんを極めきれずにルール上は引き分けかなと予想してたけど、想像以上にワンサイドでシャーレスが攻めての引き分けでしたね、強いわ。来年のアブダビにシャーレス出るのかなぁ? レオジーニョ戦が観たい。

こないだの『修斗』新宿FACE大会は、打撃と寝技がほどよく回転していい大会だったなぁ。その前の後楽園での漆谷戦法に絶望してたから、なんかうれしかった。

大晦日の大注目は、青木vsハンセン。できれば五味には青木、メレンデス、ハンセンの3人の誰かを当ててほしかったけどね。石田戦になっちゃったね。

あとは、桜庭vs秋山。寝技なら桜庭のが全然上だと思う。初めて秋山が、まともに寝技できる人と闘うのが興味深い。でもスタンドで殴り合って決着ついちゃったらどうしましょう。

Hanakuma Yusaku
◎「メカアフロくん」の2巻目が、1月に出ます。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第11回

私だけが知っている“格闘ファイターと事業の関係”

先日、ある関係者から、「もうイゴール・ボブチャンチンは試合に出ないの?」という質問を受けましたが、いま彼は充分リラックスしてファイトから離れた生活を楽しんでいるようです。

決して引退するというわけではありませんが、以前このコラムでもお伝えしたように、ボブチャンチンはウクライナでレストランを経営していて、とくにリングに専念しなくても生活できるだけの環境が整っているのでした。これはボブチャンチンに限ったことでなく、稼いだファイトマネーで事業を手がけている選手は数知れません。

たとえば、シュートボクセ勢の面々もその例外ではありません。ヴァンダレイは地元ブラジルに『FIGHT SPORT COMPANY WAND』というオリジナルブランドを立ち上げ、そのショップにはPRIDEミドル級とトーナメントの二本のベルトが展示されています。そのため、ベルトを日本に持ってくるときは、しぶしぶショップから持ち出してくるのでした。

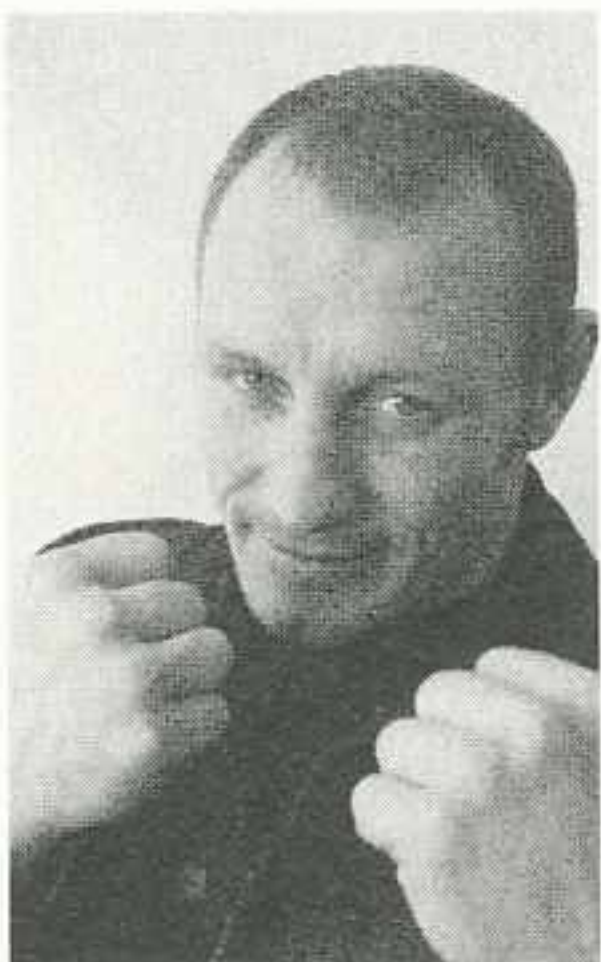
また、彼の師でもあるフジマール会長から、ブラジルから日本への木材の輸出ビジネスの相談を受けたことがあります。私の知り合いにリフォーム会社の関係者がいたので相談したのですが、日本からブラジルまでの運航期間のあいだに木が腐ってしまうというリスクが生じることから、結局その計画は断念されたのでした……。

また、レッドデビルのワジム社長はコンテナ輸送のビジネスなどもしています。そのほか〝レッドデビル〟という炭酸飲料のドリンクも扱っていました。〝レッドデビル〟はロシアはもちろんのこと、ヨーロッパ圏内でも販売しておりますが、私がブラジルに出向いたとき、ブラジルでも販売していたことに驚いたものです。

私が知る限り、意外にも事業で成功しているのは、リングスで活躍していたディック・フライでしょうか。バウンサーからリングスの中心選手へと登り詰めたフライは、いまやジム経営でいくつもの支店を所有しており、大忙しです。

ただ、フライのジムはファイターの指導というよりエアロビクスやフィットネスを中心としたトレーニング内容で、かつてのフライを知る者なら、そのギャップに思わず頬を緩ませる人も少なくないでしょう。

かつての名キックボクサー、デル・クックはいまやローカルにも関わらず3つのジム経営の傍らプロモーターとして活躍しており、アメリカで大きな成功を収めています。

事業のチャンスはいろいろありますが、自分が精通した分野に関連してしまうのは、ファイターの性なのでしょうか。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

金ちゃんのどこまでやるの？

第10回 足早い仕事納めの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

イラスト◎中川画伯

早いもので今年もあとわずか。格闘技界は今年も『PRIDE男祭り』と『Dynamite!!』の話題一色。でも、俺はこれを書いてる時点で、まだ今年もあと3週間あるにもかかわらず、このコラムが仕事納めなんだよ（笑）。

大晦日出場とまでは言わなくても、11月か12月にもう一試合やりたかったんだけど、なんだかオファーが来そうな気配もないしさ。ホントは11月の韓国版『イノキ・ゲノム』に出場することが決まってたんだけど、大会が延期になったという連絡すらないからね（笑）。延期するならするで言ってくればいいのに、ギリギリまで「まだやる可能性があります」とか言ってて、結局やらないからまいったよ～。

まぁ、そんなわけで、試合もないならガムシャラに練習してもしょうがないと思って、練習のほうもフィジカル以外は仕事納めにしちゃってさ。俺は正月を待たずに、もう里帰りしてきちゃったから。もう俺の中では2007年がスタートしてますよ。具体的に何をスタートしたのかと聞かれても困るんだけどさ（笑）。

でも、この一足早い里帰りツアーは凄く充実してたよ。俺のふるさとである愛知県だけでなく、カミさんの実家がある山口県まで車で行ってさ。その帰りに、前から行きたいと思ってた厳島神社と伊勢神宮に行ってね。これで開運するんじゃないかと期待してるんだけど（笑）。

実家帰ったときは、親父の還暦パーティもやってさ。あとは久々に高校時代の同級生に集まってもらって会ってきたりね。凄く充実した10日間だったよ。でも、年末のこの忙しい時期に長旅しちゃったりしてさ、なんか早くも〝充実したセカンドライフ〟を送ってるような感じになっちゃったよ（笑）。まだまだ現役なんだけどな～。

凄く楽しかったけど、働き盛りのやることじゃないよね。今回集まってもらった同級生も、やっぱりみんな忙しい人ばかりでさ、いきなり「会おう」って言ってもなかなか会えない年代なんだよね。仕事も忙しいし、子どもがまだ小さい人も多いし。大変だけど頑張ってる世代だよね。それなのに、俺は気ままに生きてるからな～。

毎年、年末になると「来年こそは！」と思ってるんだけど、思い続けて5年ぐらい経ってるんだよね（笑）。だから、UWFインター時代とかリングス時代とかは忘れて、再スタートを切らないといけないよね。

まぁ、俺は出られないけど、大晦日は桜庭にぜひ頑張ってほしいよ。やっぱり同じ釜の飯を食った仲だし、同世代でもあるからね。今年、桜庭が練習中に倒れたって聞いたときは心配したけど、電話したら「大丈夫ですよ」って言ってたんで、絶対に秋山選手から一本勝ちしてほしいね。

俺は秋山選手とか、『HERO'S』で最近出てきた選手って練習もやったことがないから、どれぐらい強いのかわからないけど、桜庭との試合を見たら『HERO'S』のトップがどれぐらいの強さかだいたいわかるから、そういう意味でも注目してるんだよ。

俺も来年こそは仕事納めが『kamipro』のコラムじゃなくて、大晦日の試合で締めたいな～。では皆さん、今年も一年応援ありがとうございました。よいお年を！

今年はパンツが破れながらも久々の勝利をあげた金ちゃん。来年こそ、復活そして飛躍に期待だ！

ささきぃの "STAND BY ME" second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

プロレス界にデビューした

第8回 さよならなんて言えないよ、小林聡引退宣言……の巻

「今日を最後と決めてリングに上がりました。これからもキックボクシングをよろしくお願いします」

11月12日、全日本キックボクシング後楽園ホールのリングで、〝野良犬〟小林聡が突然の引退宣言。本当にびっくりした。

セコンドの選手たちが泣いていたことや、相手がムエタイ四冠王という〝最高の相手〟だったこと、そして尋常じゃないくらいの試合前の追い込みを見て、周りの関係者の人は〝何か〟を感じていたみたいだった。年齢的なことを考えたら、あたりまえだしなんにも思わないのはおかしいと、読者からも言われた。だけど私はあのときまで全然気づかなかった。

小林聡が引退を考えてリングに上がっていたなんて、全然気づかなかった。それにあの言葉を聞いても、それでもまだ「……懲りない野良犬、もう一丁！」って、そんな言葉が続くんじゃないかって思っていた。

だって、白鳥忍戦でグローブを外して投げて、周りを泣かせて思いきり心配させたあげく、その年の選手名鑑に〝趣味・グローブ投げ〟って書いた人だもの。

〝いつもと違う〟様子なんて何も感じなかった。それに小林聡の試合に〝いつも〟なんてありえなかった。いつもと呼べる試合なんかなくて、毎回特別だった。だから今回の試合前の追い込みも、シンプルな『キッズ・リターン』だけの入場も、グレイシー・トレインも、気合いの入った表情も、今回だけの特別なんだと思ってた。まさか、それが「さよなら」仕様だったなんて、なんにも気づかなかった。

だけどあの発言を受けて「いままでありがとう」なんて言えない。私はまだまだ小林聡の試合を観たい。あんなにいきなり「さよなら」言われて、簡単に「いままでありがとう」なんて言えるわけない。

小林聡がどれだけの決意をしてリングに上がったかって想像もしてる。本当は引き留めたいけど、小林聡がそうと決めてリングで宣言した以上、それを受け入れないと失礼になるともわかってる。だけど、楽しみにしてたデートの日（＝試合）の終わりに、好きな人から突然一方的に「わかった。さよなら」を突きつけられたのに、「いままでありがとう」なんてすぐに言えるわけがない。

こっちはまだ、これからもとびっきりの試合が観られるのだと思っていたのに。その日に向けて、今日をどんなふうに振り返ればいいのかと考えていたのに。わかっていても「さよなら」を認めてそれを口に出すには、まだまだ遠い。

「ウソだろ、小林聡!!」って、思いきりショックを受けて、全身で悲しんでからじゃないと到底無理だ。

キックボクシング界から小林聡がいなくなることの衝撃は、そんなに簡単に受け入れていいものじゃない。私には「ありがとう」も「さよなら」もまだまだ全然遠くて、まだ当分、小林聡にその言葉を言えそうにない。

マイクで引退を宣言した小林聡。当日はノーコメントで会場を去った。（写真提供／全日本キックボクシング連盟）

せき詩郎の

サムライ三昧

シロー

第9回

2007年マット界大予想

2006年2月。まだ人によっては正月気分が抜けきっていないかもしれない時期に、事態は動きだした。

まず動いたのはレイザーラモンHGだった。あの西城秀樹がカバーしたことで有名な曲『ヤングマン』で音楽業界に殴り込みをかけたのだ。

HG本人による作詞、そしてHGらしい振りつけが加わり、「こんな『ヤングマン』見たことない!」と見る者すべてを驚愕させ、多くのファンを獲得した。

一方、まだ機は熟していないと考えたのか、木村健吾はなかった。

続いて動いたのは小梅太夫。『小梅日記』なるデビュー曲を引っさげ参戦してきたのだ。どんな曲なのかはもちろん聴いていないのでわからないのだが、小梅のキャラクターが存分に発揮された曲であることは間違いないはずだ。「これぞ小梅!」とファンは彼をたたえたことだろう。

「そろそろか!?」と周りは色めき立ったが、ここでも木村健吾は静観をきめた。

その代わり別の男が動きだした。まさかの伏兵登場に音楽業界に衝撃が走る。そう、林家たい平の参戦だ。

『笑点』メンバーきっての歌唱力を武器に、なんとラブソングで乗り込んできたのだ。タイトルは『芝浜ゆらゆら』。ちなみにカップリングは『一緒にいよう』。こんな平の代打役として抜擢された若手というパブリックイメージを一掃するほどのインパクトを与えることに成功。林家たい平の名を世間に知らしめた。

この時点で10月。いい加減そろそろ動きださないと間に合わないんじゃないかと誰もが思ったが、周囲の雑音には一切耳を貸さず、木村健吾は相変わらず動かなかった。

そんな木村健吾に喚起を促したかったのか、2006年も残り2ヵ月を切ったところで、今度はみのもんたが動いた。歌手みのもんたとしてはデビュー曲となる『夜の虫』を発売したのだ。この時期の発売は無謀に近かった。だが、みのもんたはあえて発売した。これは「俺は動いたぞ。さあ、木村健吾よ、おまえはどう動く?」と、みのから木村健吾へのメッセージだったのかもしれない。

それでも木村健吾は沈黙を貫いた。結局2006年に彼がリリースした曲はゼロ。皆、彼の意図がわからなかった。

「紅白に出たい」

それは木村健吾の長年の夢だった。

プロレスラーでは1~2位を争うほどの歌唱力の持ち主。過去にレコードやCDを発売しているので、耳にしたことがある人も多いであろう。まだの人は一度聴いてみてほしい。彼の伸びのある低音があなたの身体に電流を走らせるに違いない。いや、やはり木村健吾だけに電流というよりは稲妻か。稲妻レッグラリアートを食らったとき以上に稲妻を感じるかもしれない。

それなのに木村健吾は一向に動く気配がない。調べるとレコーディングした様子もない。調べたといっても「木村健吾+レコーディング」で検索して、ヒットしたサイトのいくつかを適当に見ただけだが、とにかくレコーディングはしていないようだ。「木村健吾はもう夢をあきらめちまったのかよ」と吐き捨てるように言う者もいた。

だが私はそう思わなかった。きっと過去の作品で勝負する気なんだろう、それほど過去の楽曲に思い入れがあるのだろうと。現にその年のヒット曲ではなくても紅白に出場している歌手はたくさんいる。決して木村健吾はあきらめたわけではない。逃げだしたわけでもない。動けないわけでもない。待っているのだ。

木村健吾はじっとチャンスを待っているのだ。

などと書いたはいいが、今回コラムに登場した人たち全員が紅白落選となった。木村健吾は今年も残念な結果に終わった。

さて、その紅白が終わるといよいよ2007年がやってくる。

思えば2006年はいろいろなことがマット界で起きた。果たして2007年のマット界はどうなってしまうのか。いつの間にか恒例となっていたマット界大予想を今回もしてみるとしよう。

「らしくもないぜ」、「デュオ・ランバダ」、「泣きながらアイ・ラブ・ユー」など何度かレコード&CDをリリースしているキムケンだが、現在は廃盤中……。

~せき誌郎の2007年マット界大予想~

- 試合中、ガスの元栓を閉めたかどうか気になって仕方ないミルコが……!?
- 試合中、一瞬だけ「やらしい形の大根」に気をとられたジョシュが……!?
- 「俺はどうなってもいい。でもこのパラシュートだけは……!」とハリトーノフが……!?
- 試合中「ショーグンだけに」というおもしろいオチを思いついたショーグンが……!?
- 曙らしさが思わぬ場所で炸裂して……!?
- 「あっ、そこは切らないでください」と健介が理容室で……!?
- 「こんなキティちゃんもあるんだあ」と健介が地方の駅で……!?
- 偶然できた技で戦闘竜が……!?
- 「相撲が一番強いんだよ!」とガバっと起きて、寝汗がびっしょりの戦闘竜が……!?
- 戦闘竜なりの打開策がもたらした悲惨な結果が……!?
- ミラーハウスの中での苦しい闘いを強いられることになった戦闘竜が……!?
- 敵対する高校のボンタンを肩に担いで現われた戦闘竜が……!?
- 「そのとき、ガルベスが球審に向かってさ」などと続き、まだまだ寝る気配のないシウバが……!?
- 「吉田さん、走って! 違う、そっちは三塁ですよ!」と吉田道場野球大会で……!?
- 「吉田さん、それはバトンじゃなくてきりたんぽですよ!」と吉田道場大運動会で……!?
- 「柏原芳恵って結局まだ脱いでなかったんだっけ?」と突然口を開いたゴルドーが……!?
- 間違ってお兄ちゃんのセーブデータに上書きしてしまったとアレキサンダーが……!?
- 風をうまく味方につけたコールマンが……!?
- 未来の世界ではツチノコ発見者ということになっているコールマンが偶然空き地で……!?
- 試合が終わってすぐに駆けつけたが、すでに参観日は終わっていたことを知ったコールマンが……!?

椎名基樹の サムライ三昧

第9回

日本3大フットロッカー

先日、修斗の戸井田カツヤvs不死身夜天慶（11・10後楽園ホール）をテレビ観戦し、またしても総合の打撃について考えてしまった。

マモル、リオン武と優秀な打撃型総合ファイターを輩出するシューティングジム横浜の不死身夜天慶選手（↑ちょっと、絶倫精力剤みたいなリングネームです）と、典型的な寝技師のトイカツの闘いだったため、総合のおもしろさや難しさが浮き彫りになった試合であった。

スタンドで殴りたい不死身夜選手と寝技に引き込みたい戸井田選手の両者の思惑がはっきりしていたため、お互いに警戒してしまい、決定的な場面を作れずに、判定ドローの結果に終わってしまった。

と、いっても退屈な試合だったわけではなく、噛み合わない試合ぶりが、緊張感を生んでいた。何よりお互いの戦術がはっきりしているため、観るほうもわかりやすい。テレビ解説の青木真也は評して「総合の試合を見せてもらいました」とコメントしていた。もし、何かの隙に不死身夜選手の打撃がヒットしたら、逆に戸井田選手のフットロックが一発で入っていたら、名勝負として残る試合だったかもしれない。

青木真也選手、今成正和選手、そしてこの戸井田カツヤ選手が、総合においてキックボクシングじゃない、組みつくためのスタンドをする代表的な3人であろうか。彼らの闘いぶりは、やはり個性的でおもしろい。彼らを見ていると「普段どんな打撃の練習をしているだろう?」と想像してしまう。きっと普通のキックボクシングのルールでのスパーリングもけっこうやっているはずだ。そうした練習をして、キックボクシングに走らずにあのスタイルを確立しているのだから、頑固な職人たちだと思う。打撃の練習をしたら、打撃がおもしろくって、あたかも「ピストルが手に入ったら撃ちたくなった」って感じで、打撃がしたくなるのではと筆者は想像するからだ。

こういうスタイルの選手だからこそ、打撃の「必殺の隠し技」を身につけてたらおもしろいと思う。びっくりするほどよく当たる四大打撃（筆者勝手に認定）である、裏拳、ローリング・ソバット、左ハイキック、そして今年のK−1GPでも猛威をふるっていた縦蹴り（ブラジリアン・キック）がそれである。

総合の中でのこれら四大打撃の名シーンとしては、裏拳は所vs小ノゲイラ、ローリング・ソバットは桜庭vsビクトー、左ハイはもちろんミルコの試合&高谷vsパーリング、縦蹴りではナイマンvs藤田（!）が次々と思い浮かぶ。どれも「どーして?」と思うほど鮮やかに決まってしまう。コンビネーションの打撃で相手を倒すことを捨てた寝技師の打撃だからこそ、こういう一発の飛び道具が有効な気がする。

青木真也の衝撃もあって、今月も含めここ最近、「組みついて寝技」スタイルの選手のことばかり書いているが、もちろん打撃型の選手が嫌いというわけではない。華麗な打撃のコンビネーションはまさにマーシャルアーツの粋だと思う。ただ、スタイルが確立されてきた感のある昨今の総合であるが、まださまざまな戦術的可能性があるだろうし、またそうあってほしいと思うのだ。ボクシングの試合を観ても、逃げ回る相手を打つのは非常に困難で、ボクシングならば逃げ回れば反則を取られてしまうが、総合ならばそれも戦術のうちだ。それだけ見ても打撃で打ち合わないスタイルに可能性を感じる。

そして、この修斗大会のテレビ観戦記の最後に、解説の青木真也の知的な話しぶりに驚かされたことを付け加えておこう。

打撃型と寝技型、二つのイデオロギーについて戯言を語らせてもらったついでといってはなんだが、UFC65を観て思った、UFC対『PRIDE』について書いてみたい。先月号の本誌で佐藤大輔さんが「『PRIDE』をF1にしたい」という夢を語っていた。筆者もまさにそうなればいいと思っていた（第1次UWF誕生からずーっとね↑バカ）。しかし、UFC65を観て果たして『PRIDE』はアメリカで受け入れられるだろうか?と思ってしまった。それは、UFCのほうが『PRIDE』より、よほどスポーツとして整理されているからだ。

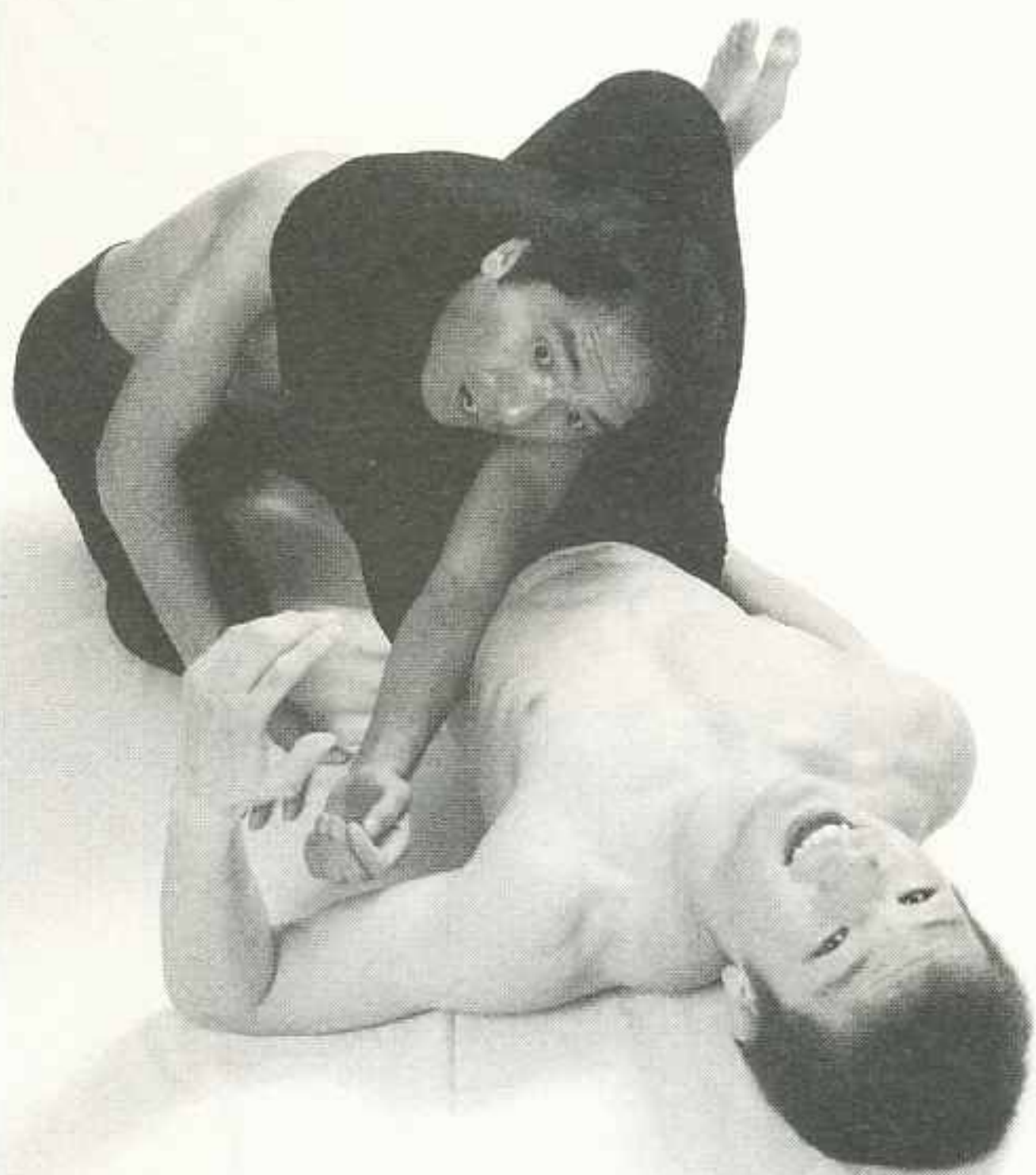
もう何度も書いてきて、いい加減くどいかもしれないが、『PRIDE』には長年観てきた筆者ですら「?」と思う曖昧な点が多い。膠着に対してイエローカードが出されていたものがグリーンカードが出されるようになったが、あれはいったいどーゆー意味なのだろう? 出されるとどういう処置がなされ、どういう基準で出されるのだろう? マストシステムで判定するというが、10分のラウンドと5分のラウンドは同価値なのだろうか?

また、なぜ『武士道』だけ2ラウンド制なのだろう? パンフレットにはルールが細かく載ってるらしいけど、すいません、読んだことないもので。

またレフェリングのレベルもUFCのほうが高いように感じる。先の『武士道』での「ドント・ムーブ」をかけるタイミングの悪さ、一部おざなりな体勢の確認には、何度も水を差された気になった。

元来ドント・ムーブは、大げさなたとえであるが、芸術作品に他人が手を加えるような罪深さがあり、そういう畏れを持ってなされるべきで、もともとバーリ・トゥードが始まったときはそういう理念が強かったように思う。そういうイージーな「ドント・ムーブ・ルール」はアメリカ人にはどう映るのだろう? またドント・ムーブをかけられた選手が四つん這いになって、レフェリーが示した適当な位置に向かう、あのみっともなさはどう映るのだろう? 選手はしんどいだろうが、ドント・ムーブがかかったら、すみやかに立たせ、印のついた所定のポジションに向かわせるくらいの毅然としたものがなければ、初見の人にはただのへんなルールに見えるのではないか? 印にはたとえば「インプルーブド・ポジション」だとか（↑ごめんなさい、英語力はまったくないのでへんな英語だと思います。誰か良い名前をつけて）もっともらしい名前をつければ、なおもっともらしい。そして、パウンド等でレフェリーが試合を止めるタイミングもUFCのほうがより統一されている。

いまは『PRIDE』のほうが選手層が厚い。しかし、ヘビー級はともかく下の階級は、言うほど差がないように思う。三島☆ド根性ノ助の1ラウンド秒殺負けを観てもそれは明らかだ。ヘビー級にしても、ミルコが言ったように、ティム・シルビアは決してジャイアント・ノルキヤなんかではない。確実に総合の実力者だ。

アメリカ人にとってスポーツに曖昧さがないのは当然の大前提なのではないか? その中で『PRIDE』の曖昧さはどう映るだろう? もし『PRIDE』が受け入れられず、最近は資金豊富というUFCにヒョードルが移籍したりしたら、一気に形勢はUFCに傾くだろう。格闘技は番長がいる団体が勝つものなのだ。

日本を代表する足関節の使い手・青木真也と、足の利かせ具合ならおそらく芸人ナンバーワンの江頭2:50。『ハッスル』デビューが決まったエガちゃんと、『男祭り』への出場が決まった青木。年末の“黒タイツ兄弟”の運命やいかに!?

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来

KENZO HIROKO

最終回 2007年の鈴木家の巻

Suzuki Kenzo&Hiroko
◎メヒコ修行中の健想と妻・浩子の夫婦タッグ。今回は健想が遠征中のため、浩子のコラムをお届けします！

ケセラセラァ～♪

2006年もあっという間にもう師走。

鈴木家にとって、今年はいわば〝過渡期〟だった。それまでアメリカで腰を落ち着けた生活からスポンと放り出されて右往左往。「さて、いったいこれから自分たちはどうすりゃいいんだ!?」

あっちを向いたり、こっちを向いたり、いま考えるとなんとか自分たちにしっくりくる居場所を見つけたいと必死でもがいていた感がある。

そうして戸惑いながらも前半は『ハッスル』でハッスル、合間に挟んだ電流爆破ではDDTに大日本にと、ありとあらゆるインディーズにどっぷり浸かってプロレスの〝楽しさと感動〟に酔いしれた。後半になって健想はやっとメキシコという当面の目標を見定めたが、そこからいまのように現地である程度の手応えと形をつかんだときには、もう年末になっていた。

さて、来年の鈴木家はというと、そうそう簡単に「来年は○○していると思います」なんて言えるようなわかりやすい未来が待っているとも思えない（笑）。とはいえ、いまのメキシコでの活躍のように、結果として、いつもそこそこ収まるところに収まってしまうのが鈴木家の七転八倒なんだけど（笑）。それにしたって予想も目標も立てようがないのがここのところの鈴木家なのだ。

結局、いまこうして過渡期の渦にグルグルと呑まれまくっている鈴木家を考えると、どこかに落ち着くのにもう少し時間がかかるかなと思っている。そう考えたら来年一年で得たものがその後の鈴木家を左右する。「いまだ！」ってときに蓄えがなければ勝負もできない。そのときに備えてもうちょっと辛抱を続けて、今年に引き続き精進する年になると思うのだ。

気がつけばメキシコの健想は雑誌のカバーになりまくり、国民の祝日にはパレードに参加して、日本のヘビー級レスラーではいままでにない正真正銘のトップになりつつある。私のほうも新事を手がけていて、これを発表するのは来年半ばになりそうだ。来年はそうして手がけてきたことを一つ一つきちんとした形にしていくつもりでやっていく年になる気がする。

だから来年の目標は〝目標を持たない〟こと（笑）。

「ケセラセラァ～♪」この一言に尽きる。この一年で学んだことはズバリ「なるようになる」。うまくやろうとあがいてもダメなものはダメだし、逆にダメだと思っていても、うまくいくものはうまくいく。〝天知る、地知る、我知る〟の言葉どおり、結果が出るとか、評価されるとか、そういうのはあとからついてくるもの。だから考えたって仕方ない。いまは流されるまま、おもむくままにやるのがいいんじゃないかって。自分の中でのベクトルだけはしっかりと持って、絶対に崩さない。その上であがくことなくケセラセラ～♪　だって、鈴木家自体、来年は離婚してなくなってる可能性だってあるんだから(笑)。とにかくいまは〝出す〟ときじゃなくて〝貯める〟とき。ケセラセラ～♪

日本在住メキシコ人ホセPresents

アメプロウワサルーン

イラスト◎エロコエロオ／Photo◎平工幸雄

最終回 インドネシアからWWEが消える!?

Hola、ホセです。なんとこのコーナー、今回で最終回。ハッピーなニュースで締めくくりたかったのですが、ある国でWWEがとんでもない事態になっているので、そのニュースを中心にお送りします。

06年11月30日付のCNN WEBニュースによると、WWEをオンエアしているインドネシアのテレビ局「Lativi」がWWE『SMACK DOWN!』の放送を打ち切るという発表をしたそうだ。その理由は同番組が暴力行為を助長しているというもの。

10月16日、ジャカルタに住む9歳児が友人とプロレスごっこを行ない、その一ヵ月後、その9歳児が死亡した。これが発端となり教育団体（いわゆるPTA的な団体）、さらには一部の保護者有志等が、テレビ局側に番組放映中止を求めた。

少年の死が明るみになった現在、インドネシアでは抗議団体がWWE関連のポスターを破り捨てたり、スーパースターの写真に火をつけるといった過激な行動に出ている。

この事態を収拾すべく、インドネシアのテレビ審査委員会が動きだした。審査委員会は死亡した男児の死因の詳細が明らかになるまで放映中止の方針を固めたのだ。

「Lativi」は「ショーが子どもたちの暴力行為を助長すると言う親族、教育者の圧力を受け、『SMACK DOWN!』ほか、すべてのWWE関連番組を放送中止にする」と発表。

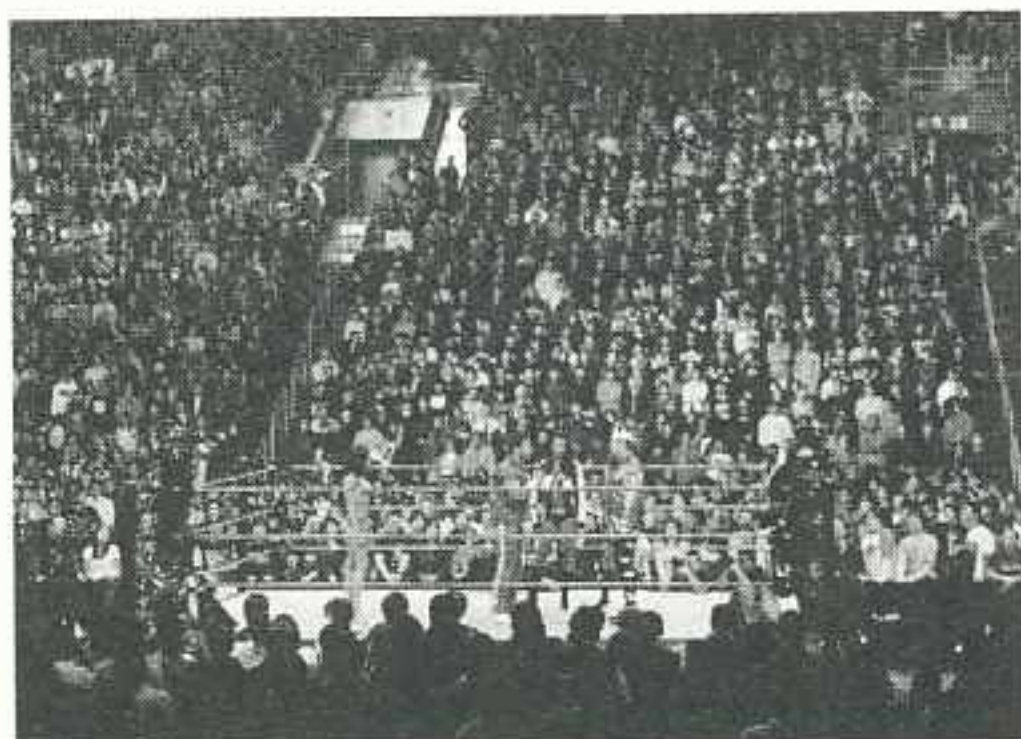
日本でもプロレス中継に「いじめを助長する」、「下劣で子どもに見せる内容ではない」といった理由で「子どもに見せたくない番組」とのレッテルを貼り、局側に番組内容を変更させるという〝腑に落ちない〟風潮があるが、インドネシアのテレビ審査委員会も番組を検閲しているものの、委員会が番組内容に口を挟み、番組自体を打ち切りにした前例はなく、きわめて異例の事態となっている。

WWEは番組中、必ずといっていいほど「Don't try this at home（決してマネをしないでください）」というVTRを流しており、この死に関しても「子どもの死は悲劇としか言いようがない。我々WWEの番組は、今回の一連の事故に関係していないと確信している」と、公式サイトを通じてコメントした。

現在まで9歳児がWWEによって死を招いたという事実はない。死因も特定されていないのだ。WWEにとってはとんだ火の粉が降りかかっている状態だ。

仮に放送が再開しても、事態は収束するどころか、反対派が動きだすのは明らか。家族で楽しめるコンテンツを掲げ、世界戦略を掲げているWWEにとって大きな痛手なのは間違いない。

子どもの死因が明らかになっても一つの国でWWEというコンテンツが消えるのはほぼ確実な状況だという。WWEファンにとってじつに残念なニュースである。

それではこのコーナーはこのへんで。Gracias!

インドネシアの世論は過熱する一方。アメリカを含む一部の国では、家族揃って会場まで足を運ぶほどの人気エンターテインメントコンテンツ。世代を超えて楽しめるのが魅力の一つなのだが……

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

21世紀の活字デルフィンたちに活字女子プロレスをドーン！と叩き込むど☆ファイト連載『萌え萌え女々苑』。女子プロレスを語るなら女子プロレスの達人に聞け！ということで今回のゲストは元『ゴング』の原正英記者！　女子プロに萌えた半生にグィッと肉薄！　して、きました、が……。

掟　女子プロレスを語らせたら右に出る者はいないと評判の原記者が長年務めた『ゴング』を退社されてフリーになったということで、話をうかがいに来ました！　まずは女子プロレスと原さんの出会いの話なんですけど。

原　その前にね、学生時代からプロレスに夢中になりまして……（以下一時間強、女子プロではなく、その頃観た新日の試合の話と学生時代のウェイターのバイト話が異様なまでに細かいディテールを交えて交互に続く。新日の巡業をできるだけ全部観たいがために全国各地に遠征したり、ビデオのない時代に8ミリで試合を撮影し、バイトと重なりどうしても観に行けない札幌で行なわれたマスカラスvsニック・ボックウィンクルの試合などは、8ミリカメラ&往復飛行機代を友人に預けて撮影してきてもらって自宅で観戦したなど、熱狂的すぎるプロレスファン人生を順を追って全部説明）。

掟　……ハ、ハァ。では女子プロレスとの出会いはやはり『ゴング』に入ってからということに……。

原　いやいや、まず学生の頃バイトでね、どこでもいいからプロレスの仕事に潜り込みたいと思いまして……（以下一時間強、さまざまなプロレスマスコミ&雑誌を経て『ゴング』に入った経緯を順を完璧に追って全部説明）ということなんですよね。あの、ボクのこんな話で本当にいいんですか？

掟　いや、ハイ、いや、たぶん大丈夫だと思います。……女子プロレスはもちろんですけど、原さんは"ヌード写真集評論家"という肩書も持ってますよね。原さんが各所で絶賛されている写真集、尾崎魔弓さんとキューティー鈴木さんの『赤い糸』についての文章とかも最高でしたよ。

原　ホントですか？（ニヤニヤしながら）。

掟　スケベ心をまったく隠さず、むしろ前面に出してるので、同じ男として信用できますけどね。『レディースゴング』の編集後記もスケベ心を隠さない記述がやたらと多いですよね。

原　ああ、『東スポ』の男センコーナーが好きだとかですか（笑）。

掟　そうです。女子プロ選手のヌード写真集をコレクションしていて、たとえばキューティーさんの写真集は同じものを何冊か持っていると聞いたことがあるんですが。我々男は、お気に入りのアイドルの写真集を買うときに保存用、実際に使う用、見る用の3冊買うっていいますけど、原さんもそんな感じなんですか？

原　いや〜、さすがにそこまではいかないですけどね。

掟　あれ？　そうなんですか？

原　話違いますけど、ジャンボ鶴田がAWA世界チャンピオンになったときとかは、なぜか『東スポ』を10部買ったりとかはありましたけど。

掟　10部も！　熱狂的ですねぇ。

原　なんで買ったかはわかんないんです。たとえばプラム麻里子や馬場さんが亡くなったときは『東スポ』を2部ずつ買ったりとかはありましたけど。

掟　自分の熱意を『東スポ』の部数にして換算してるんですね。

原　そういうことではないです。

掟　ハ、ハァ。

原　なぜか、そのときに買っちゃったんですよね。

掟　先ほどの『赤い糸』についての原稿でも「これからも脱ぐ選手が増えることを私は歓迎する」とか書いてましたよね。

原　たとえば、藪下（めぐみ）とか北斗（晶）なんかもそうですけど、大半の選手はセミヌードとかが載ってる雑紙に自分も一緒に載るのは嫌だっていう声も多いんですよ。

掟　実際、原さんの女性の好みってどんな感じなんですか？　タレントや女子プロレスラーで言うと。

原　『レディゴン』の最新号の選手名鑑に、なぜか自分も載ってまして、そこのプロフィールのところに書いたんですけど、河合奈保子とか石川ひとみとか浅野ゆう子とか桜庭あつことか。あとAV嬢とかの名前を書いたんですよ。いま思えば杉田かおるの名前を入れておけば良かったなって思ってて。私はなぜかあの人が好きで。

掟　それこそ強そうですよね。実際に武闘派だって聞きますし。

原　いやいや、違うんです。

掟　ルックスが好きなんですか？

原　ルックスもそうなんですけど、スケ番みたいなところがあるじゃないですか。そこに惹かれるんですよね。べつに子役をやってたから「昔、かわいかったでしょ」とかそんなんじゃなくて。わかります？

掟　ハァ。はい。

原　男とかもコロコロ変えるわけじゃないですか。そういうところに惹かれるわけですよ（ニヤニヤしながら）。

掟　そういう男を取っかえ引っかえしてるような女性が好きだと？

原　いやいや、取っかえ引っかえとかじゃなくて、杉田かおるの良さはそこにあるんじゃないかなって思って。凄いへんなんですけどね（笑）。

掟　ちなみに、桜庭あつこの魅力はどの辺なんですか？

原　桜庭あつこは……胸とかじゃないですか（笑）。あれは、いいなぁって思って（やっぱりニヤニヤしながら）。

掟　同じ巨乳好きとして激しく同意です！　けっこう、巨乳好きですよね？

原　いやいや、そんなことないですよ（それでもニヤニヤ）。あと、そんなに好きとは言わないんだけども、悪女系の小柳ルミ子とかもいいですね。

掟　『白蛇抄』で脱いでましたよね。

原　若い男を騙してるんじゃないかっていうところがいいですね（ニヤニヤ）。

掟　ちょっと、性に対して奔放なぐらいな感じで。女子プロレスラーとかも性欲は旺盛な感じがしますもんね。

原　いや、そうでもないですよ。

掟　あ、そうでもないですか。

原　女子プロレスラーは対象外なんです。

掟　でも、一冊好きな写真集を選べと言われると、やっぱり『赤い糸』が入ってくるんですよね？

原　いや、『赤い糸』はそうでもないですね（アッサリと）。

掟　ええ〜〜〜ッ!!　あれだけ絶賛してたのに！

原　過激度はあっても、べつに。一番好きな一冊という感じじゃないです。あ〜、本当にこんな話でいいんですか？

掟　原さんって、凄い人だなぁ……。

第14回　原正英（元『ゴング』の名物編集者）の巻

はら・まさひで■1961年6月19日、東京都出身。全国に72の店舗を持つ大手・佃煮屋の元主人の末っ子。1985年、熱狂的プロレスファンを経て『週刊ゴング』のスタッフに。女子プロ担当として数々の体当たり取材で『ゴング』の名物記者と呼ばれるも、訳あって今年の11月、長年勤めた『ゴング』を退社しフリーに。現在は『ファイト！ミルホンネット』（http://miruhon.net/）での神取忍原稿やブログなどを中心に活躍中！

今年7月20日に開催された『レディゴンまつり』で20年越しの因縁の相手、ロッシー小川相手にプロレスデビューを果たした原記者。8.19『WRESTLE EXPO』お台場大会で再戦までやっちゃいましたヨゥヨゥ!　死ぬまでやれや!?

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■ロマンポルシェ。ライブ情報！　12・31（日）東京・新宿ロフト（03-5272-0382）。対バンはニューロティカ、大槻ケンヂなどなど。その他の出演情報は掟ブログを各自参照！　【http://blog.excite.co.jp/porsche】

イナズマKの
ハーズユアドージョー Special

3度の延期、数々の出発トラブル、チケットは小鹿社長が手配？　と「本当に行けるのか？」と一部で話題だった大日本プロレスのインドネシア遠征がついに実現！　帰国後間もない小鹿社長に突撃インタビュー敢行！

——大日本初の海外進出である今回のインドネシア遠征は、04年12月に発生したあのスマトラ沖地震で被害にあった方々へのチャリティプロレスだったわけですが、なぜこのタイミングで行くことになったんですか？

小鹿　九州にいるある方が、ウチが旗揚げからやってる福祉活動に共鳴してくれてたんです。その知り合いがインドネシアにいて、その"彼"とあの地震のあとに「こっちでプロレスやれないか？」って話になりまして。

——その"彼"というのは？

小鹿　日系の空手家ですね。ちょっと名前は出したくないけど……警察や政府関係者に空手を教えてる人。僕はその"彼"とやりとりをして、「会社はボランティアでやるけど、選手の保証はしてください」って話でやることになった。向こうはプロレスがないし、こういうスポーツ文化が日本で流行ってると、これを観て向こうの人が元気になってほしいって。

——そういうきっかけだったんですね。

小鹿　僕は去年の5月頃にインドネシアで記者会見もしました。向こうのマスコミ、日本の特派員も来た。そしたら今度はまたテロが起きた、また地震が起きたと、なんだかんだで一年くらい経っちゃった。そしたら"彼"が、今年の6月頃、突然「約束したことを実行してくれ！」って言ってきた。こっちも「やるけど、あんたと話してるとズルズルになってわかんないから」って「9月末までにやれないなら、話を破棄する！」と期限を切ったんです。そしたら"彼"もやっと重い腰を上げたんですね。

——でも、選手を派遣するには、お金もかかりますよね。

小鹿　向こうのスポンサーが、テレビ局や飛行機会社を持ってる金持ちなんです。飛行機代、ホテル代、食事は向こう持ちでね。会社にお金は入らないけど、ヨソの国行くのに、選手にそれくらい保証してやらんといかんでしょ？　でも、その金をもらうのがまた大変だったね。ガハハハ！

——そういえば、航空チケットも代理店を通さず、小鹿さんが手配したそうですが。

小鹿　ほんとは代理店にやってもらえばいいんだけど、会社に入る金がゼロだもん。オレがやらなきゃ、金どこから出るの。向こうの飛行機会社とやりとりして、日本語言える人もあんまいなかったし、そりゃ大変さ。頭こんがらがっちゃったよ！

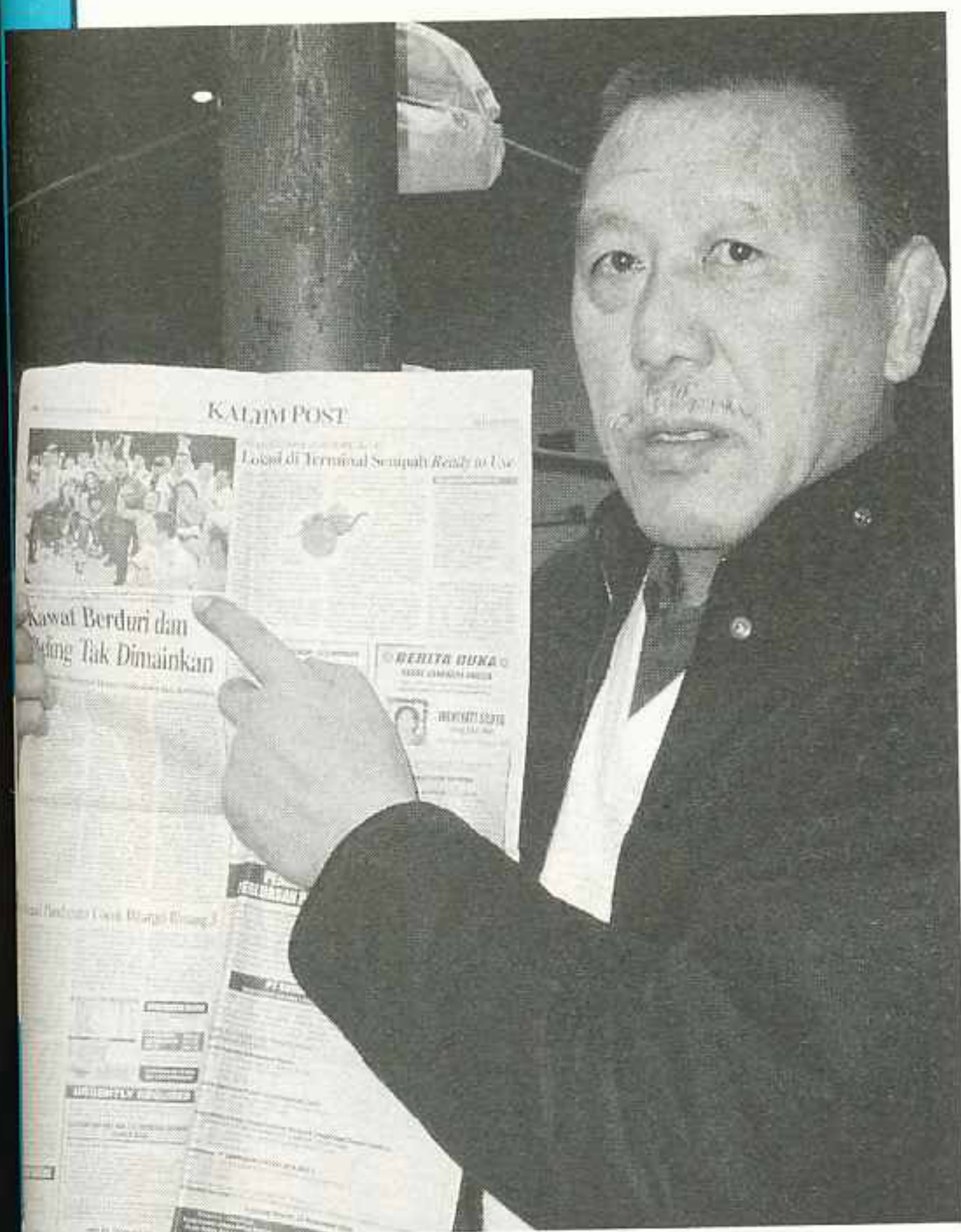
——あと、出発日が直前でずれましたよね。

小鹿　最初は、5カ所の試合契約してたの。けど選手が行く直前にも、あっちがまだなーんも準備をしてなくってさ。それにいちゃもんまでつけてきたわけさ！

——いちゃもんですか？

小鹿　選手がケガで何人か行けなくなったら、「約束した人数が来ないと金を払わない！」って。のど元まで「ふざけんな！やめた！」と出かけたけど……オレは行くって言って行けてない、狼少年になってたから。

——そこで気持ちを抑えた、と。

延期、トラブルの果てに大成功!?　大日本インドネシア遠征とは？

ぐれーと・こじか■1942年4月28日生まれ。北海道出身。本名は小鹿信也。63年、日本プロレス入団。73年、全日本プロレス移籍。94年に大日本プロレスを設立し、社長就任。現在は飲食店経営を中心に活動中。

小鹿　ええ、それで最終的に二カ所だけの試合になったんです。でも、向こうに着いたら、5大会ぶんの場所もちゃんと決まってた。その"彼"が各地のプロモーターに連絡とってなかっただけなのに、俺の責任にしてたんですよ！　向こうのボスに「選手が揃わなかったから」って報告してるわけ。結局、おいらが悪者さ。……でも、僕は一回爆発しました！（笑）。

——え、それはどのタイミングでですか。

小鹿　さっきの金の話ね。"彼"が最後に「払わない！」って言いだしてさ。「ふざけんな、バカヤロー！」と。ホテルのプールサイドで話してたら、プールにいた選手がビックリして飛び出してきましたよ（笑）。

——お金が払われない可能性もあった？

小鹿　十二分です！（キッパリ）。そうやって、ず～っと気を張ってたから、いまはなーんも手につかない。ブログも打てないくらいボーッとしてますよ。ダーッハッハ！

——あとリングは向こうの方が作られたんですよね。

小鹿　そう。二つ作ってあったね。日本に来て、写真撮って参考にしてたみたいだけど、ロープだけはまいっちゃったね。大きな船を港に着けるときに使う、麻の太いロープあるでしょ？　あれだもん。

——え～！　綱がリングを囲ってたと（笑）。

小鹿　ロープが伸びて伸びてしゃーないですよ！　最初のジャカルタの試合のときは選手はかわいそうだったね。一回、選手がロープに走ったら、金具が取れちゃった。だから「直さないと帰るぞ！　全部変えろ！」って言ったら、二日目はワイヤー使ってくれたんでよかったですよ。ロープの上にも乗れたしね。

——試合も好評だったと聞いてます。

小鹿　よい試合だったと思いますよ。ほんと、ジャカルタでは無料興行だけど1万人以上入ったし、お客さんも選手が指一本上げるだけでワーッ！　てくらい食いつきがいい。日本の比じゃありませんよ！　会社は潤ってないけど、選手も海外で試合するのも初めてだし、インドネシアにプロレス文化を持っていけた。いろいろ含めれば大成功だったと思いますよ。

——選手の反応はいかがでした？

小鹿　みんな「ありがとうございました！　また行くときは連れてってください」って。「バカ、いま帰ってきたばっかりでどこ行くんだよ」って（笑）。

——アハハハ！

小鹿　行ってからは表情が違いました。そりゃ行く前は、オレも不安なんだから。彼らはもっと不安ですよ。ま、マスコミも誰も大日本が外国で試合するなんて夢にも見なかったでしょ？

——たしかにそうですね。

小鹿　それを実行したんだから、手前味噌だけど「小鹿の大日本はたいしたもんだ！」と思いますよ。ワハハハハ！

大日本インドネシア遠征とは何か？

『INOKI GENOME』ばりに浮延期を繰り返したインドネシア遠征は、今回も11月14日～25日の日程が発表されたあと、現地の手続きミスで出発が延期！　だが11月20日に大日本主力勢を中心に総勢24人が無事出発。11月21日にはジャカルタで記者会見。22日はジャカルタの5000人クラスの会場で開催（写真左）。観衆は約300人だったが蛍光灯デスマッチをメインに盛り上がった模様。11月23日はカリマンタンへ移動。24日はカリマンタン知事主催の歓迎パーティのあと、ホテルからパトカー先導で会場入りのVIP待遇！　野外の無料興行だったが、なんと約1万人以上（！）の観客を動員（残念ながら、ちゃんとした写真がないのだが）「終わりよければすべてよし」な大盛況となった。

グレート小鹿の単行本が発売!!
小鹿さんが、プロレス半生を描いた単行本『グレート小鹿の「小鹿注意報！」黄金のプロレス伝説、ここにあり!!』12月下旬、五月書房から発売！　定価1500円（税別）。

ハッスル史上、かつてない衝撃的結末!

ハッスルはどこへ向かうんだ!?

ハッスルの野望、HG、ニューリン様の危機、そして調子に乗ったRGの行方まで

11.23 ハッスル・マニア2006 in 横浜アリーナに **レーザー・ビターン!!**

11.23　ハッスル・マニア2006

日本のプロレス界を根こそぎブチ壊し

賛否両論のハッスル年間最大イベントに衝撃結論!!

ハッスルには“ヒクソン”が足りない!!

―ハッスルにとっての“PRIDE”はいつ訪れるのか―

ハッスル・マニア総括座談会

「ハッスルページで、なんでヒクソンの写真なの?」と思った読者は、この前説なんか飛ばして早く本文を読んだほうがいい！　紙上やネットなどさまざまな媒体で賛否両論が飛び交う今回の『ハッスル・マニア2006』。しかし！　本座談会では、その中のどの論争も吹っ飛ばすような衝撃の結論が出たのであった。

本文構成／ジャン斉藤　構成／松下ミワ
写真／山口比佐夫、平工幸雄　写真提供／DSE
designed by matsu（TwoThree）

“妖精さん”が魔法のせいでリングに上がれない、というのは久々にシュートなアングル（ノブ）

坂井ノブ（以下、ノブ） 今日は、先日の11・23『ハッスル・マニア』（以下『マニア』）を語るにふさわしく、〝ハッスル大統領〟こと山口日昇とゆかりの深いお三方に集まっていただいたわけですけど。

原タコヤキ君（以下、タコ） というかなあ、〝銀座プロレスNOW〟なメンバーやね、今日は。

ノブ ……いきなりマイナーネタな出だしですねえ（冷たく）。何も知らない読者のために説明すると、タコ兄さんがひっそりやってるポッド・キャスティング番組のことですね。

タコ そうそう。今回の座談会に出席している〝山口日昇の闘う化身〟ことライターの（八木）賢太郎や、携帯サイト『スカパー！バトルLIFE!!』の井上（崇宏）くんなんからがゲスト登場。とっておきのプロ格情報をたっぷり披露する『銀座プロレスNOW!!』！　なわけやけど……って、おい！　俺らのポッド・キャスティングをマイナー呼ばわりかい!!

ノブ しっかり宣伝しながらノリツッコミですか（笑）。

八木賢太郎（以下、八木） いや、じつは俺も最初は「誰も聴いてないや、こんなもん」と思ってやってたんだけど、最近はけっこう聴かれてるんだよ、『銀座プロレスNOW!!』。

タコ そうや！　さあ、賢太郎、いかにメジャー番組か説明してやってください。

ノブ （冷静に）ページ数の問題があるので省略させてください。そんな前フリはともかくですね、本題の『マニア』に入りますが、まず驚いたのはオープニングのスペシャルゲスト、〝妖精さん〟こと小池栄子ですよね。

タコ だってあれ、『ハッスル』のスタッフですら当日まで知らされてなかったらしいやんか。

ノブ 本当にギリギリのタイミングで決まったそうですよ。超極秘シークレット。

八木 まあ、芸能界的に考えたら、まずあり得ない話でしょ。小池栄子はフジテレビのレギュラー番組も持ってるし。

ノブ おそらく小池栄子の事務所的には『ハッスル』に出ることはともかく、公の場で坂田GMWとツーショットになることは〝さまざまな事情〟で許されなかったんでしょう。だから、〝妖精さん〟は「魔法のせいでリングに上がれない」というのは、久しぶりにシュートなアングルを見せつけられましたね（笑）。

タコ そう考えると、出てきたこと自体が凄いよね。

ノブ ただ、〝さまざまな事情〟はファンにはあまり関係がない。そこが伝わりにくい凄さなんですよ。

井上崇宏（以下、井上） あれでしょ、いつもテレビで聞いてる小池栄子の声と違った気がしたのと、金髪のヅラ被ってたから、一瞬「ホンモノかよ?」っていう戸惑いの空気は客席からは流れてたよ。

八木 あとはさ、やたらと事前に〝えい子〟の話を振ってたから、いままでの『ハッスル』の裏切り方からして、お客はまさか本人は出てこないと思ったんじゃないの。

昨今の坂田GMの弱気な発言から“えい子”の登場はもはやナシかと思われたが……坂田GMとRGが登場した前後の最中に「ハッスル・マニアに小池栄子〜♪」の歌声が横アリにこだまし、“えい子”似の妖精が登場!

井上 そうだよ！　本当に最後の最後まで小池栄子を匂わせるってわけじゃなかったんでしょ?

ノブ 10月頃に『東スポ』が〝えい子〟ネタを一面で飛ばしたんです。「小池栄子参戦」って。おそらくその時点で考えていたプランと、『マニア』で形になったものは全然違うと思うんですよね。

タコ ええ加減やなあ〜（笑）。

ノブ いや、凄いことですよ、これは。で、小池栄子に相当する大ネタを用意してたけど、どうもうまくいかなかったみたいで。しょうがないから、坂田GMWが「なんでおまえらが勝手に飛ばしたのを俺がケツ拭かなきゃいけねえんだよっ！（怒）」って感じで、一肌も二肌も三肌も脱ぐことになって。

タコ ホンマの〝GM業〟やないか！（笑）。

ノブ 結果としては『東スポ』のスクープどおりになったという。GMWは男の中の男ですね。まあ、そんなオープニングで『マニア』は始まったわけですけど、今回のイベントを指してよく言われているのは「去年の『マニア』ほどの熱はない」ってことなんですよ。

八木 まあ、去年と比べちゃうのもおかしいよね。去年はワイドショーがバンバン煽ったこともあって、観客の期待値や理解度が高かったじゃん?　能動的だったっていうかさ。

タコ HGや和泉元禰が初登場やったし、プロモーションはできすぎぐらいやったからな。

八木 だからね、正直、ライブのテンションは低かったと思う。それは前から言われてるけど、横浜アリーナという会場の問題かもしれない。密集感のなさが熱を生まないというかさ。ただ俺はね、やっぱり純粋に身内意識で観ちゃう部分もあるから。

タコ 〝山口日昇の闘う化身〟ヤマペランサーとしてはね（笑）。

八木 一試合目や二試合目からあの微妙な空気だと、もうなんか胃が痛くって。「ああ、盛り上がってくんねえかな」「ああ、これせっかくおもしろいのに」という感じで気が気じゃなかった（笑）。でも、何日か経って録画しといたPPVで観直したら、これがかなりおもしろいんだよ！

ノブ 今回の『マニア』って画面で観ると全然、違いますよね。

井上 つーか、俺はメインのエスペランサーとHGの試合と、海川ひとみのデビュー戦はスッゲエおもしろかったよ！　メインは、ね、わりと心に響いた。最初から最後まで。……あ！「最後まで」っていうのは、エンディングは除くわけだけど。

ノブ あ、やっぱりそこは除くんですか。

井上 あれはまったくダメでしょ。その理由はおいおい話しますけど。

八木 なんだよ、そんなにもったいつけて

座談会出席者

八木賢太郎
ライター。本誌“非番”編集者（?）。ハッスルに関しては、主催者側とほぼ同様の情報を持っているといってもよさそうなくらい事情通なキーパーソン。今回は“山口日昇の闘う化身”として、102号のエガちゃん原稿以来『kamipro』降臨。

原タコヤキ君
小さい版型だった頃の元『紙プロ』編集記者。現在は銀座のとある会社に勤務。自身がパーソナリティを務め、プロレス＆格闘技のウラ情報を発信するポッド・キャスティング番組『銀座プロレスNOW!!』はネットで好評配信中!

井上崇宏
プロレス・格闘技の携帯サイト『スカパー!バトルLIFE!!』の編集業務などを行なっている『ペールワンズ』の総帥。最近では、12月3日『上井ステーション』で、駅長コスチュームの一部（帽子と手袋）を上井さんに提供したことで話題に。

坂井ノブ
本誌企画制作部。『kamipro』編集部では、WWEやハッスルなどを担当。本ハッスル座談会唯一の『kamipro』編集部員として出席。前号に掲載されたキダ・タローとの写真に続き、今回はバンザイ・チエとバンザイポーズでパシャリ!

（笑）。まあ、ニューリン様の試合もおもしろかったけど、最後の華麗な連続技があんま沸かなかったじゃん。それがPPVだと会場が沸いてるように見えるし、ちゃんと楽しめるんだよね。要するに、純粋な〝作りもの〟としては悪くはないということ。もしかしたらそれは映像と現場と両方観たから楽しめただけで、PPVだけだったらちょっと理解できてないこともあるかもしれないけど。

タコ　『ハッスル』はテレビのほうが相性がええのか、ライブのほうがおもしろいんかどっちなんやろ？

ノブ　まあ、後楽園ホールの『ハッスル・ハウス』なんかは、ライブでしょうね。

八木　そうそう。後楽園ホールと大会場のあいだにテレビがある感じかな。伝わるという意味では。

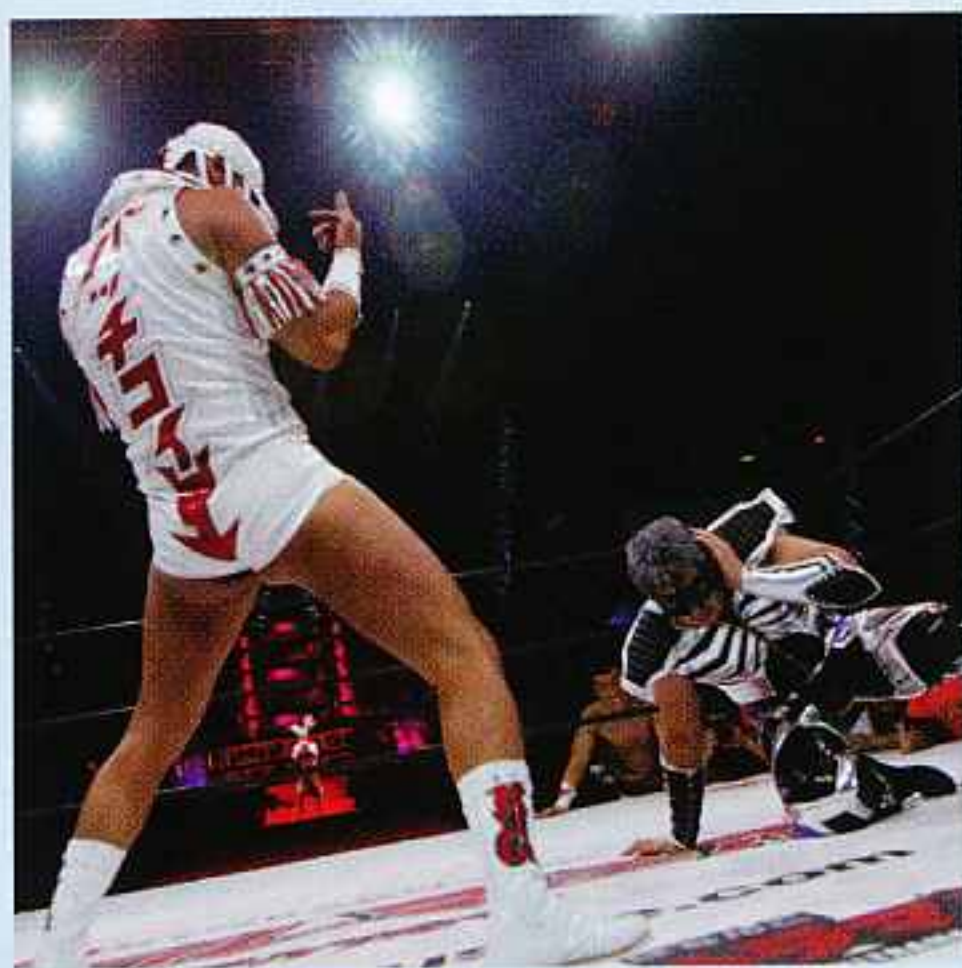
井上　やっぱりさ、一見さんやファン以外の人たちにそのジャンルのおもしろさを伝えるには現場の熱がないとダメだよね。極端な話さ、あの桜庭和志vsホイス・グレイシーの90分の死闘ですら、会場の熱気がなかったら一見さんにはおもしろくもなんともないと思うよ。サクが勝った瞬間に数万人が総立ちになるから、その熱につられて一見さんも興奮するわけだよ。

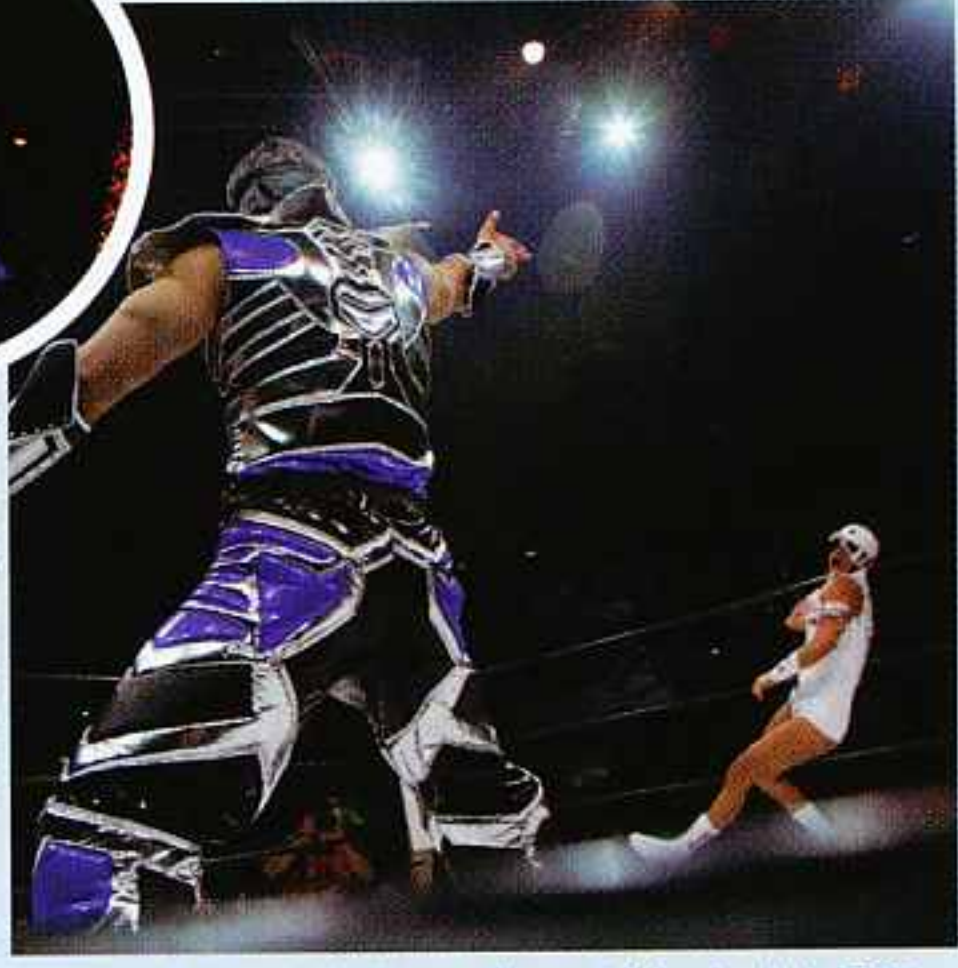
タコ　それこそストーリーを知らないとなあ。会場の熱っていうのは結局、周りがお手本になるもんね。「ここは盛り上がるとこ」「ここはブーイング」って。だから『ハッスル』こそ、そこにきっちり気をつこうていかんとアカンのやろなあ。

ノブ　とりあえずRGは「ここは笑ってください」「ここでブーイングしてください」ってもの凄くわかりやすいですけどね。

井上　忘れてた！　メインと海川ちゃんだけじゃない。いやあ、RGは最高ですよ！

八木　昔から『ハッスル』はドリフを標榜してきたわけだけど、「志村、うしろ、うしろ！」

海川ひとみの試合後のザワザワはハッスルらしくない感じはあった（タコ）

と思ったところに、なんと！　オカリナの音色が場内に響き渡るではないか!!　それを奏でるのはもちろんニューリン様。その音色を耳にしたザ・エスペランサーは途端に衰弱。HGにフォールに入られてしまうシーンも!!

恐怖心を退け、ザ・エスペランサーに思いっきりドロップキックをあびせたHGだが、倒れているHGをめがけて、またもやザ・エスペランサーがレーザー・ビターンの構え。この必殺技がある限り、HGが命を奪われるのは必至か……!?

HGに向かって必殺レーザー・ビターンをお見舞いするザ・エスペランサー。しかし、コントロールを見誤ったか、これで破壊されたのはHGではなく、会場のセットだった！　しかし、これをまともにくらえば……危ないぞ！　HG!!

ついにかなったザ・エスペランサーとの対戦に、興奮を抑えきれずハイテンションでリングインするHG。対照的に、ザ・エスペランサーは「トレーニング・モンタージュ」の曲をバックにゆっくりと入場。二人の対面の瞬間、緊張感がほどばしる。

っていうドリフ的なものを3年目にして初めてRGが体現できたわけじゃん（笑）。観客が一体になって、「RG、うしろ、うしろ!!」って感じで自然発生的に叫ぶっていうね。

ノブ　ところで、タコ兄さんの全体的な感想はどうだったんですか？

タコ　全体的には……。

八木　全体的にはウトウトしてたよね（笑）。

タコ　（猛然と）起きてましたっ！　アンタの息子としゃべりながら観てたんや！

八木　眠くてしょうがないから、しゃべってたんでしょ（笑）。

タコ　（無視して）ま、海川ひとみが印象深かったねえ。ほら、試合後にブーイングが起きてたじゃないですか。

ノブ　眞鍋かをりも絡んだマイク合戦に、一部観客からブーイングが起こってましたね。

タコ　そこで思ったのは、『ハッスル』ってさ、制作側が提示したものにお客さんが「あ～、これ気持ちええわ～！」って乗っかる世界なわけやんか。

ノブ　〝掛け声マッチ〟なんかもそうですよね。なんか説得力のないときに発生する「え～～～!?」合唱も、ある意味で潜在的なお約束で。ただ、今回の眞鍋かをりの「海川の判定勝ち！」というマイクにしても、制作側はああいう空気になると思っていたのかどうか。

タコ　海川ひとみの試合は終わったあとのマイクがメチャメチャ長かったやん。で、みんなだんだんザワザワしてブーイングが飛び始めたと。それは『ハッスル』らしくない空間やんか。観客が制作サイドの意図しないところにツッコミを入れるっつうかさ。そういうところの『ハッスル』らしくない感じはちょっと新鮮やったね。これからの『ハッスル』っていうのは、そういった〝ツッコミしろ〟を残していく世界なのかどうか興味があるね。

ノブ　山口日昇がやっているかぎり、〝ツッコミしろ〟は残すんじゃないですかね。

タコ　でも、あれは〝残した〟んじゃなくて〝残ってしまった〟んやと思うよ。

井上　あのときさ、海川ちゃんが「自分を変えたくて……」って言ったじゃない。そうしたら、すぐに客席から「プロレスをナメんな!!」っていう野次が飛んだけど、あれはセレブリティあふれる野次だよなあ（笑）。「今日はスゲエ、センスいいヤツが来てるなあ」って。

ノブ　あの野次って真剣でしたよね？

井上　えっ、真剣じゃないでしょ!?

タコ　マジなんちゃう？

八木　うん。真剣だったよ、けっこう。

井上　なんだよ、それ!?　じゃあ、あの野次を飛ばしたお方はひょっとして80年代からタイムスリップしてきたとか……？

ノブ　「プロレス界のビッグイベントだから観に来ました」みたいな感じじゃないですか。

井上　でも、マジならマジでいいのかなあ……。

ノブ　アイドルがデビュー戦でプロレスラーに負けて泣く構図に対して「プロレスをナメるな!!」って叫ぶおまえがどうかしてる！って個人的には思うんですが。

井上　でもさ、あの野次は一つの〝ハッスル参加型〟だと思うけどなあ。「プロレスをナメんな!!」＝「海川ちゃん、いらっしゃい！」。俺にはそうにしか聞こえなかったけど（笑）。

八木　言い分はわからなくもないけど、それは性善説から成り立ってるよね。ほかはみんな性悪説だから（笑）。

井上　そもそもさ、プロレスをナメてる・ナメてないなんてのは、一昔前の議論じゃん！もういいよ、そういうのは。

ノブ　ザ・エスペランサーのレーザー・ビターンでセットが破壊されても、「え～ッ!?」っていう疑問の声が起こらない世界が『ハッスル』ですから（笑）。

八木　あのシーンには拍手と笑いが起こってたもんね（笑）。でも、たしかにもうそこの議論は過ぎてるわけですよ、『ハッスル』は。

タコ　もう全然、過ぎてる。
八木　要はそこを超えたとこでおもしろいのか、つまらないのか？　という話になるわけじゃん。ザックリいえば、プロレスのある側面を切り取ったものでしょ、『ハッスル』は。だからそれはある側面でしかないわけで、そこに全体の議論を押しつけちゃうとやっぱり話が通じない。でさ、その『ハッスル』の対極にあるのが、たとえばNOAHでしょ。
タコ　ハードヒットっていうことではな。
八木　そのNOAHと『ハッスル』、初めて観た人はどっちが楽しめるんだろう？
タコ　あ～、本来それは『ハッスル』でないとアカンと思うんやけど、こないだの『マニア』のテンションやったら、俺はNOAHかなあ。俺は以前、そんなにプロレスを知らん友だちを『ハッスル』に連れてったけど、「もうちょっと真剣な試合が観たかったです」とか言うてた。
ノブ　〝もうちょっと真剣な試合〟!!　どういう試合ですか、それ？　闘ってる最中に「キンタ！　マー！　あちち!!」と合唱しない試合という意味ですか？
タコ　友だちは「タイトルマッチみたいな試合が……」とか言うてたねえ。
ノブ　う～ん。従来のプロレスの文脈からなる〝名勝負〟を『ハッスル』に期待されたりすると厳しいですよね。
井上　うん。『ハッスル』が作りたいのは、〝名勝負〟というより〝名場面〟だろうから。
八木　俺はまったくプロレスを知らないファンなら、本当は『ハッスル』のほうが充分に楽しめると思うんだよ。ただ、『ハッスル』の大義名分として「初めて観る人も楽しめる」ってことを掲げてるけど、実際はわざとそうでない方向にも作ってたりするときもあるとも思う。たとえば、プロレスだと思って観に来たのに、いきなりドリフのオープニングみたいなセレモニーがあったりするのは、意外と敷居を高くしてるっていうか。

しかし、オカリナの音色を止めるべく今度はアン・ジョー司令長官が乱入だ!　ニューリン様の演奏を阻止すると……リング上ではオカリナの音色から解き放たれたザ・エスペランサーがニューリン様めがけてレーザー・ビターンを発砲ッ!!

リング上に残されたHGは、もはやザ・エスペランサーの餌食以外の何ものでもない。ザ・エスペランサーの右ハイに大の字になってしまったHGは、屈辱の片足フォールで無念の3カウント。やはり、ハードゲイでは厳しかったか……。

HGフォールを奪ったザ・エスペランサーは、とどめと言わんばかりにHGを花道に引きずり出し、殺戮のパイルドライバー!!　花道に叩きつけられたHGを残し、ザ・エスペランサーは無感情に、そして悠々と会場を去っていった。

とどめを刺されたHGに、すぐさま駆け寄ったのがやはりこの男、キャプテン小川だ!!　ニューリン様、HGの生命が危ぶまれる中、小川は一人リングを踏みしめ、ハッスルしたのだが……。この結末は果たして何を意味するのか。そして、小川は?

タコ　驚きますよ、〝真剣な試合〟を期待してきたファンからすると（笑）。
八木　そういう意味では、前号の山口日昇とさいちんの対談で「土足感を印象づけるためには、ちゃんと靴を脱いで入るための玄関がプロレスには必要だ」ってことをしゃべってたけど、まさに『ハッスル』こそもっともっと玄関を作るべきなのかもしれないね。
井上　つーかさ、一見さんに頼らなくたって、横アリのキャパって、いまのプロレスファンだけで充分いっぱいになると思うよ。
タコ　それ、ホンマ？
井上　だって、去年の『マニア』はほとんどプロレスファンの集まりでしょ。あのノリ、あの熱気の質を見るかぎり。
タコ　行くかどうか迷ってるプロレスファンは、連日のワイドショーの報道を見たら背中は押されたのはたしかや。
井上　本来は横アリどころか東京ドームだってプロレスファンだけでいっぱいになるんですよ。で、たぶん、『ハッスル』は山口日昇がやっている以上はそういうファンを戻す狙いはあるんじゃないかと思うんだよね。新規のお客さんももちろんターゲットなんだろうけど。で、実際そういう人たちって、ちゃんと『ハッスル』を遠目ながらも見てるんだよね。それは「いつかブレイクするな」っていう予感があるから。
八木　『ハッスル』に期待してるってこと？
井上　期待じゃなくて、なんだろうなあ……。
ノブ　目利き的な感じ？
井上　そうそうそう。だからね、プロレスファンは『ハッスル』のピークを逆算してると思うんだよ。「このスピード感だと、ピークはもうちょっと先だな」っていう感じで見切って、それまでは遠目で見ときゃいいと思ってる。なぜかというと、いまの『ハッスル』ってやっぱり〝髙田一座〟になっちゃってるところにポイントがあるんだよね。
タコ　『ハッスル』は誰が見ても髙田総統が座長やからなぁ。
井上　どういうことかと言うと、去年の『マニア』が大成功したとき、榊原代表が「ブレイクするのが遅い」って言ってたけど、要は『PRIDE』と比べて『ハッスル』にはスピード感がないんじゃないかってことでしょ、あれ。でもそれは『PRIDE』と比較するからそう思うんであって、エンタメプロレスっていうジャンルは、インディーは別にしてそもそもなかったものだから。この規模で確立されたものってなかったわけだから。
ノブ　『PRIDE』の場合は、リングスとかUFCとか修斗とか、下地があったわけですもんね。
井上　もちろんWWEはあったんだけど。と考えるとね、いまの『ハッスル』は『PRIDE』誕生前の〝Uインター期〟と仮定したほうがいいんじゃないかっていう説を唱えたいんだけど。
タコ　ああ、つまり、『PRIDE』への助走期間や。
井上　そう。あのUインターも〝髙田一座〟だったわけじゃない？　〝最強のプロレス〟を標榜してて、髙田延彦が〝最強のプロレスラー〟だったわけでしょ。で、いまの『ハッスル』も髙田総統が一人だけかつての〝最強・髙田延彦〟のように突き抜けちゃってて。それでもハッスル軍vsモンスター軍という構図の軍団抗争なんてやってるけど、ファンから

いまのハッスルはPRIDE誕生前の〝Uインター期〟と仮定したほうがいい（井上）

したら、どう見てもいまの『ハッスル』は〝髙田一座〟にしか見えないんだよ。それって、やっぱりかつて見たUインター的風景にしかすぎなくてさ、このくらいの刺激にはすっかり慣れちゃってるの。要はそこから先の大河ドラマがあるはずだろう、「このあとヒクソン・グレイシー戦があるんだよね？　なきゃ嘘だぜ？」って見切ってるんだよ。

八木　あ〜、なるほどね。いまの『ハッスル』の世界を覆して、なおかつ加速させる存在を求めてるってことだ。

井上　去年の『マニア』がなぜ大ブレイクしたかというと、それはHGにその〝ヒクソン〟を感じたからなんだよ。HGに髙田総統が食われるんじゃないか？　っていう雰囲気があったでしょ。で、たしかにHGはいい線いったんだよ。髙田総統も去年の『マニア』で「今日は俺、HGにちょっと負けてるぞ」って言ってたでしょ？

ノブ　あの言葉で観客がどよめきましたよね。

井上　うん。去年の『マニア』はHGが〝ヒクソン〟としての存在をプンプン匂わせたから、爆発したと思うんだよね。じゃあその熱が今年の『マニア』に至るまでなぜ持続しなかったか？　それは、この一年でHGが〝ヒクソン〟からゲーリー・オブライトになっちゃったからなんですよ（笑）。

ノブ　つまり、強豪は強豪でも、じつはUインター内の強豪だった、と。

井上　そう。オブライトも凄い選手だったけど、結局Uインターでは〝髙田最強〟を証明するための強きライバル的存在にすぎなかったでしょ。HGも同じで、そのあとKOSHIKARIに腰を狩られそうになったりとかさ（笑）、意外と『ハッスル』の世界に溶け込んじゃって、オブライト化しちゃったのよ。だから今年の『マニア』のメインは髙田延彦vsオブライト戦にすぎなかったんだよ。

八木　〝Uインター内での出来事〟でしかないってことね。

井上　で、俺は今年の『マニア』では3年の集大成ということで〝Uインター期〟を終わらせるもんだと思ってたのよ。それで、いよいよ『PRIDE・1』が始まるんだと思ってたんだけど、エンディングに小川直也が一人残って締めたということは……。

タコ　ハッスル軍vsモンスター軍は終わらない。まだUインターが続くってことでしょ。

井上　それはもう見たくない、もう『PRIDE・1』が始まっていいんじゃねえか？　っていう。だから、俺はあのエンディングはまったくダメだった。スピード感がなさすぎっていうか、〝ヒクソン〟戦はまだまだ先なんだなっていうのもファンは見透かしますよ。さすがにみんなも舌心鍛えられてグルメだからさ（笑）。

八木　じゃあ、〝ヒクソン〟になりうるのは誰なの？

ノブ　演技力があってプロレスができると考えると、船木誠勝は、はまるんですけどね。

八木　ちなみに船木はいま『Dr.コトー』で一人だけ色が黒すぎる、妙にリアルな漁師を演じてますけど（笑）。

井上　いやいや俺はね、そういうレベルじゃないと思うよ。『ハッスル』がブレイクするときって、もう髙田総統がなす術がないぐらいの凄い存在感や表現力を持ったキャラクターが、どっか別のジャンルから現われたときだと思う。だから『PRIDE』の歴史と同じく、「いまの『ハッスル』のメンバーで残るのはかろうじて髙田総統ぐらいかな？」っていうレベルにまでいかないと、『ハッスル』はブレイクしないですよ。

ノブ　とりあえず、しばらくは髙田vsブッチャーとか東京プロレスとの対抗戦とか、Uインター末期のまったり期に入るんじゃないですかね（笑）。

井上　『キングダム』期間もあって（笑）。だからといって、遠目なりにもいまの『ハッスル』を見とかないと、きわめて近い将来に髙田総統が〝ヒクソン〟に完膚なきまでにやられたときのおおいなる喪失感や失望感は味わえないということだよ。それはもうプロレスファンの性だから。俺はその日が来るのを夢見ながら『ハッスル』を見てるんだから（笑）。で、このへんの感覚は髙田総統もわかってると思う、というのが俺の主張。

八木　『PRIDE・1』で髙田の『トレーニングモンタージュ』で泣けたように、いずれ『威風堂々』で涙をこぼすときが来るわけか（笑）。

井上　うん！　うん‼　そんときは、『PRIDE・1』と同じようにアン・ジョー司令長官がリングイン前の髙田総統を抱きしめて……なんて（笑）。

ノブ　なんて〝I予言〟だ（笑）。

八木　素晴らしい理論展開！　さすが、もったいぶっただけはある。今日は冴えてるねえ（笑）。

るか、その作業に一番必要なのは、地上波だと思う（八木）

井上　でしょ？（笑）。だから、バンザイ・チエとかKUSHIDAとかって、『ハッスル』の生え抜きじゃないですか。俺からしたらあの二人は桜庭和志や田村潔司と変わらないわけですよ。海川ちゃんなんてあれ、じつはイワン・ゴメスですから（笑）。

タコ　しかし、『ハッスル』がUインターだとなると、オーちゃんはなんなんやろうね？

ノブ　難しいですね……。まずさっきの〝髙田一座〟っていうことでいうと、小川直也だけは異物感を残しているんですよね。「髙田一座には加わらねえぞ！」という意地があるのかどうかわからないですけど。

タコ　ガチガチの意地は感じるね。

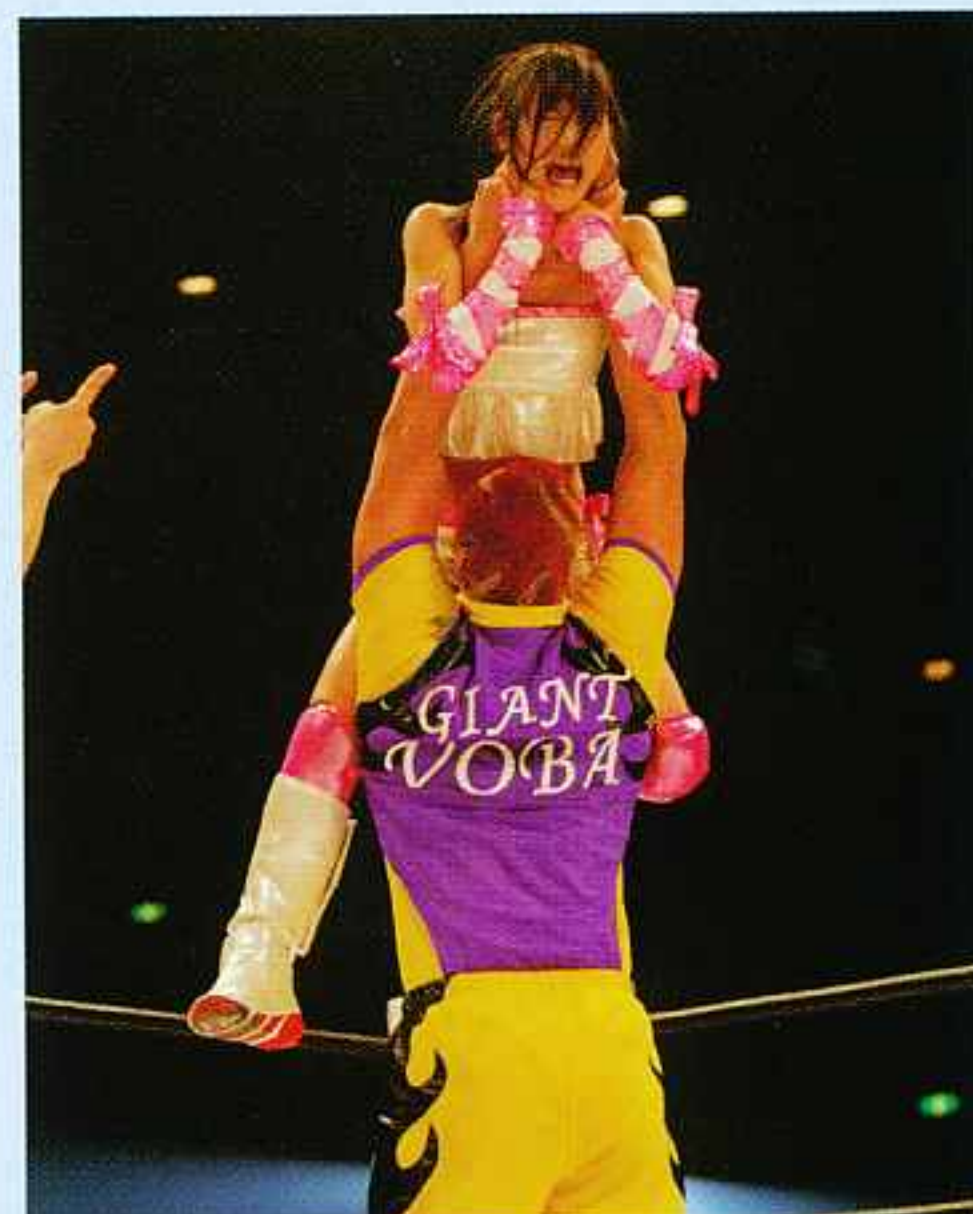
八木　その立ち位置が良くも悪くもいまの『ハッスル』の微妙というか、判断しがたい空気を作ってる。

ノブ　だからこそ、今後がおもしろいのは小川直也なんですよ、間違いなく。小川直也が一人残されたことに対する不安をいろんな媒体やライターが原稿にしてますけど。そもそも『ハッスル』って、小川目線で見ると小川直也がハッスルする物語なんですよ。

八木　小川がホントに『ハッスル』できるまでの物語でもあるんだろうし。それは〝『ハッスル』＝Uインター〟理論とは真逆の伏線なのか、本線なのかわからないけど。

ノブ　小川の場合、〝ハッスル査定試合〟と

この試合を最後にハッスル星に帰ることになっているハッスル仮面。モンスター軍入りしてしまったイエローの目を覚まさせ、一緒に故郷に帰れるかが試合の焦点になってたが、ご覧のとおり！　イエローは悪のコスチュームを破り捨て、再び正義のハッスル仮面に戻ったのだった。その後、彼らは星へ帰ったが、場内では来年からハッスル仮面の新シリーズが始まることが発表され、微妙な空気に。

『ハッスル』定番の掛け声マッチとなったこの試合では、金原キンタロー、マーガレット、ハッスルあちち・大谷晋二郎の連携エルボーが実現し、「キンタ!」「マー!」「あちち!」という夢の掛け声が会場いっぱいにこだました。

今大会の目玉の一つとなった海川ひとみのプロレスデビュー戦。しかし、強敵ジャイアント・バボの前になす術もない海川はバボの胸を両手でドンドン叩きながら号泣。事務所の先輩・眞鍋かをりに「私の判定では勝っていた!」と褒められたが、海川の涙はこぼれるばかり。

して『PRIDE・GP』参戦というインパクトが『ハッスル』初期にあった。どんな物語でも、最初に主人公がバーっと活躍してるんだけど、一度どん底に落ちてから這い上がるまでが見せ場なんですよね、やっぱり。

タコ　でも、『ハッスル』の場合は一度、厳しい評価を受けたら、簡単に浮かび上がれないリングじゃないですか。どこのリングよりもそこはシビアだし、イベントの性質上、シビアじゃなきゃならないわけやんか。

ノブ　そこは小川がハッスルするしかないですよね。

井上　ちょっと話がズレるかもしれないけど、評価という話でいえば、プロレス界の格やビッグネームっていうのかな、その価値観をストレートに持ち込まれると、『ハッスル』の発展は遅れちゃいますよね。

タコ　あ～、そういうのはもういいよね。その価値観に『ハッスル』のほうがアジャストさせるっていうのはさ。

ノブ　あいだにRGみたいな中和剤が入らないことには厳しいですよ。

タコ　鈴木みのるもそうやねん。こないだもRGがおったから成立するけど、「世界一性格が悪い男」みたいなアングルだけで『ハッスル』に来られると、それこそ厳しいわ。

ノブ　やるんだったら天龍源一郎やモンスターK（川田利明）のように『ハッスル』にどっぷり浸かって、初めて評価はされるべきですよね。

井上　でもね、そこは「あの川田が……」っていう目の向けられ方じゃない。「あの川田がやってるからおもしろい」「あの髙田がこうなったからスゲエ！」。それはそれでおもしろいんだけど、それをありがたがるのはやっぱ初期段階の話だよ。もうこっちは逆算で『PRIDE・1』を待ってるんだから。

八木　待望の〝ヒクソン〟に中田英寿とかどう？　こないだタイでムエタイやったし（笑）。

井上　旅の途中で立ち寄るの？（笑）。

八木　中田だったら、たとえエスペランサーでもやられそうでしょ。

ノブ　サッカーボールキック一発で（笑）。

八木　いろんな意味で、HGな役割も担えるし（笑）。

井上　俺、『ハッスル』が〝ヒクソン〟獲得が無理なら、髙田総統のプロレス界侵攻でもいいんだよな。俺ね、プロレスの復権は何かといったら、髙田総統が『ハッスル』の舞台で完膚なきまでにやられるか、ほかのリングに侵攻する。それかもう一つは猪木さんがリング上でボロボロにやられること。その3パターンだと思うんだよね。そんな刺激的なシーンが現出したら、一瞬でプロレスは復権するんじゃないかと信じてるとこがあるんだけど。

タコ　ホンマかいな（笑）。

八木　そのプロレス復権っていうのは、プロレスファンの拡大というか、引き戻しっていうことでしょ？

井上　引き戻しと、いまも昔もプロレスファンじゃなかったけど、プロレスファンの〝資質〟は持っている新しい層の獲得。

八木　呼び戻して、どんだけ定着させられるかっていうね。その作業に一番必要なのは、地上波なんじゃないの？

井上　そう！　ズバリ、地上波が必要なんですよ！

八木　『ハッスル』の名古屋大会って毎度、盛り上がるでしょ。それは深夜とはいえ定期放送をやっていたからで。地上波があったことの周知度や認知度は凄く高まったよね。

井上　……もしかしたらさ、〝髙田一座〟の世界って、テレビ局の意向で簡単に崩せるんじゃねえのかな？

タコ　いい意味での外圧みたいなことやな。

井上　だいたい『PRIDE』もそうだけど、愛のない人がプランニングしたほうが刺激的じゃない。髙田vsヒクソン戦のプランニングなんかプロレスファンからは絶対に出ないからね！（笑）。

プロレスファンを呼び戻してどれだけ定着させるか、その

タコ　愛のない人が踏みにじった瞬間こそ、新しいものが生まれるときなんやもんなあ。

ノブ　それこそ〝土足感〟ですよ。

井上　いまの『ハッスル』の制作スタッフには現行『ハッスル』への愛があるよね。愛しすぎてるからこそ逆に発展を遅らせてんじゃねえか、と。

八木　そこで俺が思うのは、フジテレビの『めちゃイケ』と『ハッスル』の共通点なんだ。『めちゃイケ』っていう番組も、制作者の芸人への愛情が凄く強くって、それだけに、企画によっては観てる側にもお笑い偏差値の高さが求められることがある。ただ、『めちゃイケ』には、土曜夜8時に放送されるという大きい外圧があるから、それ以外のところでは、ちゃんとお茶の間向け番組として成立させてるのね。その点、いまの『ハッスル』は、たしかに愛ある人の治外法権になってるから、その愛を感じられる人には受け入れられるけど、それ以外の人は、ともすれば切り捨てられちゃう可能性もある。そういう意味では、愛のない外圧になりうる地上波が必要なのかもしれないね。

井上　そう考えるとね、6月の『ハッスル・エイド』をフジテレビが予定どおり放送していたら、どうなってたんだろうね。

タコ　いまの『ハッスル』をそのまま中継するという発想じゃダメだよね。どっかのテレビ局が「『ハッスル』はこんなもんじゃねえだろう。ウチが『ハッスル』をやったらもっとおもしろくなる」と思ってやると、もの凄い外圧になるよね。

井上　すべてを要約するとですね、俺は『ハッスル』にはやはり〝世の中とプロレス〟してほしいんですよ（笑）。

【06年11月29日／都内・某所にて収録】

ニューリン様vsカイヤという女の闘いに注目が集まったセミハッスル。ニューリン様はローリングクレイドル、カイヤはスタンディング式つり天井などキャプテンら男性陣をよそに大技を披露した二人だが、最後はニューリン様がアン・ジョー司令長官に対し、この表情！

坂田軍団と鈴木軍団の対決では、最終的に鈴木みのるにフォールを取られた張本人であるものの、やはりRGがMVP級の活躍を見せつけた！　リング上での動きも素晴しかったが、RGは顔だけで、もう100点である。

ハッスル・スーパータッグのベルトを持つ最強タッグ、チーム3Dが、モンスター軍の誇る狂犬ソドム＆ゴモラと激突。得意の「GET THE TABLE!!」をソドムに浴びせ、黄金パターンで王座を防衛した。

『ハッスル・マニア2006』を大総括！
そして、2007年『ハッスル』の課題をズバリ指摘！

髙田総統の友人であり、大の『ハッスル』ファン

髙田延彦

ザ・エスペランサーの「レーザー・ビターン」でセットが倒壊。そして、HGの惨敗。『ハッスル・マニア2006』はバッドエンディングで終了。
『ハッスル』ファンでもある髙田延彦PRIDE統括本部長ももちろん視察に訪れていた。髙田本部長の感想は？
髙田総統の友人であり、大の『ハッスル』ファンとして、そこから見えた2007年『ハッスル』の最重要課題とは？
4年目を迎える『ハッスル』への期待、そして遅ればせながらPRIDEラスベガス大会についてもおおいに語ってもらった。

聞き手／坂井ノブ　構成／山本宗忠（THE PEHLWANS）　撮影／平工幸雄　designed by matsu（TwoThree）

――プロレス界下半期最大のイベント『ハッスル・マニア２００６』が約二週間前に終わりました。今回ももちろん本部長は視察に行かれたんですよ……ね？

髙田　「ね？」って何？（笑）。

――いやいや、会場で本部長の姿をお見かけしなかったので……。

髙田　見かけなかった？　前から数列目に座っていたけどね。

――あっ、そうでしたか。すみません、僕が見落としていたんですね。さっそくですが、賛否両論ある『ハッスル・マニア２００６』ですが、ご覧になった本部長の率直な感想を聞かせていただけますか？

髙田　いままで『ハッスル』をずっと見続けてきて、『ハッスル』の、そして『ハッスル・マニア』の定義みたいなものが植えつけられたコアなファン層と同じテンションで私は観ていたけど、率直に言っておもしろかったよ。逆に「おもしろくなかった」という人間がいたら、どこがおもしろくなかったのかを聞きたいね。一つ一つ試合を切り取って観ても、煽り映像を観ても、なかなかの出来だったと思うよ。もちろん課題はいくつもあるけどね。３年も続けてくれば、私以上に、ファンはもっと『ハッスル』フリークになっていて、いろいろな部分にコアに目を行き届かせてさ、「あそこは、あじゃなかった」とかもの足りない部分も出てきたかもしれないが、むしろ当たり前のことでそれがなくなったらジ・エンドだよ。とにかく私が「じゃあ、出来はどうだったの？」って聞かれたら、「充分、上出来だった」と答える。

――「リングの上の闘いだけを見せればいい」というところからどんどん離れていった結果、ここまで来た……という感じがしました。

高田　うん。確実に『ハッスル』の世界観みたいなものを構築してきたし、ついにここに来て、「完成型がどのへんにあるのかな?」という地点が見えてきたと思う。たとえば、これを『ハッスル1』でやったらまったくいまと違った反応が返ってきてるはずだよ。あのときとは、選手や作り手のモチベーションやテクニックはもちろん、見る側の環境や受け取り方が全然違うからね。まあ、新しいものが出てくるときは、そういうものだよね。UFCが出てきたときも『PRIDE』が出てきたときもそうだけど、多くの賛否両論あるからね。どっちもウェルカムだよ。

——熱狂的に受け入れる人がいる反面、拒否反応を示す人も多いですね。

高田　何ごとも中途半端な方向転換をするんじゃなくて、大きく舵を切ったことをやるときは、良く見えても悪い出来であっても、いろんな評価というのが出てくる。ただ今回は、一年前のタレントが出始めたときよりも、"ファイティング・オペラ"としてパフォーマンスコンセプトの方向性がしっかりと強烈に出たイベントだった。だからこそ反応が顕著に出た。この風を一気にいい方向へ吹かせる作業ができればおもしろいことになるだろうね。

——この風を一気にいい方向へ吹かす……。

高田　その風を吹かせる作業に不可欠なのは、やはりテレビだよ。

——地上波放送ですか?

高田　そう。地上波のテレビ。これしかないね!　テレビと真正面から向き合って本気で新しい"ジャンル"を作るくらいの気持ちで取り組む。風を吹かせるために『ハッスル』の選手やスタッフそしてテレビが自分たちであおいでいかないとダメだね。

——4年目に向けて、そこが一番の課題になるんでしょうか。

高田　気持ちのいいくらい過渡期に来ていると思うんだよね、『ハッスル』は。これで本気印のテレビがつかなきゃダメだよね。たぶん、そこが限界線だろうね。テレビで丹念に浸透させながらあのクオリティの作品を見せ続ければ、いまの数百万倍は伝わるよ。あの日、横浜アリーナにいた半分の人間はビギナーだったように私は感じた。私が感じたのだから間違いないよ。そういう人たちにあの煽り映像だけではしょっぱいよ。というか無理な話だよ。

——長い歴史がありますからね。

高田　ビギナーにはどう見てもシンプルじゃないからね。「髙田延彦という人間がい

「これでテレビがつかなきゃダメだよね。そこが限界線だろうね」

て、その友人の髙田総統がいて、その闘う化身であるザ・エスペランサーが闘う」って、これを言葉で説明したって初めて『ハッスル』に触れる人間は何がなんだかわからないよ。そう思うだろ?

——そうですね。

高田　でも、丁寧にテレビで伝えておいて、あの世界をドカンとやれば爆発だよ。

——『ハッスル』の世界自体はしっかりしたものができつつありますからね。

高田　できつつあるよ!　もちろんまだまだ課題、反省点はあるよ。『ハッスル・マニア』の最後に小川(直也)選手が一人で出てきたっていうのも賛否はあるらしいけど、あれは正解だったよ。ただやっぱり、演劇みたいに二ヵ月公演というものではないからね。一つのストーリーを一発勝負で大箱でやるというのは大きなリスクを伴う博打だからね。その緊張感がたまらないのは間違いないんだけど、まったく迷いがないというと嘘になるだろうね。だけど、新しいエンターテインメントの形を発信する側としてファンの半歩先を行くには、迷いのないきわめて完璧に近いものを作っていかないとね。

——一筋縄ではいかない作業ですね……。ちょっと細かいところをお聞きしたいんですけど、オープニングで"妖精さん"が登場しましたよね。会場が「オォ〜!」ってなったんですけど、あれなんかは"ファイティング・オペラ"だからこそできたっていうのはありますよね。

高田　うん。だから、あれも言ってみれば、栄子ちゃんの『ハッスル』に対する思いというかさ、自分に近い人間がムチャクチャ思いを込めて打ち込んでいるものを、それが開花しようとしている大事なときに、今回の『ハッスル・マニア』をある程度のラインまで持っていかなければならないときに、彼女は感性の鋭い人だからそれを読み取ったんだろうね。「出てやろうか」じゃなくて「私が必要であるならば、なんとしても出なければダメだ!」という思いで出てくれたんだよ。いくつもある中の一つの柱になりたいというね。だから、ゲストで出てきたという思いとはまったく違う。

——観ていて選手とモチベーションが一緒な感じがしました。

高田　モチベーションは彼らとまったく変わらないと思う。「『ハッスル』に打ち込んでいる人間を間近で観ていて引き寄せられた」ってところはあると思うんだよね。"GMW"はそういうまっすぐな姿を彼女に見せているってことでしょう。

——熱い気持ちというか、そういうものが見えましたよね。

高田　それが『ハッスル』なんじゃない?

誰もがビビってたじろいだ、ザ・エスペランサーの「レーザー・ビターン」によるセット倒壊。髙田本部長によると「2〜3年したらこれが当たり前に思われるかもしれない」とのことだが……壮絶!!

言ってみれば。
――熱い気持ちこそが『ハッスル』だと。
髙田　うん。熱い気持ちをみんなが持って、それをお客さんに総合力で見せていくっていうのが『ハッスル』だと思う。そういう意味で、まぎれもなく立派な『ハッスル』の一員として、栄子ちゃん……というか、〝妖精〟さんが重要なオープニングの大役を果たしてくれたんだろうね。
――あと、海川ひとみちゃんというグラビアアイドルがデビューしました。彼女も熱い気持ちが前面に出ていたと思うんですが？
髙田　頑張ったよね（ニッコリ）。
――しかも試合中に鼻を折って。ケガはつきものですけど、それにしても……。
髙田　頑張った！　私も客席で観ていて思わずジーンとしたくらいだから。
――本部長がジーンとしましたか！
髙田　「やられたな」と思ったね（笑）。非常に良かった。『ハッスル』のリングは断じて壊し合いの舞台じゃない。細心の注意を払いながらも、闘いのシーンに出てくるんだから「怪我の可能性もある」という覚悟はしておかないといけないよね。そういう覚悟があったからこそ、あそこまで表現できたんじゃないかな。でも、その裏にはジャイアント・バボの予想を上回る成長がある。バボがバボのやらなければいけないことを徹頭徹尾、非情なまでに貫き通したからこそ、海川さんも活きたし光ったよ。これでバボの評価も上がったんじゃない？「やるじゃねえか！」と思ったよ、本当に。
――デカく見えましたもんね。
髙田　デカく見えた。本人も自信がつくし、お客さんの中にもインプットされたからね。あの程度の若さとキャリアの選手が、自分で綱を引いてリードできているという感覚を味わうと急速に伸びるよ。彼は伸び率が早いよ。本番に強いタイプなのかもしれないね。あんまりほめたくないんだけど（笑）。

「RGのトボけたやられっぷりを地上波に乗せたら化けるぞ」

――あっ、ほめたくはないんですね（笑）。あと、バボや海川さんと並んで評価の高いRGなんですけど？　むしろRGこそほめたくないような気がしますよね（笑）。
髙田　いけてたよ……。あんな受け身、取れないよ。「ビヨヨ～ン」って横に飛ぶような受け身。天性のやられ役だね。
――RGさんにお話を聞いたら、「全国のイジメられている子たちに、『俺を見ろ！』と言いたい」って言っていました。
髙田　あぁ、いいメッセージ言うね。
――じつはRGさんは凄く熱くなっているみたいなんですよ。
髙田　ほう。
――前号の『kami·pro』に載った佐藤大輔さんのインタビューを読んで「やっぱり熱くなる仕事をしなければダメだ！」って凄く燃えていたんですよ。まあ、ああいう試合なんですけど（笑）。でも、気持ちが伝わるじゃないですか。
髙田　そう。伝わるか伝わらないか！
――「終わったあとに打ち上げの席で髙田本部長から『グッジョブ！』って言葉をいただいたんですけど、その『グッジョブ！』という言葉の重みを今回ほど感じたことはない」ってしみじみ言っていましたよ。
髙田　新しいキャラと、取り替えのきかないRGの立ち位置を、自分のものにしつつあるよね、RGもバボも。そしてハッスル仮面イエローも良かった。
――そうですね。
髙田　今後、「RGのやられる姿が観たい」とか「バボの半素人をいたぶる姿が観たい」、純粋に子どもたちが「イエローを観たい」とか、彼らが目的のお客さんが会場に来ると思うよ、これから。それがメインのクラスの選手じゃないっていうのが、またいいと思うね。だからこそ『ハッスル』は総合力なんだよ。……いやぁ、でもあの受け身は真似できないよ！　RGはお笑い、続けるのかな？
――来年3月にHGさんとのコンビで単独ライブをするようです。それに向けても熱くなっていましたね。
髙田　しっかり試合数をこなしていきながら、お笑いは続けるんだよ。本業はハッスラーでいいんじゃない？
――『ハッスル』に専念したほうがいいですか（笑）。
髙田　軸足をチェンジしたほうがいいよ。あのトボけたやられっぷりを地上波に乗せたら化けるぞ。
――「RGがやられる姿をもっと観たい！」という声は実際多いですからね。
髙田　そこで今度、逆にHGがライバル意識を燃やして。相乗効果で競い合ったら理想的じゃないかな。
――そのHGさんの試合なんですけど、エスペランサーと激突しましたが、ホントに凄い試合でしたね。
髙田　私は正直、おもしろかったね。ムチャクチャおもしろかった！　すべての雰囲気や反応が新鮮で、観ていて引き込まれたよ。何か凄くシンプルな気持ちで観ていたよ。そのくせ終わった瞬間から過去のパズルをもう一度合わせたくなる不思議な衝動に駆られたよ。

バボに次いで本部長が賞賛した選手はRG。「お笑い、続けるのかな?」としきりに気にするほど、『ハッスル』におけるやられ役がハマりつつある。

3対1のハンディキャップマッチを行ったジャイアント・バボ。デビュー戦としては上々の評価を得ている海川ひとみだが、それは「バボの予想を遥かに上回る成長」も要因の一つだと本部長は指摘。

――なるほど。
髙田　何度も言うけどそれをビギナーの人にも感じてもらう作業を丁寧にやっていかなければいけないよ。とにかく私はシンプルに楽しめたよ。良くも悪くも『ハッスル・マニア』というのは『ハッスル』にとって大きな勝負で、今回は浮くか沈むかのきわきわの勝負だった。その中で、あれをやらなければいけなかった、やらざるを得なかった、やるべきだった、という結論に着地した中で、あのコンセプトを来年に向けてのターニングポイントである『ハッスル・マニア2006』の顔として全面的に打ち出せたということは、"吉"と出たような気がするんだよね。だからこそイメージに残るし、インプットされるんだよ。あれを観た人間は次も観るだろうね。そういう匂いを残したパフォーマンスだったよ。ジリジリしながら次を待ちたいという気持ちだね。「これでいったい、次にどうつながっていくの？」だよ。
――試合の中に「レーザー・ビターン」でセットが破壊されるという、プロレス史上初の凄まじい場面がありましたね。
髙田　あのときのHGの顔がよかったね（笑）。
――「あわわわ……」という（笑）。場内がドッと沸きましたよね。
髙田　『ハッスル』のフィールドであれば、なんでもありだね。初めてUFCが出てきた頃は「こんなこと、人前で許されるのか？」と、私でさえ生理的に受け入れがたかった。単なる街の喧嘩を観ているような。でも、こうしながら（陰から覗き見るジェスチャーで）観ていたいなというのがあったんだよね。結局、『PRIDE』にしたって「どこがやっているの？」「何者なの？」っていうところから始まって、テレビもこっちを向いていなくて、この競技自体が「地上波で放送できるわけがない」って思っていたし、それが当然の見解だったからね。当時は。それがUFCも『PRIDE』もいまでは世間にも世界にも認知されてるでしょ？
――認知されましたね。
髙田　『ハッスル』にしても、あの日のあの打ち出し方と、「レーザー・ビターン」でセットを破壊するということ。これも3年という歳月が環境を作ってきて、ファンやマスコミに対しての洗脳というか、イメージの刷り込みをしながら後退することなく常に前へ進みながら、「これでもか！　これでもか！」と『ハッスル』のコンセプトを打ち出しながらここまで来た結果だよ。エスペランサーが「ドーンッ!!」ってやっても前向きに楽しむ、理解しようとする空気感が会場を支配していた。『ハッスル・マニア』で初めて『ハッスル』に触れた人の記憶、記録の中には確実に『ハッスル』というものが埋め込まれたはずだよ。あとは感性の問題だね。根底から合わない人間はついてこないし、ついてこれないよ。そこをいくら掘ったところで労力を消耗するだけ。無意味だよ。『ハッスル』は、より多くの人間が共有できる、感性に心地よい刺激を与えられる世界を作り続けていくよ。勝つ条件が揃えば、新たな"ジャンル"として化けるだろうね。

「セットが壊れるなんて、2〜3年後には『えっ？　今日はこんなものなの!?』って言われてもおかしくない」

――そうですね。
髙田　そう考えたら、セットが壊れるなんて、2〜3年経ったら「えっ？　今日はこんなものなの!?」と思われてしまうかもしれないよ。アリーナの屋根に穴が空くくらいのことをやって初めて「今日は『ハッスル』らしいな」と言われてもおかしくない。さっき言った総合の歩みを見れば、そうだろ？　いずれにしても「これはいけるな」って確信を得たよ。『ハッスル・マニア2006』でね。
――そういった中で、鈴木みのる選手やチーム3Dのような他団体のリングで活躍しているプロレスラーも『ハッスル』の世界を理解してどんどん足を踏み入れてきています。
髙田　やっぱり『ハッスル』は、よりステージを高くして、「あのステージ、リングに上がりたい」というところまで持っていくことができなければ、やる価値がないと思うんだよね。そういう意味では、徐々にではあるがステージが上がってきていることでプロレスラーにとっての敷居が低くなったんじゃないの。もう一つはコンセプトが明確に確立されつつある中で、入りづらい雰囲気からスムーズに『ハッスル』の世界に入り込みやすくなってきたという現状もあるよ。これは辛抱強く、アグレッシブに、時間をかけてコンセプトを打ち出し続けてきた、その実績の証だと思う。運営側からしても選手側からしても、波長が合えば、相思相愛の形ができるのであれば、これからハッスラーとしての一つのポジション、立ち位置を踏まえてもらって、上がってもらうということは充分にある……っていう話をスタッフから聞いたよ（笑）。
――内部事情に精通していらっしゃるんですね（笑）。UWF以来となる鈴木選手とはお会いしましたか？
髙田　『ハッスル・マニア』の前の後楽園（11月15日『ハッスル・ハウス vol・21』後楽園ホール大会）で挨拶をしたよ。
――久々ですよね？
髙田　久しぶりだね。もう15年くらい経つのかな。
――15年前というと、当時の鈴木選手は若手選手の一人みたいな存在でしたよね。
髙田　そうだね。この世界に入って2〜3年くらいじゃないかな？　ホントに立派になってた。身体も、雰囲気もプロレスラーだね。みのるのキャラが上手に出ているよね、試合にも。"世界一性格の悪い男"というのも、自分の見せ方、見え方をよく理解して打ち出しているよ。
――鈴木選手みたいにすぐに溶け込む選手がいる一方で、最後まで溶け込んでいないのが小川選手だ……というイメージをファンは抱いていると思うんですが？
髙田　う〜ん、どうなんだろうねぇ……。最後、小川選手がたった一人で締めたシーンはかなり長い時間だったでしょ？
――ええ。
髙田　ファンも、一観客としての私の思いも「2007年は小川頼むよ！」と。「おまえがやらなければ誰がやる?!」なんだよ

あの程度の若さとキャリアの選手が、自分で綱を引いてリードできているという感覚
――そうですね。
髙田　今後、「RGのやられる姿が観たい」
ルをもう一度合わせたくなる不思議な衝動に駆られたよ。

ね。来年は小川選手が「3、2、1、ハッスル！　ハッスル！」で「オールOK！」みたいな感じになってもらうのが一番いいんだろうね。その期待感を伝えるのがあの演出だったと思うよ。

――演出的には「あなたしかいない！」と小川さんにすべてを託した感じでしたからね。

高田　それをそのまま観客に伝えたわけでしょ?　「来年は小川直也に乗るか」と。「もう小川直也しかいないじゃないか」と。そういう思いを駆り立てることができた部分もあったし、「?」を持って帰った人間もいるだろうし、たしかに「バッドエンド」で帰った人間もいたと思うよ。いずれにしてもコンセプトとしては明らかにそこを打ち出していた。私は一観客として、来年の『ハッスル』の、あるいはハッスル軍の先頭を切って走っていかなければならないのは小川選手だと思うね。それがうまくスムーズに動いていけば、来年の『ハッスル・エイド』も『ハッスル・マニア』もおもしろいことになると思うね。自由自在だよ。とにかく、来年のテーマは"小川直也のシンカ"だよ。"シンカ"とは、「真価」と「進化」の両方のことね。

――なるほど。2007年の『ハッスル』は"キャプテン・ハッスル"小川直也に注目ですね。さて、ここから話題をガラッと変えて、10月のPRIDEラスベガス大会（10月21日『PRIDE・32』トーマス&マックセンター大会）の話をお聞きします。本部長はラスベガス大会後に「やってきたことは間違いじゃなかった」という言葉を残されていましたね。

高田　そうだね。イベントとしては大成功だったと思うよ。

――凄い盛り上がりでした。

「来年のテーマは『小川直也のシンカ』。『シンカ』とは"真価"と"進化"の両方のこと」

高田　うん。観客の質というのか、エンターテインメントを楽しむ姿勢というのが全然違うよね。それは日本とアメリカ、どっちがいい悪いじゃなくて、楽しむ手法が違うんだよ。文化や国民性の違いがすべてなんだけど、日本の観客というのは、どこか気持ちを正座して観ているというか、凄くありがたいことなんだけど、「特別なものを観るんだ」っていう思いがビンビン伝わってくるんだよね。アメリカの会場の雰囲気というのは「なんでも一緒だ」と(笑)。観たいと思って金を払って着席して「さあ、何を観せてくれるんだ!?」と。そこで展開されるのが、NBAだろうがMLBだろうが『PRIDE』だろうが一緒。「とにかく楽しませてくれ！　勝手にエンジョイするから」と、そういう姿勢なんだよ。だから、選手が観客の求めていることをすると、すぐに歓声になって跳ね返ってくる。逆にノーサンキューな動きをすると、すぐにブーイングになって返ってくるというね。"すべてにおいて、素直に瞬間的にリアクションがある"というのが凄く印象として残ったね。

『ハッスル・マニア2006』のラストを締めた小川直也。「来年の『ハッスル』の先頭を切って走っていかなければならないのは、オーチャンだ!」と本部長も大きな期待を寄せる。

――日本とは別のかたちで、『PRIDE』と凄く相性のいい観客なんじゃないかな?」って思ったんですけど。

高田　相性はいいと思うね。中村（和裕）選手が試合後のコメントで「闘いやすかった」と言っていたけれど、普段どおり、普段以上の力が出せるというか、ファイターというのは普段、ムチャクチャ自分を追い込んで練習して、試合で100パーセントの力を出そうとするけど、それを引き出してくれるような感覚があったと思うんだよね。だから「やりやすかった」となる。「サッカーのホーム&アウェーの有利不利がよくわかった」と言ってた選手もいたよ。「真剣勝負だけど、観客によって攻めも局面によっては多少変わってくる。あそこで一発殴れたのは観客の後押しで殴れた」ってあるんだよ。

――精神にまで作用するくらいの雰囲気だ、と。

高田　ブーイングなんか浴びたくないし、だったら攻める。よりアグレッシブになれるんだろうね。そういう意味では、『PRIDE』とベガスのお客さんというのは、相性が合う。でもね、静寂とピークに達したときの落差を感じる日本の空間というのも素晴らしいと思うからね。会場にあの張り詰めた緊張感を作り出せるのは、「武道の国」日本だからなんだよ。あの空気感を出せるのは日本人の誇りだね。そのコントラストというか、「同じことをやっているのに、日本とアメリカでここまで違うのか?」と。その違いがおもしろいと思ったね。

――本部長自身も英語でリング上から挨拶されました。

高田　凄くやりやすかったね！　毎回やりたいね！

――毎回ですか！（笑）。

高田　アメリカの観客は私が何をしようが気持ちさえ伝わればわかってくれるんだよね。どれだけ私のことを知っている人がいるかわからないけれど、日本の『PRIDE』をアメリカにパッケージで持ってきているわけだから、日本の空気感みたいなものを届けるためなら英語で挨拶するぐらいのことはなんでもない。毎回でもやりたいね。そういう思いはあるよ。

――いま、アメリカでは総合格闘技が凄い盛り上がり見せています。UFCのPPVの契約件数や視聴率がWWEを超えたりしている状況ですが、それについてはいかがですか?

高田　それはやっぱりUFCが生活の中にどれだけ入り込んでいるかっていうのが大きいと思うよ。UFCは13年もアメリカでやり続けている。そう考えたら、その中に肩を入れてグイグイ割り込んで行くには、それだけデカい規模のプロモーションをしないと、いつまで経っても「『PRIDE』って何?　知らない」となる。もちろん、総合を知っている人たちの中では、『PRIDE』が一番評価が高いわけだよ。だけど、アメリカ国内を見ると、一般の人は

『PRIDE』は知らないけどUFCは知っている」と。同じ土俵で勝負するなら、まずはそのレベルまでいかないといけないよね。そこまでいって初めてチョイスされる資格が得られるわけだから。

——まずはUFCと同じくらいの知名度を得ないといけないわけですね。

高田　でも、ラスベガス大会を観た向こうの20代のファンたちが「あのクオリティを見ちゃうと、UFCがB級に見えちゃう」と言っていたからね。ファイト、演出含めて、「スケール感が違う」とね。だから、すべてのクオリティをキープ、あるいは上げながら大規模なプロモーションをしていけば、間違いなくアメリカでもトップエンターテインメントになるイベントなんだよ。

——その一方で、アメリカの団体が豊富な資金源をバックに選手を引き抜こうという動きがあるようですね。

高田　私がもし金があるプロモーターだったら、ミルコはヨダレが出るほどほしい。ヒョードル？　抱きしめてあげたいくらいほしいだろうね。

——抱きしめてあげたい（笑）。

高田　頬ずりしてもいいよ（笑）。それこそ、各階級の世界ナンバーワンたちが『PRIDE』のリングにいるわけだからね。それはこの世界に限らず当然のことで、彼らにそれだけの商品価値があるということだよ。松坂（大輔）投手に入札だけで60億円払う球団があるわけだから。それは、その人の価値だからね。でも、それをやりすぎると、球団がやっていけないという問題も出てくる。

——破綻しちゃいますからね。

高田　諸刃の剣なんだよ。昔、新日本と全日本の外国人選手の引き抜きで、損するのは団体で、得するのはあっち行ったりこっち行ったりする外国人だけだったからね。タイガー・ウッズや（ジネディーヌ・）ジダンやNBAの（シャキール・）オニールがいる中で、そこにエメリヤーエンコ・ヒョードル、ミルコ・クロコップという名前が入っていてもおかしくないくらい、彼らは価値のあることをやっているんだよ。さっき言ったように「最後は選手だけが得する」という環境は良くないけど、その反面、生命を懸けてハイレベルな試合と生き様を見せ続けてくれているわけだから、報酬に関しても本来ならば世界トップクラスのアスリートに並ぶくらいの大役を彼らは果たしていると私は思う。そのためには『PRIDE』はもっとビジネス展開を広めて、豊富な財源を持っていかなければいけないね。サッカーや野球と総合格闘技ではまだ（観る人の）パイが違う。でも、そこまでパイを上げていくクオリティと単純に「おもしろさ」があるわけだからね。まだまだこれからだよ。

たかだ・のぶひこ■1962年4月12日生、神奈川県出身。新日本プロレスでデビュー後、UWF、UWFインターナショナルを経て『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーと対戦した。2002年に現役を引退後はPRIDE統括本部長に就任。リング上での挨拶、PPV放送の解説、その他プロモーション活動で多忙な日々を送っている。

——直近のところでは大晦日に『PRIDE男祭り2006』がありますが、サブタイトルは「FUMETSU」。このサブタイトルがついたことについてはいかがですか？

高田　今年はいろいろあったね。これ以上ない大きな激震をまともにDSEは受けたよ。そんな中でもこの半年間、無差別級GPの決勝があり、ラスベガスにも行ってきた。そして例年どおり『男祭り』へとつなげることができたことに、あらためてファンの皆さんには感謝の思いでいっぱいだよ。ファンの皆さんには多くの心配をかけているので、一年の総締めくくりの『男祭り』というイベントで、「2006年はいろいろありましたけど、皆さんの応援をバックボーンに不滅の『PRIDE』を作り続けていきます」というメッセージを全面に打ち出していきたいと。ファンの中にも、作り手にも、ファイターの中にも、その言葉をインプットしてもらって、思いっきりモチベーションを上げて、思いを込めてやっていこうという来年への道しるべだよ。とにかく記者会見の席で私が吐いた「『PRIDE』は永遠に不滅です」という信念を貫き通すだけです。

——そういう思いを込めて行なう大会の中から、また何かが見えてくるかもしれませんね。

高田　そうだね。何かが見えるとしたら、選手の闘いの中からだよ。そこしかないからね。新しい何かが見い出せるような闘いが一つでも多く展開されるといいね。まあ、大晦日、そして来年の『ハッスル』、期待しようよ！

【06年12月4日／都内・ラフォーレ東京にて収録】〈敬称略〉

なぜか評価が急上昇!?

“男の仕事”を語る!!

連載コラム終了記念インタビュー

RG

『ハッスル・マニア2006』で“世界一性格の悪い男”鈴木みのるにボコボコにされながらも生還したRGの評価がなぜか高まっている。自身の連載コラム打ち切りの噂を聞きつけて本誌編集部に乗り込んできたRGは、本誌“前”非常勤編集長・山口日昇の部屋を乗っ取って(なぜだ!)、聞いてもいないのに熱い思いを一方的にぶちまけていったのだった。お笑い芸人でありながら試合で高い評価を受けるRGの主張を聞け!

聞き手・構成／坂井ノブ　撮影／丸山剛史　写真提供／DSE　designed by matsu (TwoThree)

——最近なぜか一部ファンのあいだで評価が高まりつつあるという……。

RG　(さえぎって) ホントですか⁉

——という噂ですけど (笑)。そんなRGさんにお話をうかがいたいと思います。まずは『ハッスル・マニア』を振り返ってみていかがでしたか?

RG　オープニングは〝妖精さん〟に歓声を持っていかれましたね。あそこはボクの持ち場なんで正直言って悔しかったです。気持ちを切り替えて「試合で頑張ろう」と思ったんですが……それも無理でした。

——まあ、そうでしょう (笑)。

RG　元〝相手の光を消す男〟の鈴木みのるさんが相手ですからね。ボクの光も消されるかなと思ったんですけど。

——いや、むしろ光ってましたよ。10月シリーズで対戦したハッスル・ハードコア・ブラザーズ (金村キンタロー&田中将斗&黒田哲広)、11月シリーズで対戦したチーム3Dと鈴木みのる、どの試合も素晴らしいやられっぷりでした。

RG　まあ、新しいプロレスの道しるべになるかなと思います (自信満々の態度で)。

——道しるべ⁉ プロレス界をどっちに導こうとしてるんですか (笑)。でも、実際「RGの〝受け〟が凄い」とか「これぞ〝受けの美学〟」みたいな声がかなり多いです。

RG　正直に言うとホントに痛いんです!

——そりゃ痛いでしょう (笑)。ババ・レイのチョップ、鈴木みのるの張り手、金村キンタローの凶器攻撃、いずれの技もプロレス界で一番の使い手ですから。

RG　ボクはホントにまったく鍛えてないから、もの凄く痛くて死の恐怖すら感じましたよ。オープニングだけ出るときはさほど出番前に緊張しないですけど、試合をするときだけはホントに緊張するんですよ。

——以前は出番前のバックステージでレスラーにいじられてましたよね (笑)。

RG　そうですねぇ。この一年間、バックステージでボコボコにされてきたかいがありましたねぇ (しみじみ)。事情を知らない読者の方に説明すると、お客さんが観てないところでババ・レイにチョップされたり、坂田 (亘) さんに蹴られたり、金村 (キンタロー) さんにタバコを投げつけられたりしてたんですよね……。

——プロレス界の〝かわいがり〟みたいなものですよね。RGさんはあらゆる攻撃を受けまくってて、そのやられっぷりで周囲の人は笑ってたという (笑)。

RG　正直言うと6月の『ハッスル・エイド』が終わったあたりで、「……もう会場に

行きたくないなあ」っていう時期があったんですけど、ボクが期待されてるのはそうやって受けまくることでみんなが笑ってバックステージの空気を良くすることなのかなという使命感だけで会場に行ってましたよ……（自分に言い聞かせるように）。

──いま、イジメは社会問題になってます。

RG　でもね、人間界でも最も過酷なイジメをする人が集う業界で、一年間にわたって最先端のイジメを受けてきたボクが、いまこそ声を大にして言いたい！「イジメに負けるな！　俺を見ろ！」と。

──イジメに負けるな！　俺を見ろ！

RG　殴られたこと、パシリに行かされたこと、けなされたこと、出番直前にコスチュームを隠されたこと……なんで30歳を過ぎてこんなにイジメられてるんだろうなって思いましたよ（しみじみと）。

──たしかに……。

RG　でも、それが笑いにつながるときが来るんです。みんなが笑ってくれるなら、ボクもそれは本望ですから。3Dもさんざんひどいことをしたあとに「You are warrior!!」って言ってくれるんですよ。そういう言葉を聞くとジーンとしますよね。

──いい話ですねぇ。10月シリーズで初めて試合らしい試合をやったわけですけどバックステージのノリとは全然違いますよね？

RG　違いますね。ボコボコにされるのは、その延長線上ですけど、雰囲気は全然違うし、リングでは何が起こるかわからない、最悪の場合は死んでしまうかもしれないという恐怖は常にあります。しかも相手がハードコア・ブラザーズでしたから。あの試合はイジメられっ子が壮絶にやられるっていう試合でしたよね。

──でも、RGさんの場合は単なるイジメられっ子ではないでしょう。観客のヒートをさんざん買ってるわけですからね（笑）。

RG　だから観客の皆さんは、ボクがやられてる姿でウップンが晴れて気持ちよく笑ってたんだと思うんですけど。

──そのとおりです。

RG　「帰れ！」コールは『ハッスル』の会場だけだったんですけど、最近はお笑いの会場でも起こるようになってるんですよ。

──そうなんですか（笑）。

RG　縁日で鬼にボールを当ててスカッとするような、みんなそんな感情になってるんじゃないですか。だいたいボクは一般人ですよ？　シロウトがレスラーにボコボコにされるのを観て、お客さんはなんでそんなにスッキリしてるんですか。

いまこそ声を大にして言いたい！　イジメに負けるな！　俺を見ろ！

──さんざん人に嫌われたり、寒いギャグを連発してきた"ダメ"が効いてますよね。同じくどシロウトの海川（ひとみ）さんが（ジャイアント・）バボさんにボコボコにされてる姿はかなり壮絶な絵で、お客さんも多少引いてましたから。

RG　ボクの場合はお客さんが「もっとやれ！」って感じじゃないですか。

──海川さんも素晴らしいですけど、RGさんがやられてるときの顔と受け身も素晴らしいですよ。相手におびえてるのにいきなり目潰ししたりとか、リック・フレアーばりの狡猾なインサイド・ワークも使いこなすからさらに驚きました。

RG　（うれしそうに）あ、リック・フレアーと比較していただけるんですか？

──いや、それは言いすぎました（淡々と）。

RG　まあ、でもいままで観てきたプロレスが試合に反映されてるのかもしれません。フレアー、馳浩、トリプルHに共通する"受けの美学"ですよ。攻め込まれていながら最後に逆転するという、あの闘い方がヒントになってますね。

──RGさんは逆転してないですよね。

RG　（無視して）いままで好きでプロレスを観てきた積み重ねはリングに出ますね（しみじみ）。ボクが言うのもおかしいですけど、リングの上で嘘はつけないです。いろんな芸能人の方が『ハッスル』に参戦してますけど、「プロレスをどれだけ観てきたか？　どれだけ好きか？」をリングはすぐに暴露してしまう、という怖さはありますよね。

──いや、でもホントそうですね。やられてるときの表情も素晴らしいですよ。映画『ナチョ・リブレ』で、主演のジャック・ブラックが顔芸を連発するんですけど、あれが一瞬、頭をよぎりました。

RG　アメリカのハリウッドスターは表情一つで笑いを取れるわけですよ。ジム・キャリーなんかもそうでしょ？　ボクもその域まできたかなって感じですね。

──いや、そこまでほめてはいないです。

RG　（気にせず）RGをやり続けて一つわかったことがあるんです。「かいてかいて恥かいて　裸になったら見えてくる　本当の自分」っていう（アントニオ）猪木さんの詩の意味がやっとわかるようになったんですよ！　それまでのボクは「かっこよく見られたい」って髪を伸ばしてみたり、お腹の毛を剃ったりしてたんですけど。

──そんなことしてたんですか。

RG　RGになってからは髪型は坊主頭で、体毛は生やしっぱなし、食べものの節制もせず、欲望にブレーキをかけずにここまできたんです。それでやっと見えてきたのが、自

『ハッスル・マニア2006』でRGは"GMW"坂田亘、崔領二と組んで鈴木みのる、NOSAWA論外、MAZADAと対戦した。坂田のサポートを得て汚いケツを三冠王者顔に押しつけるという暴挙に出たが、きっちり絞め落とされてしまった。気をつけの体勢のままぶっ倒れて喝采を浴びた。

分はこういう人間なんだってことです。
――「等身大の自分イコールＲＧ」ですか。
ＲＧ　そうですね。ＨＧにしても、あのキャラクターに頑固なまでにやり通して自分を同化させるところまでいったからこそ世間に届いた思うんです。ロバート・デ・ニーロなんかは役によっては体重を増やしたり減らしたりして自分を変えて役に同化していくじゃないですか？　ボクもようやくその域に達したかなと思いますね。
――ＲＧさん、減量してないでしょう？
ＲＧ　まあ、そうですけど「ＲＧとはこういうものだ」というところに出渕誠を追い詰めていくうちに、この体型になったわけですから。そういう意味ではデニーロと同じですよ。
――（首をひねり）同じかなぁ……。
ＲＧ　今日、いい話をしてるでしょ？　講演の依頼とか来ないかなぁ。ボクは肉体的なイジメはプロレス業界で受けて、精神的なイジメは芸能界で受けてきたわけです。最も狡猾で高度なイジメをする人たちの集まりの中で生き残ってきたわけですから。
――芸能界はどんなことするんですか？
ＲＧ　もの凄いお偉いさんの前で「はい、おもしろいことお願いします」っていきなり言われたり、「あそこのシロウトを笑わせてこい」っていうのだったり。そういうムチャな場面をくぐり抜けていく中で生まれてきたのがＲＧダンスであり、おジャーマンスープレックスなんです。だからギャグたちが凄くいいとおしい！

『ハッスル・マニア』を前に江ノ島に繰り出したRGは赤フン一丁で座禅を組み、ヒクソンのごとく大自然と一体化！　これも“男の仕事”だ。　©東京スポーツ新聞社

――ギャグたちがいとおしい！（笑）。
ＲＧ　『エイド』のオープニングで一万人の「帰れ！」コールを受けたとき、とっさにＲＧダンスを踊ったんですけど、あれも頭で考えたんじゃなくて、ＲＧダンスというギャグが勝手に動いていったんです。
――見えない力が動かしてたんですか。
ＲＧ　映画『スター・ウォーズ』で“フォース”を感じるっていう場面がよく出てきますけど、ボクも“お笑いフォース”を感じる瞬間が最近よくありますね。
――お笑いフォース！（笑）。でも、フォースも行きすぎるとダークサイドに落ちてしまいますからね。
ＲＧ　それでダークサイドに落ちたのは10月の大阪大会のオープニングですね。
――たしかに、あのときはＲＧさんのトークで観客がドン引きして大会全体に暗い影を落としてましたね（笑）。
ＲＧ　気をつけないといけないですね。そういえば、こないだ吉本の渋谷の劇場に出演したとき、背後にいままで出演したタレントさんの色紙がバーッと飾ってあるんですけど、ボクが話すたびに色紙が落ちるという怪現象が起きたんですよ！
――それもフォースの力ですか（笑）。
ＲＧ　なぜかピン芸人の色紙ばかり落ちたんですけど。わけのわからない力がボクの周りで働いてるんですよねぇ。
――そういえば、最近、外車を買ったら、その会社が日本から撤退したんですよね？
ＲＧ　そうなんですよ。買った途端にＯＰＥＬが日本を撤退してしまったんです。ひょっとしたら、今年フジテレビが撤退したのも当時のＧＭだったボクのせいかも……。
――あり得ない話じゃないですね。あと、ＲＧさんが『ハッスル』の現場で仕事すると必ずと言っていいほど雨が降るじゃない

連載終了でRGが『kamipro』編集部に抗議の殴り込み!?

インタビュー中はお茶を要求。編集部見習いの辻ちゃんにマッサージを強要するなど、連載が終わるのをいいことに悪態をつきまくった。

編集部・松下を見つけると「ヨゥ！　ヨゥ！　ヨゥ！　なんで終了なんですか？　ギャグ100連発とかやりますヨゥ」と詰め寄るがスルーされる。

連載終了に抗議＆新連載を直訴すべくRGダンスで編集部に移動する。だが、この日はK-1東京ドーム大会のため担当が不在！

“男の仕事”をひとしきり熱く語ったあとは退屈したのか、雑然とした社長室の中からフィギュアを見つけて遊び始める。

ですか?（笑）。
RG　あれも不思議ですよねぇ。世界中の負の力がボクを中心に回ってるんじゃないかと思うぐらい、ひどいことになってますから。『デスノート』みたいでしょ?
――根本敬先生が『電氣菩薩』（径書房）で書いた蛭子能収さんの話みたいになってきましたね。
RG　恐ろしいことに、ボクは蛭子能収さんに顔が似てるってよく言われるんです。うわぁ……いま、いろんなものが全部つながった!!
――まさにRGの呪いですね……RGさんを補佐官として雇ったおかげで"GMW"坂田亘さんが今回は選挙公約の「えい子参戦」を果たせないんじゃないかと思ってましたけど、そこだけはRGの呪いも通用しませんでしたね。
RG　ボクが近くにいるということでRGの呪い……というかRGウィルスに対する抗体が坂田さんの中にも生まれたと思うんです。「RGがいるからヤバいな」と危機感を抱いたからこそ、"妖精さん"をブッキングできたんじゃないかと思います。
――"妖精さん"のブッキングはストーリーでもなんでもなくて、"GMW"の交渉手腕のおかげですよね。
RG　そうです。RGウィルスは負の力を撒き散らしますけど、それに気づいてる人の中で抗体の成長を促すという側面もありますね。だから、自分では必要悪なのかなと思ってますけどね。
――他人事みたいだなぁ（笑）。
RG　"妖精さん"が出てきたときは不覚にもウルっとしました。最近、よく感動するんですよ。『kamipro』前号の佐藤大輔さんのインタビューを読んだときも泣きましたからねぇ。
――あのインタビューは反響が大きいですけど、RGさんにも届きましたか。
RG　「自分じゃないといけない」という仕事のために、大きな収入を捨ててまでフジテレビを飛び出すという佐藤さんの心意気に心を打たれました。あと佐藤さんが中継の担当をしていたF1でホンダが優勝したときに若いスタッフが日の丸の下でオイオイ泣いたっていう話も「これが"男の仕事"だなぁ」と思いましたから。
――いい話ですよね。
RG　最近、恋愛映画でお涙頂戴的なのが流行ってますけど、そういうんじゃないんです。熱くて泣いてしまう"男の仕事"をボクもやってみたいんです！　フジテレビの一件があった中で、本人たちの意思に反して切り離されてしまったのに、また戻ってくるという……こうやって話してるだけで泣きそうになりますけどね（涙ぐむ）。
――あの、お涙頂戴的になりそうなので、そろそろ終わりたいんですけど……。
RG　（無視して）でも、それに負けないぐらい『ハッスル』の現場も熱いですよ！　こういう場に参加させてもらって、ホントに感謝してます。試合にも出させてもらうようになって、プロレスラーの凄さ、強さを身をもって体験できますし、それによってお客さんと一体になる……素晴らしいですよね……（しつこく涙ぐむ）。
――……あの、涙が出てないんですけど。
RG　（無視して）ホントねぇ……"男の仕事"がしたいんですよぉ！　『マニア』の打ち上げの席でも高田本部長に「グッジョブ」と声をかけていただいたんですけど、「グッジョブ」という言葉の重さを初めて知りました。
――熱さに飢えてるんですね。
RG　HGはいまFED（闘いに関する不感症）になっちゃいましたが、3月に我々の単独お笑いライブがありますから。そっちでも熱くなりますヨゥ！
――HGさんは大丈夫なんですか?
RG　日常生活に支障ないぐらいまでには回復してます。ただ、FEDになったせいなのかボクに対して少し優しくなりましたね。最近は別々で活動することが多かったんですけど、もう一度、一緒に熱くなりたいですね。とにかく"男の仕事"です。だから『kamipro』さんでも熱い仕事があったらボクに振ってください！
――そんな燃えてるときに残念なお知らせなんですけど……じつはRGさんの連載コラムが今回で打ち切りなんですよ。
RG　ヨゥヨゥヨゥ！　ちょっと待ってくださいヨゥ！　熱いコラム書きますから！　一緒に熱くなりましょうヨゥ！
――いままでありがとうございました。
RG　ヨゥ！　ちょっと待ってヨゥ！
【06年12月2日／『kamipro』編集部にて収録】

世界最高のタッグ、チーム3Dを前に命乞いをするRG。シロウトがこんな状況に追い込まれたら泣いて謝るしかない。ババ・レイの強烈なチョップ一発でRGの背中の皮膚は裂け、指紋が残るほど強烈な手形が残っていた。RGが「死の恐怖」を訴えるのも無理はない。

熱くて泣いてしまうような"男の仕事"をボクもしたいんです！

場外で机にセットされてコーナーから金村キンタローがダイブ！　机もろとも真っ二つになったRG。こんな芸人いない！

見よ、このプロ根性！

所属事務所の先輩である眞鍋かをりの“妹分”として『ハッスル』に登場し、ついにデビューしてしまったグラビアアイドル・海川ひとみ。1対3のハンディキャップ戦でジャイアント・バボに挑んだが、ボロボロにやられた上に鼻骨骨折の重傷まで負って惨敗を喫してしまった。試合後はプロレスファンの野次にさらされた海川だが、その一方でやられる際の表情と声は非常に評価が高く、再登場を望む声も多い。賛否両論の渦を巻き起こしたその当事者に話を聞き、さらにkamipro女子部（そんなものあるのか？）代表ささきぃによる考察も加えて、多角的に海川のデビュー戦に迫る！

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄　designed by matsu（TwoThree）

診断書

氏名 海川ひとみ 殿

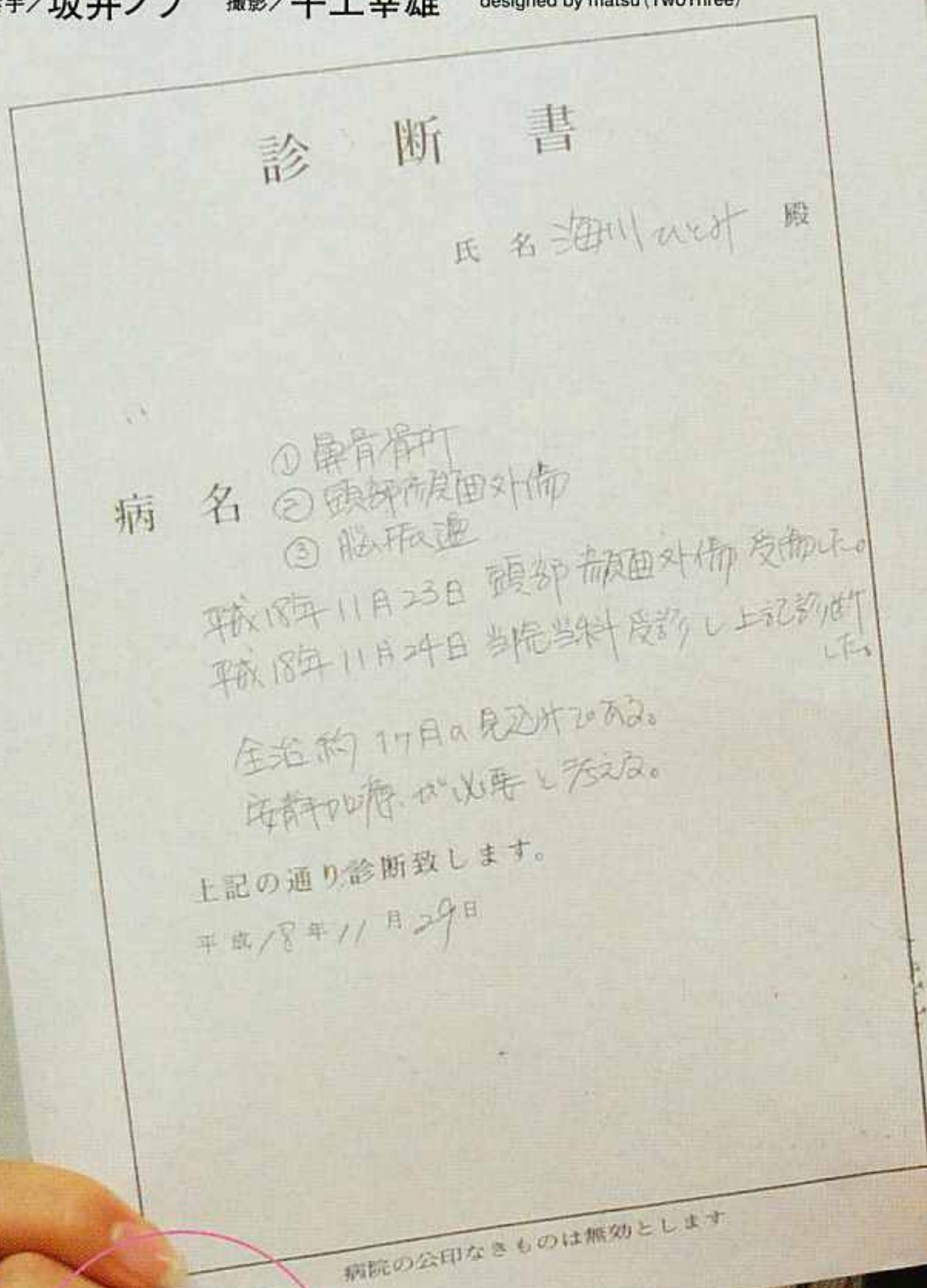
病名 ①鼻骨骨折 ②頭部顔面外傷 ③脳振盪

平成18年11月23日 頭部顔面外傷受傷した。
平成18年11月24日 当院当科受診し上記診断した。

全治約1ヶ月の見込みである。
安静加療が必要と考える。

上記の通り診断致します。

平成18年11月29日

病院の公印なきものは無効とします

鼻骨が折れても ハッスルする グラビアアイドル

海川ひとみ

「生半可な気持ちではないです。ケガをすることも覚悟はしてました」

壮絶デビュー戦を振り返る！ 海川ひとみミニ・インタビュー

――デビュー戦が終わってみていかがですか？

海川 凄い嵐が過ぎ去ったような感じですね。

――海川さんのやられっぷりがとてもよかったと思います。実際、そういう声も多いですよ。

海川 ありがとうございます（笑）。……って言っちゃっていいんですかね？ じつは私、試合途中で失神して記憶がなくなって、悔しいって感情以外はあまり覚えてないんです。ボディスラムをかけられた直後から記憶がなくて。

――試合中に鼻が折れていたそうですが。

海川 はい、ビックリしました。試合中は興奮していたんでわからなかったんですけど、控室に戻ったら顔面全体が痛くて。試合中も鼻血が出てたんです。お医者さんで診てもらったら折れてました。

――アイドルにとって顔は命ですよね。

海川 そうですね（苦笑）。でも、自分で「やる！」と決めたことですから！（キッパリ）。先輩の眞鍋（かをり）さんも「いろんなことを覚悟してやらなきゃダメだよ」とおっしゃっていましたし、生半可な気持ちでリングに上がったわけではないです。ケガすることも覚悟はしてました。やらせていただけるのなら、これからも『ハッスル』のリングで闘い続けたいです。

――観客から「プロレスをなめるな！」という声も飛んでましたけど。

海川 あ、それはしっかり覚えてます（笑）。プロレスを愛してらっしゃるファンの方にも認めてもらえるように、頑張ってたくさん練習したいと思います。

――この経験がアイドル・海川ひとみにどのようにフィードバックされていくんでしょうか？

海川 『ハッスル』に出たことで根性がつきましたね。怖いこととか痛いことは大嫌いだったんで、いままではそういうのを避けてたんです。

――アイドルで痛い仕事や怖い仕事なんてないでしょうからね。

海川 はい。みんなに愛されて、かわいがられてここまで来たんですけど（笑）。精神的にも肉体的にも強いアイドルになれますね。『ハッスル』で根性がついたから相乗効果で、ほかのお仕事もうまくいくようになった、というふうになりたいです。

“女の子黒帯”海川ひとみのデビュー戦を評価せよ！

文／ささきぃ（女の子白帯）

海川ひとみのデビュー戦は、彼女が「かわいい女の子」であるということ抜きには語れない。彼女の「ハッスル」参戦を、単なる芸能人のデビュー戦として観ていては、関係者の絶賛と会場の反発は理解できないだろう。あの試合は「かわいい」ということは特技であり才能であると同時に、究めれば武器になる一つの「道」でもあるということを示した、貴重な闘いである。

単なる試合として観たら、とても「難しい」内容だった。会場からは「プロレスをなめるな！」という声もあがったし、プロレスの試合として観たら「〝ダメなプロレスラー〟って言われるような人でもそれなりにすごいんだな」と思わざるを得ない内容だったと思うけれど、関係者や一部の観客は「あの受けっぷりはさすがだった」「あの子は本当に頑張った」「表情や声がいい」と、高い評価をしている。

「頑張る」なんて当たり前のことで、そんなこと評価するのがおかしいし「やられっぷりが良かった」なんて、弱くてやり返せないのが悪いんだからそんなことをほめるのもくだらないのだけど、彼女においては「頑張った」ことと「やられっぷり」がポイント加算される。それは本業がプロレスラーではないから、アイドルとしての参戦だから、であることにくわえ、何よりも海川ひとみが「かわいい女の子」であるからだと思う。

ジャイアント・バボの前に突進し、投げられ、泣きながらも闘い抜いた彼女を見ていて、私は「かわいい子というのは、何をやっていてもかわいいのだなぁ」としみじみ思ってしまった。バカみたいな感想だが「いつ何時でもかわいい」というのは、相当なかわいさの実力がないと成立しえない。ネックハンキング・ツリーで持ち上げられ、ストンピングを受け、怒りを見せ、髪をつかんで振り回されて失神しながらも「かわいくあり続ける」ということは偉業である。

「かわいい女の子」は、そこにいるだけで人を注目させるし、価値がある。「かわいい女の子」というのは、見かけ、話し方、立ち居振る舞いのすべてを駆使して完成される。もともとの素質に加え、外見に細心の注意を払い、しぐさに気をつけ、相手の心理を測る。もしくは、そのすべてを天性の素質で執り行なう。だとしたら、それはもう茶道や華道、もっと言えば柔道や空手などと変わりのない、一つの「道」ではないだろうか。

空手や柔道で黒帯を取った人なら、プロレスにおいて「空手の達人」という肩書きで、ぎこちなさがあったとしてもそれを活かした試合ができる。「女の子黒帯」である海川ひとみは、女の子の達人として、ぎこちなさがあったとしてもそれを活かした試合ができる。海川は「かわいい女の子」であることにおいて、達人であり黒帯である。普通の世界の中にいて相当にかわいかったために、アイドルという、高い実力を持つ者だけに許される「プロの道」に進み、その極意を身につけているのだ。

海川の試合を普通のプロレスラーがやる試合と同じ目線で観たら成立しない。あれは「女の子の達人」がプロレスに挑戦して、いかに「かわいい」ことが人の目をひきつけるか、武器になるかということを見せつけた試合である。あの内容に首をかしげたり「プロレスをなめてる」と感じた人は、アイドルがどこまでプロレスラーになれるのかを測ったのだろう。無理な注文だし、彼女はそもそもプロレスラーになろうとしたわけではない。あくまで「かわいい女の子」として、プロレスに挑んだのだ。

そして、空手の達人や柔道の達人は何人かプロレス界にいるが、女の子の達人はプロレス界にとても少ない。というか、ほとんどいない。

ほとんどいないうえ、プロレス界は、関係者もファンも「女の子」や「女の子らしさ」に飢えている。そんな中に、アイドルという海千山千の業界で、女の子の道を究めた達人＝海川ひとみの登場である。そんな状況下で女の子のよいところを存分に発揮して周囲からの評価を得ることなど、黒帯の柔術家がシロウトを極めるよりたやすいだろう。

彼女のインタビューに立ち会わせてもらって、ナマの「海川ひとみ」に接触させてもらったが、たいした女の子だった。プロレスラーが有無をいわせぬ迫力をもって、シロウトにうかつな質問をさせないように、彼女の「かわいさ」が「意地悪な質問」をさせる隙を与えさせないのだ。

その上で「試合中、記憶が飛んでしまっていてほとんど覚えていない」という発言と、鼻骨を骨折していたという衝撃。鼻骨骨折という、アイドルとしては致命的とも言えるケガによって、彼女の闘いは「おしごと」の域を逸脱した。記憶がないことと「おしごと」としてやらされていることにしては自分の大事な商売道具である鼻を骨折するほどにやりすぎたこと、その二つによって、さらに彼女は自分の価値を無意識にしても高めているのである。

「だまされていた」と思う男性や「女の武器を使ってるみたいで、ずるい」と思う女性がいるとしたら、私は逆に「あなたは、空手の達人や柔道の達人、茶道の師範などを、一つの道を究めた人としてリスペクトしないんですか？」と聞きたい。私は性別でいえば彼女と同じだが、自分が彼女と同じことをやったからといって、彼女ほどに見ている人を満足させられるとは到底思えない。ルックスも立ち居振る舞いも何もかも、女の子としての実力が本当に違う。31歳になる私にとって、かつての自分を表現する単語のひとつでしかなかった「女の子」は、突き詰めるとこれほどまでに奥深いものであるとは思わなかった。

女の子の道を究めた海川ひとみは、他の道の達人と同じように敬われるべきだと思うし、私は彼女のかわいさを尊敬する。海川ひとみのデビュー戦は、どこまで彼女がプロレスラーになれたかを測っても意味がない。ただ単に彼女の闘いぶりの中で存分に発揮されたかわいさ、その使い手である彼女の「女の子の達人」ぶりを評価すべきなのである。

過酷度、続行ーッ!!
“お笑いウルトラ”の魂はFUMETSUです！

第20回 ビートたけしの OPENING CEREMONY

世界平和

これが理想のプロレスだ!!

大特集

大晦日よりも元旦が危ない!!

ビートたけしのお笑いウルトラクイズ!!

2007年元旦 よる8:00～11:30放送（日本テレビ系）

危険度＆過酷度、続行ーッ！　あの伝説のバラエティ番組、『お笑いウルトラクイズ』がついに僕らの前に帰ってきた！　この快挙になぜか『kamipro』がカラー7ページ特集！　リアクション芸人の集大成を見よ！

文・構成／橋本宗洋、真下義之　写真協力／日本テレビ

designed by Tani-yan（Two Three）

人生に"土足で踏み込む"勇気と覚悟!!
リアル・ストロングスタイル・バラエティ大復活!!

大特集
これが理想のプロレスだ!!
大晦日よりも元旦が危ない!!
ビートたけしのお笑いウルトラクイズ!!

ショッキングな話題が多かった2006年のマット界だが、本年最終号の編集期間中にとてつもない朗報がやってきた。

『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』復活！

いまさら言うまでもないことだが、『お笑いウルトラクイズ』は日本テレビ系列で89年から96年にかけ、放送されたスペシャル番組シリーズ。内容はといえば、クイズというのは単なる枠組み、あるいは方便でしかなく、要はいかに芸人たちがムチャをやるか？ というリアクション芸の集大成にして、極北なのである。

芸人たちは、自動車のボンネットにくくりつけられたままバスの横っ腹をブチ抜いて疾走し（その直後、バスは大爆発）、戦車の砲撃で吹き飛ばされ、身体一つ入るのがやっとの細いトンネルでワニと向かい合う。緊張感はどこまでも高く、しかし徹底的にくだらなく、視聴者はその異様なテンションゆえに身体が引きつるほど爆笑させられる。

この番組の出演オファーは芸人たちのステータスであると同時に"赤紙"と呼ばれもした。その過激さ、笑いのもたらす爆発力はテレビ史上に残るものであったと断言できる。いや、むしろ究極のエンターテインメントというべきか？ 笑い、爆破、カーアクション、お色気、格闘、パニック、恐怖、スペクタクル、涙、ハプニング性、そして全裸。これらの要素をすべて、しかもハイレベルかつ巨大スケールで満たしたものなど、ハリウッドにもないはずだ。

そんな『お笑いウルトラクイズ』の復活を、なぜ『kamipro』が取り上げるのか？ それは……やりたいからやるんですよ！ ま、我々がこの番組に"理想のプロレス"を感じるからでもある。まずはプロレスを"一定のフォーマットに則って技を出し合い、闘いを表現し観客を楽しませるもの"と定義してみよう。

この定義における"技"を"ギャグ"あるいは"お約束"に、"闘い"を"お笑い"に変換すれば、そのまま『お笑いウルトラクイズ』だ。危険なクイズに挑む芸人たちの"そこまでやるか！"感は、NOAHのそれをはるかに先取りしていた。ダンカンいわく「命を落とす寸前くらいのことはやってるからね」。ダチョウ倶楽部の肥後（克広）は「オンエアできる範囲のケガは、最高のケガ」と言う。

しかも、である。最近のプロレスはフォーマット内の完成度を高める方向にばかり走っている感じがするのだが、『お笑いウルトラクイズ』においてはフォーマットを逸脱した、そこまでやっちゃったらフォーマットが壊れるんじゃないか？ という瞬間が頻発するのである。いま、プロレス界ではほとんどの選手が"プロレスラーとしてのキャラクターと技量"を競い合っている。だが『お笑いウルトラクイズ』の芸人たちはキャラクターと技量のみならず、全人格を笑いのために捧げ、互いの人生に土足で踏み込み合うことで笑いを生み出してきたのだ。

高層ビルの屋上から（当然ながら、わざと答えを間違えて）バンジージ

「殺す気か！」と上島竜平の絶叫が聞こえてこそうなこのクイズは『凍死寸前ロウがけダジャレクイズ！』。マイナス10℃の特製冷凍庫の前で、林葉直子の講演タイムが続く中、冷えきった身体の上にロウが！

「ひどいよ！」と出川哲朗がお約束で挑むのは『決死のセレブランチ！　人間ロケットマナークイズ!!』"芸能界のセレブ"神田うのとのランチのあと、マナーを間違えると逆バンジー！

今回の司会陣、たけしはもちろん、東野幸司＆野沢直子と"いいトコついてる"人選にマニアもニヤリ。さらにスイカの被りをモノ着用した（いろんな意味で話題の）山本モナも登場！

ャンプしたダンカンは、じつは高所恐怖症だった。ガダルカナル・タカは共演した女優タレントを「女性にいきなりこんなこと聞くのもへんだけどさ……最近やってる？」と口説く様子を姉に見られ、ダチョウ倶楽部はメンバー同士で「嫁が整形してます！」「熟女クラブばっかり行ってるんです！」と暴露し合う。さらにダチョウ・上島（竜兵）は水車に磔にされて過去の浮気を洗いざらい白状し、それを彼女が見ていることに気づくと、真っ青な顔のままこう言ってのけた。

「これでオレのこと嫌いになったんなら別れてもいい。でも……最後に一回だけヤらせてくれ！」

そこまで踏み込むのか!?　と観る者を畏れさせる世界。「こんなお笑いをやっていたら、10年もつ芸人生命が3年で終わってしまう」笑いのストロングスタイルが『お笑いウルトラクイズ』なのだ。

11年ぶりの復活となる今回、ファンのあいだでは"放送倫理のうるさいいまのテレビで、どこまで過激なことができるのか？"と不安の声も飛びかっている。だが、入手した企画内容を読む限り『〇×爆破』、『人間ロケット』、『粘着』などツボはきっちり押さえている模様。

話題の山本モナの復帰はもちろん、司会の一人が野沢直子、ゲストに林葉直子というのも"やっぱわかってる！"であろう。広報担当者によれば「安全面に関しては充分に配慮し、予算をかけています」とのこと（収録現場には"アクシデント"の瞬間を狙った多数のパパラッチが身を潜めていたという）。それは「いままで同様のスケールを維持し、ヌルくさせないため」であるはずだ。

期待感は、もはや暴発寸前！　ビートたけしは番組復活にあたり「"おトソ飲んでこんなくだらない番組を観ていられるなんて、なんて幸せなんだろう"ってことだよね」とのコメントを寄せているが、それは復活を待ちわびた我々の気持ちにピタリと重なり合う。

あらためて思うのは「大晦日格闘技ブームは、『お笑いウルトラクイズ』のないあいだに起こったものなんだよな」ということだ。"闘い"と"プロ意識"という点において、『お笑いウルトラクイズ』はK－1にも『PRIDE』にも劣らない。そんな番組が24時間後に控えているとなれば、大晦日格闘技の"余韻の賞味期限"は著しく早まってしまうのではないか？　そう、『男祭り』と『Dynamite!!』がライバル関係なのではなく、両大会共通にして最強の敵が『お笑いウルトラクイズ』なのである。

歴代優勝者

回	優勝者（日付）
第１回	林家ペー（1989年1月2日）
第２回	ジミー大西（1990年1月1日）
第３回	桜金造（1990年4月1日）
第４回	ガダルカナル・タカ（1990年9月30日）
第５回	ラッシャー板前（1991年1月1日）
第６回	井手らっきょ（1991年4月6日）
第７回	上島竜兵（1991年9月30日）
第８回	ラッシャー板前（1992年1月1日）
第９回	松村邦洋、中村有志（1992年4月4日）
第10回	ダンカン（1992年10月16日）
第11回	ダチョウ倶楽部（1993年1月1日）
第12回	井手らっきょ（1993年4月10日）
第13回	出川哲朗（1993年10月16日）
第14回	該当者なし（1994年1月1日）
第15回	該当者なし（1994年4月8日）
第16回	該当者なし（1994年12月30日）
第17回	広川ひかる（1995年10月05日）
第18回	上島竜兵（1996年1月1日）
第19回	井手らっきょ（1996年4月6日）

今回の出演者（順不同）

ガタルカナル・タカ／井手らっきょ／ダンカン／つまみ枝豆／グレート義太夫／ダチョウ倶楽部／松村邦洋／出川哲朗／林家ペー・パー子／安田大サーカス／森三中／インリン・オブ・ジョイトイ／モンキッキー／三又忠久／お宮の松／レギュラー／フットボールアワー／内山信二／ペナルティ／TIM／ボビー・オロゴン／ゆうたろう／レイザーラモンHG・RG／猫ひろし／原口あきまさ／はなわ／まちゃまちゃ／ザ・たっち／神無月／スピードワゴン／宮川大輔／パッション屋良／ホリ／波田陽区／アメリカザリガニ

ゲスト出演

江守徹／真島茂樹／中尾彬／神田うの／林葉直子／蝶野正洋／マーク・コールマン／ジャイアント・バーナード

「やれんのか?」

これぞ究極のヤラレ芸!! “お笑い超人伝説”プレイバック!

芸人満載バスが水没! 危険度最高峰の大傑作

過激度、危険度が最高値をマークしたのが『バス吊り下げアップダウンクイズ』(第9回)。芸人を満載したバスがクレーンで吊り下げられ、漁師さえ船を出さない大シケの海に水没! 本気で恐慌状態に陥る芸人たちのパニックぶりと壮大なスケールは、完全に映画『タイタニック』も超えてるって! そんな修羅場に鳴り響く、たけしの「私も鬼じゃありません。さて問題です」……。

アメリカ軍全面協力 ○×爆破クイズ!!

クイズに○×で答えるのは本家『ウルトラクイズ』でもおなじみだったが、『お笑いウルトラ』はここまでやる! 単なる(ってそれでも無茶だが)爆破からバズーカ、ロケットランチャーと進化し、ついには戦車、戦闘ヘリ、地対空ミサイルまで登場。その大規模ぶりと徹底したくだらなさはいまなお燦然と輝く。ちなみに第14回までの最多被爆記録はガダルカナル・タカが保持。

超定番! 粘着地獄にはあえて顔から飛び込め!!

『お笑いウルトラクイズ』の超定番といえるのが粘着。粘着アップダウンクイズ、粘着大相撲、格闘技クイズの罰ゲームなどさまざまなバリエーションで登場した。ハエとり紙に使用される強力な粘着液は洗い落としに二時間を要し、そのあとのクイズに参加できなくなるデメリットがあったが、それでも芸人たちはあえて顔面から落ちることで“お笑い超人”の心意気を示したもの。粘着壁にサンドイッチされ「痛い! 痛い!」を連発するラッシャー板前には、たけしからの「処女か、おまえは!」のツッコミが。

ダジャレクイズは “時の人”の出演も見どころ

サウナや温泉、冷凍室、金粉を塗ったままのマラソンなど過酷な状況から、ダジャレでたけしの合格をもらうと抜け出せるのが『ダジャレクイズ』。まずは歌や講演を長時間聞かされるのがお約束で、にしきのあきら、景山民夫といった微妙な“時の人”の出演も話題に(景山には芸人から“オウム”コールが発生)。松村邦洋の「バウバウ!」もこのコーナーからの発信だった。

ダチョウ上島が本領発揮 人間ロケットクイズ!

クレーンから伸びた強力ゴムで空中高く発射される逆バンジーの『人間ロケットクイズ』も人気コーナー。垂直発射をはじめ岸壁から海へ、切り立った断崖絶壁からとさまざまに変化、“引き”の画がもたらすスケール感は番組の真骨頂であった。発射された瞬間にダチョウ倶楽部・上島の服が脱げるのもお約束。全裸で助けられてのキメ台詞はもちろん「これがオレの芸風だ!」。

たけしも全種目参加! 水車拷問に見た『東スポ』魂

「若手ばかりにやらせて」という視聴者のクレームから、たけしも全種目に参加したのが第11回(宝田明のお笑いウルトラクイズ)。芸能記者を集め、質問に答えないと水車を回される拷問クイズで、たけしは当時、噂された宮沢りえとの関係を「二回食事に行った」と告白! 会場に設置された電話で、すかさずデスクに報告したのは、やはりというか『東スポ』であった。さすが!

ウド絶叫! 笑いのためなら愛車も壊す!

第19回で行なわれた『暴走ローラー お宝いけにえクイズ』は、ゲームに成功しないと暴走するローラー車&ブルドーザーに私物を潰されるというもの。私物破壊(没収)はよくあるパターンだが、『お笑いウルトラ』では車までぶっ壊す! 愛車アウディをペシャンコにされたウド鈴木の「やめろ! 最高責任者!」という絶叫は、限りなく本気だったに違いない。

まだまだある伝説のクイズ

『人間性クイズ ポール師匠は男がお好き!?』

『人間性クイズ』の最高傑作。ポール牧師匠がホテルの部屋に若手芸人を誘い、ゲイ関係を迫る。「ホすわよ、芸能界から!」、「やっぱり洗礼を受けなきゃね」など抜群の演技力にだまされ、「お願いします!」と布団に入ったホンジャマカ石塚英彦は、本気で〝その覚悟〟を決めたらしい。そのあと、逆ドッキリ仕掛人の上島竜兵が「師匠のおっぱい、ボリュームありますね」、「ポールって呼んでいいですか」と迫るとポール師匠は顔面蒼白。「タケちゃん、俺こんな怖い思いしたの初めてだよ」との名言を残した。この企画でポール師匠は再ブレイク、指パッチンブームを巻き起こす。

『ビルの屋上すべり台 バンジージャンプクイズ』

クイズに間違うと、高層ビルの屋上に設置されたすべり台の角度が上がり、最後はバンジー。涙目になりながらこれに挑んだダンカンの回答が凄かった。

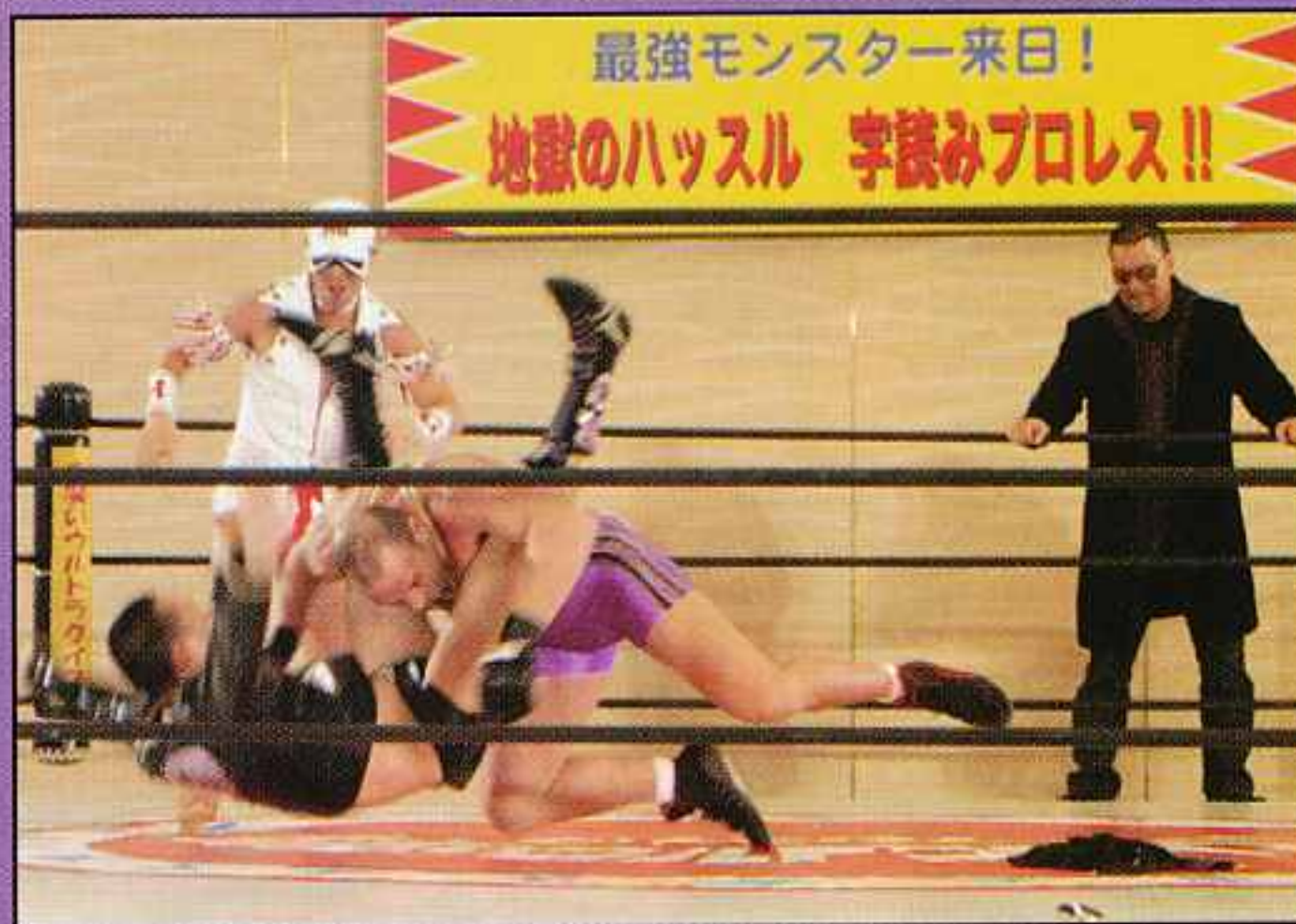
「現存する最も大きい両棲類は?」「カルーセル麻紀!」(そのまま落下)。

本番前はガタガタ震えていたダンカンだが、カメラが回った瞬間に震えが治まったとか。ダンカン、あんた男の中の男だよ!

『リュックサック爆破クイズ』

番組には欠かせない存在・ダチョウ倶楽部の出世作。爆薬が詰まったリュックを背負い、クイズに不正解だと爆破される。安全性は配慮されていたが、海に飛び込むアドリブのためリュックの位置がずれ、ジャンプした瞬間後頭部で爆破! 肥後は頭から煙を吹き出し、上島の髪が抜ける〝おいしい〟大惨事に。ここでの肥後の台詞「話が違う!」が、のちの流行語「聞いてないよ!」に発展した。

大特集
これが理想のプロレスだ!!
大晦日よりも元旦が危ない!!
ビートたけしのお笑いウルトラクイズ!!

ラスベガスの激闘から二ヵ月……
あの夕焼け番長が、また一歩踏み出した！

祝!!『ビートたけしのお笑いウルトラクイズ』初登場!!

これもオヤジの生き様だ!!

コマネチッ！

MARK COLEMAN
マーク・コールマン

せーの～。コマネチッ！　コマネチッ！　とあの男泣き夕焼け番長が、新たな一歩を踏み出した。なんと今回はあの『お笑いウルトラクイズ』に初出場！　想像を超えるスケールの番組の収録に興奮しきりのコールマンに突撃！

文・構成／橋本宗洋、真下義之　撮影／丸山剛史　写真協力／日本テレビ

designed by Tani-yan（Two Three）

大特集

これが理想のプロレスだ!!

大晦日よりも元旦が危ない!!

ビートたけしのお笑いウルトラクイズ!!

この番組に出演できたことを、本当に光栄に思ってるんだ!!

――コールマン選手が、あの『お笑いウルトラクイズ』に出演されたと聞いて、さっそくインタビューを申し込ませていただきました（笑）。

コールマン　いやあ、私も、この番組に出演できたことを本当に光栄に思ってるよ！

――どんな内容かは事前に聞かれてたんですか？

コールマン　細かい内容までは知らなかったから、最初は凄く不安だったね。もしかして自分もコメディアンと同じことをやらなきゃいけないのかと思って、凄くナーバスになったよ。出演を引き受けた以上、プロとしてなんでもやるつもりだったが、「私はこの仕事をやり遂げることができるんだろうか……」ってね。

――実際は、お笑い芸人とプロレス対決する企画だったんですよね。

コールマン　うん。それを聞いたときは安心したよ。そういう内容なら、私が培ってきたモノを少しは活かせる。その内容は、私の足の裏に文字が書いてあって、コメディアンたちが闘いながらそれを読むというものだったんだけど……。

――『字読みクイズ』ですね（笑）。

コールマン　私は、足の裏の字を読ませずに相手をリングから放り投げたら勝ちというルールなんだ。で、負けたら……。

――罰ゲームと（笑）。

コールマン　そうそう。放送前だから詳しいことは言えないんだけど、とびっきりキツい罰だよ！

――ちなみに、どんな芸人さんと対決したんですか？

コールマン　HGやRGとは闘ったな。レスラー側にいたのはニュージャパン（新日本プロレス）のチョーノ（蝶野正洋）とジャイアント・バーナードだ。

――蝶野＆バーナード組と合体！　バラエティ番組だからこその顔合わせですよねぇ。HGさんとRGさんは『ハッスル』にも出てますけど、また違った感じがありました？

コールマン　たしかに『ハッスル』のとき以上にコメディ色は強かったな。でも、ほかのコメディアンとやるときより、プロレスとして成り立つ要素が大きかったと思う。チョーノとバーナードもプロ中のプロだから。安心してゲームを進めることができたよ。

――コールマン選手自身の〝出来〟はいかがでしたか？

コールマン　充実感は間違いなくあるよ（笑）。何より感じたのは番組に出演できた喜びだね。お正月に放送されるスペシャル番組だとは聞いていたけど、実際、収録現場にいるだけで「ああ、これは特別な番組なんだ」って感じられたもんだ。

――あの番組に芸人として出場するのは、『PRIDEファイター』が『PRIDE・GP』に出場するのと同

『ハッスル』のエース、HGもRGとともに、お笑いの本場『お笑いウルトラクイズ』に初登場！『ハッスル』ではリングには上がりなれているだけに、コールマンとも好勝負は必至？

「ちょっと！ ちょっとちょっと〜！」と果敢にもコールマンの下半身めがけて、猫まっしぐら状態で挑んでいくのは、“鬼嫁”北斗晶＆佐々木健介に扮した双子芸人、ザ・たっちのコンビ。

「訴えてやる！」と、こちらも竜ちゃんの絶叫が聞こえてきそうな一枚。『字読みプロレス』ではいつ何時でも、コンビネーションがバラバラなダチョウ倶楽部の3人が、ダンカン総統の手下に捕獲！

「ソートー！ ソートー！」と総統コールが起きたかどうかは不明だが、コールマンやバーナードらの大ボス役として“ダンカン総統”が登場！. 総統の「ビターン！」でモンスターが出撃!?

コメディアンたちのプロ意識の高さは本当に凄かったよ！

じくらいの名誉ですからね。

コールマン　ああ、そういう雰囲気はたしかにあったよ。しかも、この番組はいままで見たことがないくらいスケールが大きかったなぁ。ゲーム（クイズ）も大がかりで、出演者とスタッフ、関係者を合わせたら何百人という人間が現場で働いてる。これだけのスケールは、ちょっとアメリカでも見たことがないね！

――アメリカでも、よくコメディ番組はご覧になるんですか？

コールマン　いや、やっぱり好きなのはスポーツ中継だ。でも家ではチャンネル権が娘たちにあるから、カートゥーンを観てる時間がほとんどなんだけど（笑）。あと、スポーツ以外で好きなのは……『アイアン・シェフ』かな？

――『料理の鉄人』だ（笑）。しかしコメディ番組を見慣れてないなら、出演前にナーバスにもなりますよね。

コールマン　……ただ、人間にとって笑える時間が必要なんだなっていうのはわかるよ。最近、やっとわかってきた。

――42歳にして、やっと！

コールマン　私はいつも周りから、「マーク、少しはリラックスして人生を楽しめよ！」って言われてきた。その意味が、『お笑いウルトラクイズ』でやっと理解できたんだよ（しみじみと）。

――これまでの人生がどれだけ凄まじかったかってことですねぇ……。

コールマン　だから、今回『お笑いウルトラクイズ』に出られたことが本当にうれしいんだよ。人生に必要不可欠な〝笑い〟という要素でも、自分がプロとして関われたことがね。

MARK COLEMAN■1964年12月20日　オハイオ州出身。ハンマーハウス所属の男泣き夕焼け番長。第10回、11回のUFCで連続優勝し、初代UFCヘビー級王者を獲得。00年の『PRIDE GP2000』優勝。『PRIDE.13』でアラン・ゴエスを下し、PRIDEグランプリチャンピオンに。『PRIDE.32』ラスベガス大会では、王者・エメリヤーエンコ・ヒョードルに殴られても殴られても、タックルを挑む姿と家族愛でまたまた男を上げた。

――コールマン選手は『PRIDE』に出て、『ハッスル』に出て、今回お笑い番組にも出た。それぞれプロとしての取り組み方、意識の違いはどんなところにありますか？

コールマン　基本的には一緒だよ。どんな舞台であろうと、大事なのは自分の能力を100パーセント出してオーディエンスを満足させ、仕事の依頼主を喜ばせるということだ。出演してみて感じたのは「どんなジャンルであれ、すべてはなんらかの形での〝闘い〟なんだな！」ってことだね。

――そう、まさにそうなんですよ！

ボクがこれまでの『お笑いウルトラクイズ』で感じたのは、芸人さんたちが「闘ってるな」ってことなんです。身体を張って、身を削って、観ている人を喜ばせるという。

コールマン　そうだね。コメディアンたちのプロ意識の高さは本当に凄かった。やってるのは〝お笑い〟なんだけど、みんな恐ろしいくらい真剣なんだ。PRIDEファイターも『お笑いウルトラクイズ』の出演者も、プロ意識が高くなければ生き残れないって点では共通してるんだ。どちらも特別な人間にしかできない仕事なんだと思う。

――『お笑いウルトラ』では、芸人さんたちのことを〝お笑い超人〟って呼ぶくらいですからね（笑）。常人にはマネのできないことをやってくれるんですよ。

コールマン　うんうん！　番組に出てくるゲームは本当に凄かったからなあ！　「人を笑わせるために、そこまでやるのか⁉」って思ったもんだ。彼らには「何がなんでも笑いを取ってやろう！」っていう覚悟があるんだろう。あのフィアレス（恐れ知らず）ぶりには驚かされるばかりだったな……。

――もし、コールマン選手が同じことをやれって言われたら……。

コールマン　（即座に）無理だね。私はこれまで、どんな困難にもチャレンジしてきたが、あれだけは絶対に無理だ！

――ヒョードルとは闘えるけど、それは無理（笑）。

コールマン　あれは本物のお笑いのプロにしかできない！　コメディアンたちと同じことをやるくらいだったら、私はヒョードルに挑戦したほうが楽だね（笑）。まあ、だから私はファイターなんだろうし、逆にコメディアンに『PRIDE』で闘えっていうのも無理だ。つまり、どちらも同じくらいハードなチャレンジだってことだよ。番組を観れば、そのことがわかってもらえると思う。

――正直な話、ボクは元旦の『お笑いウルトラクイズ』が大晦日の格闘技と同じくらい楽しみなんですよ。

コールマン　ただ私としては、大晦日のリングにも立ちたいね！　二日連続、違うジャンルで日本のファンを喜ばせたいから。だいたい私はヒョードルに敗れはしたが……（このあと、いかにいまの自分のコンデションが万全で、いつでもリングに立てるという話が熱く延々と続く）。

――わ、わかりました！（笑）。もちろん、『PRIDE』での活躍も期待してます！　あとですね、最後に写真撮影をお願いしたいんですが、こういうポーズを取ってもらっていいですか。ちょっとガニ股ぎみで、こう……コマネチ！

コールマン　こうかい？　コマネチ！　コマネチ‼

――素晴らしい！　頼んでおいて言うのもなんですが、コールマン選手がまさかここまでやってくれるとは（笑）。

コールマン　当然だよ。今回の私の仕事は〝お笑い〟なんだからね。だったらプロとしての仕事を完遂するまでだ！　だから『PRIDE』のオファーがあれば、私はいつだって……（このあと再び、いかに自分のコンデションが万全で、いつでもリングに立てるという話が延々と続く）。

【06年12月8日／DSE事務所にて収録】

字読みプロレス伝説

今回、コールマンが出演した『字読みクイズ』には、過去にも数々の名選手が出演している。当時、全日本女子プロレスマットで熾烈な抗争を展開していた〝獄門党〟（ブル中野&バット吉永）と〝ジャングルジャック〟（アジャ・コング&バイソン木村）の凶器が飛び交う闘いに「なんだかんだ言ったって、たかが女だろ」と割って入ったダンカンは、ボコボコにされたあげく「こんなの絶対やめたほうがいいよ」と涙。新日本プロレス勢登場時には橋本真也&獣神サンダー・ライガー組vs春一番&井手らっきょの〝W猪木〟という夢対決も実現。さらに春一番は解説席の藤波辰爾を「力で勝ち取ってみろ、この野郎」と挑発！　後川聡之、アダム・ワットを引き連れて登場した佐竹雅昭は、ダチョウの挑発に応えて自ら粘着地獄に飛び込むお笑い対応ぶりを発揮してみせた。他にもウィリー・ウィリアムス、ホーク&パワーのヘルレイザース、キラーカンなどマット界と絶妙のリンクを見せたこの企画。春一番による「え〜、今回も負けてしまいましたが」、「ご唱和願います！」など猪木の挨拶モノマネを定着させたことでも功績は大きい。

kamipro SHOPPING 今年もやるっていったら、やるんです!! 年末恒例!! kamipro福袋、見参!!

①Tシャツ×2枚

②2007年kamipro特製Tシャツ（非売品）×1枚

③福袋限定キャップ（非売品）×1個

④非売品グッズ

福袋限定グッズ+α
総額1万5000円相当が入って
なんと**5,250**円（税込）

※別途、送料500円、代引き手数料3150円がかかります。
※商品の発送は2007年1月初旬〜中旬になります。
※商品の内容は若干、変更される場合もございます。

S、M、L、XL
各サイズ
限定20袋!!

［電話受付］
03-5368-1797（平日 13:00〜19:00）
→12月27日まで

［kamipro Hand受付］
→12月31日まで

ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ¥6,300（税込）
M・L・XL

ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド ¥7,350（税込）
M・L・XL

ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL

ハリトーノフ "死神"Tシャツ
ホワイト ¥4,200（税込）
S・M・L・XL

ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150（税込）

ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ／ホワイト／レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL

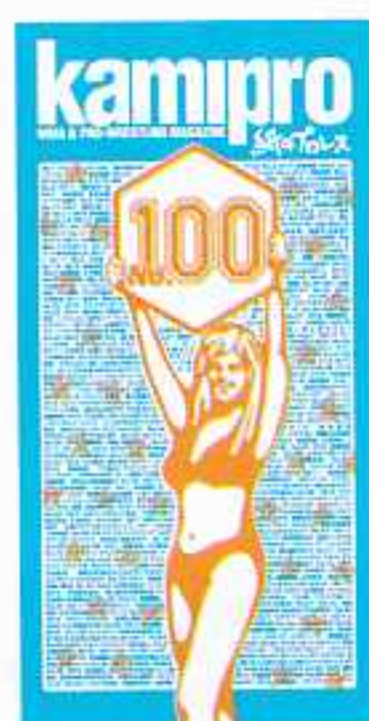
ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL

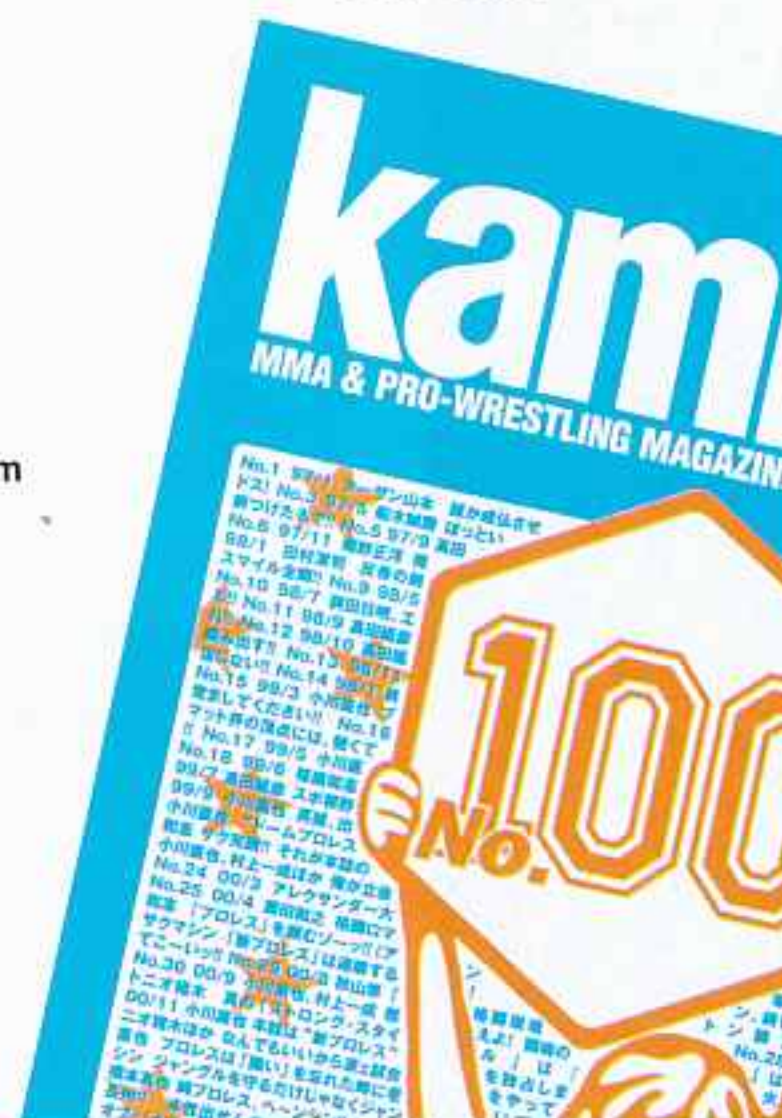
コピィロフTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・L・XL

ヴォルク・ハンTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・XL

ミーシャTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・M・L

I編集長 "殺し"Tシャツ
ブルー ¥3,990（税込） S・M・L・XL

kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990（税込） S・M・L・XL

タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製
巨大バスタオル［★］
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150（税込）

［kamiproオリジナルTシャツ サイズ表］

袖丈 身丈 身巾

（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

★左ページの商品も同様のサイズです。

［★］の商品は在庫終了次第、販売終了となります

★kamipro Handでは、このほかにもおトクな商品をたくさん取り揃えております。ぜひアクセスしてください。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶ / エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

［通販の問い合わせ先］
株式会社ダブルクロス
TEL:03-5368-1797
（受付時間／13:00〜19:00）
販売元：株式会社ダブルクロス

kamipro SHOPPING ニューリン様、カムバック祈願!! 新作ニューリン様グッズ大集合!!

ハッスル&kamipro Collaboration Goods

クリスマスプレゼントにお年玉!! 年末年始は"真心"のこもったニューリン様グッズでキマリ!!

Lady's
ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[Lady's M ブラック]
¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[M・L・XL ブラック]
¥3,990(税込)

Lady's
ニューリン様"SIGN"パーカー
[Lady's M アッシュグレー]
¥6,300(税込)

ニューリン様"SIGN"パーカー
[M・L・XL ブラック]
¥6,300(税込)

Lady's
ニューリン様"BERO"Tシャツ
[Lady's M ブラック]¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)

Men's
ニューリン様"BERO"Tシャツ
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"スウェットトートバッグ
[ブラック(プリント:ピンク)、ブラック(プリント:シルバー)]
¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm(持ち手のぞく)

「高田総統ライオンTシャツ」
[S・M・L・XL ホワイト]
¥3,990(税込)

「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック]
¥3,990(税込)

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト]
¥3,990(税込)

ハッスル Goods

HG PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL シルバーグレー]
¥3,990(税込)

MONSTER K PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトイエロー]
¥3,990(税込)

高田総統 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ラベンダー]
¥3,990(税込)

GMW PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトブルー]
¥3,990(税込)

司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライム]
¥3,990(税込)

ニューリン様 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトピンク]
¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)
★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元:(株)ダブルクロス

※価格はすべて税込みです

硬球をヘディングしたような衝撃度！今年最後の読プレは貴重なサインを大放出!!

大晦日、みんなは何を見る!? どこに行く!?

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は1月16日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦2006年ベストバウト&ワーストバウト⑧2006年ベストファイター&ワーストファイター⑨2007年にブレイクすると思う選手

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「ホントにモンゴル行くんですか？」係まで
※締切は2007年1月15日（月）当日消印有効

kamipro 106 応募券 そらそうよ

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

SIGN

FieLDS K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!

2 名様

所英男&宇野勝サイン色紙

世界の所さんが少年時代に憧れた宇野さんとご対面。珍プレーばかりクローズアップされるが、ホームラン王を獲得してる凄い選手なんだぞ！ この世界に2枚しかない所&ウーやんのサイン色紙を手に入れろ！

FEG■http://www.k-1.co.jp/

川尻達也サイン色紙

5 名様

「CRUSHER」と「修斗ウェルター級チャンピオン」の文字が入った川尻選手のサイン色紙。こちらもドドーン！と5名の方に。『男祭り』で闘う相手はハードパンチャーのギルバート・メレンデス。激しく、熱く、ド突き合え!!

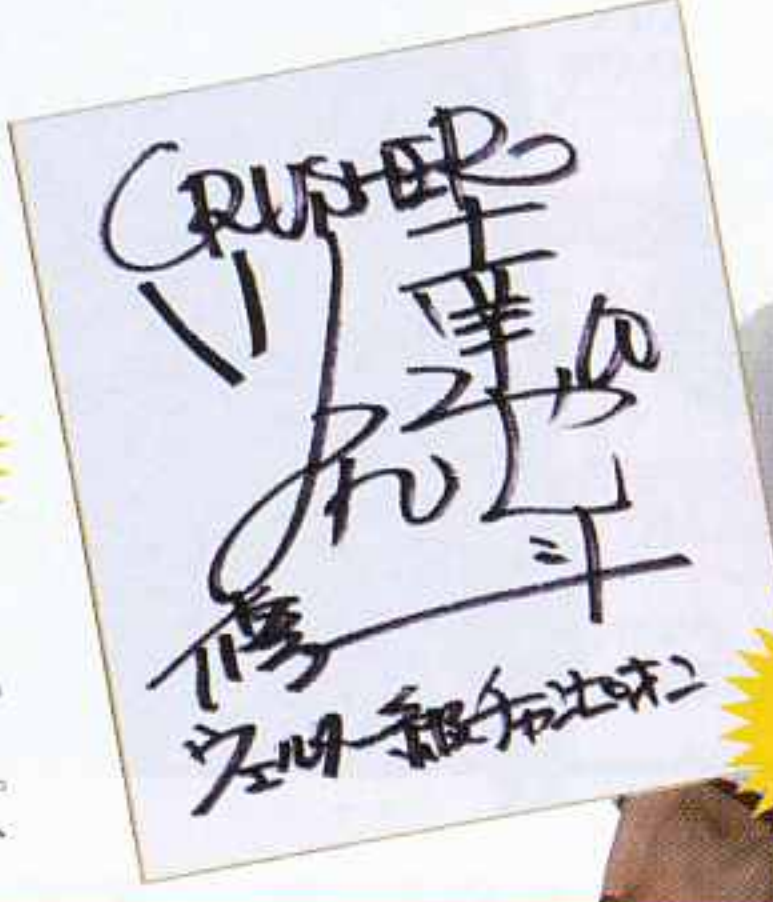
青木真也サイン色紙

5 名様

一度対戦が流れた「ギルバート！ ギルバート！」（マイクで）じゃなくて、ヨアキム・ハンセンと大晦日に対戦する青木選手のサインをドドンと5名様にプレゼント。3戦連続三角絞めで一本勝ちなるか!?

PRIDE 男祭り 2006 —FUMETSU—

2007年PRIDEカレンダー

2 名様

『PRIDE』10周年記念の特製カレンダーを2名の方に。2007年の計画はこれでバッチリだ。部屋に飾るもよし、戦士たちの勇姿を回顧するもよし！

PRIDE■http://www/prideofficial.com/

古田新太サイン色紙

2 名様

舞台やテレビ、ラジオでバリバリ活躍中の古田新太さんは独自のプロレス論を展開してくれました。写真では見えづらいですけど、細い字でしっかりとサインされてます。これはレアもの！

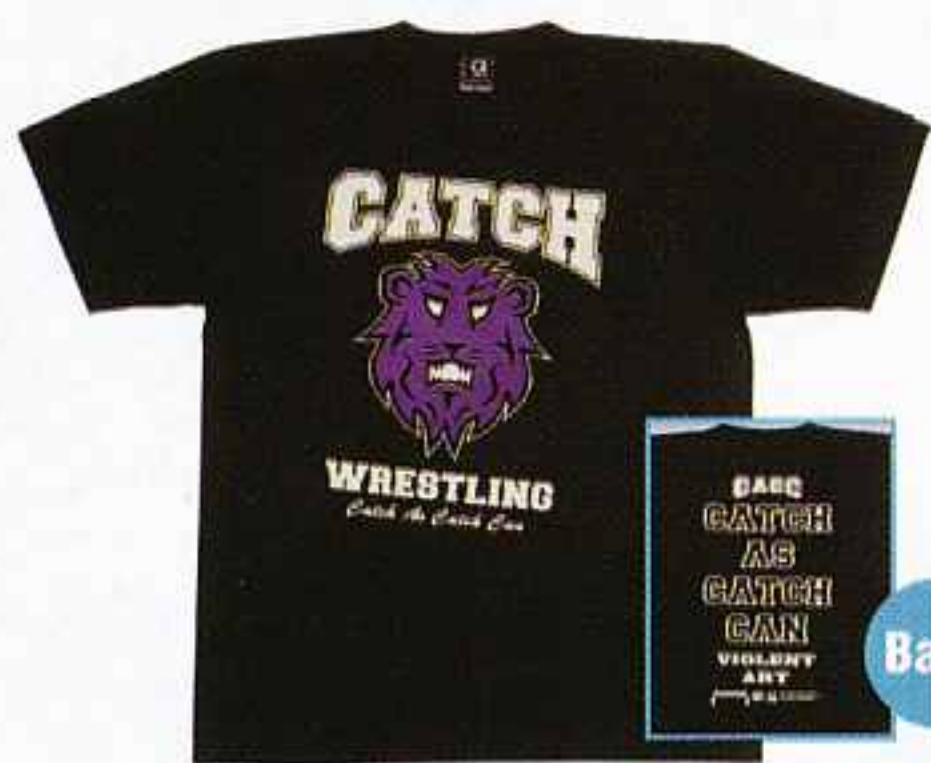
藤波辰爾&伽織夫人サイン色紙

2 名様

ついに本誌初登場のドラゴン。「やっぱりレスラーはこうでなくちゃ！」といわんばかりの豪邸はさすがでした。いまでもラブラブ（死語）な二人のサインをゲットして、ドラゴン探検隊に入ろう！

無我ワールド・プロレスリング■http://www.muga-world.jp/

WEAR

各1名様

キャッチレスリングTシャツ
[XLサイズ／ブラック／¥4,200（税込）]①

大きい人のためのキャッチレスリングTシャツ。バックプリントにはジョシュお気に入りの"バイオレントアート"の文字が！ 本人曰く、これが「チョー・カッコイイ」らしい。

メガンクルロックTシャツ
[ジュニアLサイズ／ライム／¥3,990（税込）]①

メガンクルロックとはフジメグの必殺技で、メガ・アンクル・ロックを略したもの。正式には「稲妻トーホールド・メガンクルロック」（ジョシュ命名）。ややこしいっつーの！

IBUKI 2nd Tシャツ
[ジュニアLサイズ／バーガンディ／¥3,990（税込）]①

フリーの女子プロレスラー・吉田万里子がプロデュースする興行『息吹』のTシャツをアートジャンキーさんが作成。サイズはちっちゃいが、売れ筋商品とのこと。

DEVILOOSE サウスパークパロディTシャツ
[XLサイズ／ホワイト／¥2,440（税込）]②

ビッグサイズ専門店・デビルーズさんからまたまたサウスパークパロディTシャツをご提供いただきました。前号のものとは微妙に違います。バックのワンちゃんが愛くるしい。

①ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/　②DEVILOOSE■http://www.deviloose.com

WWE

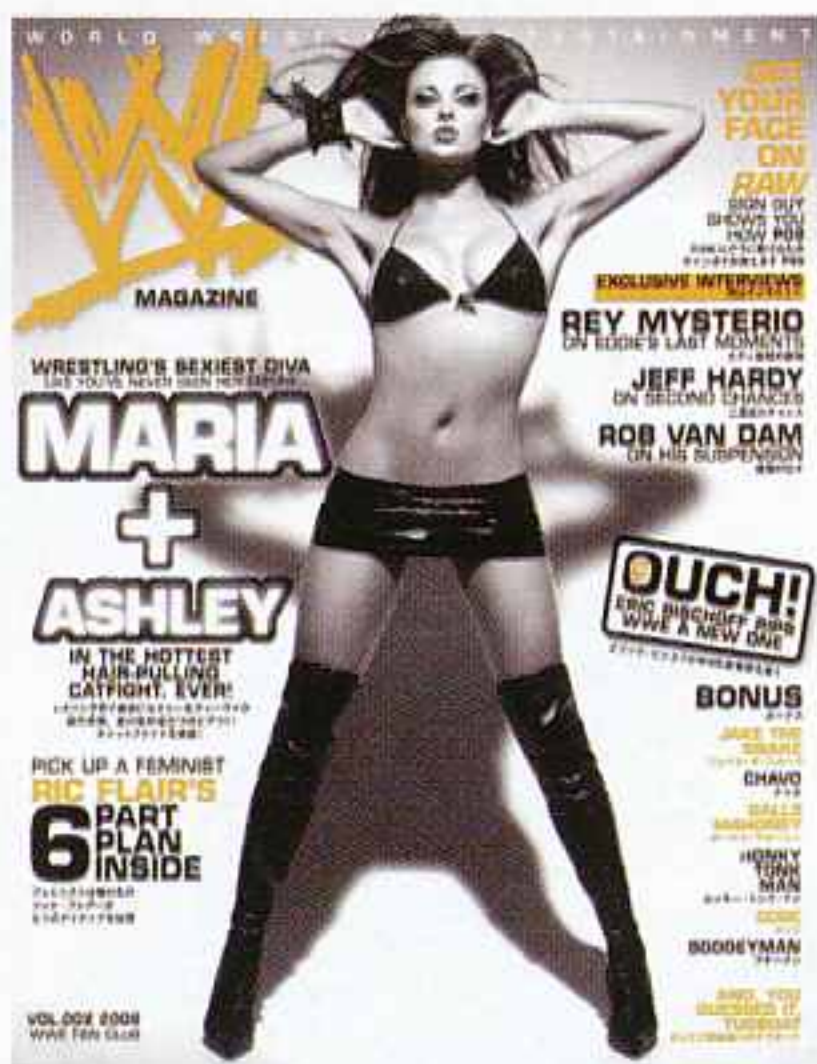
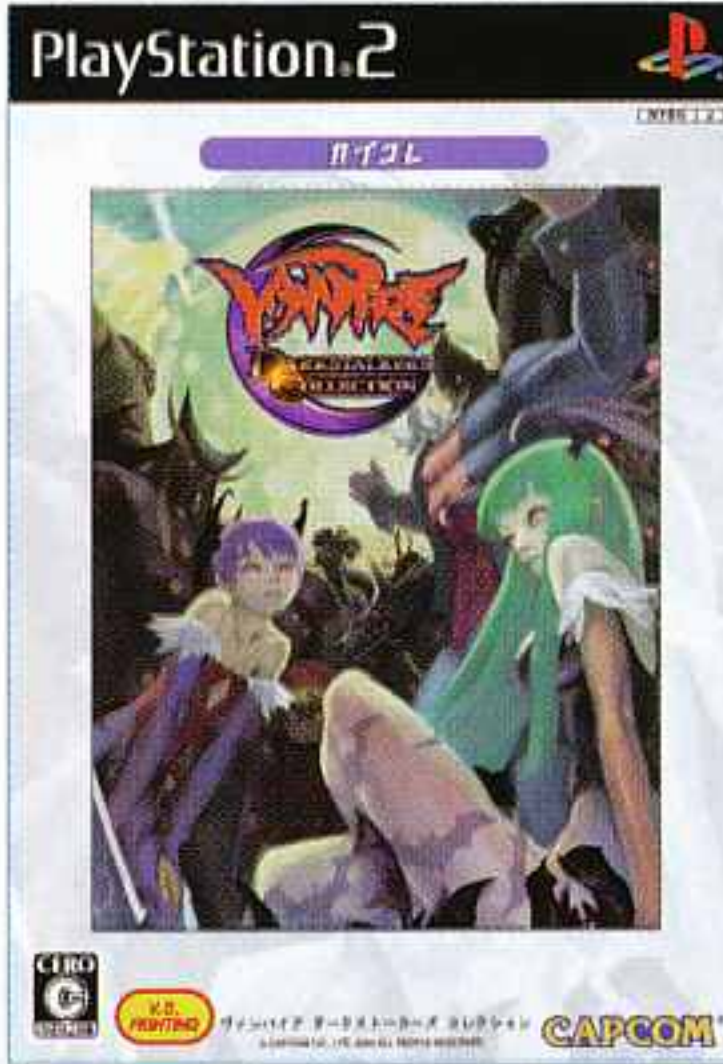
1名様

WWEマガジン

2006年2月号目のWWEファンクラブマガジン。表紙を飾ったマリアとアシュリーの特写はセクシーさ全開！ 世の殿方なら誰もがほしがる一冊。

WWE■http://wwe.co.jp/

GAME

各2名様

ヴァンパイア ダークストーカーズ コレクション
プレイステーション2
絶賛発売中[¥2,079（税込）]

かつてアーケードを賑わせた『ヴァンパイアシリーズ』全5タイトルが集結！ "忠実移植"にこだわり、190点以上のビジュアルや秀逸なアートギャラリーも搭載。まさに完全版だ。

ストリートファイターIII 3rd STRIKE
プレイステーション2
絶賛発売中[¥2,079（税込）]

対戦格闘ファンを虜にしたこのタイトルが、さらにお求めやすい価格でプレステ2に再登場。プレイヤーからの熱い要望で、アーケード版バージョンにも切り替え可能！

CAPCOM■http://www.capcom.co.jp/

DVD

全日本キックボクシング連盟 THE 20th ANNIVERSARY『THE TRUTH』
[2枚組480分／¥10,500（税込）]①

全日本キック20年の歩みがDVD2枚組に！ ロブ・カーマンやモーリス・スミス、佐竹雅昭といった懐かしい顔ぶれも。伝説の立嶋篤史 vs 前田憲作、小比類巻貴之 vs 魔裟斗や記憶に新しい山本元気 vs ワンロップも収録。

3名様

ケージファイトDOG
[240分／¥5,880（税込）]①

日本発祥のケージマッチ・DOGの旗揚げ戦から第6回大会までの全47試合が、ノーカットでこの1枚に。門馬秀貴や岡見勇信、中原太陽といったファイターが金網で暴れ回る！

ブラジリアン柔術完全教則
[2枚組480分／¥10,500（税込）]①

現在、自身が設立したパラエストラ東京で後進の指導にあたっている中井祐樹氏が、ブラジリアン柔術の基本から最先端のテクニックまで、あらゆる技術を紹介。

初見良昭 口伝 その一
[97分／¥5,040（税込）]①

古武道の使い手初見良昭氏が武神館秘巻伝照シリーズとして、道場で弟子たちと稽古を行なう模様をDVDで紹介。

アイドルコロシアム ザ・バトルヒロイントーナメント 2nd SEASON
[100分+特典映像20分／¥5,040（税込）]②

8名のグラビアアイドルが、ビキニ姿でセクシー&キュートなバトルを展開。ニューリン様も真っ青のM字開脚に萌え〜！

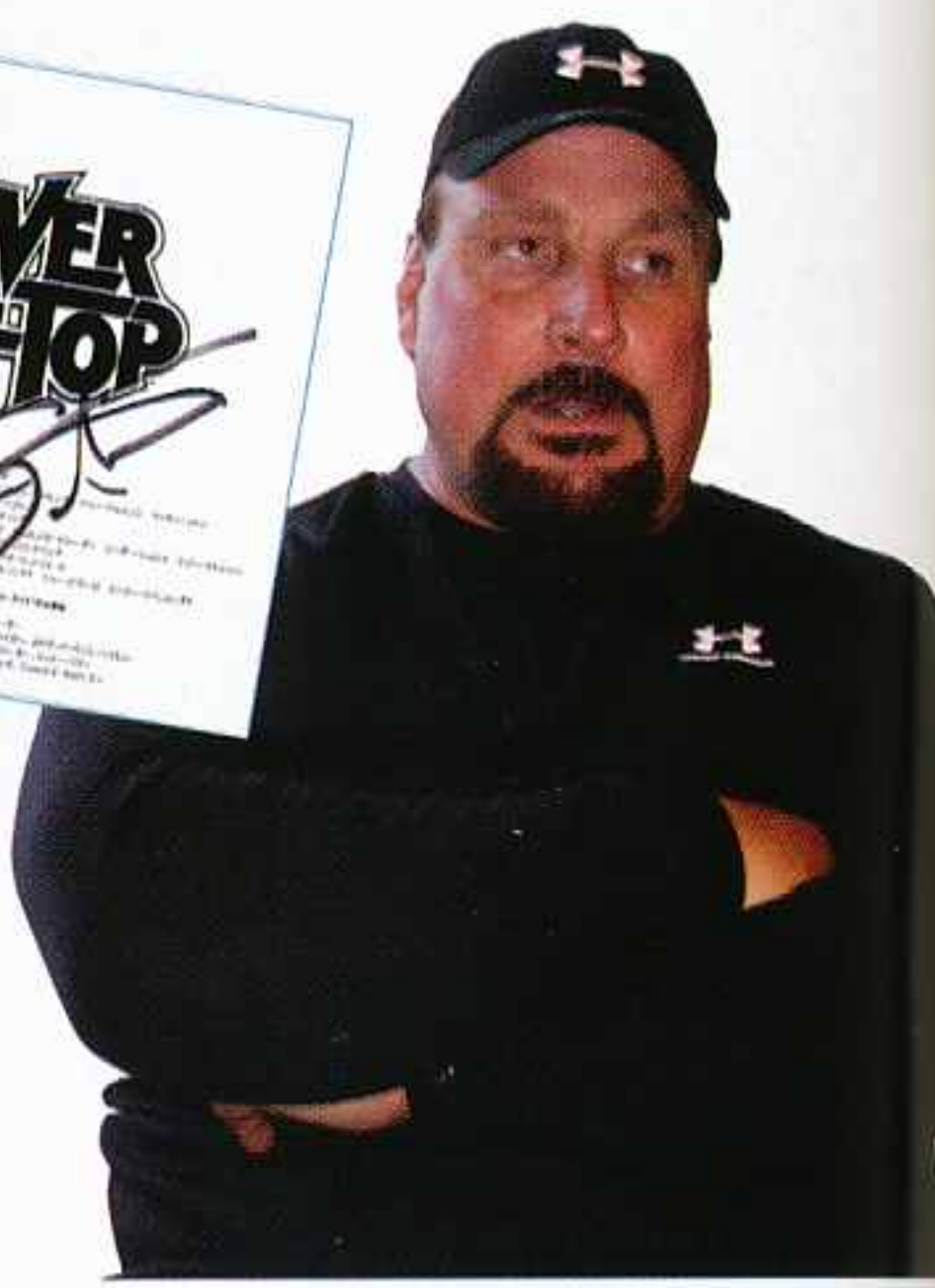
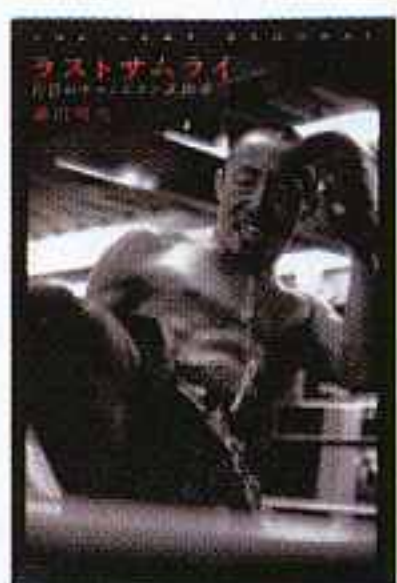
各1名様

①クエスト■http://www.queststation.com　②ローランズフィルム■http://www.rolans-film.com

CD

1名様

『オーバー・ザ・トップ』サウンドトラック
(スコット・ノートンのサイン入り!)

ノートンも出演しているシルベスター・スタローン主演の映画『オーバー・ザ・トップ』のサウンドトラックを1名様にプレゼント。自身のテーマ曲『Winner Takes It All』や、マサ斎藤のテーマ曲『The Fight』も収録されてます。

BOOKS

ラストラムライ 片目のチャンピオン 武田幸三
[¥1,500（税別）]①

K-1や新日本キックを主戦場とするキックボクサー・武田幸三の半生を綴った一冊。片目が見えない状態で闘っていた事実なども語られている。1.21の復帰戦を前に手に入れよう！

各1名様

格闘士と珈琲カップ
[¥1,200（税別）]②

プロレス・格闘技ファンのライター、川村忠氏による小説。スポーツ紙の記者がプロレスラーや空手家、柔道家、ボディビルダーたちをコーヒーを交えながら取材していく物語。

3名様

サブミッション魂 ③

格闘技をやる側を対象としたこの雑誌に所、今成、ルミナといったグラップラーが登場。付録のDVDにはエディ・ブラボーのラバーガード講座や、ホナウド・ジャカレイの試合映像もあるぞ！

①角川書店■http://www.kadokawa.co.jp/　②新風舎 03-3568-3333　③株式会社マックス 03-5348-5361

kamipro 紙のプロレス

No.106
2007年1月4日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
真下義之
松下ミワ
上杉再お引っ越し
八木賢太郎（今年二度目のnot非番）

編集見習い
辻ちゃん

電気部
さささぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
＼(^o^)／ジャイ子

編集次長（御意見番）
松林 貴

デザイン総統
出田さん（TwoThree）

デザイン祭り-FUMETSU-
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口タイソン
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

冬支度!?
入江ニット帽（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“駐車場確保しました”芳司

“今シーズンは何回ゲレンデへ!?”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

んあ〜、メカ〜・クリスマ〜ス♪

見えるか？
大晦日の向こう側!!
「皆さ〜ん、よいお年を〜!!」

NEXT ISSUE

PRIDE男祭り、
Dynamite!!、UFC!!
大晦日格闘大戦速報号

kamipro Special
2007 WINTER
1月11日（木）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

次号No.107は
1月22日（月）
発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。